

ごん げん はる
権現原第2遺跡

すぎ のき はる
杉木原遺跡

なが の はる
永ノ原遺跡

東九州自動車道(西都～清武間)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書IV

2001年2月

宮崎県埋蔵文化財センター

権現原第2遺跡・杉木原遺跡・水ノ原遺跡－東九州自動車道（西都～清武間）建設に伴う埋
蔵文化財発掘報告書IV－正誤表

訂正箇所	誤	正
挿図目次	第4図権現原第2遺跡集石遺構2 側図(1) 第5図権現原第2遺跡集石遺構2 側図(2) 第6図権現原第2遺跡集石遺構2 側図(3)	第4図権現原第2遺跡集石遺構実測 図(1) 第5図権現原第2遺跡集石遺構実測 図(2) 第6図権現原第2遺跡集石遺構実測 図(3)
図版目次 図版9	杉木原遺跡縄文早期土器38(底部)	杉木原遺跡縄文早期土器38(底部) 杉木原遺跡縄文早期土器39(底部) 杉木原遺跡縄文早期土器40(底部)
P 2 6	表1 権現原第2遺跡縄文観察表(4)	表1 権現原第2遺跡縄文土器観察表(4)

ごん げん ぱる
權現原第2遺跡

すぎ のき はる
杉木原遺跡

なが の はる
永ノ原遺跡

東九州自動車道(西都～清武間)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書IV

2001年2月

宮崎県埋蔵文化財センター

序

宮崎県教育委員会では、東九州自動車道西都～清武間建設予定地にかかる埋蔵文化財の発掘調査を平成7年度から10年度にかけて実施してまいりました。本書は、東九州自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書であります。

本書に掲載した清武町所在の権現原第2遺跡、杉木原遺跡は平成7年度に、永ノ原遺跡は平成7～8年度に発掘調査を行ったものです。調査によって、旧石器から古墳時代にいたる各時代の遺構・遺物を確認することができました。

これらの遺構・遺物は、今後、当地域の歴史を解明するうえで貴重な資料になることと思います。

ここに報告する内容が、学術資料としてだけでなく、学校教育や生涯学習の場などで活用され、また、埋蔵文化財保護に対する理解の一助になることを期待しています。

最後になりましたが、調査にあたって御協力いただいた関係諸機関・地元の方々、並びに御指導・御助言を賜った先生方に対して、厚くお礼申し上げます。

平成13年2月

宮崎県埋蔵文化財センター

所長 矢野剛

例　　言

- 1 本書は、東九州自動車道（西都～清武間）建設に伴い、宮崎県教育委員会が実施した宮崎郡清武町所在の権現原第2遺跡、杉木原遺跡、永ノ原遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、日本道路公団の依頼により宮崎県教育委員会が調査主体となり、宮崎県教育庁文化課・埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 現地での実測等の記録は、各遺跡調査担当者が行い、地形測量については(有)大淀測量設計事務所(永ノ原遺跡)・(有)小城測量設計事務所(杉木原遺跡)に委託した。
- 4 本書で使用した写真については各遺跡調査担当者が撮影し、空中写真については(株)スカイサーベイに委託した。
- 5 各遺跡におけるテフラ分布等自然科学分析は、(株)古環境研究所に委託した。
- 6 土層断面及び土器の色調については、「新版標準土色帖」に拠った。
- 7 石材鑑定は一部を青山尚友氏(現宮崎県総合博物館)・松田清孝(宮崎県埋蔵文化財センター)に鑑定していただきそれを基に各調査員が行った。
- 8 本書に使用した位置図は、国土地理院発行の5万分の1図をもとに、また、各遺跡周辺地形図等は、日本道路公団宮崎工事事務所から提供の千分の1図をもとに作成した。
- 9 整理作業は埋蔵文化財センターで行い、図面の作成、遺物実測、トレースは整理作業員の協力をえて、各遺跡調査担当者が行った。
- 10 本書に使用した記号は以下の通りである。
S A…竪穴住居　　S C…土坑　　S E…溝状遺構　　S I…集石遺構
- 11 本書に使用した方位は主に磁北(M. N.)である。位置図など一部は座標北(G. N.)である。また、レベルは海拔絶対高である。
- 12 出土遺物その他諸記録類は、宮崎県埋蔵文化財センターで保管している。
- 13 本書の執筆は各遺跡の調査内容を各遺跡調査担当者が行い、編集は山田が行った。

本文目次

第Ⅰ章 はじめに	(山田洋一郎)
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の組織	1
第3節 遺跡の位置と環境	2
第Ⅱ章 権現原第二遺跡	(日高裕司)
第1節 調査の経過と概要	5
第2節 遺跡の層序	6
第3節 縄文早期の遺構と遺物	
(1) 遺構	1 1
(2) 遺物	1 2
第4節 まとめ	3 5
第Ⅲ章 杉木原遺跡	(高山・山田)
第1節 調査の経過と概要	4 3
第2節 遺跡の層序	4 3
第3節 旧石器時代の遺物	4 4
第4節 縄文時代の遺構と遺物	
1. 草創期の遺物	4 9
2. 早期の遺構と遺物	
(1) 遺構	4 9
(2) 遺物	7 1
第5節 まとめ	125
第6節 杉木原遺跡の自然科学分析	129
第Ⅳ章 永ノ原遺跡	(日高広人)
第1節 調査の経過と概要	166
第2節 遺跡の層序	167
第3節 調査の成果	
1. 旧石器時代の遺物	168
2. 縄文時代早期の遺構・遺物	
(1) 遺構	170
(2) 遺物	177
3. 縄文時代前期・後期の遺物	186
4. 弥生時代から古墳時代の遺構・遺物	
(1) 遺構	193
(2) 遺物	194
5. その他の遺構・遺物	
(1) 遺構	196
(2) 遺物	206
第4節 まとめ	207

挿図目次

第Ⅰ章 はじめに

第1図 進跡位置図 4

第Ⅱ章 権現原第2遺跡

第1図	権現原第2遺跡周辺地形図	5
第2図	権現原第2遺跡遺構分布図	7
第3図	権現原第2遺跡レーザー段位図	7
第4図	権現原第2遺跡集石遺構2倒側(1)	8
第5図	権現原第2遺跡集石遺構2側面(2)	9
第6図	権現原第2遺跡集石遺構2倒側(3)	10
第7図	権現原第2遺跡集石遺構文土器分布図	13
第8図	権現原第2遺跡文土器類別分布状況図	14
第9図	権現原第2遺跡土器実測図(1)	15
第10図	権現原第2遺跡土器実測図(2)	16
第11図	権現原第2遺跡土器実測図(3)	17
第12図	権現原第2遺跡土器実測図(4)	18
第13図	権現原第2遺跡土器実測図(5)	19
第14図	権現原第2遺跡土器実測図(6)	20
第15図	権現原第2遺跡土器実測図(7)	21
第16図	権現原第2遺跡土器実測図(8)	22
第17図	権現原第2遺跡石器分布図	28
第18図	権現原第2遺跡土器実測図(1)	29
第19図	権現原第2遺跡石器実測図(2)	30
第20図	権現原第2遺跡石器実測図(3)	31

第Ⅲ章 杉木原遺跡

第1図	杉木原遺跡調査区周辺地形図(1/2,000)	45
第2図	杉木原遺跡石器遺物分布図	46
第3図	杉木原遺跡石器実測図	47
第4図	杉木原遺跡集石遺構と砾の分布状況図	55~56
第5図	杉木原遺跡集石遺構実測図(1)	58
第6図	杉木原遺跡集石遺構実測図(2)	59
第7図	杉木原遺跡集石遺構実測図(3)	60
第8図	杉木原遺跡集石遺構実測図(4)	61
第9図	杉木原遺跡集石遺構実測図(5)	62
第10図	杉木原遺跡集石遺構実測図(6)	63
第11図	杉木原遺跡集石遺構実測図(7)	64
第12図	杉木原遺跡集石遺構実測図(8)	65
第13図	杉木原遺跡集石遺構実測図(9)	66
第14図	杉木原遺跡集石遺構実測図(10)	67
第15図	杉木原遺跡集石遺構実測図(11)	68
第16図	杉木原遺跡集石遺構実測図(12)	69
第17図	杉木原遺跡集石遺構実測図(13)	70
第18図	杉木原遺跡集石遺構実測図(14)	71
第19図	杉木原遺跡土壤1号・3号実測図	73
第20図	杉木原遺跡土壤2号・4号実測図	74
第21図	杉木原遺跡土壤1類・II類・III類土器出土分布図	75
第22図	杉木原遺跡IV類・V類・VI類・VII類土器出土分布図	76
第23図	杉木原遺跡坪型文土器出土分布図	77
第24図	杉木原遺跡溝・溝式土器出土分布図	78
第25図	杉木原遺跡溝文時代草韋期土器実測図	81
第26図	杉木原遺跡土器実測図(1)	81
第27図	杉木原遺跡土器実測図(2)	82
第28図	杉木原遺跡土器実測図(3)	83

第29図	杉木原遺跡土器実測図(4)	84
第30図	杉木原遺跡土器実測図(5)	85
第31図	杉木原遺跡土器実測図(6)	86
第32図	杉木原遺跡土器実測図(7)	87
第33図	杉木原遺跡土器実測図(8)	88
第34図	杉木原遺跡土器実測図(9)	89
第35図	杉木原遺跡土器実測図(10)	90
第36図	杉木原遺跡土器実測図(11)	91
第37図	杉木原遺跡土器実測図(12)	92
第38図	杉木原遺跡土器実測図(13)	93
第39図	杉木原遺跡土器実測図(14)	94
第40図	杉木原遺跡土器実測図(15)	95
第41図	杉木原遺跡土器実測図(16)	96
第42図	杉木原遺跡縄文石器分布図	108
第43図	杉木原遺跡縄文石器分布図	109
第44図	杉木原遺跡縄文石器実測図(1)	110
第45図	杉木原遺跡縄文石器実測図(2)	111
第46図	杉木原遺跡縄文石器実測図(3)	112
第47図	杉木原遺跡縄文石器実測図(4)	113
第48図	杉木原遺跡縄文石器実測図(5)	114
第49図	杉木原遺跡縄文石器実測図(6)	115
第50図	杉木原遺跡縄文石器実測図(7)	116
第51図	杉木原遺跡縄文石器実測図(8)	117

第Ⅳ章 永ノ原遺跡

第1図	永ノ原遺跡調査区及びグリッド配置図	165
第2図	永ノ原遺跡基本上層柱状図	168
第3図	永ノ原遺跡沿石柱代遺物実測図	168
第4図	永ノ原遺跡沿石柱代早期遺物分布図	169
第5図	永ノ原遺跡S 1 1・2遺構実測図	171
第6図	永ノ原遺跡S 1 3・5遺構実測図及びS 1 4出土遺物実測図	172
第7図	永ノ原遺跡S 1 8・8遺構実測図	173
第8図	永ノ原遺跡S 9 1~9 11遺構実測図及びS 1 10出土遺物実測図	175
第9図	永ノ原遺跡S 1 1 2~1 4遺構実測図	176
第10図	永ノ原遺跡縄文時代早期遺物分布図	178
第11図	永ノ原遺跡縄文時代早期土器実測図	179
第12図	永ノ原遺跡縄文時代早期石器実測図	182
第13図	永ノ原遺跡縄文時代早期石器実測図(2)	183
第14図	永ノ原遺跡N 1断面検出遺構分布図	185
第15図	永ノ原遺跡縄文時代前期・後期土器実測図	187
第16図	永ノ原遺跡縄文時代石器実測図	189
第17図	永ノ原遺跡縄文時代石器実測図(2)	190
第18図	永ノ原遺跡SA 1 遺構実測図及び出土遺物実測図	192
第19図	永ノ原遺跡SA 1 出土遺物実測図(2)	193
第20図	永ノ原遺跡生糸・古墳時代土器実測図	194
第21図	永ノ原遺跡SA 2・3 遺構実測図	197
第22図	永ノ原遺跡SA 3 出土遺物実測図	198
第23図	永ノ原遺跡SA 4 遺構実測図及び出土遺物実測図	199
第24図	永ノ原遺跡SA 4 出土遺物実測図(2)	200
第25図	永ノ原遺跡SA 4 出土遺物実測図(3)	201
第26図	永ノ原遺跡SB 1~3 遺構実測図	203
第27図	永ノ原遺跡SB 4~7 遺構実測図	204
第28図	永ノ原遺跡SC 1 遺構実測図	206
第29図	永ノ原遺跡土器実測図	206

表 目 次

第II章 権現原第2遺跡

表 1 権現原第2遺跡縄文土器觀察表 (1)	23
権現原第2遺跡縄文土器觀察表 (2)	24
権現原第2遺跡縄文土器觀察表 (3)	25
権現原第2遺跡縄文土器觀察表 (4)	26
表 2 権現原第2遺跡石器計測表	32

第III章 杉木原遺跡

表 1 杉木原遺跡旧石器觀察表 (1)	48
杉木原遺跡旧石器觀察表 (2)	49
表 2 杉木原遺跡石器遺物計測表	72
表 3 杉木原遺跡縄文時代(早創期)の遺物觀察表	97
表 4 杉木原遺跡縄文時代(早期)の遺物觀察表 (1)	97
杉木原遺跡縄文時代(早期)の遺物觀察表 (2)	98
杉木原遺跡縄文時代(早期)の遺物觀察表 (3)	99
杉木原遺跡縄文時代(早期)の遺物觀察表 (4)	100
杉木原遺跡縄文時代(早期)の遺物觀察表 (5)	101
杉木原遺跡縄文時代(早期)の遺物觀察表 (6)	102
杉木原遺跡縄文時代(早期)の遺物觀察表 (7)	103

杉木原遺跡縄文時代(早期)の遺物觀察表 (8)	104
表 5 杉木原遺跡縄文石器計測表 (1)	118
杉木原遺跡縄文石器計測表 (2)	119
杉木原遺跡縄文石器計測表 (3)	120
杉木原遺跡縄文石器計測表 (4)	121
杉木原遺跡縄文石器計測表 (5)	122
杉木原遺跡縄文石器計測表 (6)	123

第IV章 永ノ原遺跡

表 1 永ノ原遺跡旧石器時代遺物計測表	168
表 2 永ノ原遺跡縄文時代早期土器觀察表	180
表 3 永ノ原遺跡縄文時代早期石器計測表	184
表 4 永ノ原遺跡縄文時代前・後土器觀察表	187
表 5 永ノ原遺跡縄文時代石器計測表	191
表 6 永ノ原遺跡 S A1 出土物觀察表	195
表 7 永ノ原遺跡 S A2 古墳時代出土土器觀察表	195
表 8 永ノ原遺跡 S A 3 出土遺物觀察表	198
表 9 永ノ原遺跡 S A 4 出土遺物觀察表	198
表 10 永ノ原遺跡土器計測表	206

図 版 目 次

第II章 権現原第2遺跡

図版1 権現原第2遺跡遺景	37
権現原第2遺跡全景	
権現原第2遺跡近景	
遺跡遺物出土状況	
図版2 石器遺跡検出作業	38
1号石器 · 2号石器	
3号石器	
4号石器	
5号石器	
6号石器	
7号石器	
8号石器	
図版3 権現原第2遺跡縄文時代早中期土器 (1)	39
図版4 権現原第2遺跡縄文時代早中期土器 (2)	40
図版5 権現原第2遺跡縄文時代早中期土器 (3)	41
図版6 権現原第2遺跡縄文時代早中期石器	42

杉木原遺跡縄文早期土器13 (Wa類)	
杉木原遺跡縄文早期土器14 (Wb1類)	
杉木原遺跡縄文早期土器15 (Wb1類)	
杉木原遺跡縄文早期土器16 (Wb1類)	
杉木原遺跡縄文早期土器17 (Wb1類)	
図版7 杉木原遺跡縄文早期土器18 (Wb1類)	159
杉木原遺跡縄文早期土器19 (Wb1類)	
杉木原遺跡縄文早期土器20 (Wb2類)	
杉木原遺跡縄文早期土器21 (Wb2類)	
杉木原遺跡縄文早期土器22 (Wb2類)	
杉木原遺跡縄文早期土器23 (Wc1 · Wc2類)	
杉木原遺跡縄文早期土器24 (Wc2類)	
杉木原遺跡縄文早期土器25 (Wc2類)	
図版8 杉木原遺跡縄文早期土器26 (Wc3類)	160
杉木原遺跡縄文早期土器27 (Wc3類)	
杉木原遺跡縄文早期土器28 (遺難頭部)	
杉木原遺跡縄文早期土器29 (遺難頭部)	
杉木原遺跡縄文早期土器30 (遺難頭部)	
杉木原遺跡縄文早期土器31 (遺難底部)	
杉木原遺跡縄文早期土器32 (遺難底部)	
杉木原遺跡縄文早期土器33 (遺難底部)	
図版9 杉木原遺跡縄文早期土器34 (X類)	161
杉木原遺跡縄文早期土器35 (X類)	
杉木原遺跡縄文早期土器36 (X類頭部)	
杉木原遺跡縄文早期土器37 (X類)	
杉木原遺跡縄文早期土器38 (底部)	
図版10 杉木原遺跡旧石器 (1)	162
杉木原遺跡旧石器 (2)	
杉木原遺跡旧石器 (3)	
杉木原遺跡縄文石器 (1)	
杉木原遺跡縄文石器 (2)	
杉木原遺跡縄文石器 (3)	
杉木原遺跡縄文石器 (4)	
杉木原遺跡縄文石器 (5)	
図版11 杉木原遺跡縄文石器 (6)	163
杉木原遺跡縄文石器 (7)	
杉木原遺跡縄文石器 (8)	
杉木原遺跡縄文石器 (9)	
杉木原遺跡縄文石器 (10)	
杉木原遺跡縄文石器 (11)	
杉木原遺跡縄文石器 (12)	
杉木原遺跡縄文石器 (13)	
杉木原遺跡縄文石器 (14)	

第III章 杉木原遺跡

図版1 杉木原遺跡全景	153
杉木原遺跡古石器検出状況	
杉木原遺跡3号石器検出状況	
杉木原遺跡4号石器検出状況	
図版2 杉木原遺跡6号石器検出状況	154
杉木原遺跡27号石器検出状況	
杉木原遺跡29号石器検出状況	
図版3 杉木原遺跡30号石器検出状況	155
杉木原遺跡42号石器検出状況	
杉木原遺跡1号穴遺構検出状況	
図版4 杉木原遺跡縄文草創期土器	156
杉木原遺跡縄文草創期土器 I (I類)	
杉木原遺跡縄文草創期土器 II (II類)	
杉木原遺跡縄文草創期土器 III (II類頭部)	
杉木原遺跡縄文草創期土器 IV (II類)	
杉木原遺跡縄文草創期土器 V (V類)	157
杉木原遺跡縄文草創期土器 VI (VI類)	
杉木原遺跡縄文草創期土器 VII (V類頭部)	
杉木原遺跡縄文草創期土器 VIII (V類)	
杉木原遺跡縄文草創期土器 IX (V類)	
杉木原遺跡縄文草創期土器 X (V類)	158
図版6 杉木原遺跡縄文草創期土器 XII (Wa類)	

第Ⅳ章 永ノ原遺跡

図版1	永ノ原遺跡遺景	208
	永ノ原遺跡遺景	
図版2	A区土層断面	209
	集石堆構検出作業	
	S12	
	S13	
	S14	
	S15	
	S16	
	S16下土坑	
図版3	S17	210
	S19	
	S110	
	S111	
	S112	
	S113	
	S114	
	S114下土坑	
	B区VI層建物出土状況	
図版4	SA1	211
	SA2	
	SA3	
	SA4遺物出土状況	
	SA4(2)	
	SC1	
	ビット群	
	ビット群(2)	
図版5	ビット群(3)	212
	SB2~8	
図版6	旧石器時代遺物	213
	縄文時代早期土器	
	縄文時代中期石器	
	縄文時代中期石器(2)	
	縄文時代前・後期土器	
	縄文時代前・後期石器	
図版7	縄文時代前・後期石器(2)	214
	SA1出土遺物	
	SA1出土遺物(2)	
	SA1出土遺物(3)	
	SA3出土遺物	
	SA4出土遺物	
	発生土器	
	発生~古墳時代の土器	
	土器実測図	

第1章 はじめに

第1節 調査に至る経緯

東九州自動車道延岡～清武間は平成元年2月に基本計画がなされ、平成3年12月には西都～清武間については整備計画路線となっている。西都～清武間は、平成5年11月に建設大臣から日本道路公団へ施工命令が出され、公団では平成6年度から事業に着手している。その間、県教育委員会文化課では、平成3年度に西都～清武間の遺跡詳細分布調査を行い、それに基づき埋蔵文化財の保護について関係機関と協議を重ねた結果、工事施工によって影響を受ける部分については工事着手前に発掘調査を実施することとなった。調査は、平成7年度の清武工事区の7遺跡から調査を開始した。調査にあたっては高速道対策局・日本道路公団九州支社宮崎工事事務所・東九州自動車道用地事務所と綿密な打合せを行い、調査の時期や問題点、確認調査の場所設定について協議を行った。

第2節 調査の組織

権現原第2遺跡、杉木原遺跡、(平成7年度)、永ノ原遺跡(平成7年度～平成8年度)の調査組織は次のとおりである。

調査主体 宮崎県教育委員会

教 育 長

田原直廣(平成8年度)

岩切重厚(平成9年度)

笹山竹義(平成10年度～12年度)

文 化 課 長

江崎富治(平成8年度)

仲田俊彦(平成9年度～11年度)

黒岩正博(平成12年度)

主幹兼埋蔵文化

岩永哲夫(平成7年度)

財第二係長

面高哲郎(平成8年度)

埋蔵文化財係長

北郷泰道(平成9年度～11年度)

石川悦雄(平成12年度)

主事(調整担当)

飯田博之(平成7年度)

主任主事(調整担当)

飯田博之(平成12年度)

主査(調整担当)

永友良典(平成8年度)

主査(調整担当)

柳田宏一(平成9年度)

主任主事(調整担当)

重山郁子(平成10年度～11年度)

主査(調査担当)

日高裕司(権現原第2遺跡)

主査(調査担当)

高山富雄(杉木原遺跡)

主任主事(調査担当)

山田洋一郎(杉木原遺跡)

主事(調査担当)

日高広人(永ノ原遺跡)

調査員(嘱託)

白石修(永ノ原遺跡)

調査主体	宮崎県埋蔵文化財センター
所長	藤本健一(平成8・9年度) 田中 守(平成10・11年度)
副所長	矢野 刚(平成12年度) 木幡文夫(平成8年度)
副参事	岩永哲夫(平成8・9・12年度)
副所長	江口京子(平成11年度) 菊地茂仁(平成12年度)
調査第一課長	面高哲郎(平成12年度)
調査第一係長	岩永哲夫(平成8年度兼務) 面高哲郎(平成9年度～平成11年度)
主事(調整担当)	面高哲郎(平成12年度兼務) 飯田博之(平成8年度)
主査(調整担当)	菅付和樹(平成9年度～平成11年度)
主査(整理作業調整担当)	倉永英季(平成12年度)
主査(報告書担当)	日高裕司(平成8年度～11年度)
主査(報告書担当)	高山富雄(平成8年度～11年度)
主査(報告書担当)	山田洋一郎
主任主事(報告書担当)	日高広人
主査(調査担当・報告書担当)	高橋祐二(永ノ原遺跡、平成8年度～10年度)
調査員(嘱託)	白岩 修(平成8年度)

第3節 遺跡の位置と環境

清武町は、県央、宮崎平野の南西部に位置し、日南山塊から延びる丘陵の先端部及びその間を流れる清武川とその支流水無川を中心とした低地からなり、川沿いの丘陵地には河岸段丘が発達し、町内の遺跡の大半はこの段丘上平坦面に形成されている。

近年、清武町では本合本に記載の遺跡を含む東九州自動車道に伴う発掘調査をはじめ、県営農地保全整備事業時屋地区における発掘調査等が実施されている。以下、町内の歴史、及び、主要な遺跡について、簡単に紹介してみたい。

清武町は古代から交通の要所として開け、後には飫肥街道も縱断し、清武城をはじめ中近世を中心とした史跡が町内に散在し、ひとつの町の雰囲気を醸し出している。特に室町時代には伊東氏の所領が日向のほぼ全域に及び、清武城を含む48城を有するまでになる。安土桃山時代、元亀3年の木崎原合戦に敗れ、一時、島津氏の所領となるが、天正15年、豊臣秀吉の九州征伐の功により伊東祐兵の時から再び伊東氏の所領となり、幕末まで至る。このように、中近世の清武町は、伊

東氏の所領期が長いこともあって、広くその武士文化が浸透する基盤を持っており、特に現市街地を取り囲む丘陵地帯には、神社仏閣が数多く建立され、『日向地誌』によれば、寺院16、神社5を数える。なかでも明治5年に廃寺となった勢田寺は日向七堂伽藍のひとつに数えられ、飫肥街道沿いに立地し、十二支院を持つ大伽藍であったとされ、宮崎学園都市遺跡群中の山内石塔群及び県指定有形文化財の五輪塔はこの勢田寺に由来するものとされる。山内石塔群は、記年在銘からは文明年間から天明年間にかけての約450基余りの五輪塔や板碑で構成されている。

その他、町内及び隣接地では、近年、発掘調査が急増し、古代以前の遺跡についても調査結果が報告されるようになり、貴重な文化遺産が紹介されている。杉木原遺跡の東に位置する竹ノ内遺跡では、旧石器時代から近世までの遺構・遺物が多数検出されており特に縄文時代後期の竪穴式住居が51軒ほど検出されている。また、包含層から輕石製の岩偶が1個検出された。この岩偶は、鹿児島県の垂水市の柊原遺跡にいたものが検出されている。また、辻遺跡では貝殻復縁刺突文を連続した山形あるいは鋸歯状に施文する辻タイプと分類される縄文早期の土器が出土したことでも知られている。

本合本遺跡の北側の台地には県営農地保全整備事業関連の複合遺跡群が立地している。その中で椎屋形第1遺跡・椎屋形第2遺跡では、縄文時代草創期の土器が多量に出土するとともに、第1遺跡では弥生時代後期初頭の「花弁状住居跡」が検出されている。上ノ原第1遺跡・上ノ原第2遺跡では、縄文時代中期～後期の竪穴住居跡・土壙群が検出されている。また、白ヶ野第1・第2・第3遺跡では、縄文時代早期を中心とする遺構・遺物が出土しており、特に第3遺跡B地区的古代の竪穴式住居群は特筆に値する。また、東九州関連の白ヶ野遺跡は、縄文時代を中心とする遺構・遺物の検出量が非常に多い。

<参考文献>

清武町教育委員会 1990 「清武町遺跡詳細分布調査報告書」清武町埋蔵文化財調査報告書第4集



1:50,000 宮崎

-1000m 0 1000 2000 3000

- | | | | |
|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 1: 権現原第2遺跡 | 2: 権現原第1遺跡 | 3: 杉木原遺跡 | 4: 下星野遺跡 |
| 5: 永ノ原遺跡 | 6: 上の原第1遺跡 | 7: 上の原第2遺跡 | 8: 上の原第3遺跡 |
| 9: 上の原第4遺跡 | 10: 椎屋形第2遺跡 | 11: 椎屋形第1遺跡 | 12: 上の原遺跡 |
| 13: 白ヶ野第1遺跡 | 14: 白ヶ野第3遺跡 | 15: 白ヶ野第2遺跡 | 16: 白ヶ野第4遺跡 |
| 17: 竹ノ内遺跡 | | | |

第1図 遺跡位図

ごん

けん

ばる

權 現 原 第 2 遺 跡



第1図 権現原第2遺跡周辺地形図 (1:4000)

第II章 権現原第2遺跡

第1節 調査の経過と概要

権現原第2遺跡は、宮崎県宮崎郡清武町大字船引字安ヶ野にある。遺跡は、清武町北東端の標高約80mのシラス台地上の縁辺部に立地し、北は清武川を挟んで上ノ原第1遺跡に、南は谷間を挟んで権現原第1遺跡に面している。

調査対象区域は、北西から南東に向けて緩やかに傾斜する地形で、調査前はたばこ、大根の耕作が行われていた。事前の確認調査で第II層（アカホヤ火山灰層）の残存範囲の確認、その下位から縄文土器、打製石器が検出された。その結果、調査対象範囲を当初の4,600m²から、第V層（小林軽石を含む層）が残存している1,200m²に限定し、縄文時代の包含層を対象として調査に着手、平成7年12月5日から平成8年3月13日まで本調査を行った。

調査に際しては、重機で第I層（表土）を除去した後、国土座標軸を基準とした10mグリッドを設定し、北から南を32、31、30区、東から西をRS、T区として、その組み合せで区画を表示した。第II層（アカホヤ火山灰層）以下を人力で除去し、第III層以下での遺構、遺物の検出に努めた。

まず、調査区中央にグリッドラインに沿って、南北、東西に各1本幅約1mの先行トレンチを設定

し、層位を確認しながら掘り下げを行った。

その結果、遺構として第Ⅲ層下位から第Ⅳ層上位にかけて、集石遺構8基が検出された。また、遺物として第Ⅲ層上位から第Ⅳ層上位にかけて、縄文時代早期の土器445点（貝殻条痕文円筒形土器、押型文土器、貝殻刺突文土器、その他）、石器564点（打製石器、敲石、剥片、チップ）が出土した。また、旧地形確認のため、第V層直上で等高線の実測を行った。

その後、旧石器時代の包含層を確認するため、トレンチを設定して第Ⅶ層面まで掘り下げたが、第V層以下では遺構、遺物は検出できなかった。

第2節 遺跡の層序

現原第2遺跡では、右図に示す第I層から第VII層が基本層序として確認された。第Ⅲ層、第Ⅳ層が縄文時代早期の包含層で、各層の状態については次の通りである。

第I層 表土（耕作土）

第II層 黄褐色土層 (Hue 5 YR 6/8)

黄褐色のバミスを含む黄褐色土層で、約6,300年前に鬼界カルデラから噴出したアカホヤ火山灰に相当する。地形の関係で調査区南半の一部にのみ残存していた。

第III層 明黄褐色土層 (Hue 10 YR 6/6)

粘性を持つ明るい褐色土層で、全体に微細な黄色粒、灰白色粒がまじる。上位から下位にかけて遺物が、また下位から集石遺構が検出された。

第IV層 褐色土層 (Hue 7.5 YR 5/6)

第III層より軟質な褐色土。上位で遺構、遺物が検出された。

第V層 黑褐色土層 (Hue 7.5 YR 3/2)

硬質でしまっている。全体に黒褐色のブロックがみられる。まばらに黄褐色軽石粒を含む。これは約1万4千年前に霧島火山から噴出した霧島小林軽石に相当する。

第VI層 黑褐色土層 (Hue 10 YR 2/2)

V層に含まれる黒褐色土が全体に広がり、黄褐色軽石粒を多く

含むブロックがみられる。硬質で乾燥すると縦にクラックが入りやすい。地形の関係で調査区の北端には残存していない。

第VII層 褐色土層 (Hue 7.5 YR 4/3)

粘性をもつ褐色土で、ハードローム層と呼ばれる層である。

第I層 表土

第II層 黄褐色土層
(アカホヤ火山灰)

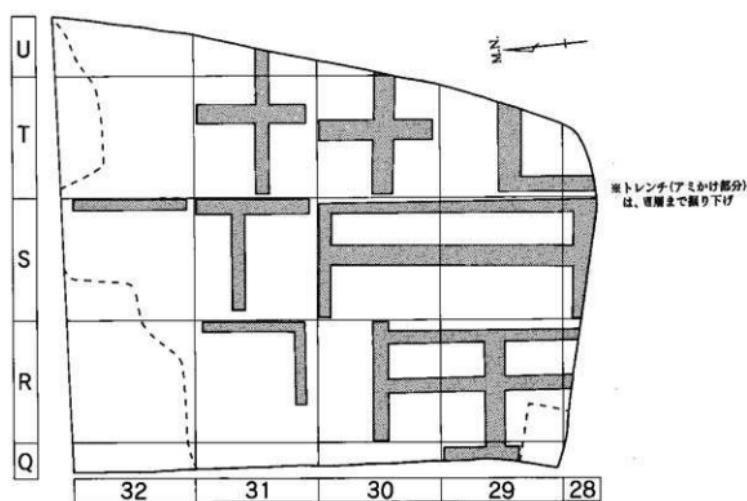
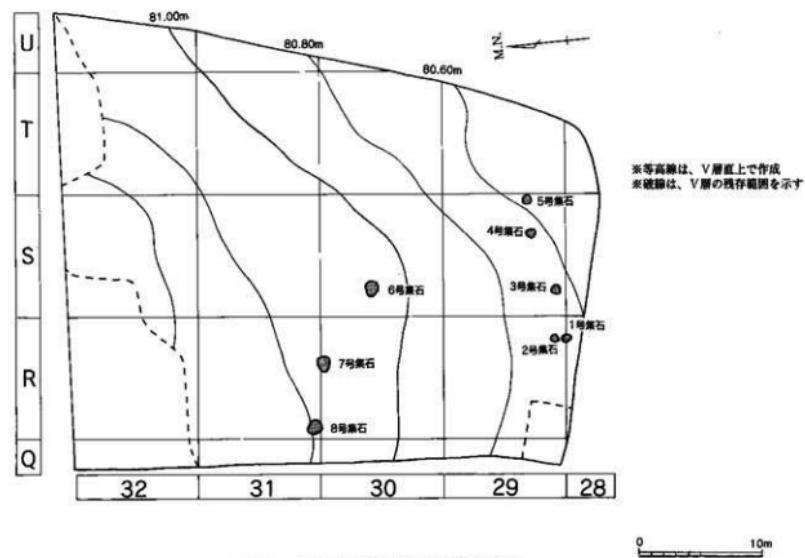
第III層 明黄褐色土層
(縄文時代早期包含層)

第IV層 褐色土層
(縄文時代早期包含層)

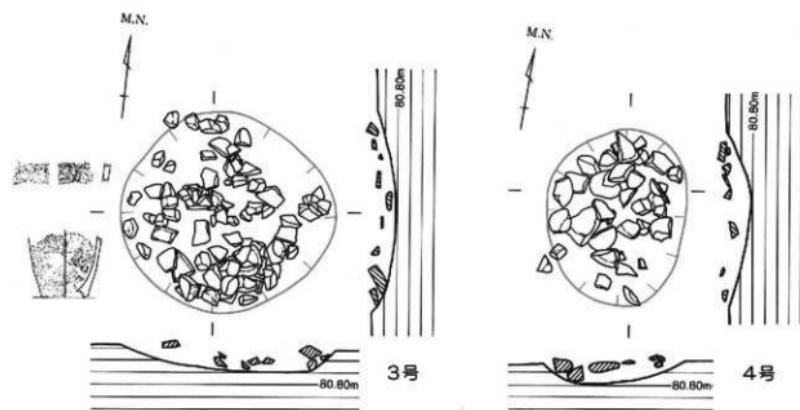
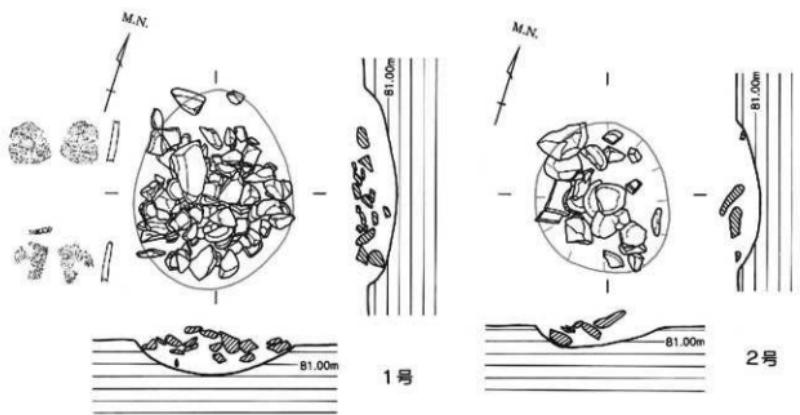
第V層 黑褐色土層
(小林軽石をまばらに含む)

第VI層 黑褐色土層
(小林軽石を多く含む)

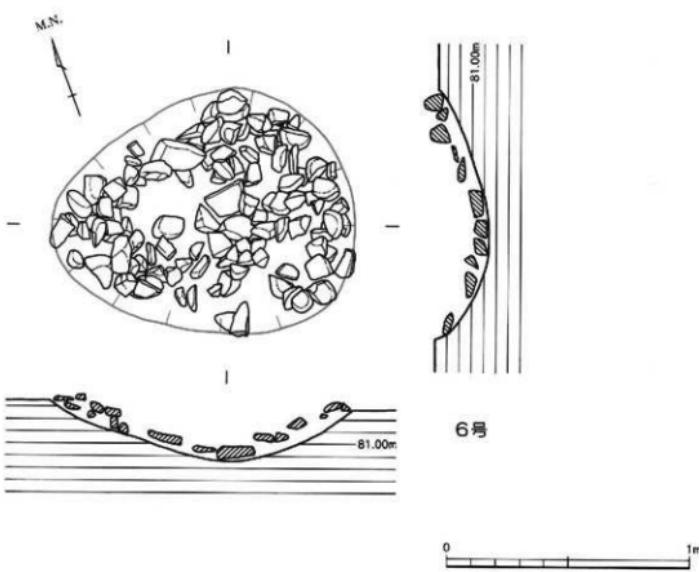
第VII層 褐色土層



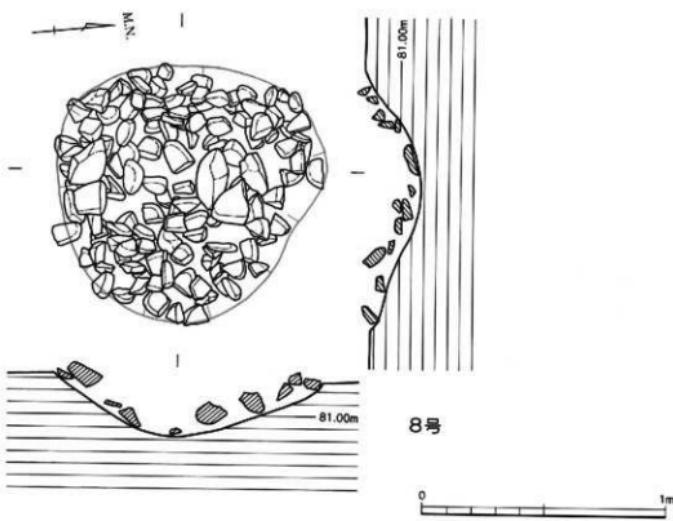
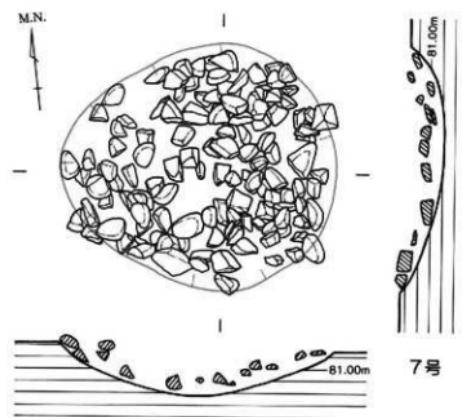
第3図 横須原第2道路 トレンチ設定図



第4図 横現層第2遭跡 集石遺構実測図(1)



第5図 横現原第2遺跡 集石遺構実測図(2)



第6図 標現原第2遺跡 集石造構実測図(3)

第3節 繩文時代早期の遺構と遺物

(1) 遺構

集石遺構

集石遺構8基は第Ⅲ層下位から第Ⅳ層上位にかけて検出された。位置的には調査区の南端付近（R28、29、S29区）に並ぶ1号から5号と、中央付近（R30、31、S30区）の6号から8号の2群に分かれる。いずれも、構成礫は熱を受け赤化した破碎礫、円礫からなり、底部に配石は認められなかった。

1号集石（第4図）

R28、29区にまたがる位置の第Ⅲ層下位で検出。長径82cm、短径65cm、検出面からの深さ15cmの楕円形プランを呈し、本遺跡で検出された集石遺構の中では比較的小型なタイプに属する。円礫と小型の破碎礫が密集した形で使用されており、構成礫の除去後には皿状の掘り込みが確認された。遺構内上部で縄文土器（81）、下部で無文土器（92）が、どちらも構成礫の間から検出された。

2号集石（第4図）

R29区南西端の第Ⅲ層下位で検出。長径62cm、短径54cm、検出面からの深さ8cmの楕円形のプランを呈し、本遺跡で最も小型なものである。比較的大型の円礫があまり密集しない形で使用されており、構成礫の除去後には、ごく浅い皿状の掘り込みが確認された。

3号集石（第4図）

S29区南東端の第Ⅳ層上位で検出。長径88cm、短径84cm、検出面からの深さ10cmの円形プランを呈する。熱を受けて赤化した破碎礫が多く使用されているが、あまり密集はない。構成礫の除去後には、ごく浅い皿状の掘り込みが確認された。遺構内上部で貝殻条痕文土器（17、27）が出土した。

4号集石（第4図）

S29区中央付近の第Ⅳ層上位で検出。長径73cm、短径57cm、検出面からの深さ10cmの楕円形のプランを呈し、小型なタイプに属する。円礫と小形の破碎礫があまり密集しない形で使用されており、構成礫の除去後には、ごく浅い皿状の掘り込みが確認された。

5号集石（第5図）

S29区西端の第Ⅳ層上位で検出。長径86cm、短径80cm、検出面からの深さ18cmの円形プランを呈する。大小の円礫と小形の破碎礫が密集した形で使用されており、構成礫の除去後には皿状の掘り込みが確認された。

6号集石（第5図）

S 3 0 区東端の第Ⅲ層下位で検出。長径 124 cm、短径 102 cm、検出面からの深さ 24 cm の楕円形プランを呈し、本遺跡で最も大型なものである。構成礫は円礫と小型の破碎礫が使用されており、構成礫の除去後には深い皿状の掘り込みが確認された。なお、6号集石から 8号集石は造構上位の構成礫を除去した後、底面近くに残る礫だけを実測している。

7号集石（第6図）

R 3 0、3 1 区にまたがる位置の第Ⅳ層上位で検出。長径 112 cm、短径 102 cm、検出面からの深さ 20 cm の楕円形プランを呈し、大型のタイプに属する。構成礫の大半は熱を受け赤化した小型の破碎礫が、密集した形で使用されていた。構成礫の除去後には深い皿状の掘り込みが確認された。

8号集石（第6図）

R 3 1 区南東端の第Ⅳ層上位で検出。長径 110 cm、短径 105 cm、検出面からの深さ 26 cm の不整円形プランを呈し、大型のタイプに属する。構成礫は大型の円礫と熱を受け赤化した小型の破碎礫が、密集した形で使用されていた。構成礫の除去後には深い皿状の掘り込みが確認された。

（2）遺物

土器

本遺跡では出土した土器は、いずれも第Ⅱ層（アカホヤ火山灰層）直下の第Ⅲ層上位から第Ⅳ層上位にかけて検出されており、時期的には縄文時代早期の遺物と考えられる。

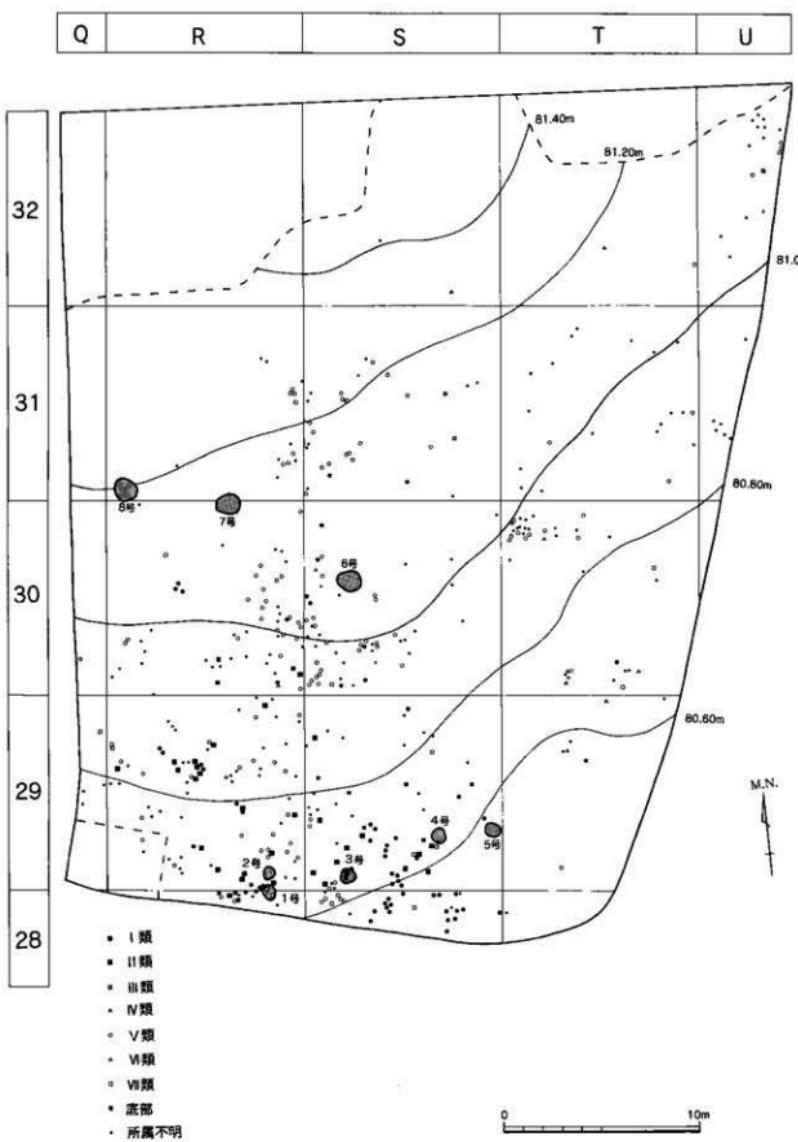
その種類は器面に施された文様、形態上の特徴をもとに I類からⅤ類に分類できた。その中でも I類 116 点（土器全体の 26%）、V類 72 点（16%）、II類 28 点（6%）で全体の大半を占め、本遺跡での生活時期を考える上での参考になると思われる。

以下、類別にしたがって説明していく。

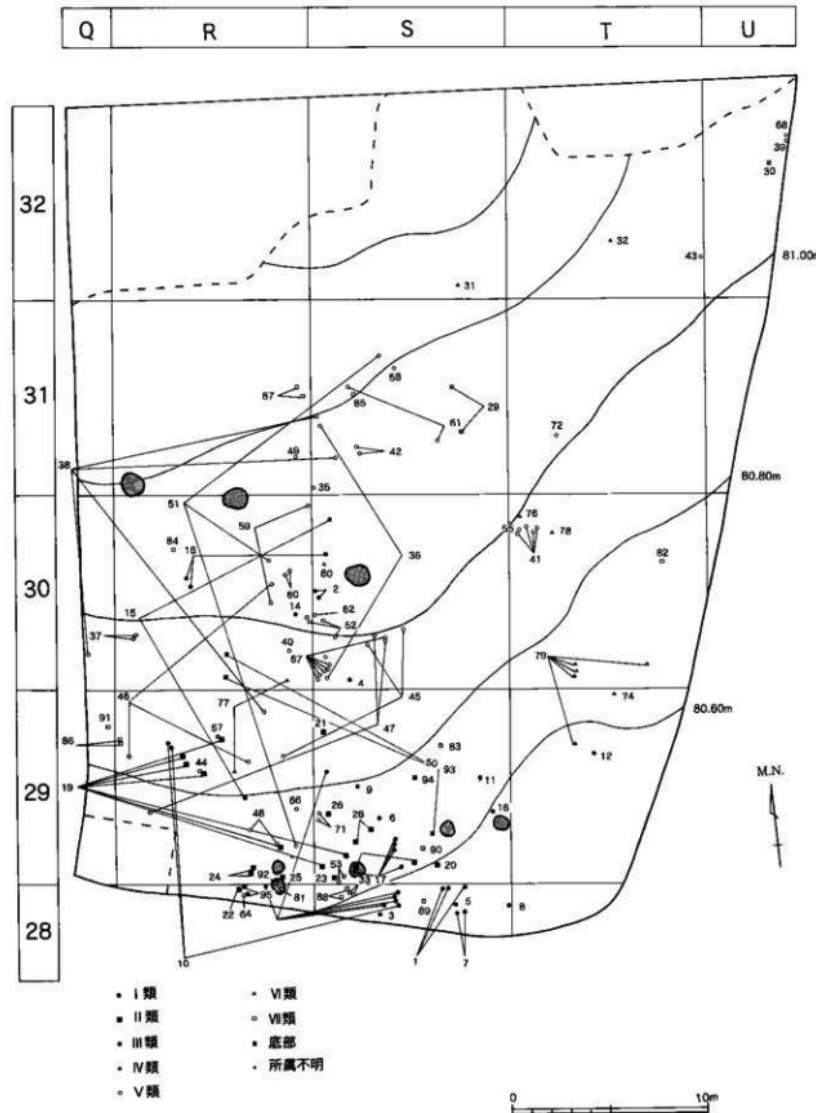
I類（第9・10図1～18）

器形は円筒形を呈し、胴部器壁に斜方向、横方向の貝殻条痕文が施されているのが特徴である。口縁部は口縁部上端の施文によって、斜方向の短沈線文があるもの（1, 5）、斜方向の貝殻腹縁刺突文があるもの（2～4, 6, 7）、縦方向の短沈線文があるもの（8）に分かれる。口唇部及び内面は丁寧なナデまたはミガキ調整である。

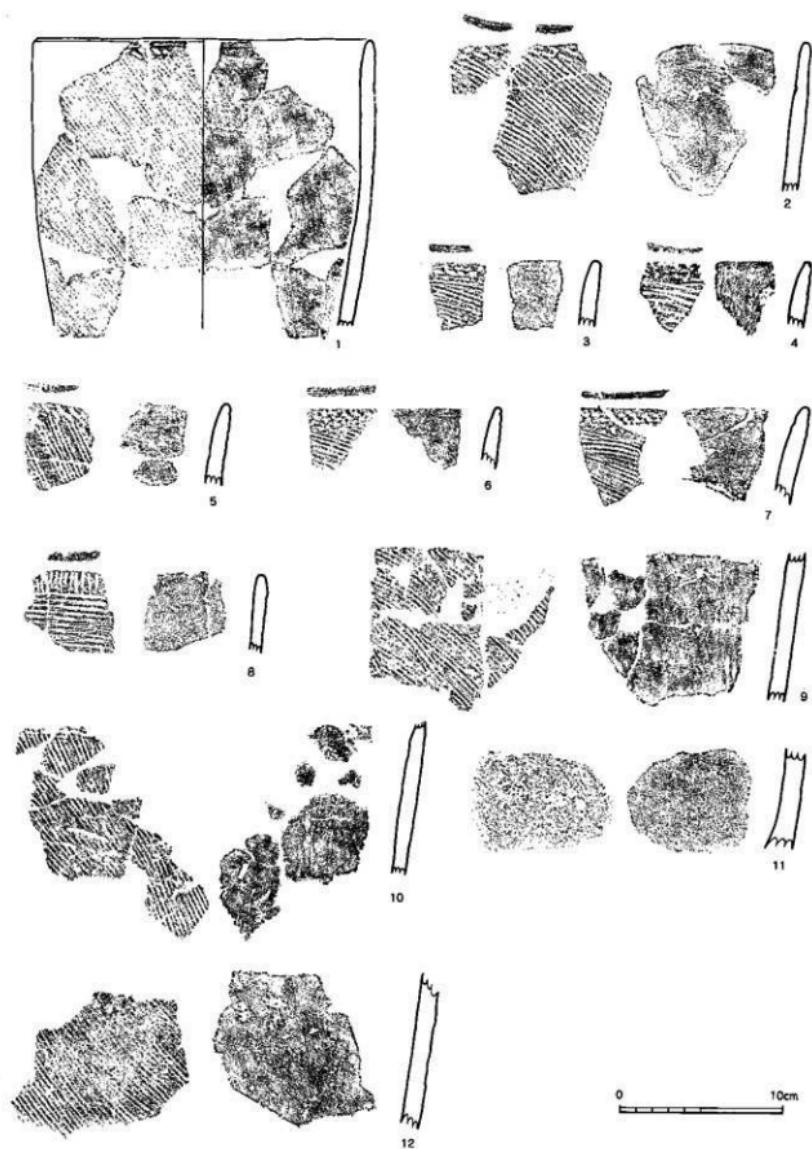
胴部施文には斜方向の貝殻条痕文（10～13）、横方向の貝殻条痕文（14, 15）がある。底部（16～18）は平底で、外面には胴部から続く斜方向の貝殻条痕文の下位に丁寧なナデが施され、17には指頭圧痕もみられる。また器形は円筒形であるが、底部は胴部に比較して径が小さくなる。



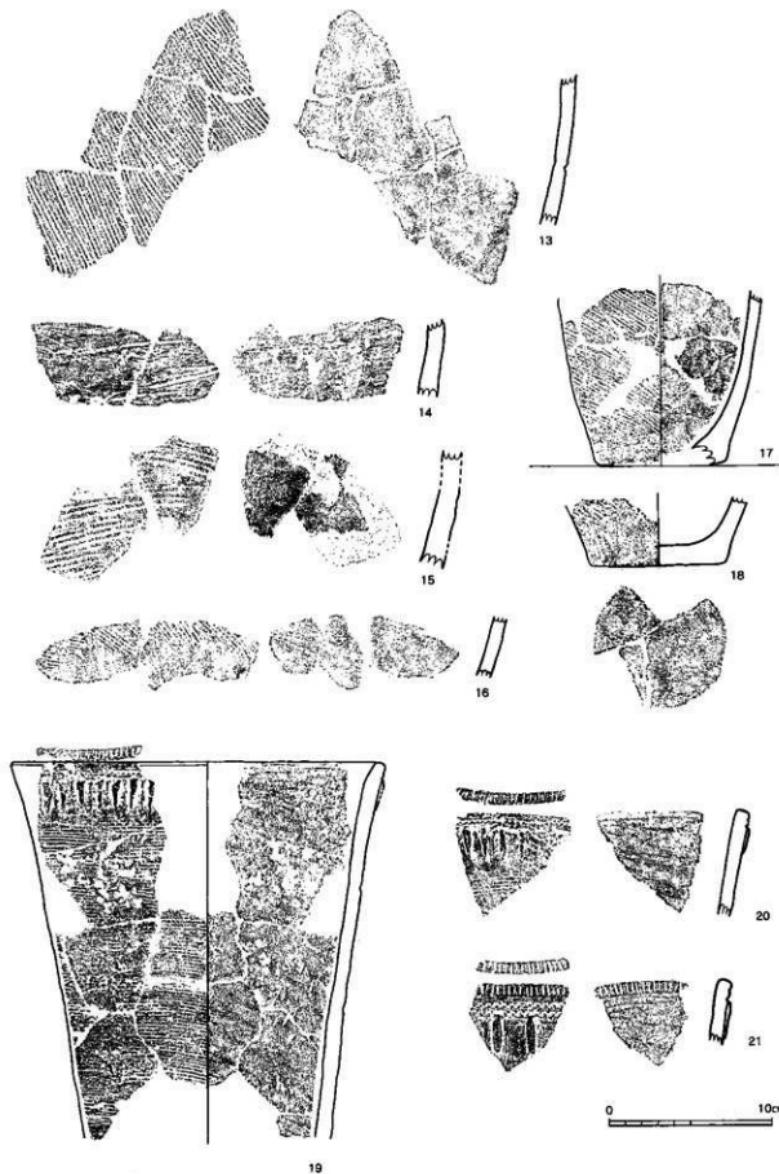
第7図 権現原第2遺跡 繪文土器分布図



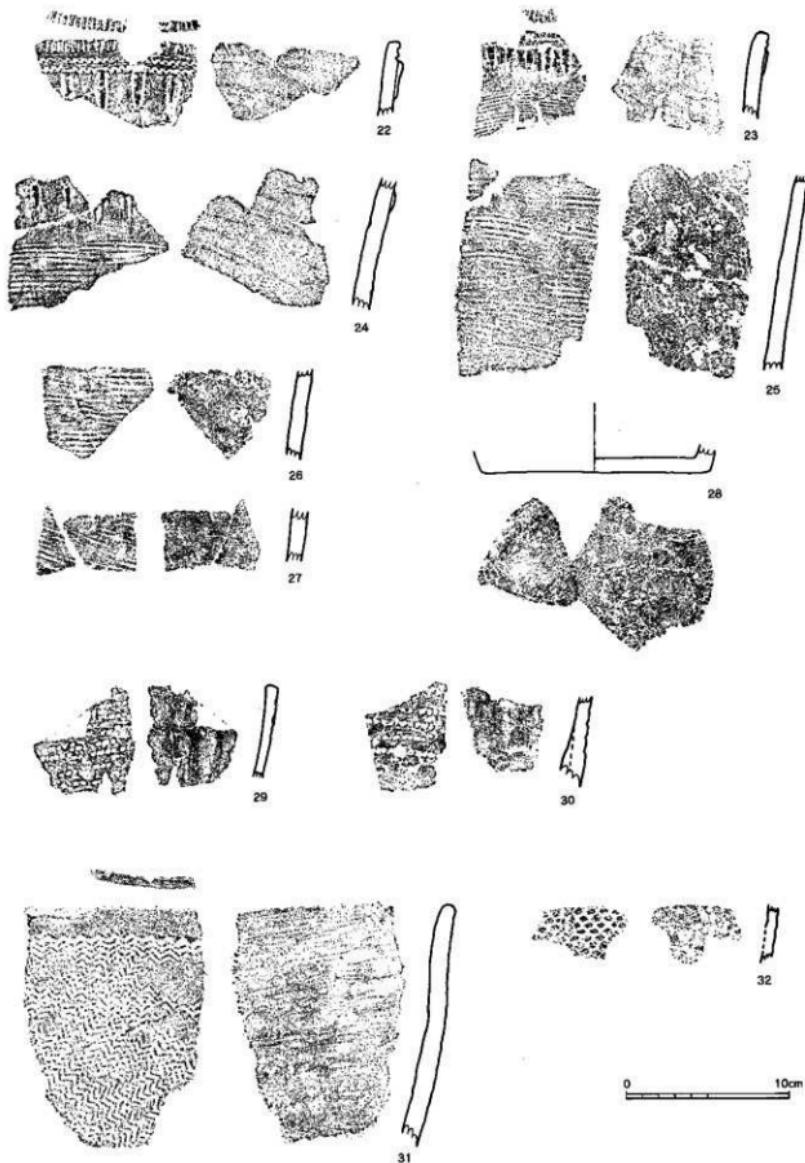
第8四 推視原第2遺跡 漢文土器類型別分布状況図



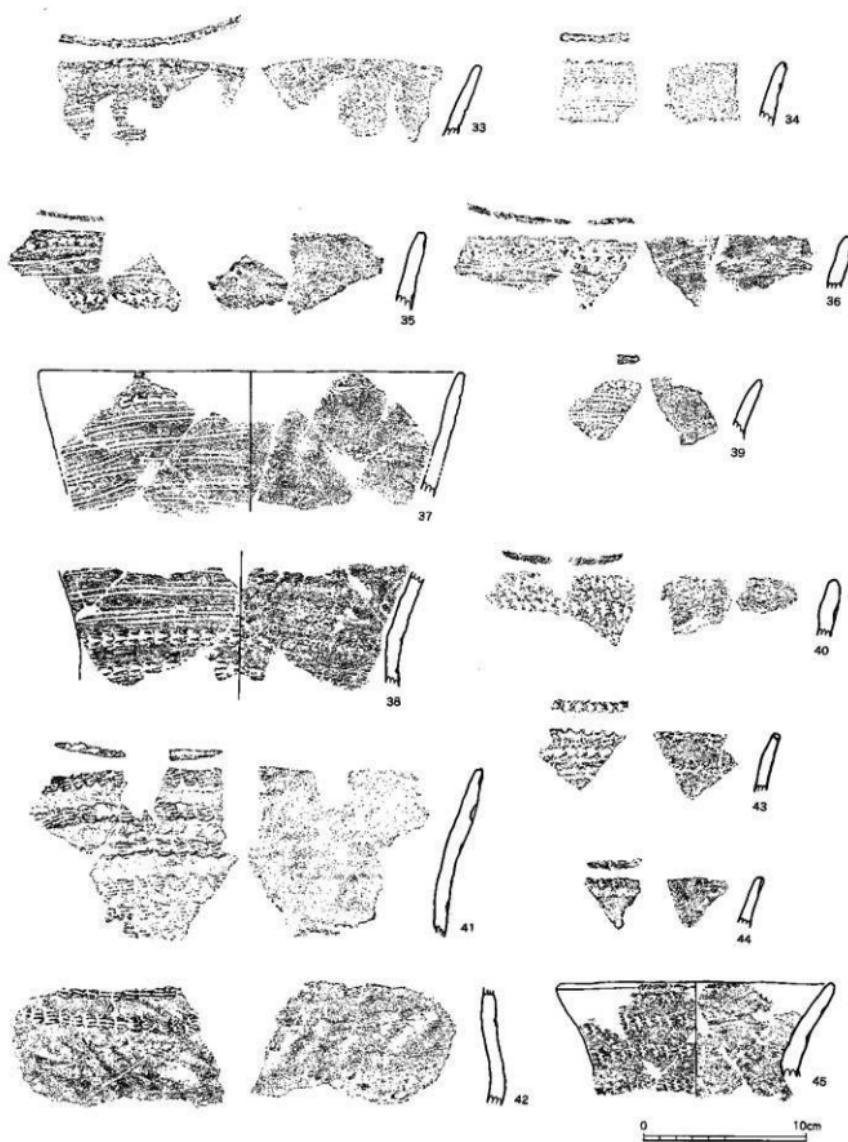
第9图 植物原第2遺跡 土器実測図(1)



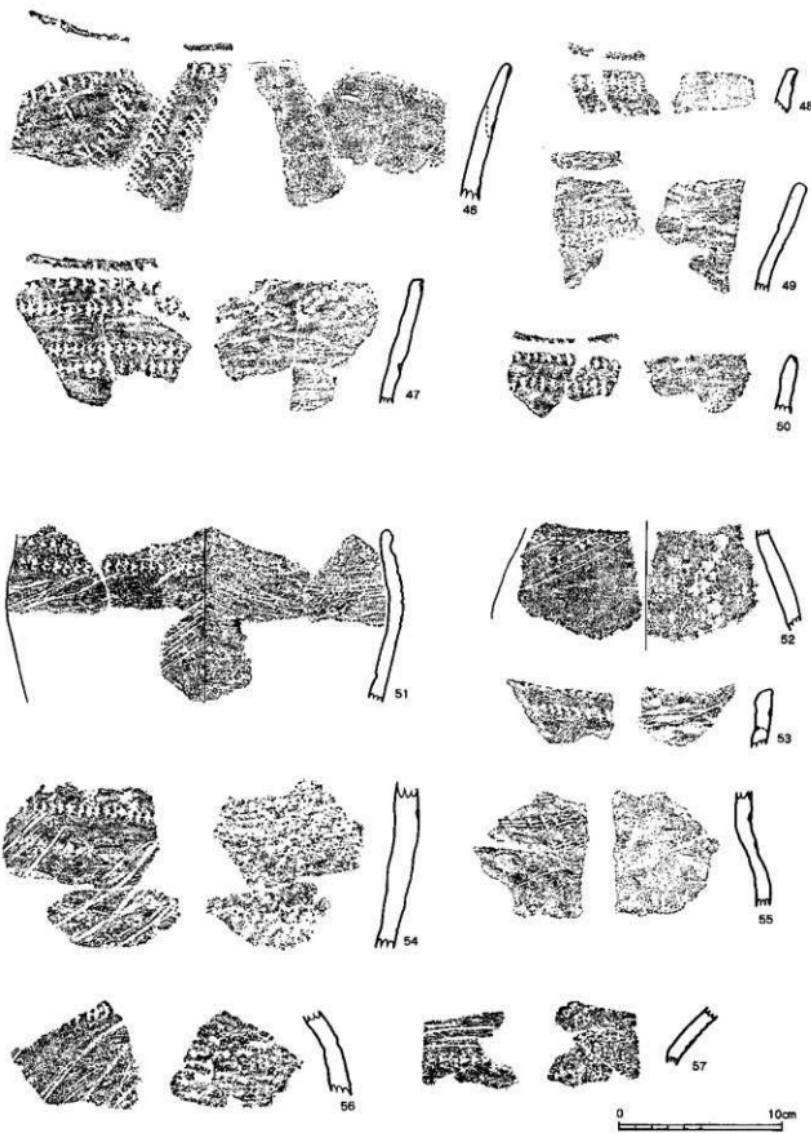
第10図 植現原第2遺跡 土器実測図(2)



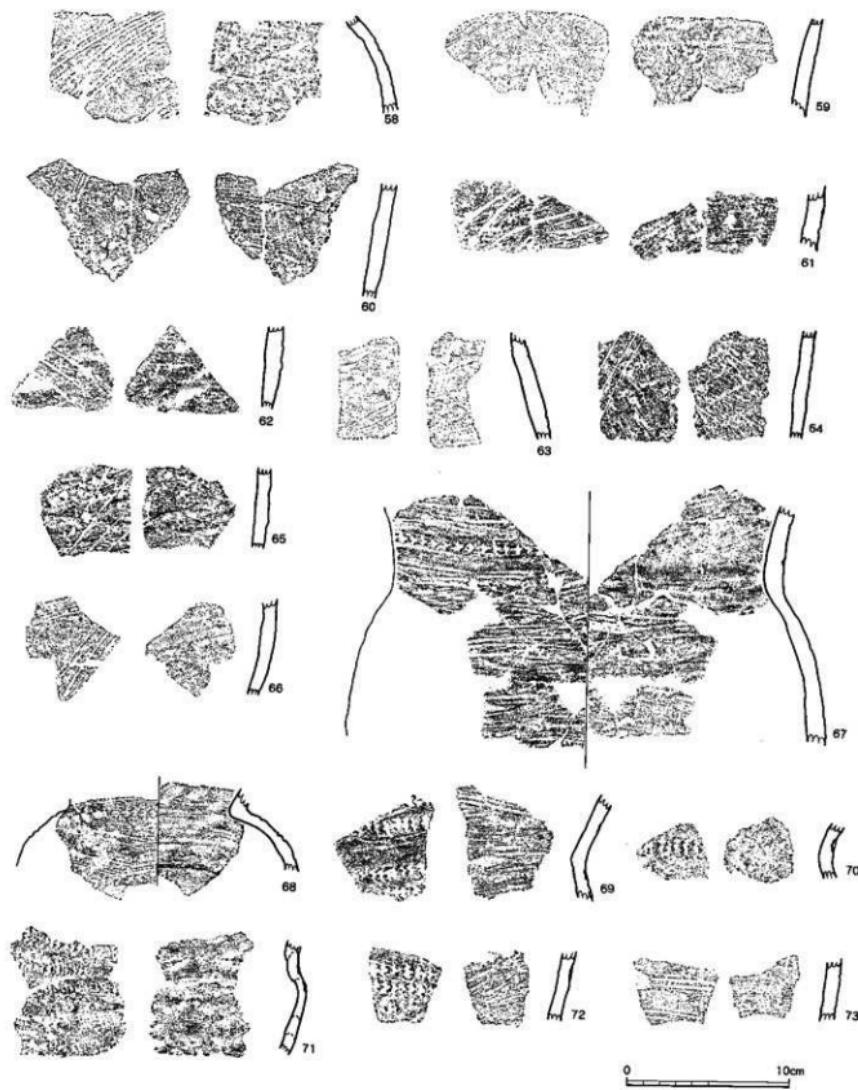
第11図 桜原第2遺跡 土器実測図(3)



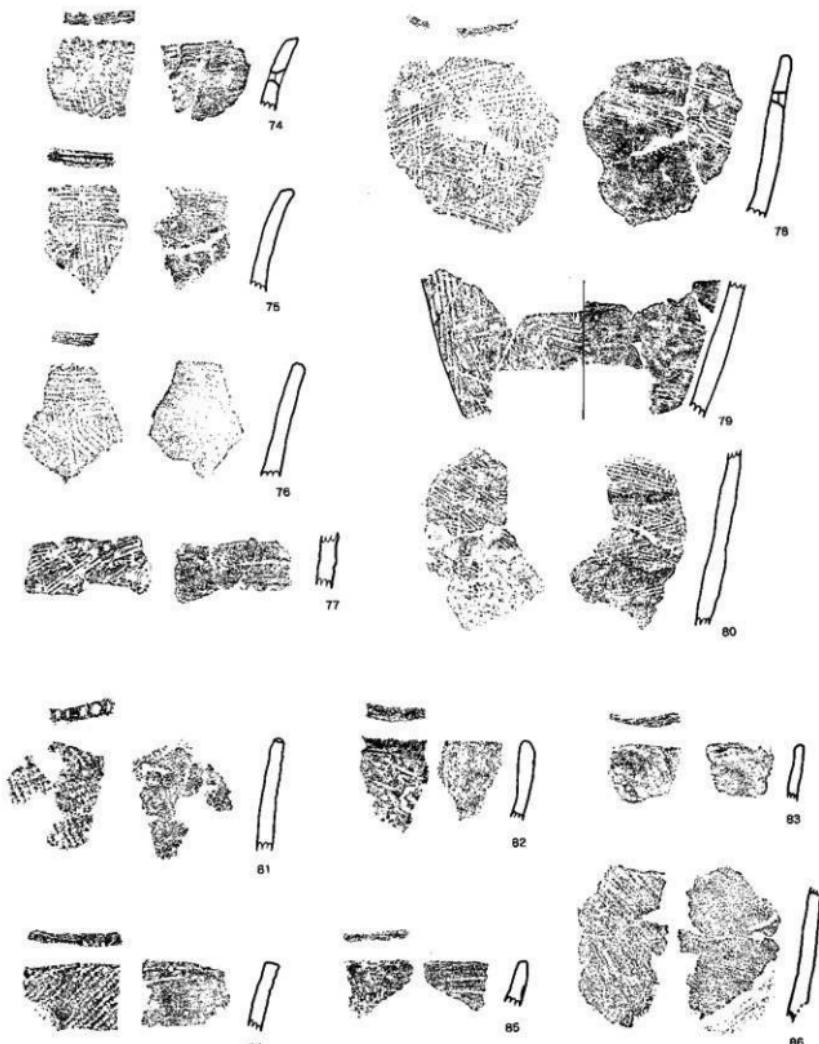
第12図 植原第2遺跡 土器実測図(4)



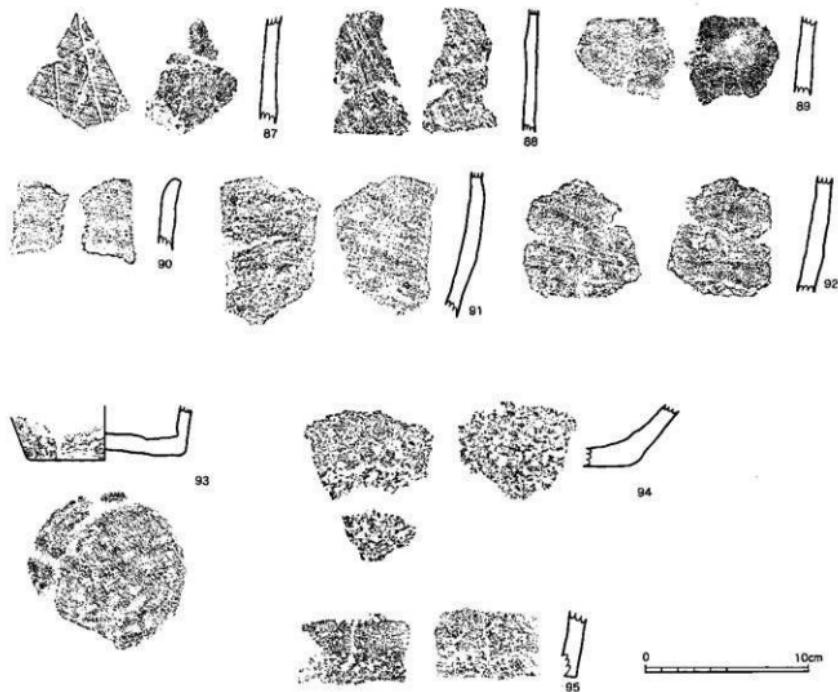
第13図 横現原第2道路 土器実測図(5)



第14図 植原第2遺跡 土器実測図(6)



第15図 横須原第2遺跡 土器実測図(7)



第16図 植原原第2遺跡 土器実測図(8)

出土位置は、S 28、29区のIV層を中心に広がり、特に2号集石、3号集石を囲むように出土している。

II類 (第10・11図 19~28)

器形、器壁の貝殻条痕文はI類に似るが、口縁部上端外面に貝殻刺突文を施し、その下位に楔形突帯が貼り付けられているのが特徴である。

口唇部には工具を用いた連続刻みが施され、口縁部上位に二条に貝殻腹縁刺突文を施し、その下位に楔形突帯が貼り付けられ、胴部には横方向の貝殻条痕文が施されている (19~24)。

胴部 (25~27)、底部 (28) は、施文、胎土の状態からII類に類すると思われ、胴部器壁には横方向の貝殻条痕文が施されている。底部は平底で、外面には斜方向の貝殻条痕文が施されている。出土位置はR 29、S 29区のIV層が主である。

表 1 標視原第2遺跡 捜文土器観察表(1)

図番号	出土位置 (出土層)	器種	部位	文様及び模様		焼成	胎土	備考
				外面	内面			
1	S29・B S29・B'	口縁部	外方向の貝飾条文	斜方向のヘラミガキ	横 にない痕	直好	1.1リ以下の白色版、透明版を含む	I 黒皮部分あり
2	S29・B S29・B'	口縁部	口縁部にミギキ、口縁部上位に貝飾条文による模様文、下位に斜方向の貝飾条文	工具によるミギキ 工具によるミギキ	にない痕 にない痕	直好	1.5リ以下の白色版、0.5リ以下の白色版、黑色光沢版、ガラス質光沢版を含む	I
3	S29・B'	口縁部	口縁部にミギキ、口縁部上位に貝飾条文による模様文、下位に斜方向の貝飾条文	工具によるミギキ	にない痕	直好	1.1リ以下の白色版、黑色光沢版、ガラス質光沢版を含む	I
4	S29・B	口縁部	口縁部に貝飾条文による模様文、下位にナガメのヒビ文	ナガメ	にない痕	直好	2.4リ以下の白色版、白色光沢版、白色透明版を含む	I
5	S29・B'	口縁部	口縁部にナガメのヒビ文、口縁部上位に工具による貝飾条文、下位に斜方向の貝飾条文	工具によるミギキ	にない痕 にない痕	直好	1~2.3リの白色版、1.1リ以下の秋色版、黑色光沢版、ガラス質透明版を含む	I
6	S29・B'	口縁部	口縁部にミギキ、口縁部上位に工具による貝飾条文、下位に斜方向の貝飾条文	工具によるミギキ	直好	直好	1.1リ以下の白色版、白色版、黑色版、ガラス質透明版を含む	I
7	S29・B'	口縁部	口縁部にミギキ、口縁部上位に斜方向の貝飾条文による斜方向の貝飾条文、下位に斜方向の貝飾条文	工具によるミギキ	にない痕 にない痕	直好	1.1リ以下の白色版、黑色版、黑色光沢版、ガラス質透明版を含む	I
8	S29・B'	口縁部	口縁部にミギキ、口縁部上位にヘラミガキ	横ナデ	にない痕	直好	1.1リ以下の白色版、黑色版、白色版、金色の砂粒を含む	I
9	S29・B'	口縁部	斜方向の貝飾条文	ナデ	にない痕	直好	1.1リ以下の白色版、黑色版、透明光沢版を含む	I
10	R29・B R29・B'	網部	上方に貝飾条文による横方向の斜斜点、下方に斜方向の貝飾条文	工具によるミギキ	にない痕 にない痕	直好	1.4リ以下の白色版、白色版、黑色光沢版、ガラス質透明版を含む	I
11	S29・B'	網部	風化の重い斜方向の貝飾条文	ナデ	にない痕	直好	約1.1リの白色版、白色版、1.1リ以下の透明光沢版を含む	I
12	T29・B'	網部	斜方向の貝飾条文	ナデ	にない痕 にない痕	直好	1.1リ以下の白色版、黑色版を含む	I
13	S29・B' S29・B'	網部	斜方向の貝飾条文	ナデ	にない痕	直好	1.1リ以下の白色版、黑色版、黑色版を含む	I
14	R29・B	網部	貝飾条文の上に横ナデ	横方向のケツリ	にない痕	直好	2~2.5リ以下の白色版、黑色版、黑色版、黑色光沢版、0.5リ以下のガラス質透明光沢版を含む	I
15	R29・B S29・B'	網部	斜方向の貝飾条文	ナデ	にない痕	直好	約1.1リの白色版、白色版、1.1リ以下の透明光沢版を含む	I
16	S29・B'	網部	上記に斜方向の貝飾条文、下位にナデ	明黄色	直好	直好	1.1リ以下の透明光沢版、黑色光沢版を含む	I
17	S29・B' S1-3	底部	上記に斜方向の貝飾条文、下位にナデ	にない痕	直好	直好	1.1リ以下の白色版、黑色版、透明光沢版を含む	I
18	R29・B R29・B' S29・B'	底部	斜方向の貝飾条文、下位に斜方向の貝飾条文による斜方向のヘラミガキ	横、斜方向のナデ	にない痕	直好	1.1リ以下の白色版、黑色版、ガラス質透明光沢版を含む	I
19	R29・B R29・B' S29・B'	口縁部~ R29・B'	口縁部に斜み、口縁部上位に斜方向の貝飾条文、斜方向の貝飾条文、下位に斜方向の貝飾条文	横ナデ	にない痕	直好	1~2.2リの白色版、黑色版、ガラス質透明光沢版を含む	I
20	S29・B'	口縁部	口縁部に斜み、口縁部上位に斜方向の貝飾条文、斜方向の貝飾条文、下位に斜方向の貝飾条文	横ナデ	にない痕 にない痕	直好	1~2.2リの白色版、黑色版、ガラス質透明光沢版を含む	I
21	S29・B	口縁部	口縁部に斜み、口縁部上位に斜方向の貝飾条文、斜方向の貝飾条文、下位に斜方向の貝飾条文	横ナデ	にない痕 にない痕	直好	1.1リ以下の白色光沢版、透明光沢版を含む	I
22	R29・B'	口縁部	口縁部に斜み、口縁部上位に斜方向の貝飾条文、斜方向の貝飾条文、下位に斜方向の貝飾条文	横ナデ	にない痕 にない痕	直好	1.1リ以下の白色光沢版、透明光沢版を含む	I
23	S29・B	口縁部	口縁部に斜み、口縁部上位に斜方向の貝飾条文、斜方向の貝飾条文、下位に斜方向の貝飾条文	横ナデ	横 明黄	直好	1.1リ以下の白色光沢版、透明光沢版を含む	I
24	R29・B R29・B'	網部	横ナメの上に斜方向の貝飾条文、その下位に斜方向の貝飾条文	工具による斜方向のナデ	直好	直好	2.1リ大的白色版、1.1リ以下の白色版、黑色版、黑色光沢版、ガラス質透明光沢版を含む	I
25	R29・B'	網部	斜方向の貝飾条文	横ナデ	にない痕	直好	3.1リ以下の白色版、1.1リ以下の透明光沢版を含む	I

表 1 植根原第2遺跡 磯土文器調査表(2)

図番号	出土位置 (出土層)	器種	部位	文様及び調整		色調		焼成	胎土	備考
				外側	内面	外面	内面			
26	M29・E	鉢形	腹部	横方向の貝殻模様文	模ナデ	青	青	良好	1.5リットル以下の白色系。白色系、ガラス質透明光沢を含む	3
27	S29・B S1・3	鉢形	腹部	斜方向の貝殻模様文	ナデ	にぶい青緑	にぶい青緑	良好	1.5リットル以下の白色系、黑色系、透明光沢を含む	3
28	S29・B	鉢形	底面	斜方向の貝殻模様文	ナデ	にぶい青緑	にぶい青緑	良好	2ミリ以下の褐色系、ガラス質透明光沢。1.5リットル以下の白色系、褐色系を含む	3
29	S31・B S31・B	鉢形	側面	斜方向のナデの上に横方向の貝殻模様文	模ナデ	にぶい青	にぶい青	良好	1.5リットル以下の褐色系、黑色系の目状状、0.5リットル以下の白色系、ガラス質透明光沢を含む	3
30	U32・N	鉢形	底面	底ナデの上に横方向の貝殻模様文	模ナデ	にぶい青	にぶい青緑	良好	2.4リットル以下の白色系を含む。	4
31	S32・B	口縁部	口縁部に模ナデ、口縁部上辺に横ナデ	口縁部に模ナデ、下辺に山桜模様文	山桜	にぶい青緑	青	良好	1~2ミリの白色系。1ミリ以下の褐色系	B
32	T32・B	鉢形	側面	南北向模文	ナデ	青	にぶい青緑	良好	2リットル以下の黑色系の目状状を含む	B
33	S28・B T31・B	口縁部	山西型に鉢底、口縁部上辺に貝殻模様文、下辺に南北向の文様文	山西型に鉢底、口縁部上辺に貝殻模様文、下辺に南北向の文様文	風化気泡のナデ	にぶい青	にぶい青	良好	1ミリ以下の褐色系、ガラス質光沢を含む。	V
34	R30・B	口縁部	口縁部に模ナデ、口縁部に貝殻模様文、山西型	口縁部に模ナデ、口縁部に貝殻模様文、山西型	模ナデ	にぶい青	青	良好	2.2リットルの透明光沢、黑色系、乳白色を含む	V
35	S31・B	鉢形	口縁部に模ナデ、口縁部に貝殻模様文、山西型	口縁部に模ナデ、口縁部に貝殻模様文、山西型	模ナデ	青	青	良好	2ミリ以下の白色系。2ミリ以下の透明光沢、黑色系、乳白色を含む	V
36	S30・B	鉢形	口縁部に模ナデ、口縁部に貝殻模様文、山西型	口縁部に模ナデ、口縁部に貝殻模様文、山西型	模ナデ	にぶい青緑	青	良好	2リットルの褐色系、1.5リットル以下の透明光、黑色光沢を含む	V
37	R30・B	口縁部	口縁部に模ナデの上に貝殻模様文、口縁部に模ナデの上に貝殻模様文、山西型	口縁部に模ナデの上に貝殻模様文、口縁部に模ナデの上に貝殻模様文、山西型	模ナデ	青	にぶい青緑	良好	1.5リットル以下の白色系、褐色系、透明光沢を含む	3Bと同一物
38	S29・B	鉢形	横、斜方向のナデの上に貝殻模様文、山西型、模文	横、斜方向のナデの上に貝殻模様文、山西型、模文	横ナデ	にぶい青緑	暗赤	良好	1.5リットル以上の白色系、透明光沢。	37と同一物
39	S29・B S30・B	口縁部	口縁部にナデ、口縁部ナデの上に貝殻模様文	口縁部にナデ、口縁部ナデの上に貝殻模様文	模ナデ	にぶい青	にぶい青	良好	1mm~2.5mmの白色系、2mm以下の金色光沢を含む	V
40	A30・B	鉢形	ナデの上に南北向の貝殻模様文引き文、山西型	ナデの上に南北向の貝殻模様文引き文、山西型	模ナデ	にぶい青	にぶい青	良好	1.5リットルの乳白色、乳白色の段を含む	V
41	T30・B	口縁部	口縁部にナデ、口縁部南北向の貝殻模様文引き文	口縁部にナデ、口縁部南北向の貝殻模様文引き文	模ナデ	暗赤	青	良好	2ミリ以下の乳白色、灰色、茶色、金色に光る 移動光沢を含む	42と同一物 一致スズ付
42	S31・B	口縁部	ナデの上に横方向の貝殻模様文引き文、斜方向の文様文	ナデの上に横方向の貝殻模様文引き文、斜方向の文様文	模ナデ	暗赤	青	良好	2.5リットル以下の白色系、黄色、青色、灰色の移動光沢を含む	41と同一物 一致スズ付
43	T32・B	鉢形	口縁部に工芸による模み、口縁部に模ナデの上に貝殻模様文引き文、横方向の文様文	口縁部に工芸による模み、口縁部に模ナデの上に貝殻模様文引き文、横方向の文様文	模ナデ	青	にぶい青	良好	1~2ミリの白色系、灰色の光沢光沢を含む	V
44	R29・B	鉢形	模ナデの上、口縁部上に貝殻模様文	模ナデの上、口縁部上に貝殻模様文	模ナデ	にぶい青緑	にぶい青緑	良好	1ミリ以下の金色系、口唇部縫合を含む	V
45	U32・B	鉢形	模ナデの上に、貝殻模様文引き文、斜方向の文様文	模ナデの上に、貝殻模様文引き文、斜方向の文様文	模ナデ	にぶい青	青	良好	1ミリ以下の金色系、褐色系を含む	V
46	R29・B R30・B	口縁部	口縁部にナデ、口縁部にナデの上に貝殻模様文引き文	口縁部にナデ、口縁部にナデの上に貝殻模様文引き文	模ナデ	にぶい青	青	良好	3.5リットル以下の白色系、2.5リットル以下の金色光沢、褐色系を含む	V
47	S30・B	口縁部	口縁部にナデ、口縁部工芸による模み、模ナデの上に横方向の貝殻模様文引文	口縁部にナデ、口縁部工芸による模み、模ナデの上に横方向の貝殻模様文引文	模ナデ	にぶい青	にぶい青	良好	1.5リットルの白色系、黑色系を含む	V
48	R29・B	口縁部	口縁部にナデ、口縁部にナデの上に貝殻模様文引き文	口縁部にナデ、口縁部にナデの上に貝殻模様文引き文	模ナデ	にぶい青	にぶい青	良好	1.5リットルの金色光沢を含む	V
49	R31・B	鉢形	模ナデの上に貝殻模様文引き文	模ナデの上に貝殻模様文引き文	模ナデ	にぶい青	青	良好	1.5リットルのガラス質透明光沢、黑色系を含む	V
50	S30・B	鉢形	模ナデの上、貝殻模様文引文	模ナデの上、貝殻模様文引文	模ナデ	暗赤	青	良好	2.5リットルの乳白色を含む	V
51	R29・B R30・B	鉢形	模ナデの上に貝殻模様文引文、山西型	模ナデの上に貝殻模様文引文、山西型	模ナデ	にぶい青	にぶい青	良好	2.5リットルの白色系、1.5リットルの乳白色を含む	V
52	S30・B	鉢形	模ナデの上に貝殻模様文引文、斜方向の文様文	模ナデの上に貝殻模様文引文、斜方向の文様文	模ナデ	にぶい青	青	良好	2.5リットルの褐色系、2.5リットルの乳白色を含む	V

表 1 横須原第2遺跡 調査土器観察表(3)

番号	出土位置 (出土層)	器種	部位	文様及び調査		色調		焼成	胎土	備考
				外面	内面	外面	内面			
53	縦縫	網底	横ナデの上に貝殻模様斜文、北端	かい(斜方向)のナデ	に古い	褐色	灰褐色	良好	1.5リットル以下の白色粘土含む	継ぎ目あり V
54	SII-4	縦縫	網底	横ナデの上に北端斜文、貝殻模様斜文	横ナデ(風化気味)	に古い	褐色	良好	2.1リットル以下の白色粘土、褐色粘土、白色光沢粘土含む	V
55	T30・Ⅲ	縦縫	網底	横ナデの上に貝殻模様斜文、北端	風化気味の横ナデ	に古い	褐色	良好	1.1リットル以下の白色粘土、褐色粘土、白色光沢粘土含む	V
56	S31・Ⅲ	縦縫	網底	ナデの下辺に傾方向の横内凹型文	傾方向の横内凹型文	に古い	褐色	良好	1ミリ程度の半透明、透明粘土含む	V
57	X29・Ⅲ	縦縫	網底	横ナデの上に貝殻模様斜文、北端	ナデ	に古い	褐色	良好	0.8リットルの褐色粘土含む	V
58	X29・Ⅲ	縦縫	網底	横ナデの上に貝殻模様斜文、北端	横ナデ	に古い	褐色	良好	1.1リットル以下の白色粘土、褐色粘土含む	V
59	E30・Ⅲ	縦縫	網底	横ナデの上に傾方向の北端斜文	横ナデ	に古い	褐色	良好	4ミリ以下の乳白色粘土、2ミリ以下の白色光沢粘土含む	スヌ付書 V
60	E30・Ⅲ E30・Ⅳ	縦縫	網底	風化気味のナデの上に傾方向の北端	ケツリ	に古い	褐色	良好	1.8リットル以下の白色粘土、1.1リットル以下の褐色粘土、ガラス質光沢粘土含む	スヌ付書 V
61	S31・Ⅲ S31・Ⅳ	縦縫	網底	傾ナデの上に前方向の北端文	横ナデ	に古い	褐色	良好	3.1リットルの褐色粘土、2.1リットル以下の白色粘土、0.5リットルのガラス質光沢粘土含む	V
62		縦縫	網底	傾方向の上に傾方向の北端斜文	横ナデ	に古い	褐色	良好	2.1リットル以下の白色粘土、褐色粘土、白色光沢粘土含む	V
63	S30・Ⅲ	縦縫	網底	横ナデの上に貝殻模様斜文、傾方向	横ナデ	に古い	褐色	良好	1.1リットル以下の褐色粘土、白色粘土含む	V
64	X28・Ⅲ	縦縫	網底	前方向のナデの上に前方向の北端文	横、傾方向のナデ	に古い	褐色	良好	1.1リットルの透明光沢粘土含む	V
65		縦縫	網底	横ナデの上に傾方向の北端斜文	横ナデ	に古い	褐色	良好	3.1リットル以下の白色粘土、2.1リットル以下の白色粘土、白色光沢粘土含む	スヌ付書 V
66	E29・Ⅲ	縦縫	網底	ナデの上に傾方向の北端斜文	工具による横ナデ	に古い	褐色	良好	2.1リットル以下の乳白色粘土、1ミリ以下の白色光沢粘土含む	V
67	S30・Ⅲ S30・Ⅳ	縦縫	網底	横ナデの上に貝殻模様斜文、傾方向	工具による横、傾方向のナデ	に古い	褐色	良好	3~8ミリの乳白色粘土、白褐色、褐色の砂粒、ガラス質光澤粘土及び2.1リットル以下の白色光沢粘土、白色光澤粘土甲子灰粘土含む	V
68	U3-2・Ⅳ	縦縫	網底	横ナデの上に貝殻模様斜文、北端	横ナデ	に古い	褐色	良好	1.5リットル以下の白色粘土、白色光沢粘土、1ミリ以下の灰白色粘土含む	V
69		縦縫	網底	横ナデの上に貝殻模様斜文、長横	傾方向のケツリ	黒灰	暗灰黒	良好	1.2リットル以下の白色粘土、1.5リリ以下の白色粘土含む	スヌ付書 V
70		縦縫	網底	ナデの上に貝殻模様斜文	風化気味のナデ	に古い	褐色	良好	2.1リットル以下の白色粘土、1.5リリ以下の白色粘土含む	V
71	S29・Ⅲ S29・Ⅳ	縦縫	網底	横ナデの上に傾方向の貝殻模様斜文	横ナデ	に古い	褐色	良好	5.1リットル以下の白色粘土、2.5リリ以下の金色粘土、1.5リリ以下の白色粘土含む	V
72	T31・Ⅴ	縦縫	網底	横ナデの上に傾方向の直横斜文	横、傾方向のけづり	に古い	褐色	良好	1.1リットル以下の褐色光沢粘土、透明光沢粘土含む	V
73		縦縫	網底	横ナデの上に傾方向の北端文	横ケツリ	に古い	褐色	良好	1.5リットル以下の白色粘土、灰色粘土、褐色粘土、1.2リリ以下の白色光沢粘土含む	V
74	T29・Ⅳ	口縫部	口縫部に横ナデ、口縫部に横斜斜文	工具による直横の上を横ナデ	褐色	褐色	褐色	良好	白色無機粘土含む	空孔あり V
75		口縫部	口縫部に横ナデ、口縫部に横斜斜文	工具による直横の上を横ナデ	褐色	褐色	褐色	良好	ガラス質の透明光沢粘土、白色無機粘土含む	V
76	T30・Ⅲ	口縫部	口縫部に横ナデ、口縫部に横斜斜文	工具による直横の上を横ナデ	褐色	褐色	褐色	良好	ガラス質の透明光沢粘土含む	V
77	E29・Ⅲ E30・Ⅲ	口縫部	口縫部に横ナデ、口縫部に直横斜文	工具による直横の上を横ナデ	褐色	褐色	褐色	良好	4.5リットル以下の褐色粘土、2.1リットルの金色光沢粘土、白色粘土含む	V
78	T30・Ⅲ	口縫部	口縫部に横ナデ、口縫部に直横斜文	工具による直横の上を横ナデ	褐色	褐色	褐色	良好	1.1リットル以下の褐色粘土、4ミリ以下の褐色粘土含む	7号と同一個体 V
79	T29・Ⅲ T30・Ⅲ	口縫部	口縫部に直横斜文	工具による直横の上を横ナデ	褐色	褐色	褐色	良好	1.1リットル以下の褐色粘土、白色光沢粘土含む	7号と同一個体 V
80	S30・Ⅲ	口縫部	口縫部に直横斜文	工具による直横、傾方向の直横	ナデ	に古い	褐色	良好	3.1リットル以下の白色粘土、1.1リットルの金色光沢粘土含む	V
81	S1-1	口縫部	口縫部に直横斜文	工具による直横	横内凹型のナデ	に古い	褐色	良好	3.5リットル以下の白色粘土、2.1リットルの白色粘土含む	V

表 1 標現原第2遺跡 編文觀察表(4)

図番号	出土位置 (出土層)	基種	部位	文様及び調整		色調		焼成	胎土	備考
				外面	内面	外面	内面			
82	T30・Ⅳ	漆鉢	口縁部	口縁部に模ナデ、口縁部に斜方角の ナゲの上に斜方角の波織文	模ナデ	に赤い黄緑	に赤い黄緑	良好	6. 5~2. 5ミリの白色粒、褐色粒を含む	電
83	S26・Ⅳ	漆鉢	口縁部	口縁部に模ナデ、口縁部にない 模ナデ	模ナデ	に赤い黄緑	に赤い黄緑	良好	0.5ミリ以下の灰毛、褐色砂粒を含む	83と同一胎土
84	R30・Ⅲ	漆鉢	口縁部	口縁部に模ナデ、口縁部に模ナデの 上に斜方角の波織文	模ナデ	に赤い黄緑	黄緑	良好	2.5ミリ以下の灰毛粒、1ミリ以下の白色粒。ガラス質透明光沢を含む	電
85	S31・Ⅲ	漆鉢	口縁部	口縁部に模ナデ、口縁部に板状工具 による斜方角の波織文	模ナデ	に赤い黄	黄緑	良好	2.5ミリ以下の灰毛粒、金色光沢粒を含む	電
86	R29・Ⅲ	漆鉢	漆鉢	斜方角のナデ	工具による斜方角のナデ	に赤い黄緑	黄緑	良好	1.5ミリ以下の白色粒、黑色粒、褐色粒、金色光沢粒を含む	83と同一胎土
87	R31・Ⅲ	漆鉢	斜方角のナデの上に斜方角の波織文	斜方角の無いナデ	に赤い褐	に赤い黄緑	良好	2ミリの褐色粒、灰色粒、2.4ミリ以下の白色 粒、1.5ミリ以下の白色粒を含む	電	
88	S28・Ⅲ	漆鉢	漆鉢	ナデの上に斜方角の波織文	斜方角の無いナデ	に赤い褐	に赤い黄緑	良好	3.5ミリ以下の灰毛粒。白色粒を含む	ヌメ付有 電
89	S28・Ⅳ	漆鉢	漆鉢	模ナデ	模ナデ	に赤い黄緑	に赤い褐	良好	2.5ミリ以下の灰毛、褐色、黑色の砂粒、黑色粒 状粒を含む	電
90	S29・Ⅳ	漆鉢	口縁部	口縁部に模ナデ、口縁部に低いナデ	模ナデ	灰黄緑	灰黄緑	良好	2.5ミリ以下の白色粒、褐色粒を含む	電
91	Q29・Ⅱ	漆鉢	漆鉢	低い斜方角のナデ	低い斜方角のナデ	に赤い褐	に赤い黄緑	良好	2.5ミリ以下の白色粒、乳白色粒、金色光沢粒を 含む	電
92	SI-1	漆鉢	漆鉢	斜方角のナデ	模ナデ	に赤い褐	に赤い褐	良好	2.5ミリ以下の金色光沢粒、1ミリ以下の褐色粒	電
93	K30・Ⅲ	漆鉢	底鉢	ケズリ加減のナデ	模ナデ	に赤い褐	に赤い褐	良好	1~3ミリの白色粒、黑色粒、黑色粗粒。1 ミリ以下の黑色粗粒を含む	電
94	S29・Ⅲ	漆鉢	漆鉢	風化著しく輪郭不明	風化著しく輪郭不明	褐	に赤い黄緑	良好	2.5ミリ以下の灰毛、褐色の砂粒、透明光沢粒、 黑色粒状粒を含む	
95	R28・Ⅳ	漆鉢	漆鉢	模ナデ	模ナデ	褐	赤	良好	2.5ミリ以上の透明光沢粒、褐色粒、1ミリ以下の 黑色粒を含む	

III類（第11図 29, 30）

器形は円筒形を呈し、胸部器壁に横方向の貝殻腹縁刺突文が施され、貝殻腹縁の圧痕が方形状に表現されるのが特徴である。S 31, U 32区の第IV層面で出土した。

IV類（第11図 31, 32）

器形は円筒形で、31は口唇部横ナデ、口縁部上位に横ナデ、胸部器壁に斜方向の山形押型文が施されている。32は胴部片で、器壁に横方向の棒円押型文が施されている。S 32, T 32区の第IV層から出土している。

V類（第12～14図 33～73）

器形は頸部が「くの字形」にしまり口縁部が外反し、器壁に貝殻腹縁刺突文、沈線文が施されているのが特徴である。口縁部の施文、沈線文の様子等により、次のように細分される。

33～39は、口縁部に横方向の貝殻刺突文を複数条施し、その間に横方向の沈線文を施したもので、37, 38は同一個体である。

40～50は、口縁部に横方向、斜方向の貝殻条痕文を施しているが、その間に沈線文は見られない。41は口縁部上位から頸部にかけて横方向に六条の貝殻腹縁刺突文が巡らされ、42は同一個体の頸部付近で、横方向の貝殻腹縁刺突文の下位に斜方向の貝殻による沈線文が帯状に施されている。40, 43, 44は口縁部上位に横方向一条の貝殻腹縁刺突文が施されている。45は口縁部上位から頸部にかけて横方向に四条の貝殻腹縁刺突文が施されている。46は口縁部上端に横方向に一条の貝殻条痕文、その下位に斜方向に三条の貝殻条痕文が施されている。

51～57は頸部付近に横方向の貝殻腹縁刺突文、その下位に複数の沈線文が帯状に施されている。58～66は複数の帯状の沈線文が見られる。67～73は頸部または胴部片でいずれもV類の特徴である貝殻腹縁刺突文、あるいは沈線文が見られるが、施文に前述のような規則性は見られない。

V類土器は、R 30, S 30区にまたがる付近を中心広い範囲で出土した。層的には第III層、第IV層から出土している。

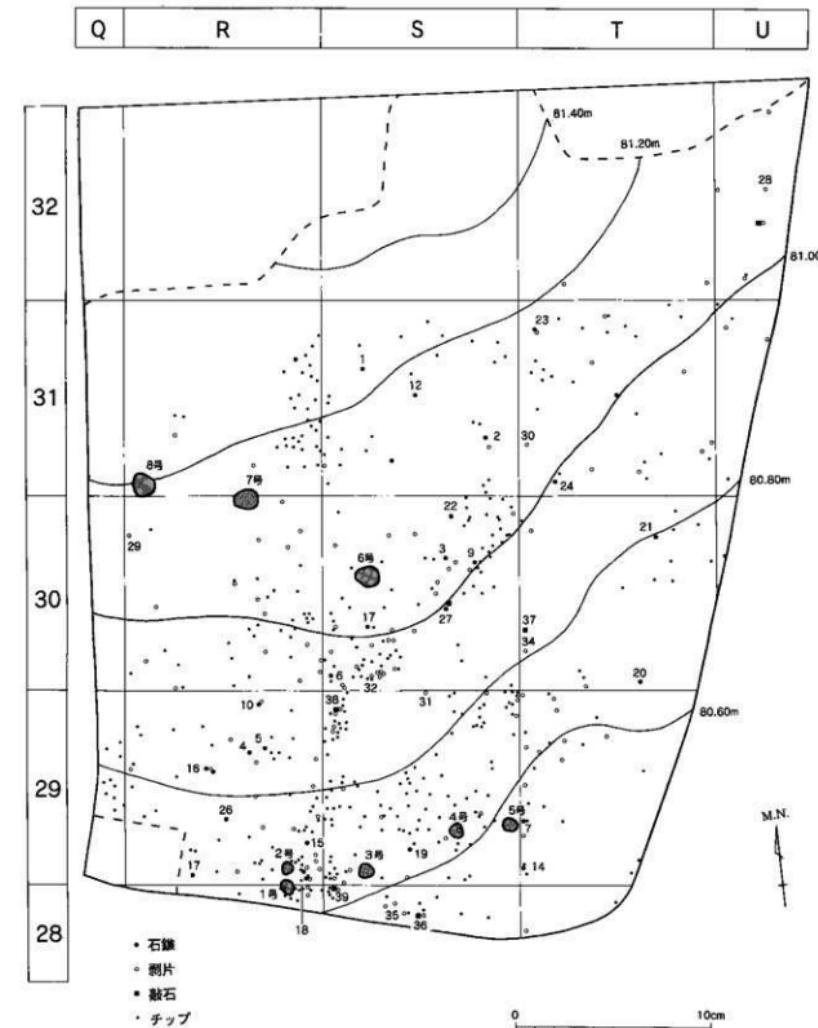
VI類（第15図 74～80）

器形は円筒形を呈し、胸部外面には斜方向の貝殻条痕文を重ねて施し、内面は貝殻条痕文の後、丁寧なナデ調整が見られるのが特徴である。口唇部は横ナデを施し、74, 78には穿孔がみられる。78, 79は同一個体である。

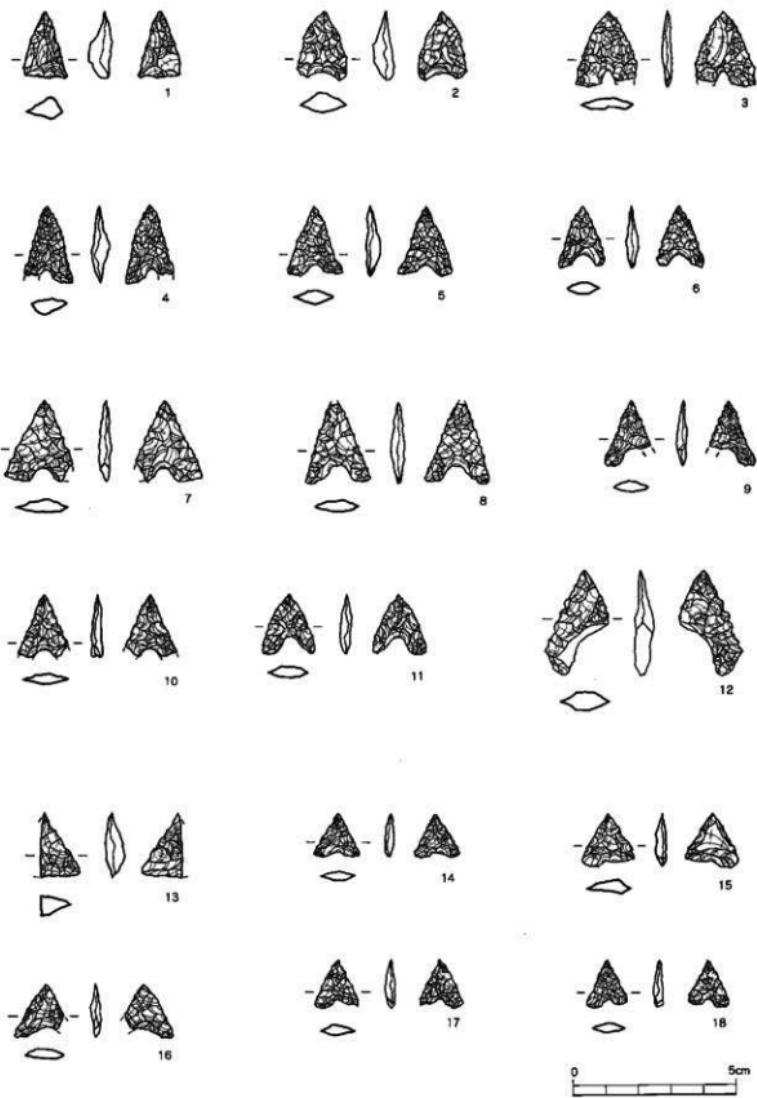
出土位置に偏りは見られないが、層的には主に第III層から出土している。

VII類（第15～16図 81～92）

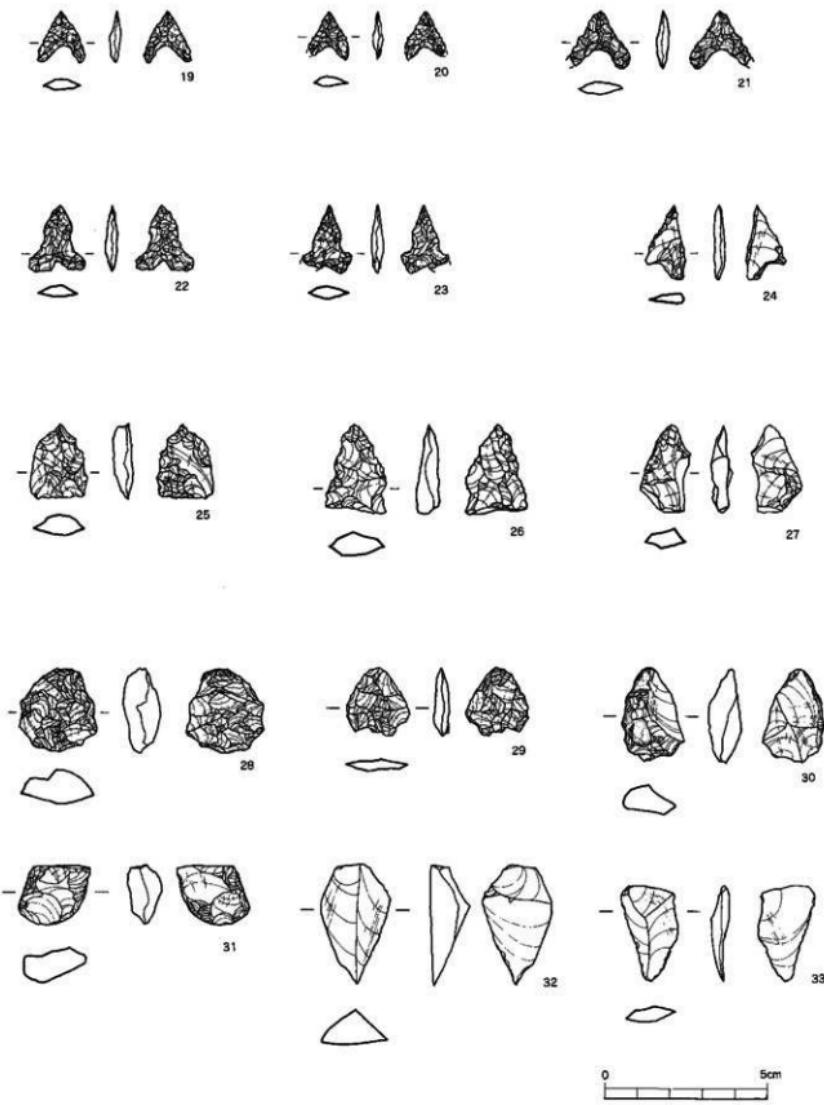
これまで分類したものに含まれないもの、時期や類別の判別が困難なものを、この類に集めた。81は口唇部押圧刻み、口縁部に羽状の繩文が施され、1号集石内上部で出土した。82は口唇部ナデ、口縁部に斜方向に工具による短沈線が施されている。83は口唇部、口縁部ともに丁寧なナ



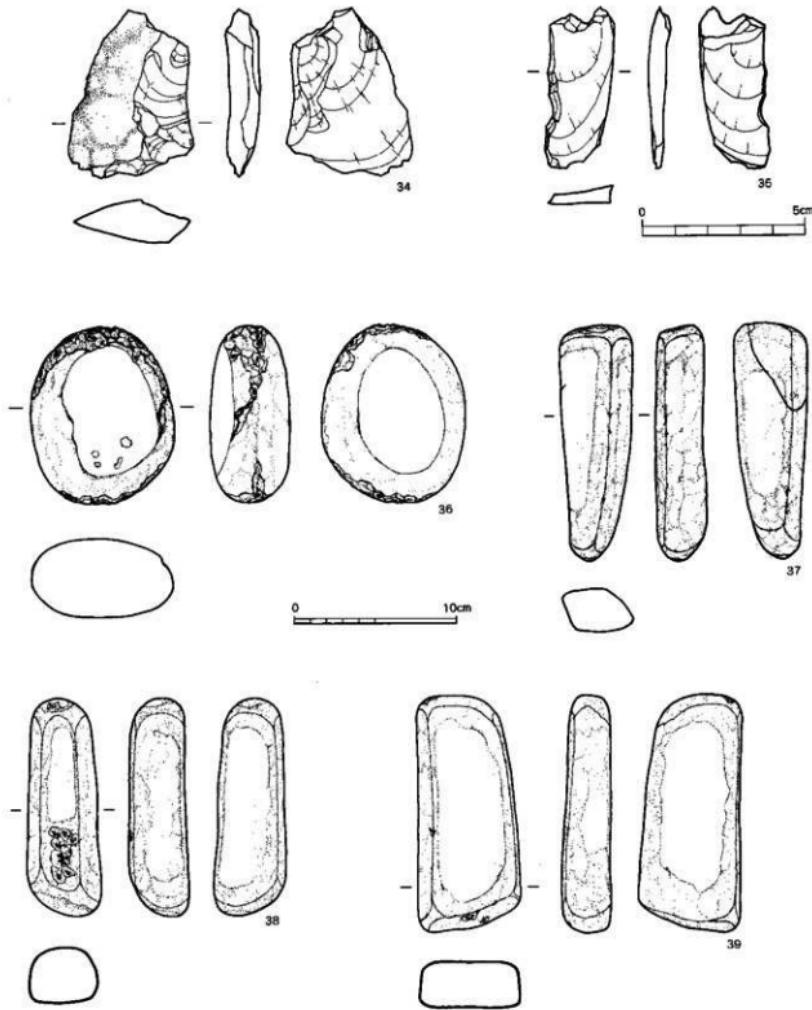
第17図 横須原第2遺跡 石器分布図



第18図 梅原第2遺跡 石器実測図(1)



第19圖 椅現原第2遺跡 石器夾測圖(2)



第20圖 標現原第2道路 石器夾炭圖(3)

表2 権現原第2遺跡 石器計測表

図番号	出土位置(層)	器種	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量(g)	石材	備考
1	S31・N	石鎚	20.8	13.4	7.2	1.2	黒曜石	I a
2	S31・N	石鎚	21.5	15.1	6.1	1.4	頁岩	I b
3	S30・III	石鎚	23.2	(18.2)	2.9	(0.8)	黒曜石	I c 片脚端欠損
4	R29・III	石鎚	24.2	(15.1)	5.7	(1.1)	黒曜石	I c 片脚端欠損
5	R29・III	石鎚	21.5	17.0	4.8	0.8	黒曜石	I d
6	S30・III	石鎚	18.7	14.5	4.1	0.5	黒曜石	I d
7	T29・III	石鎚	25.3	(20.4)	4.5	(1.4)	黒曜石	I d 片脚欠損
8	S30・III	石鎚	(24.8)	19.9	3.9	(1.2)	黒曜石	I d 先端部欠損
9	S30・III	石鎚	20.5	(13.8)	3.5	(0.5)	黒曜石	I d 片脚欠損
10	R29・III	石鎚	(19.2)	(15.7)	4.1	(0.7)	チャート	I d 両脚端欠損
11	III	石鎚	18.6	15.8	3.4	0.6	黒曜石	I d
12	S31・III	石鎚	32.1	(16.1)	7.0	(2.1)	黒曜石	I d 片脚欠損
13	III	石鎚	19.9	(12.7)	(6.2)	(0.9)	黒曜石	II a 半分欠損
14	T29・III	石鎚	9.2	9.7	3.4	0.3	流紋岩	II b
15	R29・III	石鎚	16.8	16.0	4.5	0.7	黒曜石	II b
16	R29・III	石鎚	16.8	(14.8)	3.3	(0.4)	黒曜石	II b 片脚欠損
17	R29・III	石鎚	15.3	(13.4)	3.1	(0.2)	黒曜石	II b 片脚端欠損
18	R29・III	石鎚	14.8	(12.9)	3.1	(0.2)	黒曜石	II c 片脚端欠損
19	S29・III	石鎚	16.1	14.6	3.6	0.4	黒曜石	II d
20	T30・III	石鎚	15.4	12.6	3.1	0.3	黒曜石	II d
21	T30・III	石鎚	17.9	(18.6)	3.9	(0.7)	チャート	II d 片脚端欠損
22	S30・III	石鎚	20.7	17.4	4.6	0.9	黒曜石	II
23	T31・III	石鎚	21.4	(14.9)	4.5	(0.7)	黒曜石	II 片脚端欠損
24	T31・III	石鎚	23.1	(12.4)	(3.7)	(0.7)	黒曜石	IV 半分欠損
25	III	石鎚	23.4	17.6	6.9	2.3	黒曜石	IV
26	R29・III	石鎚	28.2	18.9	7.8	3.1	黒曜石	IV
27	S30・N	石鎚	27.2	(15.3)	(5.9)	(2.1)	黒曜石	IV 両脚欠損
	R31・III	石鎚	(15.1)	(6.3)	(3.6)	(0.1)	黒曜石	片脚のみ
	S31・III	石鎚	(18.2)	(13.8)	(3.6)	(0.6)	黒曜石	I d 先端部・両脚欠損
	III	石鎚	(18.3)	(15.3)	(4.3)	(0.7)	チャート	両脚欠損
	R29・III	石鎚	(18.8)	(14.0)	(3.5)	(0.4)	黒曜石	I d 両脚欠損
	III	石鎚	14.7	(12.6)	(2.7)	(0.1)	黒曜石	II d 片脚欠損
	R29・III	石鎚	16.7	(12.6)	3.1	(0.1)	黒曜石	I d 片脚欠損
28	U31・III	剥片	26.1	24.2	11.3	6.3	チャート	
29	R30・III	剥片	16.4	15.6	3.3	0.8	チャート	
30	T31・III	剥片	28.9	18.9	9.9	3.9	黒曜石	
31	S29・III	剥片	18.4	21.9	8.4	3.3	黒曜石	
32	S30・III	剥片	36.6	21.6	12.0	5.2	黒曜石	使用痕あり
33	III	剥片	29.7	16.7	5.2	1.4	黒曜石	使用痕あり
34	T30・IV	剥片	52.0	38.7	12.6	24.1	頁岩	使用痕あり
35	S28・III	剥片	50.2	21.4	6.0	7.2	頁岩	二次加工あり
36	S28・IV	敲石	109.5	88.2	48.6	613.6	砂岩	磨石を兼ねる
37	T30・IV	敲石	146.8	45.3	32.2	315.8	砂岩	磨石を兼ねる
38	S29・IV	敲石	134.8	45.5	35.0	345.3	砂岩	磨石を兼ねる
39	S29・IV	敲石	146.5	64.0	29.5	496.9	砂岩	磨石を兼ねる

テ調整で、86と同一個体である。84は口唇部横ナデ、口縁部には斜方向の撲糸文が施されている。

87, 88は斜方向の沈線文が施されているが、V類土器に見られたような規則性は見られない。89~92は内面、外面ともにナデ調整だけが確認できる無文の土器である。92は2号集石内下部で出土した。

底部（第16図 93~95）

無文で所属不明の底部をまとめた。いずれも内面、外面ともにナデ調整を施し、93は上げ底を呈している。

石器

石器は総数564点が出土し、その内訳は打製石鎌（33点）、剥片（116点）、敲石（6点）、チップである。使用された石材は、打製石鎌、剥片では黒曜石89%、チャート7%、その他（砂岩、頁岩、流紋岩）4%で、敲石はすべて砂岩が用いられていた。

石鎌の分布はR29区の第Ⅲ層を中心に広がり、石材は黒曜石が85%、チャート9%、砂岩・流紋岩が3%だった。

石鎌はその形状により二等辺三角形（I類）、正三角形（II類）、異形鎌（III類）、未製品または所属不明のもの（IV類）の4類に大別し、I類、II類についてはその基部の形態により平基（a類）、浅い凹基（b類）、U字形凹基（c類）、V字形凹基（d類）のように細分した。

I a類（第18図1）

全体形が二等辺三角形を呈しており、基部及び両側辺とも直線的に作り出されおり、基部に抉りは見られない。S31区の第Ⅳ層から出土している。

I b類（第18図2）

全体形が二等辺三角形を呈しており、基部は浅い凹基式で、側辺がやや膨らみ丸味を帯びている。S31区の第Ⅳ層から出土している。

I c類（第18図3, 4）

全体形が二等辺三角形を呈しており、基部はU字形凹基式で、2点がS30, R29区第Ⅲ層から出土している。3は側辺に膨らみを持ち比較的幅広で、4は側辺が直線的に作りだされ、幅が狭く長身である。どちらも片脚端部が欠損している。

I d類（第18図5~12）

全体形が二等辺三角形を呈しており、基部はV字形凹基式で、14点がS30, R29区第Ⅲ層を中心に出土している。いずれも側辺が直線的に作り出されているが、脚部端の形状は幅があるもの（7, 8, 9）と先端がすぼまるもの（5, 6, 11）がある。11は側辺がやや膨らみ丸味を帯びている。7, 9, 10は片脚端部が欠損、8は先端部が欠損、12は片脚部が大きく欠損しているが、残存部の状態からI d類とした。

II a類（第18図13）

全体形が正三角形を呈しており、基部、側辺は直線的に作り出されている。半分欠損しているが、

基部は平基式になると判断しⅡa類とした。

Ⅱb類(第18図14~16)

全体形が正三角形を呈しており、側辺は直線的に作り出されている。基部に浅い抉りが見られる。3点がT29、R29区第Ⅲ層から出土している。いずれも小型のもので、特に、14は最大長9.2mm、最大幅9.7mmと本遺跡出土石器の中で最も小さい。16は片脚部が欠損しているが、残存部の状態からⅡb類とした。

Ⅱc類(第18図17、18)

全体形が正三角形を呈しており、側辺は直線的に作り出されている。基部はU字形凹基式で17は片脚端が欠損しているが、いずれも基部の抉りは小さい。R29区の第Ⅲ層から出土した。

Ⅱd類(第19図19~21)

全体形が正三角形を呈しており、基部に大きくV字形の抉りが見られる。19、20は片脚部の先端が欠損しているが、いずれも脚部の先端はすぼまるものと考えられる。4点がS29、T30区の第Ⅲ層から出土している。

Ⅲ類(第19図22、23)

I類、II類で分類した二等辺三角形、正三角形を呈さない異形の石器で、両側辺に抉りを持ち、脚部が左右に張り出すように作られている。基部にもV字形の抉りが見られる。いずれも石材は黒曜石で、23は片脚端部が欠損している。2点がS30、T31区の第Ⅲ層から出土している。

Ⅳ類(第19図24~27)

加工途中の未完成品と思われるものが4点出土した。いずれも石材は黒曜石で、24、27は全体形の一部が大きく欠損している。24は欠損した後に加工の跡が見られ、全体に縁辺を打ち欠いたのみの剥片器に類すると考えられる。25~27はいずれも側辺に刃部加工の痕跡は見られるが、基部、脚部の形成が不完全で、石器の未製品と考えられる。24~26は第Ⅲ層から、27は第Ⅳ層から出土している。

剥片(第19図28~35)

28~31は二次加工のある剥片で、特に28、29はチャート製で、先端部から側辺にかけて刃部形成のための加工が見られ、石器製作過程の剥片と考えられるが、基部、脚部の加工については確認できない。32、33は大きな剥離の後ほとんど加工を加えていないが、先端部から側片にかけて使用痕と思われる小さな剥離が見られる。34、35は頁岩を利用した剥片で、いずれも側片の一部に使用痕が見られる。

敲石(第20図36~39)

全体で6点が出土し、いずれも砂岩を利用した敲石で磨石と兼用された跡が見られる。36は梢円形の礫の両端に敲打痕があり、また中央平面部に広く磨痕が見られる。37~39は棒状の礫の両端に敲打痕があり、38は中央面にも敲打痕がみられる。いずれも正面及び側面の一部に磨痕が見られる。出土位置はS28、29、T30の第Ⅳ層で、層的にはI類、II類土器、集石遺構(1号~5号)などと同時期のものと考えられる。

第4節 まとめ

今回の調査によって、権現原第2遺跡が縄文時代早期に営まれた遺跡であることが確認された。その具体的な調査結果については、これまで遺構編、遺物編にわけて述べてきた通りであるが、その成果と問題点について整理してみたい。

まず、遺構として集石遺構が8基検出された。いずれも皿状の掘り込みを持ち構成礫には円礫、破碎礫が使用され、その多くは熱を受けたと考えられる赤変が見られた。はっきり配石と判断できるものは確認できなかった。

遺構の構築時期について、1号集石と3号集石内から土器片が出土しており、特に3号集石から出土の17、27は共に前平系であること、また周囲にも同類の土器の分布が見られることから、1号集石から5号集石の構築時期は縄文時代早期前葉が考えられる。しかし、8基の集石遺構の分布状況等を見ると、すべて同一時期とは判断できず、特に6号集石から8号集石については、位置的に見ても、また周囲の土器の分布から他の集石遺構とは構築時期に差があると考えられる。周囲にV類土器（塞ノ神式）の分布が見られることから時期的には縄文時代早期中葉が考えられる。また、用途については石蒸し調理に用いられた等の説があるが、今回の調査ではそれらを判断することのできる資料は確認できなかった。

次に土器についてであるが、I類からVI類に分類したが、層位的に見てすべて縄文時代早期の土器と考えられる。その中でもI・II類は前平式土器、III類は下剥峰式土器、IV類は押型文土器、V類は塞ノ神式土器、VI類は轟式土器に相当すると考えられる。

出土状況を見ると、I類、II類で144点と全体の1/3を占め、出土層は144点中120点(83%)が第IV層より出土しており、本遺跡内で出土した土器の中でも最下層に位置することが確認できる。また分布の範囲がR28、29、S28、29区に偏っていることが確認できる。V類は（塞ノ神式）、VI類（轟式）は主に第III層から出土していること、分布範囲がR30、S30区を中心に広がっていることが確認できる。他の類の土器については出土点数の少ないこともあり、分布状況、出土層について明確な傾向は見いだせない。

以上のように土器の分布状況からは縄文時代早期前葉の前平式土器と早期中葉の塞ノ神式の2時期のものに分かれて大きな偏りがあること、また量的には少ないが早期後葉の轟式の出土が確認された。これら出土土器の様式の類別、また出土層の違いから見ても、本遺跡の営まれた時期が縄文時代早期の中でも2時期以上に分かれていたことが伺われる。

次に石器についてであるが、石鎚(33点)、敲石(6点)の他は、製品を確認することができなかった。石鎚については、33点中30点が第III層から出土、出土位置についてR29区で10点と偏りが見られるが、他のグリッドにも広く分布している。また前述の通り4類に大別した中で、I d類が11点と最も多かったが、出土位置は11点中4点がR29区第III層の他、S30区第III層が3点、S31区第III層が2点、その他2点と、分布状況に明確な偏りは見られなかった。

また、33点中12点が完形品、17点が脚部欠損、2点が先端部欠損、2点が半分欠損、1点が片脚のみであった。

石鎚と剥片、チップの分布状況の関係を見ると、剥片は116点中83点が第III層出土と石鎚に

似る分布状況を見ることができ、本遺跡内で石器を製作していた可能性も考えられる。また、石器、その他の石器と土器の分布について、明確な関連は見いだせなかつた。また、敲石については、出土層、出土位置とともに I 類、II 類土器に似ており、共伴関係が伺われる。

以上の調査結果から判断できることとして

・土器の出土状況から、本遺跡の生活時期として早期前葉（前平式土器）、早期中葉（塞ノ神式）の 2 時期が考えられる。あるいは、VI 類（轟式）の出土も見ると、3 時期にわたる可能性も伺われる。

・集石遺構は検出されたが、竪穴住居等の住居関連の遺構が検出されていないこと、石皿、石斧などの生活に関連する遺物が出土していないことから、本遺跡が継続的に生活が営まれたのではなく、断続的に、いわゆるキャンプサイト的に営まれた遺跡であることが伺える。

＜参考文献＞

打扇遺跡、早日渡遺跡、矢野原遺跡、藏田遺跡

「一般国道 218 号椎畠バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」

宮崎県教育委員会 1995

椎屋形第 1 遺跡、椎屋形第 2 遺跡、上の原遺跡

「県営農地保全整備事業時屋地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」

宮崎市教育委員会 1996

小山遺跡 「九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書 XI」

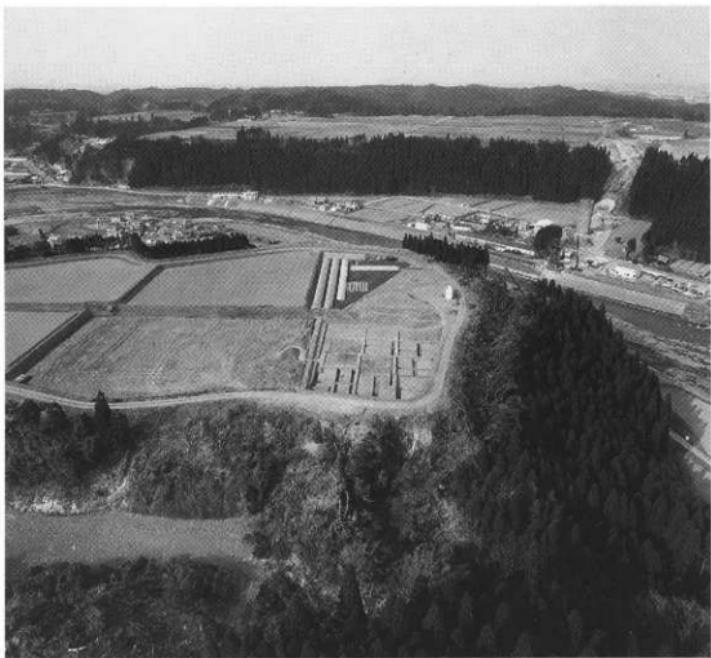
鹿児島県教育委員会 1982

九州縄文土器編年の諸問題 「九州縄文研究会鹿児島資料集」

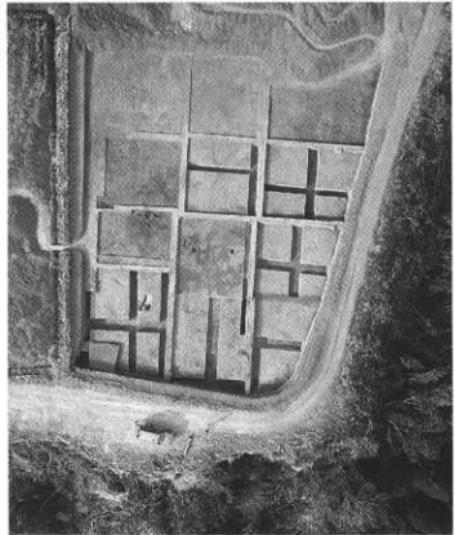
九州縄文研究会 1998

「南九州縄文通信」No. 7, 8, 11 南九州縄文研究会

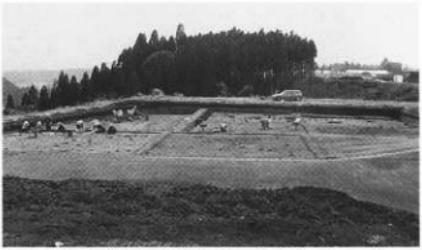
縄文土器大観 1 小学館



椎原第2遺跡　遠景（南から）



椎原第2遺跡　全景



椎原第2遺跡　近景（北から）



目勝遺物出土状況



集石遺構検出作業



1号集石 2号集石



3号集石



4号集石



5号集石



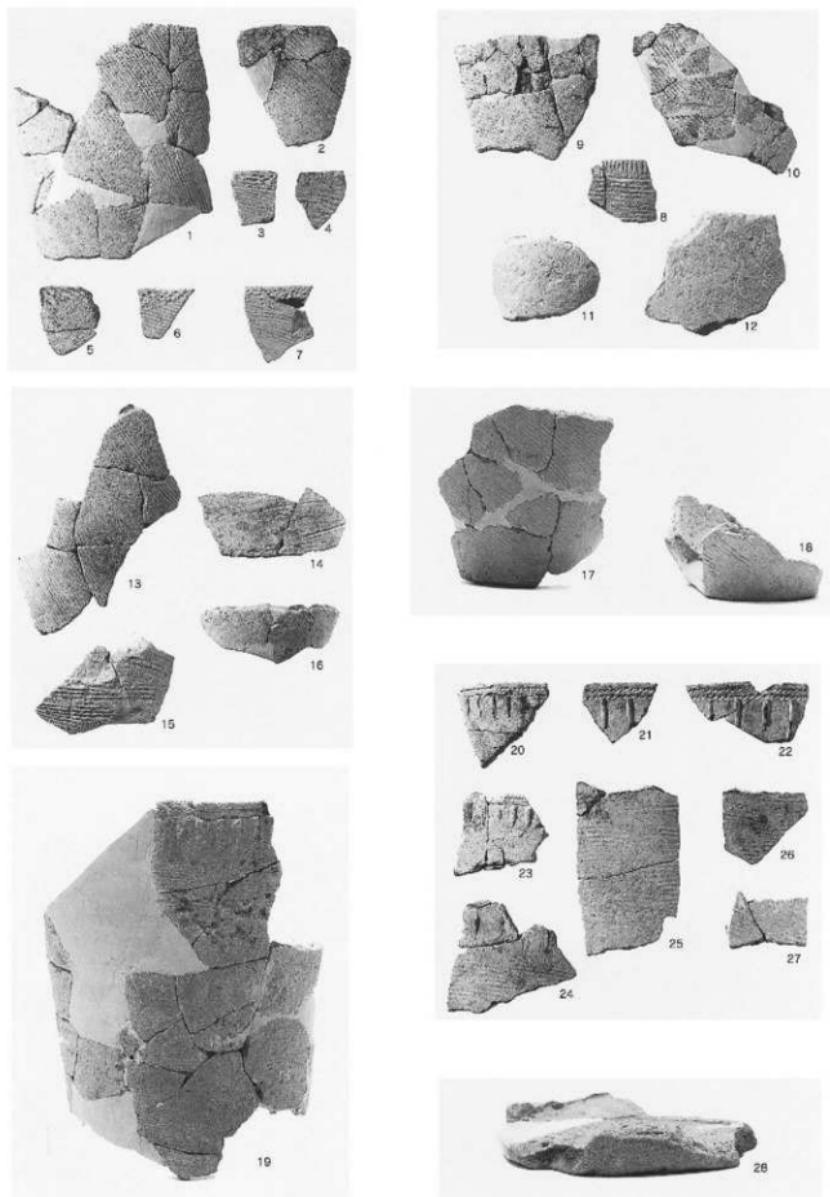
6号集石



7号集石

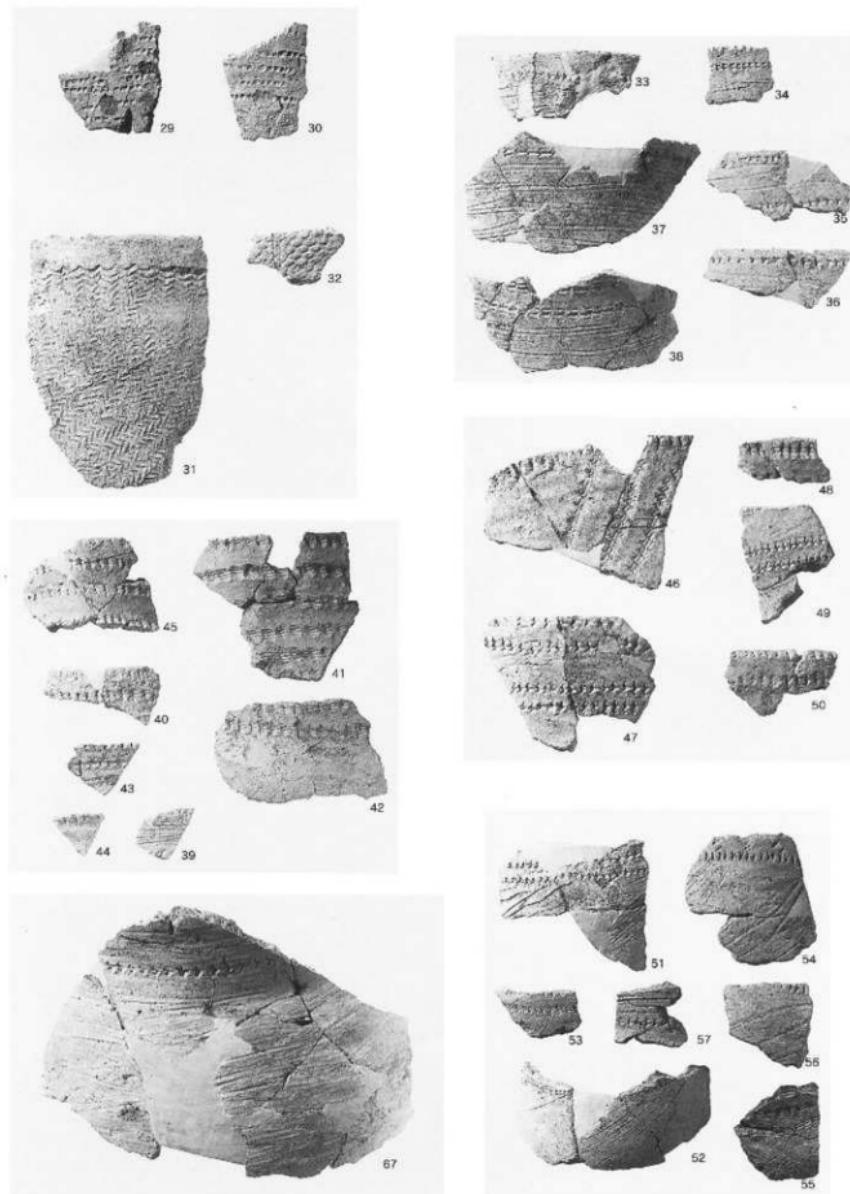


8号集石

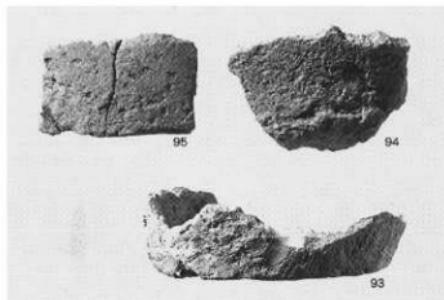
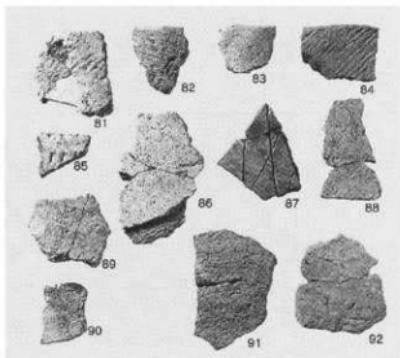
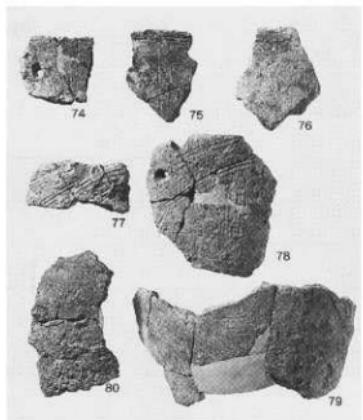
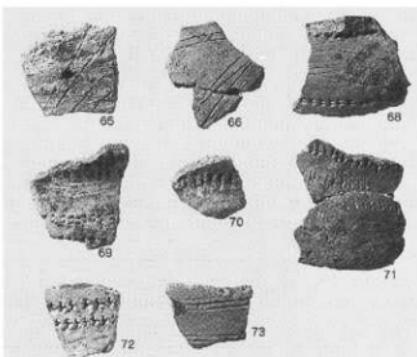
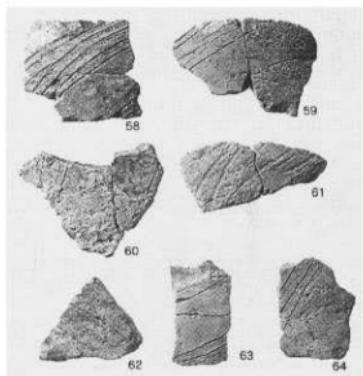


椎原第2遺跡 繩文時代早期土器（1）

図版4

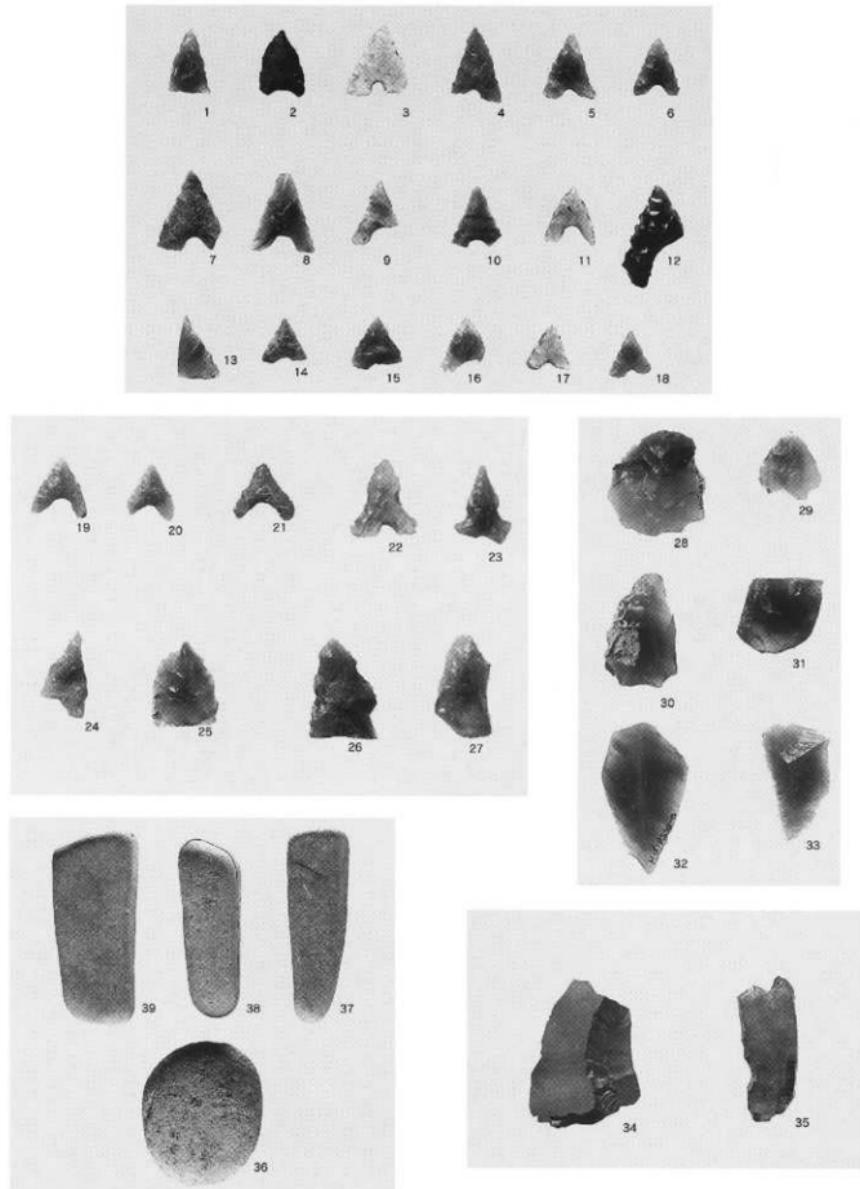


椎原第2遺跡 織文時代早期土器（2）



椎現原第2遺跡 繩文時代早期土器 (3)

図版6



椎原原第2遺跡 縄文時代早期石器

すぎ のき ぱる

杉木原遺跡

第Ⅲ章 杉木原遺跡

第1節 調査の経過と概要

杉木原遺跡は清武川右岸の標高約80mを測る小高いシラス台地上に立地する。この台地は背後に山を臨み、北西から南東方向に緩やかに傾斜する地形で、現在はみかんを中心とした果樹栽培、大根やたばこ等の畑地に利用されている。この遺跡は、台地の北端部に位置し、調査前まではみかん畑に利用されていた。分布調査の際、南側の畑地で縄文土器数点が表面採集された他、北側の畑地でも縄文土器や焼礫が確認された。調査対象面積は、16,000m²である。しかし、その後の確認調査で、南側の畑地では遺構は検出されず、数点の土器片が出土したが、果樹栽培の造成が行われており、搅乱層からの出土であった。北側の畑地では耕作土の下位に成層したテフラ層（アカホヤ火山灰）があり、その下位から縄文土器・焼礫が検出された。その結果、調査対象地区を当初の16,000m²から北側の畑地約7,140m²に限定し、平成7年8月17日から平成8年3月21日までの期間、調査を実施した。

調査に際しては、確認調査の結果よりアカホヤ火山灰層の下位層で焼礫や縄文早期の土器が検出されていたので、まず伐採されて放置されたみかんの木を重機で慎重に除去した後、表土を重機で剥ぎ取り、第Ⅱ層（アカホヤ火山灰）の上面において遺構・遺物の検出に努めた。しかし、鋤簾がけによる精査を行ったが、遺構・遺物は確認されなかった。その結果、Ⅱ層も重機で除去しⅢ層面から縄文早期の遺構・遺物の調査を進めることにした。まず、国土座標軸（XY座標）を基準として5mグリッドを設定し、北から南を1・2・3…区、東から西をA・B・C…区として、その組み合わせで区画を表示した。

縄文早期の包含層は第Ⅲ層・第Ⅳ層である。第Ⅲ層の黒褐色層では、遺物の量は少なかったが焼礫が調査区全体で検出された。第Ⅳ層の暗褐色層では焼礫と共に遺物も多量に出土した。礫群の分布状況を確認するため礫は平板実測を行った。礫群の下から集石遺構・土壙が検出された。V層上面における20cmコンタで地形測量を行った。V層より下位の層ではトレンチによる調査を行い、遺物が出土すればそのグリッドを広げていく調査方法をとった。しかし、遺物の量も少なかったので、調査を途中で打切った。V層からは、旧石器時代の遺物が少量検出された。

調査の結果、旧石器時代のナイフ形石器・スクレイパー・細石刃等の遺物、縄文時代草創期の隆帶文（2点）・爪形文土器（1点）、縄文時代早期の土器（貝殻文円筒形土器・押型文土器その他3,665点）や打製石鎚（120点）・石皿等の石器と集石遺構42基、土壙4基が確認された。

第2節 遺跡の層序

本遺跡の基本層序は以下に示すとおりである。Ⅲ層～V層が遺物の包含層である。

I層（表土）
II層（アカホヤ）
III層（黒褐色土）
IV層（暗褐色土）
V層（暗褐色土）
VI層（暗褐色土）
VII層（暗褐色土）
VIII層（黄褐色砂質土）

I層の表土（耕作土）は除去すると南から北へ緩やかに傾斜した旧地形が掘削されることなく残存していた。II層は、アカホヤ火山灰である。III層は黒褐色土：細粒の黄色輕石を多く含む層で、下位から集石遺構が検出された。遺物の出土数は少ない。IV層は暗褐色土：軟質な褐色土であり、遺構・遺物も多量に出土した。V層は暗褐

色土：黄色軽石を少量含みIV層より硬質でしまっている褐色土である。旧石器時代の遺物が少量出土した。VI層は暗褐色土：V層に比べて黄色軽石が全体的に広がり量も多く含む。硬質で遺物を伴わない層である。VII層は暗褐色土：粘性をもつ褐色土である。VIII層は黄褐色砂質土：黄色軽石混じりのシラス火山灰である。また、後述のテフラ検出分析結果より、II層の火山灰は鬼界カルデラから噴き出した鬼界アカホヤ火山灰（約6,300年前）に相当し、III層の黄色軽石は桜島から噴き出した嫁坂軽石と考えられる。この軽石については約6,500年前に桜島火山から噴き出したと推定されている桜島末吉軽石に対比される可能性が考えられる。また、V層・VI層の黄色軽石は約1.4～1.6万年前に霧島火山から噴き出した霧島小林軽石である。

第3節 旧石器時代の遺物

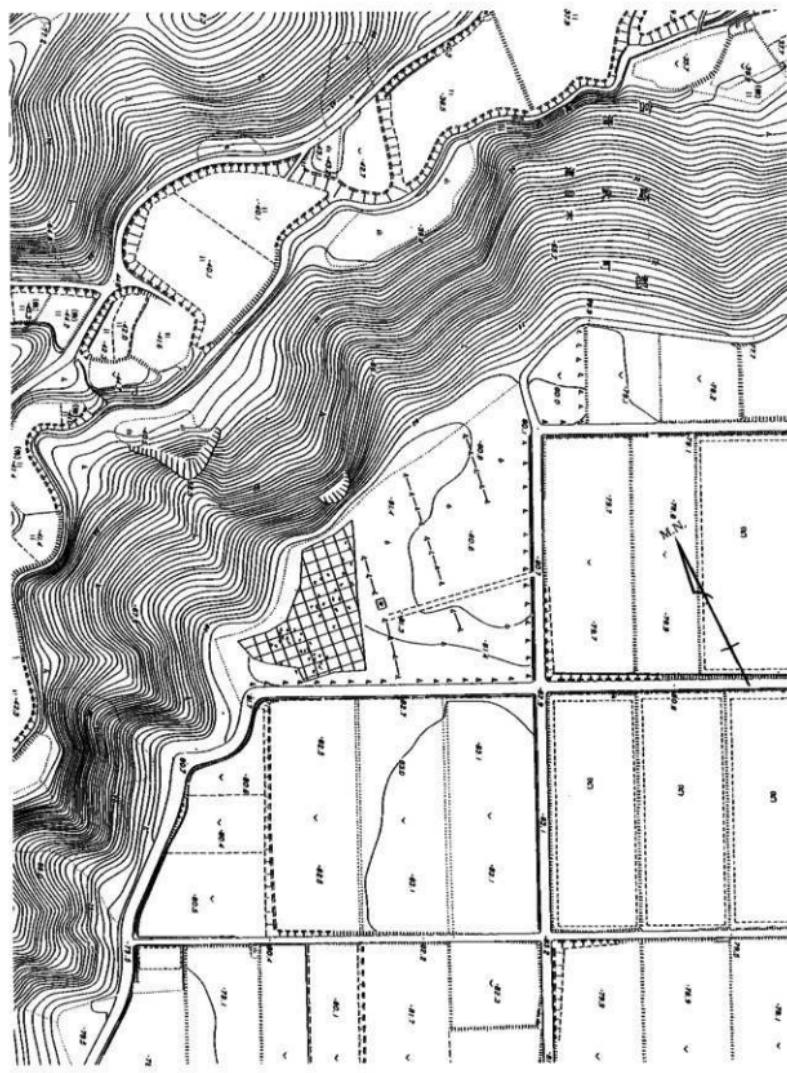
旧石器時代の調査は、トレンチにより実施した。遺構は検出してないが遺物はいくつか検出している。層的には、基本層序の小林軽石を含む暗褐色を呈するV層が旧石器時代の包含層に相当する。しかし部分的には縄文早期の文化層との混在が認められる。遺物の分布状況であるが遺跡全体に散らばっており、明確なブロックは把握できなかった。旧石器の出土総数は、98点である。内訳はナイフ形石器4点・スクレイバー6点・縦長剥片7点・石核類26点・細石刃19点・剥片15点・チップ21点である。なお、細石刃とナイフ形石器の層位の上下関係は明確に確認できなかった。

ナイフ形石器（第3図1～4）

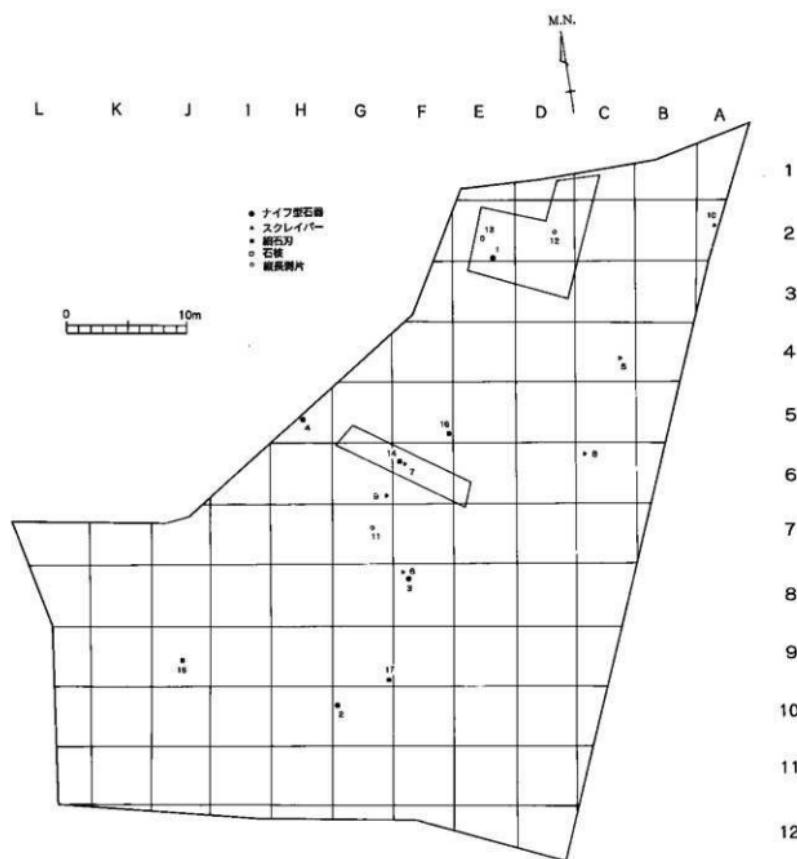
ナイフ形石器は全部で4点検出している。1は、頁岩製の縦長剥片を素材としている。一側辺に加工を施したものである。V層下部で検出している。プランティングは、両面から施されている。2は、頁岩の縦長剥片を素材としているもので二側辺に加工を施したものである。同じくV層下部から検出したものである。プランティングが裏面から施されている。3も頁岩の縦長剥片を素材としたもので、二側辺に加工を施したものである。また、出土層位は、V層下部である。二側辺加工を施したもので、プランティングが両面から施されている。4は、先端が欠けているが九州で言う剥片尖頭器である。石材は頁岩を使用している。基部加工とプランティング加工を施してある。出土層位は、V層である。

スクレイバー（第3図5～10）

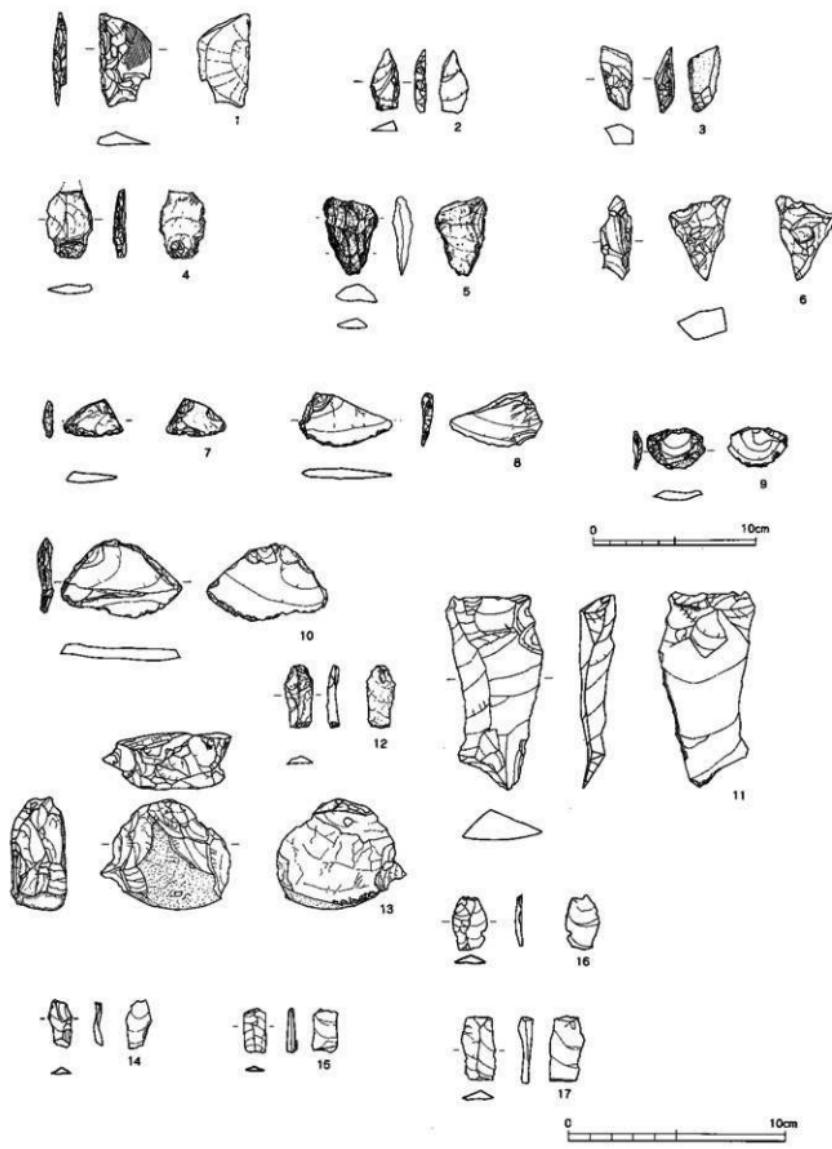
旧石器時代のスクレイバーは全部で6点検出している。石器組成に占める割合は6%ほどである。5は、頁岩の不定形剥片を素材としたサイドスクレイバーで二側辺に細かな調整を加え刃部を形成している。出土層位はV層下部である。6は、頁岩の不定形剥片を素材としたサイドスクレイバーである。出土層位は同じくV層下部である。7は、頁岩の横長剥片を素材としたエンドスクレイバーである。下縁部に両面から調整が施されている。8は、頁岩の横長剥片を素材としたエンドスクレイバーである。表面に細かな調整を加え刃部を形成している。出土層位はV層下部である。9は、頁岩の不定形剥片を素材としたエンドスクレイバーである。下縁部に裏側から細かい調整を加え刃部を形成している。出土層位はV層下部である。10は、横長剥片を素材としたエンドスクレイバーである。下縁部に両面から細かな調整を加え刃部を形成している。出土層位はV層下部である。



第1図 杉木原遺跡 調査区周辺地形図 (1/2000)



第2図 杉木原遺跡 旧石器遺物分布図 (1/400)



第3図 杉木原遺跡 旧石器実測図 (1~12···S=1/3, 14~17···S=2/3)

使用痕のある縦長剥片（第3図11・12）

11は、剥離方向が縦に長い縦長剥片を素材にして調整の痕跡がみられるものである。石材は砂岩である。12も縦長剥片で、素材は流紋岩製の使用痕のあるものである。

石核（第3図13）

石核類は全部で26点検出されている。13は、石材は頁岩で縦長剥片の剥出作業面と幅広の剥片の剥出作業面がある。

細石刃（第3図14～17）

細石刃は全部で19点ほど出土している。石器組成における割合は20%ほどである。石材は不純物が少ない良質の黒曜石である。細石刃は、小林軽石層が含まれるV層（旧石器の包含層）から出土している。14～16までのものは胴部や先端が欠損したものである。17はほとんど完形に近いものである。

表1 杉木原遺跡旧石器観察表(1)

圓面番号	遺物番号	出土位置	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材
3	1	E-2	ナイフ形石器	4.33	2.329	0.66	5.6	頁岩
3	2	G-10	ナイフ形石器	3.825	1.88	0.67	4.4	頁岩
3	3	F-8	ナイフ形石器	4.175	1.916	1.046	7.3	頁岩
3	4	H-5	ナイフ形石器	4.05	2.75	0.798	10.1	頁岩
3	5	C-4	スクレイパー	4.5	3.2	1	15.7	頁岩
3	6	F-8	スクレイパー	2.53	3.851	1.527	12.2	頁岩
3	7	F-6	スクレイパー	2.1	3.6	0.6	4.1	頁岩
3	8	C-6	スクレイパー	3.1	5.7	0.7	11.4	頁岩
3	9	G-6	スクレイパー	2.296	3.61	0.56	4.4	頁岩
3	10	A-2	スクレイパー	4.617	7.412	0.718	28	頁岩
3	11	G-7	縦長剥片	11.925	5.557	1.9	120	頁岩
3	12	D-2	縦長剥片	3.8	1.7	0.6	4.1	流紋岩
3	13	E-2	石核	6.679	7.862	2.984	196.6	砂岩
3	14	F-6	細石刃	1.2	0.578	0.166	0.1	黒曜石
3	15	J-9	細石刃	1.144	0.63	0.202	0.1	黒曜石
3	16	F-5	細石刃	1.414	0.87	0.14	0.1	黒曜石
3	17	G-9	細石刃	1.722	0.943	0.293	0.3	黒曜石
B-1		石核	1.05	1.4	1.55	1.7	黒曜石	
D-8		石核	2.523	1.271	1.302	3.5	黒曜石	
B-5		石核	1.7	1.4	1.155	1.7	黒曜石	
F-5		石核	1.7	1.8	1.66	4	黒曜石	
E-7		石核	2.5	3	1.324	5.7	黒曜石	
F-10		石核	3.941	2.649	1.484	10.7	頁岩	
F-6		石核	2.163	2.494	1.178	4.4	黒曜石	
E-7		石核	1.576	3.101	1.481	7.9	黒曜石	
H-6		石核	1.881	2.553	1.146	6.5	黒曜石	
F-7		石核	1.575	2.011	0.926	2.6	黒曜石	
D-5		石核	6.774	4.926	3.047	128.3	頁岩	
B-1		石核	2.027	1.431	0.736	1.8	チャート	
K-8		石核	1.466	1.462	1.409	2.7	黒曜石	
K-8		石核	6.059	4.518	2.578	74.1	頁岩	
K-8		石核	2.014	1.846	1.846	3.9	黒曜石	
D-12		石核	0.991	1.77	1.544	2.4	黒曜石	
D-12		石核	1.954	1.401	1.022	2.2	黒曜石	
D-6		石核	1.806	1.893	1.275	3.5	黒曜石	
C-3		石核	2.15	1.358	1.888	2.9	黒曜石	
C-9		石核	2.022	2.003	1.151	3.8	黒曜石	
G-7		石核	2.829	3.748	1.58	11	頁岩	
一括		石核	1.45	2.011	1.318	2.5	黒曜石	
一括		石核	1.205	1.726	1.44	2.4	チャート	

表1 杉木原遺跡旧石器鍬索表(2)

	一括	石核	1.38	2.019	1.086	2.9	黒耀石
	一括	石核	5.931	4.713	3.073	77.7	真岩
G-6	縦長剥片	6.8	3.3	1.4	25.3	流紋岩	
H-7	縦長剥片	8.35	3.1	0.65	14.3	真岩	
D-2	縦長剥片	7.1	4.45	2.1	34.8	砂岩	
J-7	縦長剥片	6.2	1.95	0.6	7	真岩	
一括	縦長剥片	5.8	2.9	1	17.9	真岩	
B-5	細石刃	1.75	0.95	0.3	0.6	黒耀石	
G-7	細石刃	1.45	0.9	0.4	0.4	黒耀石	
G-7	細石刃	0.65	0.8	0.1	0.1	黒耀石	
F-4	細石刃	1.85	1	0.45	0.8	黒耀石	
K-8	細石刃	2.45	1.3	0.2	0.9	チャート	
E-6	細石刃	3.35	0.9	0.6	1.3	黒耀石	
D-8	細石刃	1.45	0.85	0.15	0.1	黒耀石	
H-7	細石刃	1.4	0.8	0.1	0.1	黒耀石	
F-11	細石刃	1.7	0.95	0.4	0.5	黒耀石	
F-11	細石刃	0.9	0.5	0.1	0.1	黒耀石	
一括	細石刃	1.5	0.95	0.25	0.4	黒耀石	
一括	細石刃	1.25	0.6	0.2	0.2	黒耀石	
一括	細石刃	1	0.55	0.15	0.1	黒耀石	
一括	細石刃	1.3	0.65	0.15	0.1	黒耀石	
	一括	細石刃	2	0.95	0.3	0.3	黒耀石

第4節 繩文時代の遺構と遺物

1. 草創期の遺物 (第25図-1~3)

IV層下部の遺物包含層の中から草創期の土器が3点発見され、隆帯土器がほぼ同じ位置から、爪形文土器が少し離れた位置から検出された。残念ながら早期土器との層の違いは確認できなかつた。1~2は隆帯土器であり、k-7・J-7グリッドから出土している。粘土紐を指先で挟みながら押さえつけて三角隆帯をつくる土器（爪先圧痕がわずかに見られる）で、どちらも内面は横方向のナデ調整である。3は爪形文土器で、E-11グリッドから出土している。器面をナデ調整し、そのうえに爪形文が斜方向に施文されたと考えられる土器である。内面はナデ調整である。

2. 早期の遺構と遺物

(1) 遺構

集石遺構

杉木原遺跡では、集石遺構を42基確認している。遺構は、大きく2つのブロックに分けた形で分布している。またこれらの集石遺構は、IV層で検出された。集石遺構の分布は、遺跡の北東部と南西部に分けられる。少し標高の落ちた台地の先端部に位置している。

集石遺構は、八木澤一郎氏（註1）の分類を参考に5形態に分類した。

1類一分散型で、掘り込みと底石が共にない形態のもの。

2類一分散型で、掘り込みを持つが底石がない形態のもの。

3類一密集型で、掘り込みと底石が共にない形態のもの。

4類一密集型で、掘り込みはあるが底石はない形態のもの。

5類一密集型で、掘り込みと底石が共にある形態のもの。

それぞれの類の内訳は、1類が3基、2類が19基、3類が1基、4類が16基、5類が3基である。一番量が多いのは2類で、全体の45%を占めている。掘り込みを持つ集石遺構の埋土はIV層

を基本とした暗褐色土であり共通している。

1号集石（第5図）

F-6区のIV層で検出されている。約径2.5m×3.5mの範囲に120個程の礫を集めており（註2）、明瞭な掘りこみはない。礫の分布状況は疎の部分と密な部分に分けられる。埋土中から砂岩性の磨石が検出された。礫は比較的小さな角礫が多い。構成礫は、ほとんどが肉眼的に赤色化してろくなっている。破損度が高い。

2号集石（第6図）

F-7区のIV層下部で検出されている。約径1.0m×2mの範囲に74個程の礫を集めており（註2）、掘り込みはあったと考えられるが掘りすぎの為確認できていない。礫の密度も比較的疎らである。3基の小さな集石遺構があったと考えられる。構成礫は、ほとんど肉眼的に赤色化しており、破損度が高い。

3号集石（第6図）

E-6区のIV層下部で検出されている。約径1.5m×1.5mの範囲に157個程の礫を集めている。明瞭な掘りこみはない。礫の密度も比較的疎らである。構成礫は、ほとんど肉眼的に赤色化している。礫の破損度は高い。

4号集石（第7図）

G-10区のIV層下部で検出されている。約径1.1m×0.8mの範囲に124個程の礫をあつめている。1・2・3号集石と違い、約径1.25m×1.0m、深さ0.25mの浅い梢円形の掘りこみを持つ。埋土はIV層を基本とする暗褐色土である。礫が浮いているが礫をはずしても埋土が残っており、締まっている硬い面を床面とした。土坑の床面に配石は持たない。底部はほぼ平らとなっている。構成礫は、肉眼的に赤色化してろくなっている。破損度は高い。

5号集石（第7図）

G-10区のIV層下部で検出されている。約径0.5m×0.55mの比較的小型の集石遺構で22個ほどの礫で構成されるものである。4号集石と同様に、礫の下部に埋土が残っており硬く締まった面を床面とした。約径0.55m×0.6m、深さ0.1mのほぼ円形の浅い掘りこみをもつものである。埋土は、IV層を主体とした暗褐色土である。礫は浮いているが4号集石遺構と同様に礫の下部に埋土が残っていた。土坑の床面に配石を持たない。構成礫は、肉眼的に赤色化してろくなっている。碎片も多い。

6号集石（第7図）

C-5区のIV層下部で検出されている。約径0.90m×1.0mの比較的小型の集石遺構である。77個程の礫で構成される。また、約径1.04m×1.02m、深さ0.20mのほぼ円形の浅い掘りこみをもっている。埋土はIV層を基本とした暗褐色土である。土坑の底部に配石はみられない。構成礫は、肉眼的に赤色化している。

7号集石（第7図）

G-11区のIV層下部で検出されている。約径1.0m×0.9mの小型の集石遺構である。47個ほどの礫で構成される。また、約径0.70m×0.70m、深さ0.10mの円形の浅い掘

りこみを持っている。埋土はIV層を中心とした暗褐色土層である。土坑の床面に2個の配石をもつている。構成礫は、肉眼的に赤色化していてもろくなっている。

8号集石（第8図）

H-11区のIV層下部で検出されている。約径0.8m×0.9mの小型の集石遺構である。92個程の礫で構成される。また、約径0.86m×0.82m、深さ約0.12mのほぼ円形の浅い掘りこみを持っている。埋土はIV層を主体とした暗褐色土である。土坑の床面に配石はみられなかった。構成礫は、肉眼的に赤色化している。

9号集石（第8図）

I-8区のIV層下部で検出されている。約径1.0m×0.9mの集石遺構である135個程の礫で構成される。また、約径0.84m×0.74m、深さ0.10mのほぼ円形の浅い掘りこみをもっている。埋土はIV層を主体とした暗褐色土である。土坑の底部に明確な配石はみられなかった。構成礫は、肉眼的に赤色化している。

10号集石（第8図）

H-8区のIV層下部で検出されている。147個程の礫で、約径0.80m×0.74mの集石遺構である。また、約径0.87m×0.88m、深さ0.12mのほぼ円形の浅い掘りこみをもっている。埋土はIV層を主体とした暗褐色土である。構成礫は、肉眼的に赤色化している。

11号集石（第8図）

H-8区のIV層下部で検出されている。85個程の礫で、約径0.80m×1.0mの集石遺構である。また、明確な掘りこみはなかった。構成礫は、肉眼的に赤色化していた。

12号集石（第9図）

E-4区のIV層下部で検出されている。約径0.70m×0.70mの集石遺構である。77個程の礫で構成される。また、約径0.74m×0.60m、深さ0.40mの梢円形の浅い掘りこみを持っている。埋土は暗褐色層でIV層を主体としている。土坑の床面には明確な配石はみられなかった。構成礫は、肉眼的に赤色化している。

13号集石（第9図）

H-10区のIII層下部で検出されている。約径1.60m×1.65mの比較的大きな集石遺構である。432個程の礫で碎片が多い。掘りこみは、約径1.84m×1.80m、深さ0.72mのほぼ円形の掘り込みで本遺跡の中でも大きなもの1つである。埋土の主体はIV層の暗褐色土であるが黒色土も混在している。構成礫は、ほとんど肉眼的に赤色化していて碎片が多くなっている。土坑の床面に明確な配石はみられなかった。

14号集石（第9図）

G-11区のIV層下部で検出されている。約径0.6m×0.54mの集石遺構である。46個程の礫で構成される。また、約径0.62m×0.56m、深さ0.17mの梢円形の浅い掘りこみを持っている。埋土は暗褐色である。構成礫は、肉眼的に赤色化しており角礫と碎片が半々ぐらいである。土坑の床面には明確な配石はみられなかった。

15号集石（第10図）

D-6区のIV層下部で検出されている。約径0.92m×1.18mの集石遺構である。163個程の礫で碎片が多い。また、約径1.10m×1.15mの梢円形の浅い掘りこみをもっている。埋土はIV層を中心とした暗褐色土層である。土坑の床面に明確な配石はみられなかった。構成礫は肉眼的に赤色化して角礫より碎片が多い。

16号集石（第10図）

D-6区のIV層下部で検出されている。約径1.02m×1.06mの集石遺構である。155個程の礫で碎片が多い。また、約径0.83m×0.92m、深さ0.26mの円形の浅い掘りこみを持っている。埋土はIV層を中心とした暗褐色土層である。土坑の床面に明確な配石はみられないと。構成礫は肉眼的に赤色化しており礫の密度は高い。

17号集石（第10図）

H-9区のIV層下部で検出されている。約径0.90m×0.85mの集石遺構である。155個程の礫で小粒の角礫が多い。また、約径1.2m×1.1m、深さ0.23mの梢円形の浅い掘りこみをもっている。埋土はIV層を中心とした暗褐色土層である。土坑の床面に配石はみられなかった。構成礫は肉眼的に赤色化している。

18号集石（第10図）

I-8区のIV層下部で検出されている。約径0.76m×0.58mの集石遺構である。48個程の礫で小粒の角礫で密度は低い。また、約径1.0m×0.8mの梢円形の浅い掘りこみをもっている。土坑の床面に配石はみられなかった。構成礫は肉眼的に赤色化している。

19号集石（第11図）

C-7区のIV層下部で検出されている。約径0.90m×0.60mの集石遺構である。80個程の礫で小粒の礫で密度は低い。また、約径0.82m×0.90m、深さ0.280mの梢円形の浅い掘りこみをもっている。埋土はIV層を中心とした暗褐色土層である。土坑の床面に明確な配石はみられなかった。構成礫は肉眼的に赤色化している。

20号集石（第11図）

H-9区のIV層下部で検出されている。この集石遺構の近くで貝殻文系の土器が出土していることから、貝殻文系の土器が隆盛を極めた時期に構築されたものであろう。約径1.2m×1.0mである。112個程の礫で角礫より碎片のはうが多い。また、約径1.24m×1.32m、深さ0.40mの円形の掘りこみをもつ。埋土は、IV層を中心とした暗褐色層であるが一部黒色土が混在する。上場と下場の間に段がつくが途中できる。土坑の床面に配石はない。構成礫は肉眼的に赤色化している。

21号集石（第11図）

G-10区のIV層下部で検出されている。約径0.89m×0.90mの集石遺構である。141個程の礫で角礫が多く密度は高い。約径0.95m×0.95m、深さ0.20mの円形の浅い掘りこみである。埋土はIV層を中心とする暗褐色土である。土坑の床面に明確な配石はみられない。

22号集石（第12図）

J-8区のIV層下部で検出されている。約径0.34m×0.50mの小さな集石遺構で20個

程の礫の碎片で構成される。また、約径0.80m×0.78m、深さ0.13mのほぼ円形の浅い掘りこみをもつ。埋土は、IV層を中心とした暗褐色土層である。土坑の床面に配石はない。構成礫は、肉眼的に赤色化している。

23号集石（第12図）

J-8区のIV層下部で検出している。約径0.68m×0.68mの集石遺構である。69個程の角礫で構成されている。また、約径1.04m×1.05m、深さ0.18mの楕円形の浅い掘りこみをもつ。土坑の床面に2個体の配石がみられる。構成礫は、肉眼的に赤色化している。

24号集石（第12図）

I-7区のIV層下部で検出している。約径0.60m×0.50mの集石遺構である。95個程の角礫と碎片で構成される。約径1.240m×1.250m、深さ0.50mの本遺跡の中では、掘りこみがしっかりとしたものひとつである。土坑の床面に配石はない。構成礫は、肉眼的に赤色化している。

25号集石（第12図）

I-7区のIV層下部で検出している。約径0.5m×0.45mの集石遺構である。63個程の角礫で構成される。約径0.6m×0.6m、深さ0.14mの浅い掘りこみである。土坑の床面に配石はない。構成礫は、肉眼的に赤色化している。

26号集石（第13図）

I-8区のIV層下部で検出している。約径1.59m×1.10mの集石遺構である。301個程の円礫と角礫で構成される。約径1.34m×2.15m、深さ0.20mの浅い楕円形状の掘りこみをもつ。土坑の床面に配石はない。構成礫は、肉眼的に赤色化している。

27号集石（第13図）

I-7区のIV層下部で検出されている。約径1.4m×1.34mの集石遺構である。319個程の礫で構成される。約径1.16m×1.08m、深さ0.18mの楕円形の掘りこみをもっている。土坑の床面に配石はない。構成礫は、赤色化している。

28号集石（第14図）

J-10区のIV層下部で検出されている。約径0.84m×0.74mの集石遺構である。54個程の角礫で構成される。約径0.88m×0.92m、深さ0.14mの浅い円形の掘りこみをもっている。埋土は、IV層を中心とした暗褐色土層である。土坑の床面に配石はない。構成礫は、肉眼的に赤色化している。

29号集石（第14図）

H-9区のIV層下部で検出されている。約径2.05m×2.20mの集石遺構である。631個程の角礫や円礫で構成される。約径2.58m×2.22m、深さ0.20mの不整形の浅い掘りこみをもっている。埋土はIV層で土坑の床面に配石はない。構成礫は、肉眼的に赤色化している。

30号集石（第15図）

D-5区のIV層下部で検出されている。この集石遺構の近くから塞ノ神式土器がまとまって出土していることから、この集石遺構は塞ノ神式土器の時期に構築されたものと考えられる。約径1.

2.8m×1.32mの集石遺構である。146個程の角礫や円礫で構成される。また、約径1.36m×1.30m、深さ0.60mのすり鉢状の掘りこみをもっている。土坑の底部に配石はない。構成礫は、肉眼的に赤色化している。

3.1号集石（第16図）

H-8区のIV層下部で検出されている。約径0.76m×1.10mの集石遺構である。55個程の礫で構成される。約径0.73m×0.66m、深さ0.20mの円形の浅い掘りこみをもっている。土坑の底部に配石が1個確認された。構成礫は、肉眼的に赤色化している。

3.2号集石（第15図）

I-8区のIV層下部で検出されている。約径0.90m×0.70mの集石遺構である。78個程の礫で構成される。約径0.84m×0.48m、深さ0.04mの楕円形の極浅い掘りこみをもっている。土坑の床面に配石はない。構成礫は、肉眼的に赤色化している。

3.3号集石（第15図）

F-10区のIV層下部で検出されている。約径0.60m×0.70mの集石遺構である。52個程の角礫で構成される。約径0.60m×0.60m、深さ0.25mではば円形に近い浅い掘り込みを持つ。埋土はIV層を主とした暗褐色層である。土坑の床面に配石はない。構成礫は、肉眼的に赤色化している。

3.4号集石（第16図）

D-4区のIV層下部で検出されている。約径0.78m×0.78mの集石遺構である。73個程の礫で構成される。約径0.86m×0.86m、深さ0.20mではば円形の浅い掘りこみになっている。埋土はIV層を主とした暗褐色土層である。土坑の床面は、配石はない。構成礫は、肉眼的に赤色化している。

3.5号集石（第16図）

B-4区のIV層下部で検出されている。約径0.5m×0.54mの集石遺構である。31個程の礫で構成される。約径0.9m×0.8m、深さ0.16mではば円形の浅い掘りこみをもつ。埋土はIV層を主とした暗褐色土層である。土坑の床面は配石はない。構成礫は、肉眼的に赤色化している。

3.6号集石（第16図）

F-6区のIV層下部で検出されている。約径0.44m×0.60mの集石遺構である。43個程の礫の碎片で構成される。約径0.81m×0.81m、深さ0.16mではば円形の浅い掘りこみをもつ。埋土はIV層を主とした暗褐色土層である。土坑の床面は配石を持たない。構成礫は、肉眼的に赤色化している。

3.7号集石（第17図）

E-5区のIV層下部で検出している。約径0.7m×0.7mの集石遺構である。59個程の礫の碎片で構成される。約径0.96m×0.90m、深さ0.16mではば円形の浅い掘りこみをもつ。埋土はIV層を中心とした暗褐色土層である。土坑の床面は配石を持たない。構成礫は、肉眼的に赤色化している。



3 8号集石（第17図）

C-4区のIV層下部で検出している。約径0.96m×0.90mの集石遺構である。82個程の礫の碎片で構成される。また、約径0.94m×0.98m、深さ0.20mではば円形の浅い掘りこみをもつ。埋土はIV層を主とした暗褐色土層である。土坑の床面は、配石をもたない。構成礫は、ほとんど肉眼的に赤色化している。

3 9号集石（第17図）

E-8区のIV層下部で検出している。約径0.46m×0.50mの集石遺構である。39個程の礫の碎片で構成される。約径0.48m×0.60m、深さ0.08mではば円形の掘り込みをもつ。埋土はIV層を主とした暗褐色土層である。土坑の床面は配石をもたない。構成礫はほとんど肉眼的に赤色化している。

4 0号集石（第17図）

D-7区のIV層下部で検出している。約径0.7m×0.8mの集石遺構である。34個程の礫の碎片で構成される。約径0.82m×0.82m、深さ0.12mではほとんど円形の浅い掘り込みである。埋土はIV層を主とした暗褐色土層である。土坑の床面は配石をもたない。構成礫のほとんどは赤色化している。

4 1号集石（第18図）

C-3区のIV層下部で検出している。約径0.20m×0.20mの集石遺構であるが上の部分は、跳んでしまったと思われる。約径0.44m×0.46m、深さ0.20mのはほとんど円形の掘りこみをもつ。埋土はIV層を主体とした暗褐色土層である。土坑の床面に配石はみられなかった。構成礫のほとんどは肉眼的に赤色化している。

4 2号集石（第18図）

B-5区のIV層下部で検出している。約径0.88m×0.70mの集石遺構である。83個程の礫の碎片で構成される。また、約径0.90m×0.86m、深さ0.22mのはほとんど円形の掘りこみをもつものである。埋土はIV層を主体とした暗褐色土層である。土坑の床面には配石はみられなかった。構成礫のほとんどは肉眼的に赤色化している。

註1 八木澤一郎氏の「南九州の集石遺構」『南九州縄文通信』N0.8を参考にさせていただいた。

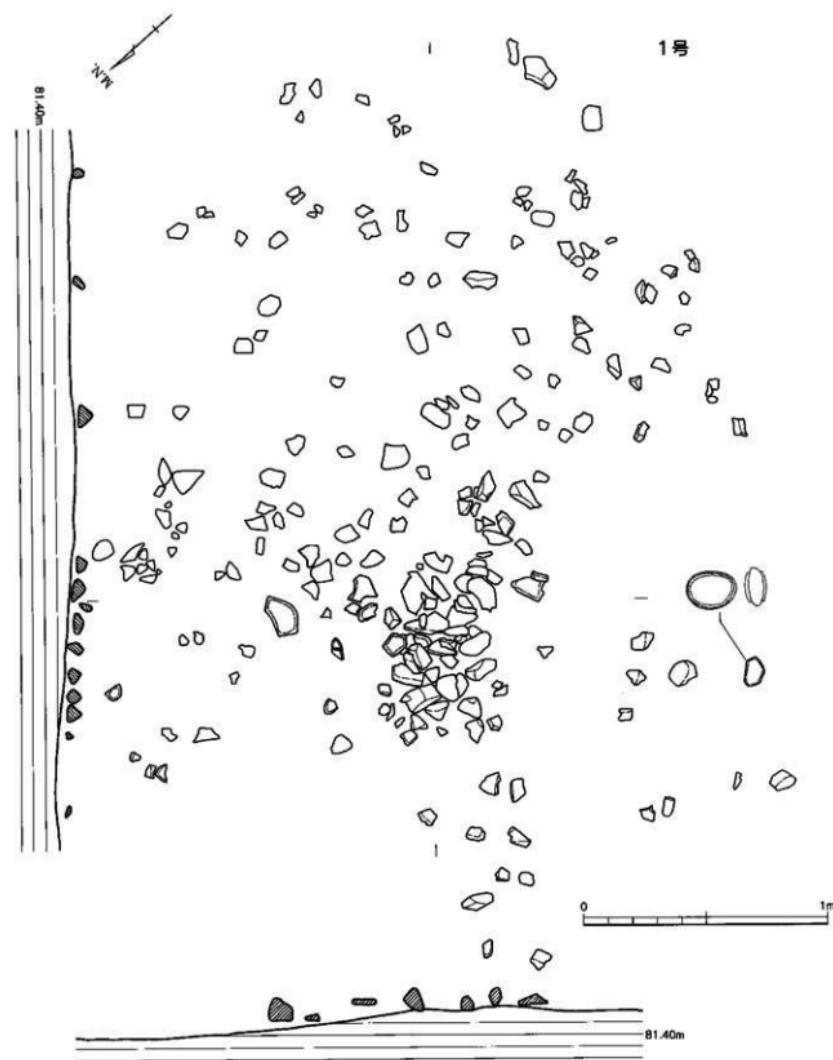
註2 磯の数は、実測した礫を数えたものである。

土壤

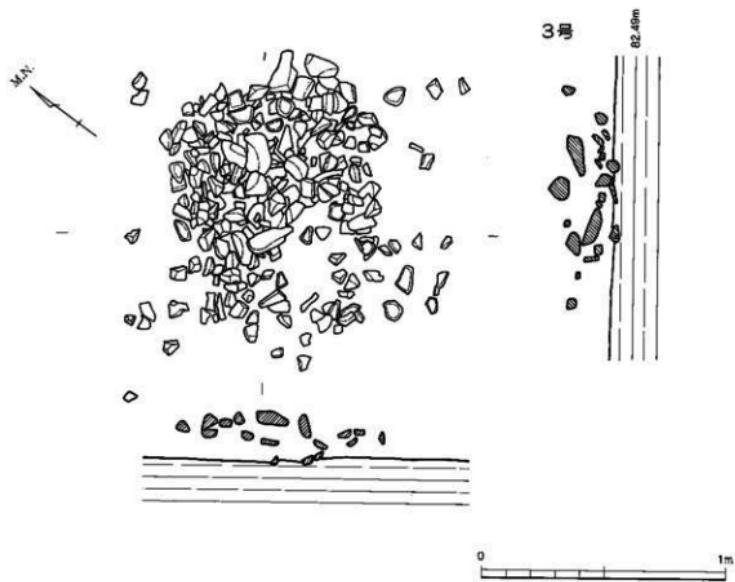
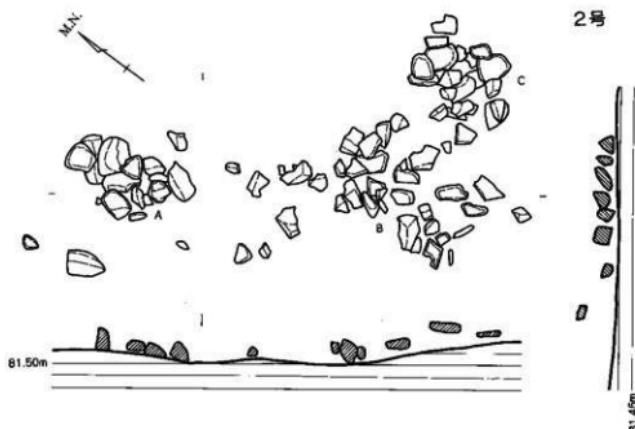
杉木原遺跡で土壤は全部で4基検出された。その分布は遺跡の北東部に位置する。平面形は梢円形・不整形のものがあり、その中でも小穴をもつものと持たないものがある。これらの土壤からは遺物が出土していないために、IV層上面から掘り込まれている遺構について縄文時代早期に属するものとして取り扱った。

1号土壤（第19図）

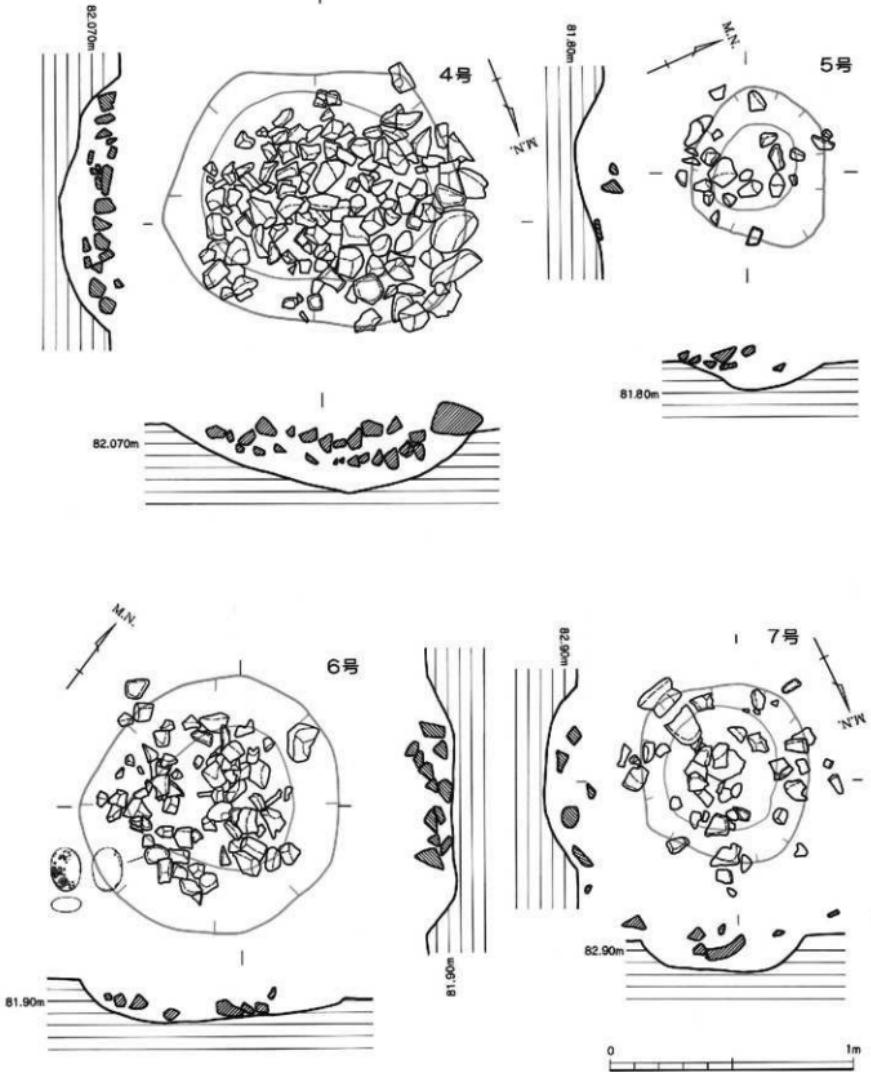
B-2区に、位置し3号土壤に隣接する。プランは不整形プランを呈する。規模は1.0m×0.98m、検出面の深さは1.05mを計る。埋土は黒色土混じりの暗褐色土である。第Ⅲ層の黄色軽石混じりの黄褐色砂質土まで掘り込んでいる。



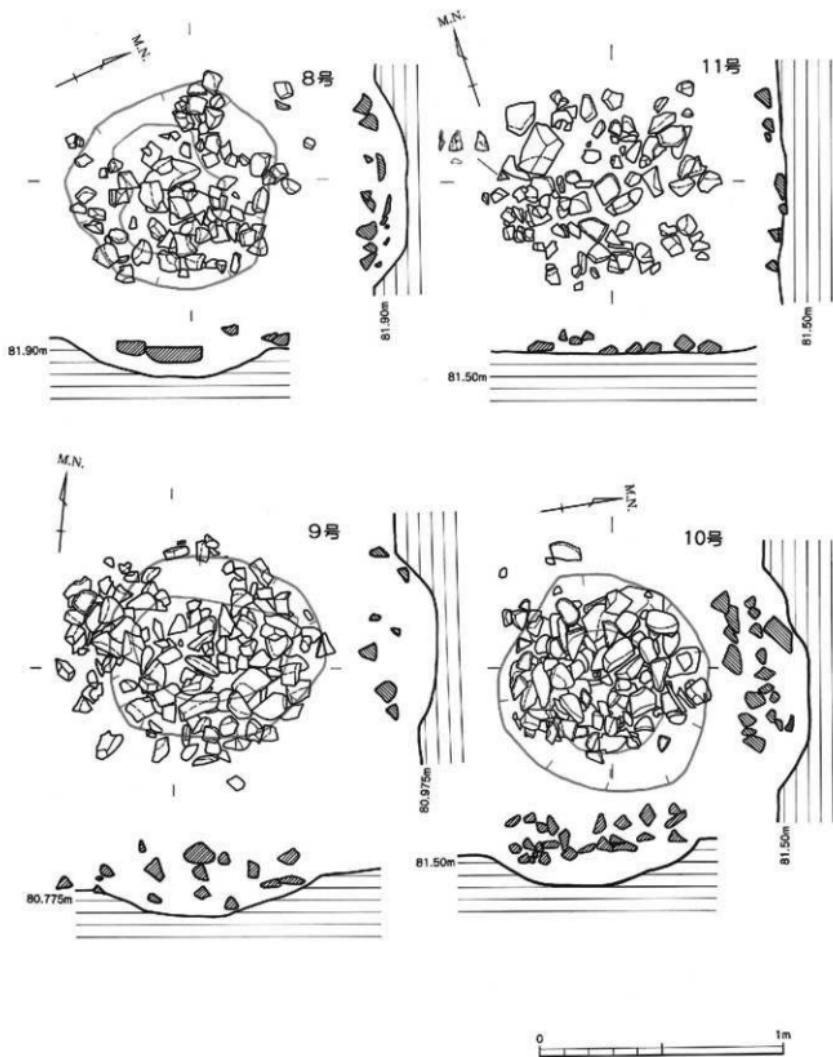
第5図 杉木原遺跡 集石遺構測量図(1) (1/20)



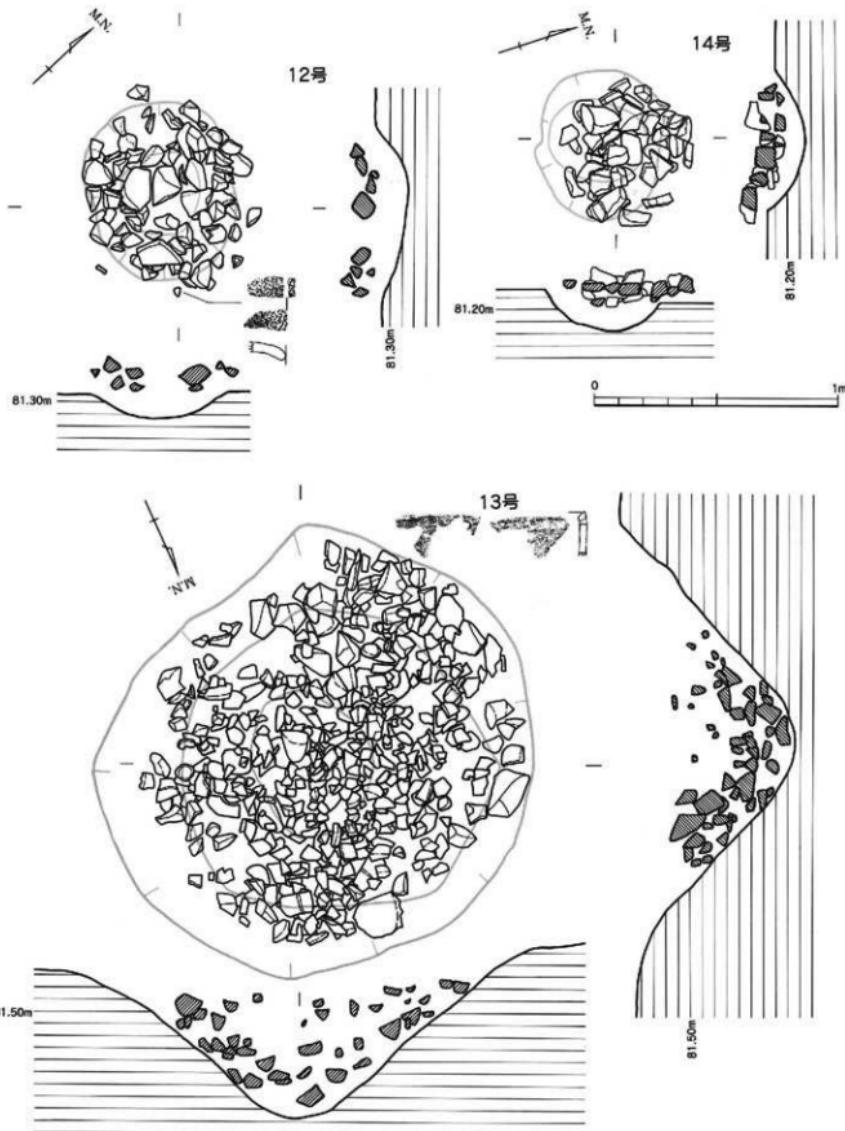
第6図 杉木原遺跡 石遺構実測図(2) (1/20)



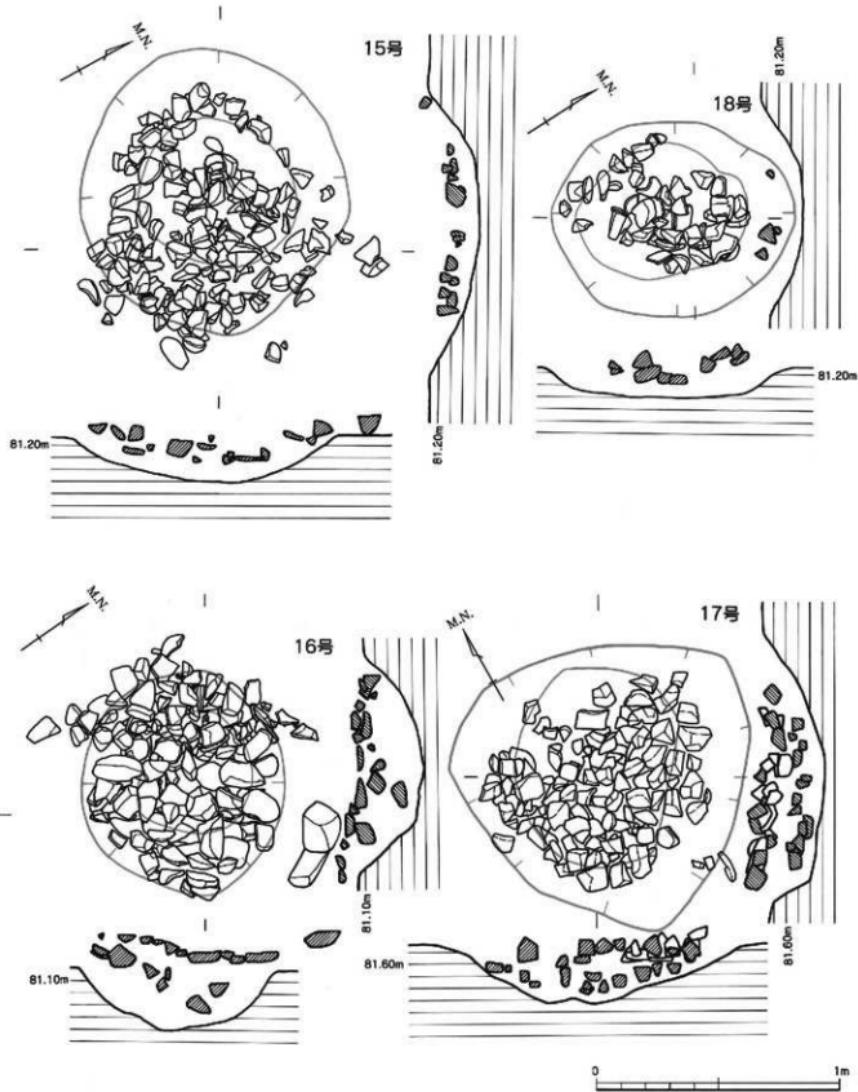
第7図 杉木原遺跡 磚石遺構実測図(3) (1/20)



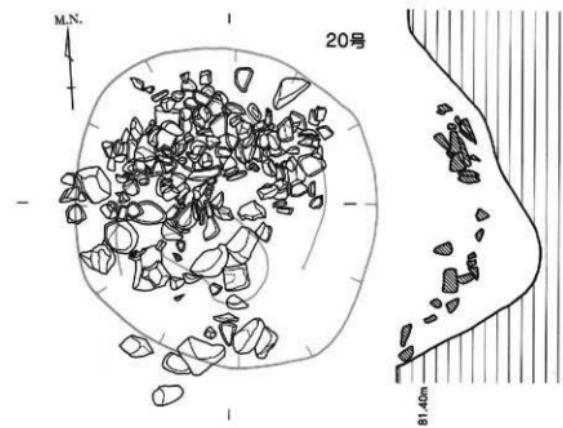
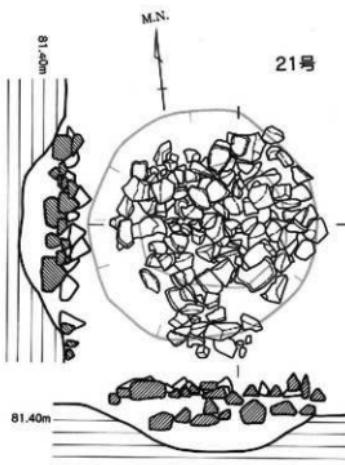
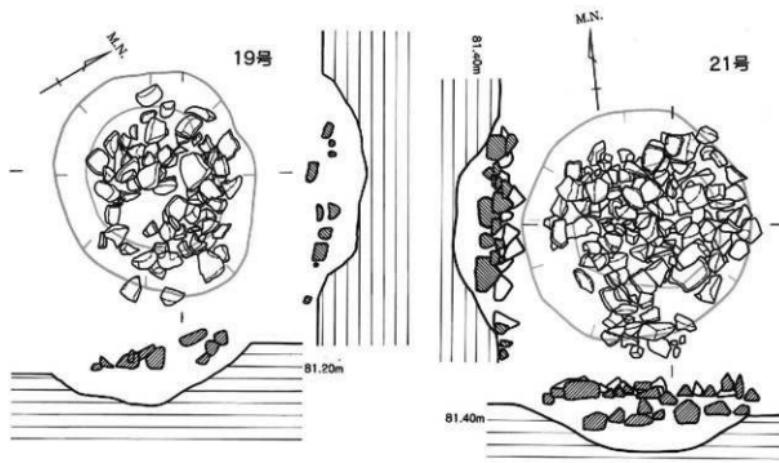
第8図 杉木原遺跡 集石造構実測図(4)(1/20)



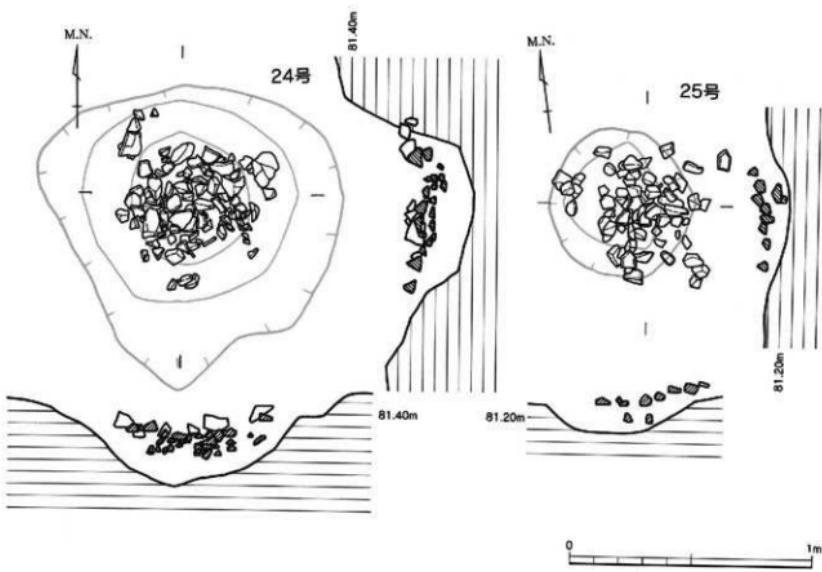
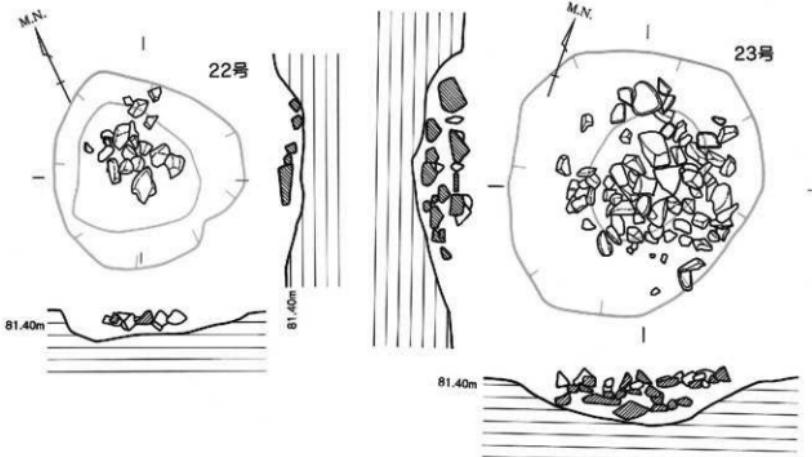
第9図 杉木原遺跡 焼石遺構実測図(5) (1/20)



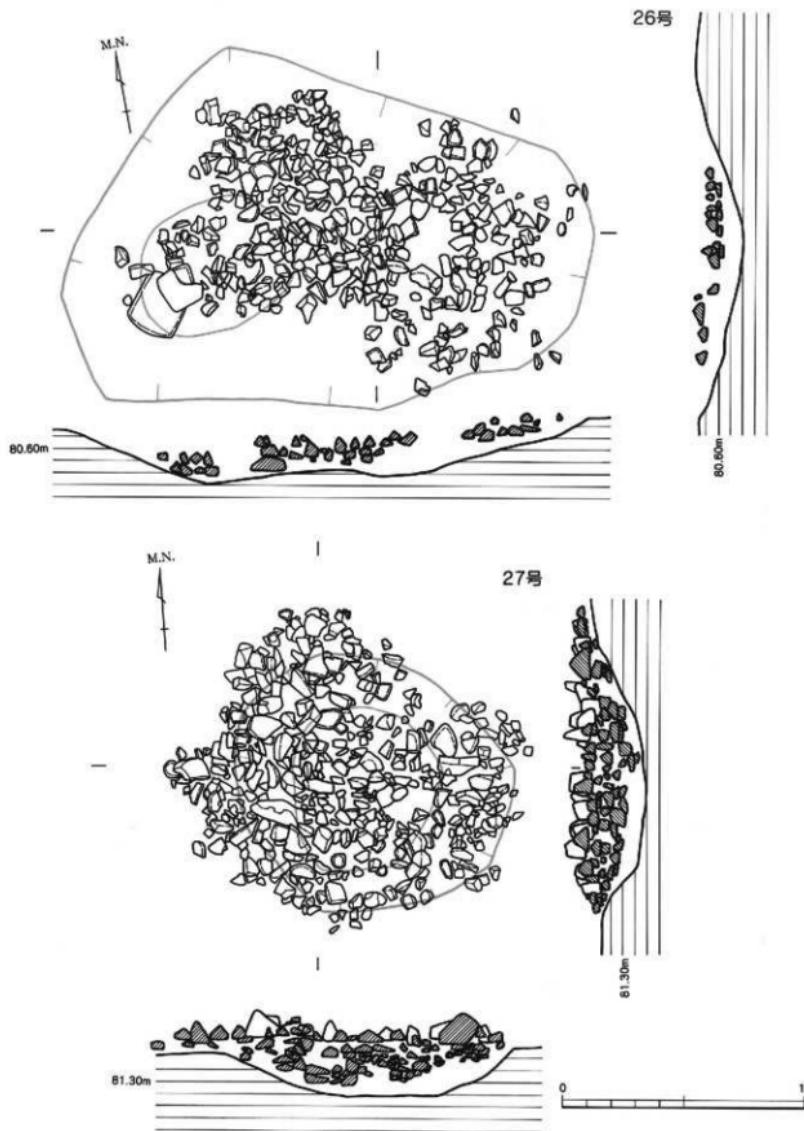
第10図 杉木原遺跡 集石遺構実測図(6) (1/20)



第11図 杉木原遺跡 集石遺構実測図(7)(1/20)



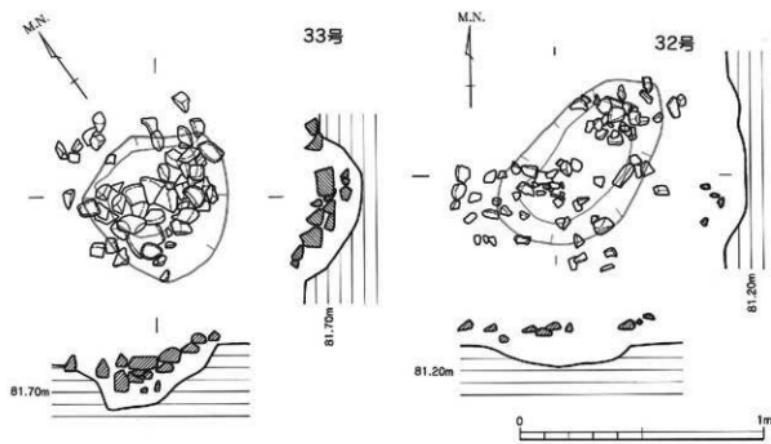
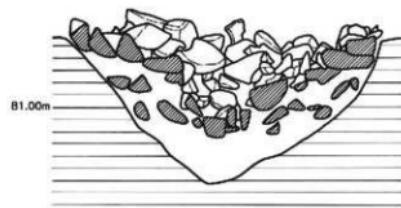
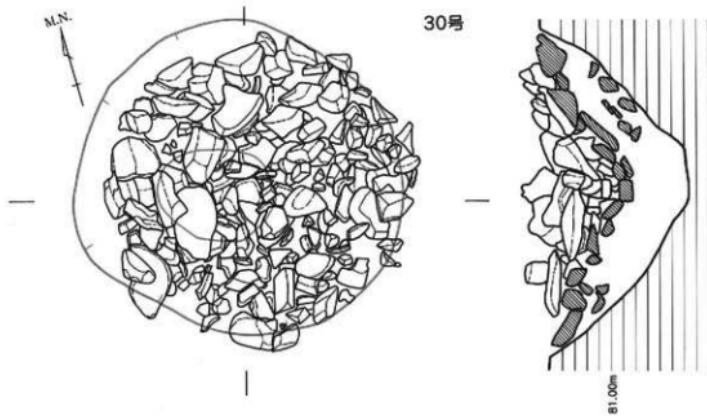
第12図 杉木原遭跡 焦石遭構実測図(8) (1/20)



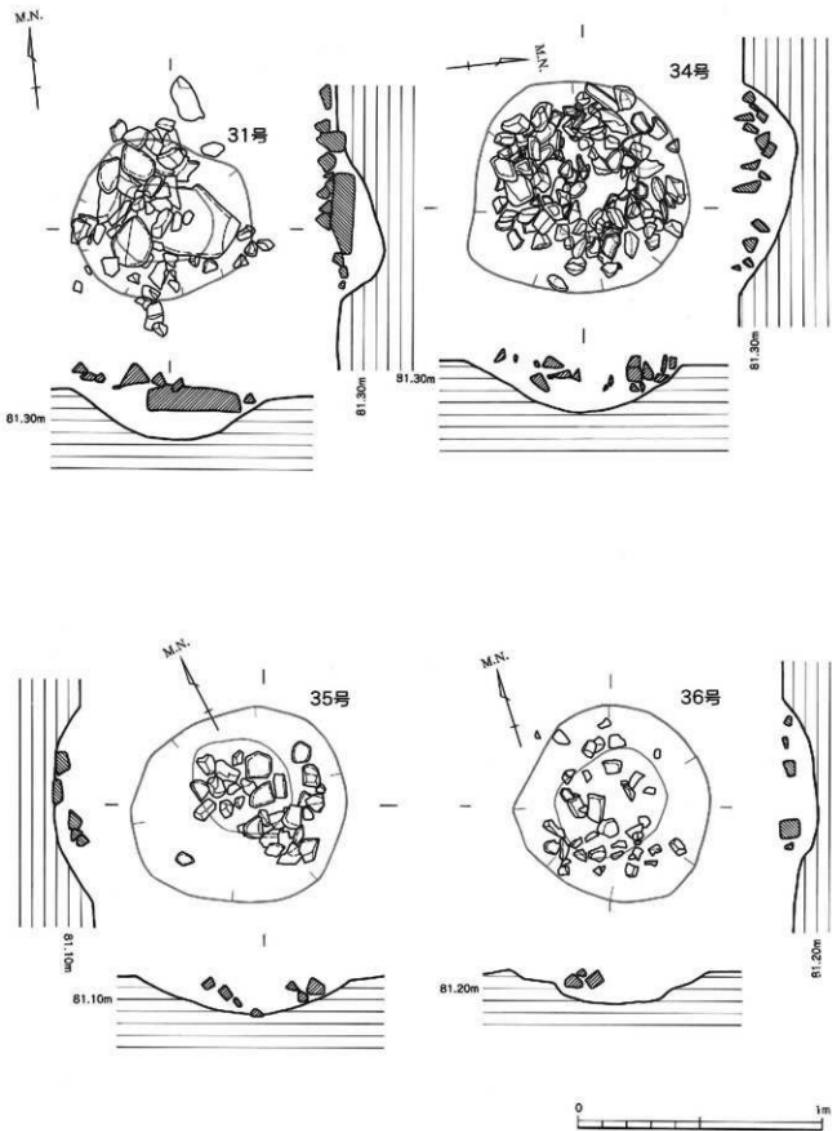
第13図 杉木原遺跡 集石構造実測図(9) (1/20)



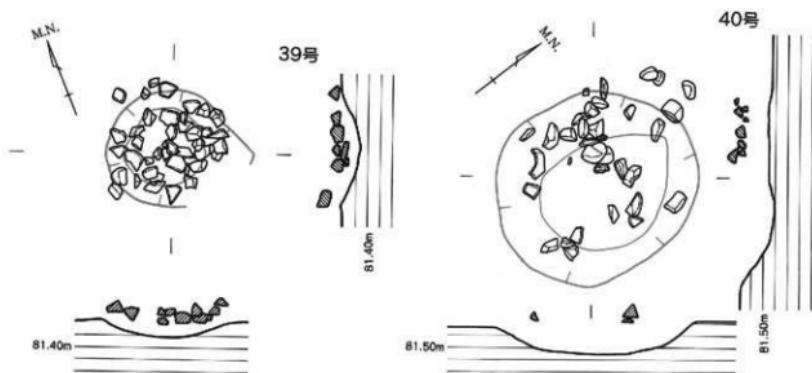
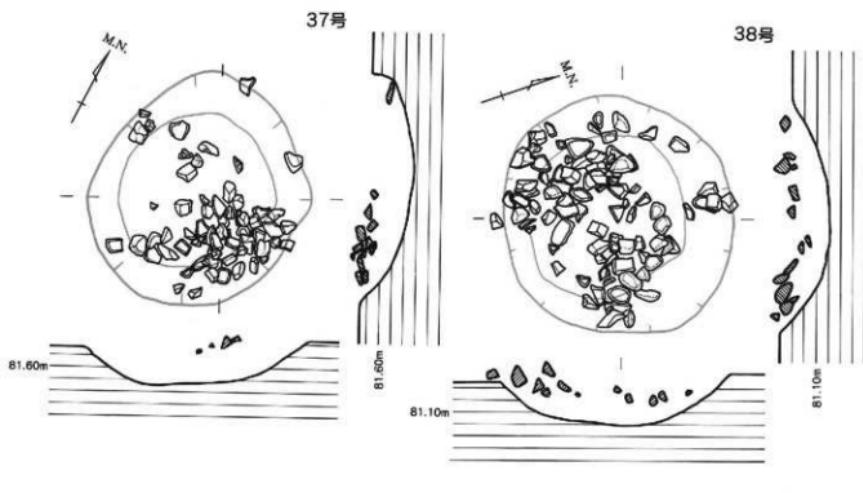
第14図 杉木原遺跡 石遺構実測図(10) (1/20)



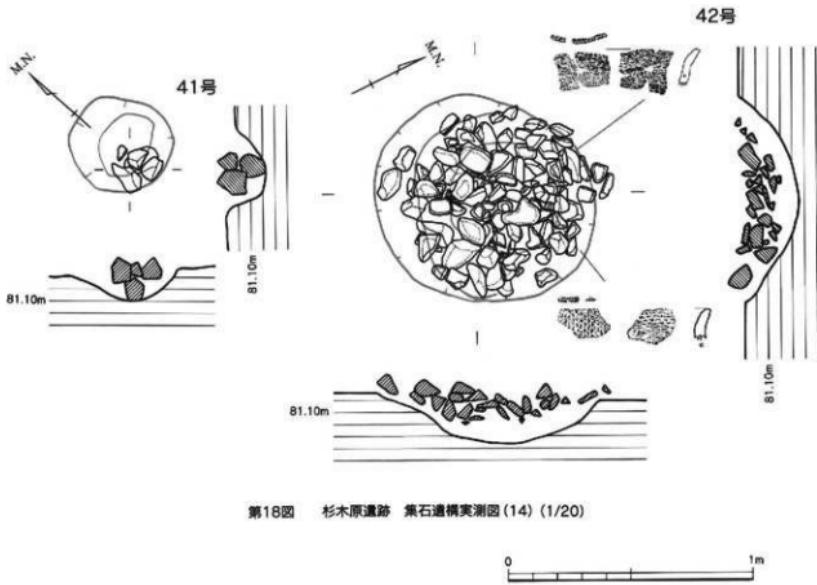
第15図 杉木原遺跡 焼石遺構実測図(11) (1/20)



第16図 杉木原遺跡 集石遺構実測図(12)(1/20)



第17図 杉木原遺跡 石道構実測図(13) (1/20)



第18図 杉木原遺跡 集石遺構実測図(14)(1/20)

2号土壤 (第20図)

E-2区に位置する。プランは不整形プランを呈する。規模は、1. 8m×1. 7m、検出面からの深さは0. 7mを測る。埋土はIV層を主体としている暗褐色土層である。V層の小林軽石層まで掘り込んでいた。

3号土壤 (第19図)

B-2区に位置する。1号土壤に隣接する。プランは不整形プランを呈する。規模は1. 0m×0. 92m、検出面からの深さは0. 34mを測る。埋土は、暗褐色土層である。IV層の褐色層まで掘り込んでいた。

4号土壤 (第20図)

G-9区に位置する。プランは、楕円形プランを呈する。規模は1. 3m×0. 6m、検出面からの深さは1. 34mである。この土壤は、埋土が自然堆積で床面に逆茂木痕を持つことから陥穴遺構と考えられる。

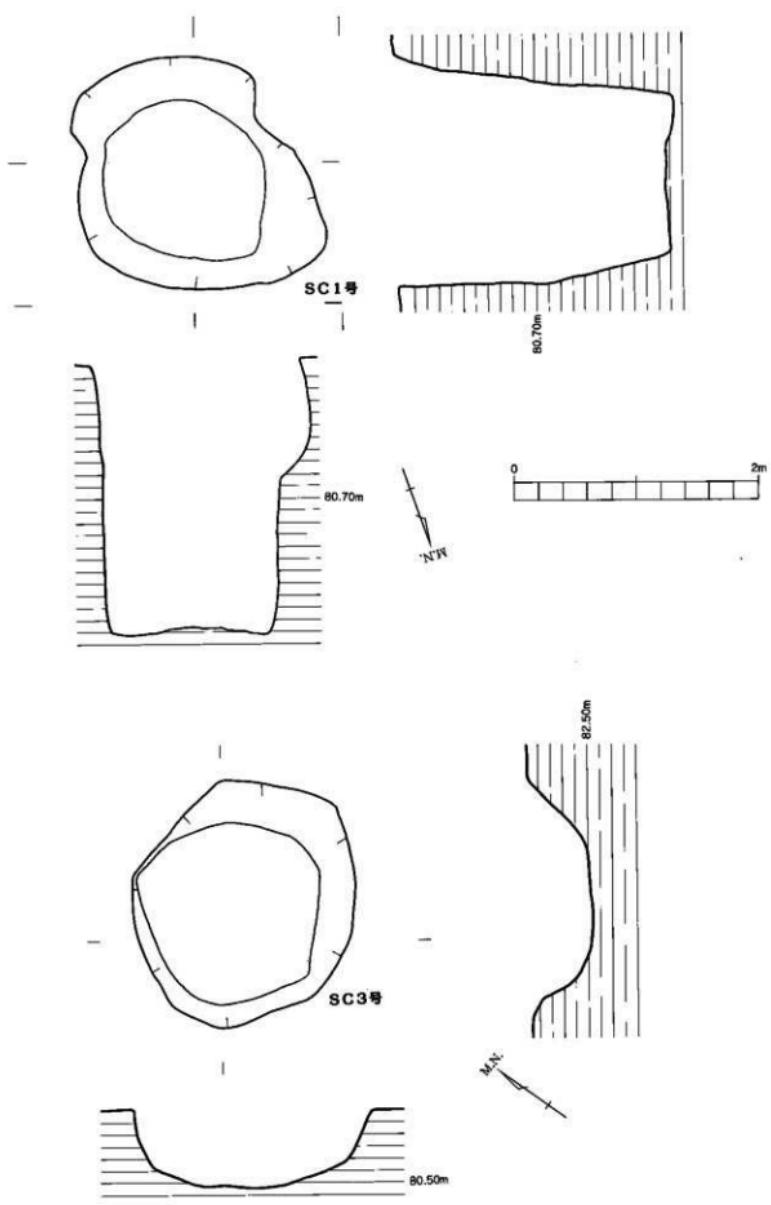
(2) 遺物

土器

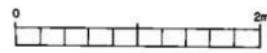
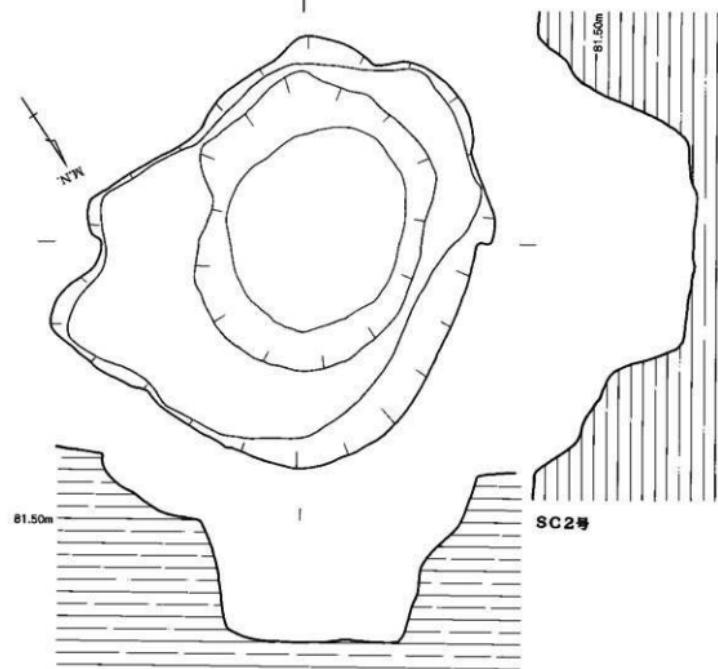
縄文時代の遺構・遺物は、II層（アカホヤ火山灰）より下位のIII層・IV層から出土している。本遺跡の早期土器は、形態上の特徴を中心に文様を加味しながらI類～X類に類別を試みた。そのうち、今回の調査においては、Ⅴ類（押型文土器）に類別したものが45%を占め、本遺跡の特徴を示す土器といえる。以下、類別に説明していく。

表 2 杉木原遺跡 集石遺構計測表

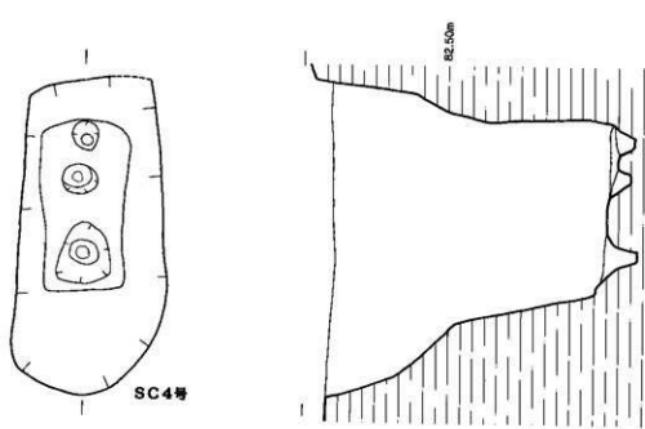
番号	検出位置	碟の範囲	土坑の大きさ	土坑の深さ	配石の有無	備考
1号集石	F-6	2.5m×3.5m	無し	無し	無し	1類
2号集石	F-7	1.0m×2m	無し	無し	無し	1類
3号集石	E-6	1.5m×1.5m	無し	無し	無し	3類
4号集石	G-10	1.1m×0.8m	1.25m×1.0m	0.25m	無し	4類
5号集石	G-10	0.5m×0.55m	0.55m×0.6m	0.1m	無し	2類
6号集石	C-5	0.90m×1.0m	1.04m×1.02m	0.2m	無し	2類
7号集石	G-11	1.0m×0.9m	0.70m×0.70m	0.1m	2個	5類
8号集石	H-11	0.8m×0.9m	0.86m×0.82m	0.12m	無し	2類
9号集石	I-8	1.0m×0.9m	0.84m×0.74m	0.10m	無し	4類
10号集石	H-8	0.8m×0.74m	0.87m×0.88m	0.12m	無し	4類
11号集石	H-8	0.80m×1.0m	無し	無し	無し	1類
12号集石	E-4	0.70m×0.70m	0.74m×0.60m	0.40m	無し	4類
13号集石	H-10	1.60m×1.65m	1.84m×1.80m	0.72m	無し	4類
14号集石	G-11	0.6m×0.54m	0.62m×0.56m	0.17m	無し	2類
15号集石	D-6	0.92m×1.18m	1.10m×1.15m	0.26m	無し	2類
16号集石	D-6	1.02m×1.06m	0.83m×0.92m	0.26m	無し	4類
17号集石	H-9	0.90m×0.85m	1.2m×1.1m	0.23m	無し	4類
18号集石	I-8	0.76m×0.58m	1.0m×0.8m	0.20m	無し	2類
19号集石	C-7	0.90m×0.60m	0.82m×0.90m	0.280m	無し	2類
20号集石	H-9	1.2m×1.0m	1.24m×1.32m	0.40m	無し	2類
21号集石	G-10	0.89×0.90m	0.95m×0.95m	0.20m	無し	4類
22号集石	J-8	0.34m×0.50m	0.80m×0.78m	0.13m	無し	2類
23号集石	J-8	0.68m×0.68m	1.04m×1.05m	0.18m	2個	5類
24号集石	I-7	0.60m×0.50m	1.240m×1.250m	0.50m	無し	4類
25号集石	I-7	0.5m×0.45m	0.6m×0.6m	0.14m	無し	2類
26号集石	I-8	1.59m×1.10m	1.34m×2.15m	0.20m	無し	4類
27号集石	I-7	1.4m×1.34m	1.16m×1.08m	0.18m	無し	4類
28号集石	J-10	0.84m×0.74m	0.88m×0.92m	0.14m	無し	4類
29号集石	H-9	2.05m×2.20m	2.58m×2.22m	0.20m	無し	4類
30号集石	D-5	1.28m×1.32m	1.36m×1.30m	0.60m	無し	4類
31号集石	H-8	0.76m×1.10m	0.73m×0.66m	0.20m	1個	5類
32号集石	I-8	0.90m×0.70m	0.84m×0.48m	0.04m	無し	2類
33号集石	F-10	0.60m×0.70m	0.60m×0.60m	0.256m	無し	2類
34号集石	D-4	0.78m×0.78m	0.86m×0.86m	0.20m	無し	4類
35号集石	B-4	0.5m×0.54m	0.9m×0.8m	0.16m	無し	2類
36号集石	F-6	0.44m×0.60m	0.81m×0.81m	0.16m	無し	2類
37号集石	E-5	0.7m×0.7m	0.96m×0.90m	0.16m	無し	2類
38号集石	C-4	0.96m×0.90m	0.94m×0.98m	0.20m	無し	2類
39号集石	E-8	0.46m×0.50m	0.48m×0.60m	0.08m	無し	2類
40号集石	D-7	0.7m×0.8m	0.82m×0.82m	0.12m	無し	2類
41号集石	C-3	0.20m×0.20m	0.44m×0.46m	0.20m	無し	2類
42号集石	B-5	0.88m×0.70m	0.90m×0.86m	0.22m	無し	4類



第19図 杉木原遺跡 土壙1号・3号実測図 (1/20)



M.N.



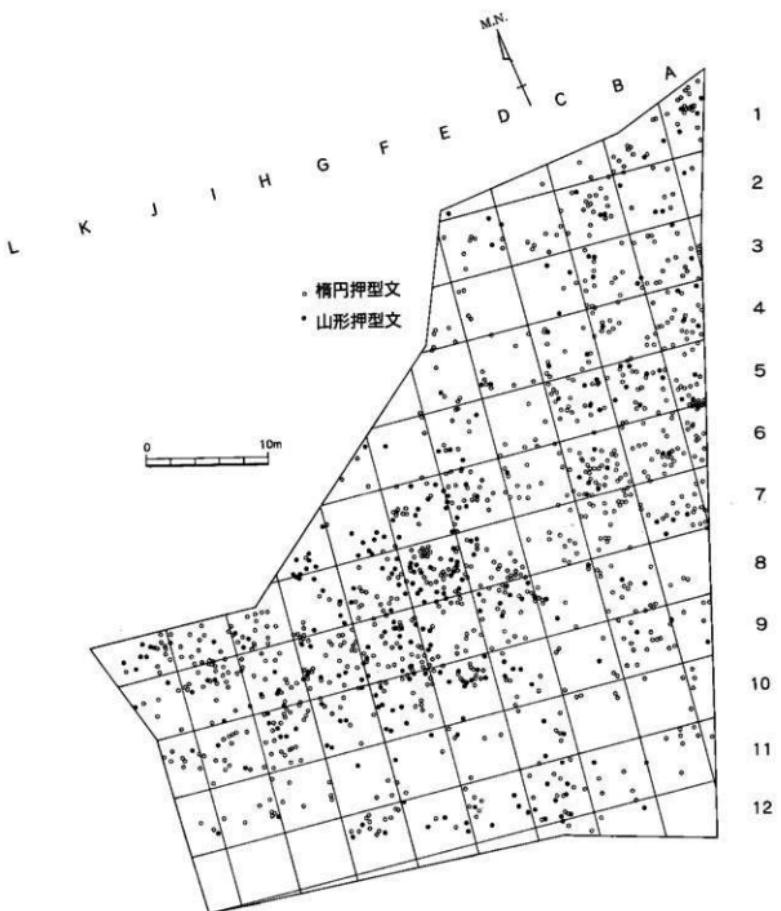
第20圖 杉木原遺跡 土壙2号・4号実測図 (1/20)



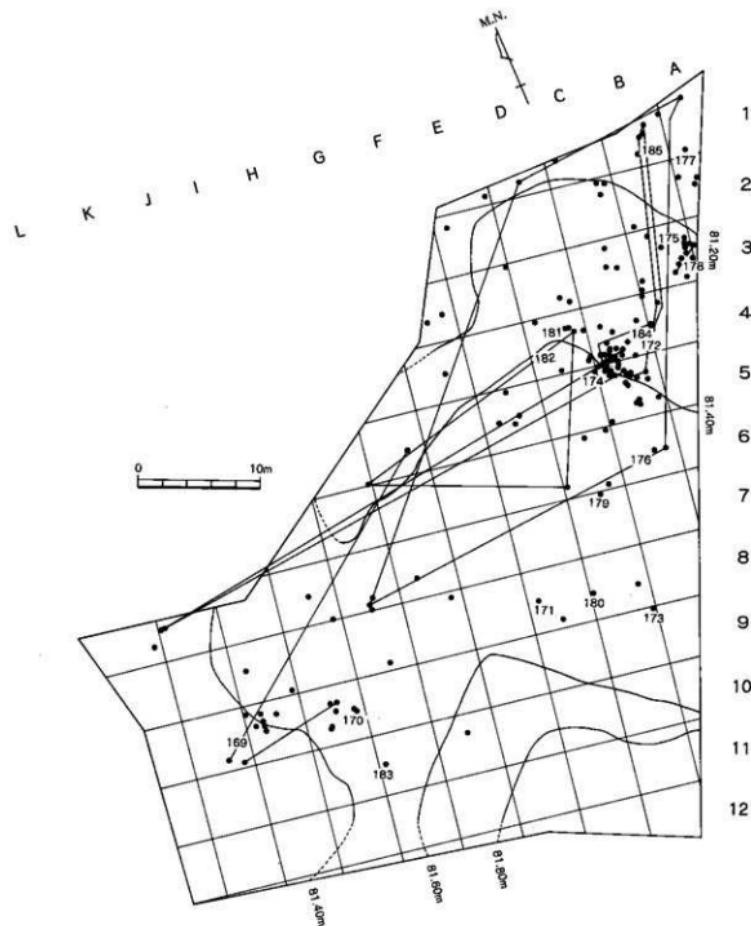
第21図 杉木原遺跡 I類・II類・III類土器出土分布図 (1/400)



第22図 杉木原遺跡 IV類・V類・VI類・Ⅷ類土器出土分布図 (1/400)



第23図 杉木原遺跡 押型文土器出土分布図 (1/400)



第24図 杉木原遺跡 塚ノ神式土器出土分布図 (1/400)

I類（第26図-1～6）

器形は円筒形を呈し、口唇部の外面端部に、貝殻復縁、棒状・ヘラ状工具を斜めに押したような三角形の断面を呈する押圧の刻みがみられ、その結果小波状になるという共通した特徴がある土器。口縁外面端部に、貝殻腹縁やヘラ状工具による斜方向や横方向の刺突文がある。胴部は、ナデ、小口状条痕文（細い条痕文）、貝殻条痕文がみられるが、条痕の薄れた細いものが多い。1は口唇部に棒状工具を斜めに押したような刻みがあり口縁内側に段があり、口縁外面端部にヘラ状工具による横方向のふぞろいの刺突文が2列施されている。2は口縁外面端部に斜めに貝殻腹縁刺突文が施され、その下位をナデ調整することで施文部との境に緩やかな段差を作り出している。3・5は口縁部内側に段があり、口縁外面端部に横方向の貝殻腹縁刺突文が3列施され、その下位をナデ調整することで施文部との境に緩やかな段差を作り出している。3には穿孔がある。4は口唇部に段がなく斜方向に規則的な刻みがあり、口縁外面端部に斜方向の連続刺突文が施されている。その下位に一条の細い沈線文がありその下位は浅い貝殻条痕文である。内面は、横方向の貝殻条痕文の後に横ナデが施してある。6は口縁部内側に段があり、口縁外面端部に縦方向の貝殻腹縁刺突文、その下位に横方向の貝殻腹縁刺突文が1列施文されている。この類の分布に特異性はない。

II類（第26図-7～16・第27図-17～21）

貝殻条痕文・条痕文をもつ土器。器形は円筒形を呈し、口唇部・内面は丁寧なナデまたはミガキ調整である。文様は、口縁部外面に集約する。貝殻及びヘラ状工具で連続刻文を一列巡らす。胴部は斜方向の条痕文である。7～12は口縁外面端部に斜方向の貝殻腹縁刺突文が施され、7は口唇部・内面とも横方向の磨きがなされている。13は口縁外面端部にヘラ状工具による二段の刺突文がある。口唇部は舌状にナデ調整されている。14～16は斜方向の条痕文を施文後に口縁端部に斜方向の刺突文がある。16には穿孔がある。17～21は同類の胴部である。この類の分布に特異性はない。

III類（第27図-22～28）

器形は円筒形を呈し、口縁部は直行している。口縁部外面上端に横方向の貝殻刺突文を巡らし下位に縦方向の貝殻刺突文を施すもの。22・23は口縁部文様に楔形突帯のあるものである。どちらとも、口唇部にヘラ状工具を押圧した浅い連続刻みがある。22は口縁部外面上端を横ナデしたあと貝殻腹縁刺突文を二列巡らし、その下位に楔形突帯を施しその間に縦方向の貝殻腹縁刺突文があり、下位に横方向の条痕文を巡らしている。23は口縁部外面上端を横ナデしたあと貝殻腹縁刺突文を三列巡らし、その下位に楔形突帯を施しそのまわりに櫛歯状工具による刺突文があり、楔形突帯間に横方向の貝殻条痕文・縦方向の貝殻腹縁刺突文が施してある。24は口唇部は横ナデで口縁端部が肥厚している。口縁外面端部に横方向の貝殻腹縁刺突文が数条、雜に巡らしてある。その下位に縦方向の貝殻腹縁刺突文が施されている。25・26は底部付近、27・28は胴部である。

IV類（第27図-29～30）（第28図-31～38）

器形は円筒形で、口縁部は内湾し器壁も上部にかけて厚くなっている。文様は横方向や斜め方向の貝殻腹縁刺突文が巡らされている。29・30は口縁上部から胴部にかけて目の広い貝殻腹縁刺突文が丁寧に横方向に巡らされている。31は目の狭い貝殻腹縁刺突文が口縁外面上部に横方向に

巡らされ、その下位に斜方向に施文されている。内面には工具か指頭による成形痕がある。32は横方向に貝殻腹縁刺突文が粗雑に施文されている。33は成形も丁寧であり、口縁外面上部から胴部にかけて横方向の貝殻腹縁刺突文が丁寧に巡らされている。34～38は同類の胴部と思われる。

v類（第29図-39～46）

器形は円筒形で、口縁部は内湾するか直行である。口縁部が肥厚化する特徴をもつ。ヘラ描きによる綾杉文が特徴で、沈線文や貝殻腹縁刺突文の組み合わせもみられる。39は口縁部が内湾し口唇部は外傾する。口縁外面上部に貝殻腹縁刺突文が4列巡らされその下位に短沈線文が見られる。43と同タイプの土器と考えられ、貝殻腹縁刺突文と縱方向の沈線文を交互に施文していると思われる。40は口縁部が内湾し、口唇部が内傾している。口縁外面上部から横方向の貝殻腹縁刺突文とヘラ描きの羽状文を交互に施文している。内面はていねいな横方向のヘラナデである。41は口縁部が直行し、口縁外面には綾杉文が施文されている。42～46は同類の胴部である。

VI類（第29図-47～57）（第30図-58～61）

器形は円筒形で、口縁部は内湾か直行である。口唇部は平縁を呈し内傾しているのが特徴である。底部は51のように平底を呈し、胴部に移行するにしたがってふくらみをもつものが多い。文様は櫛齒状施文具で沈線を描くものが多い。47は、口縁部が内湾し、口唇部が内傾するVI類土器の基本的器形である。3条の幅1cm程度の櫛齒状施文具で縱方向に沈線を描き胴部は横方向の沈線も見られる。施文に規則性はない。穿孔がある。49も47と同じ施文方法で5条の櫛状施文具を使用している。8号集石から出土している。48・50は同一個体である。口縁部が直行し肥厚している。文様は口縁部から胴部にかけて綾の沈線文を描き、次に横の沈線文を描いている。52は口縁部が内湾し、口唇部は内傾している。器壁も厚く口唇部は丁寧な横ナデである。口縁外部に櫛齒状工具による横方向の刺突文が巡っている。53・54は器形の特徴からこの類に入れた。53は無文土器で内面に工具痕あり。54は斜方向の繩文が施文され口唇部の内外端部を台形状にナデで仕上げている。55は貝殻腹縁による流水状の条痕文が施文されている。穿孔がある。13号集石から出土している。56は半裁竹管の浅い平行曲線文が施されている。57～61は同類の胴部である。

VII類（第30図-62～67）

器形は円筒形であるが、この類の口縁部は出土しなかった。器面全体に貝殻や櫛齒状工具で縦・横方向の刺突文や綾杉文、羽状文などを施文する。66は底部付近の外径が12.8cmのバケツ状の円筒形土器である。外径20mm、穴の中径5mm、内径7mmの穿孔がある。

VIII類（押型文土器）

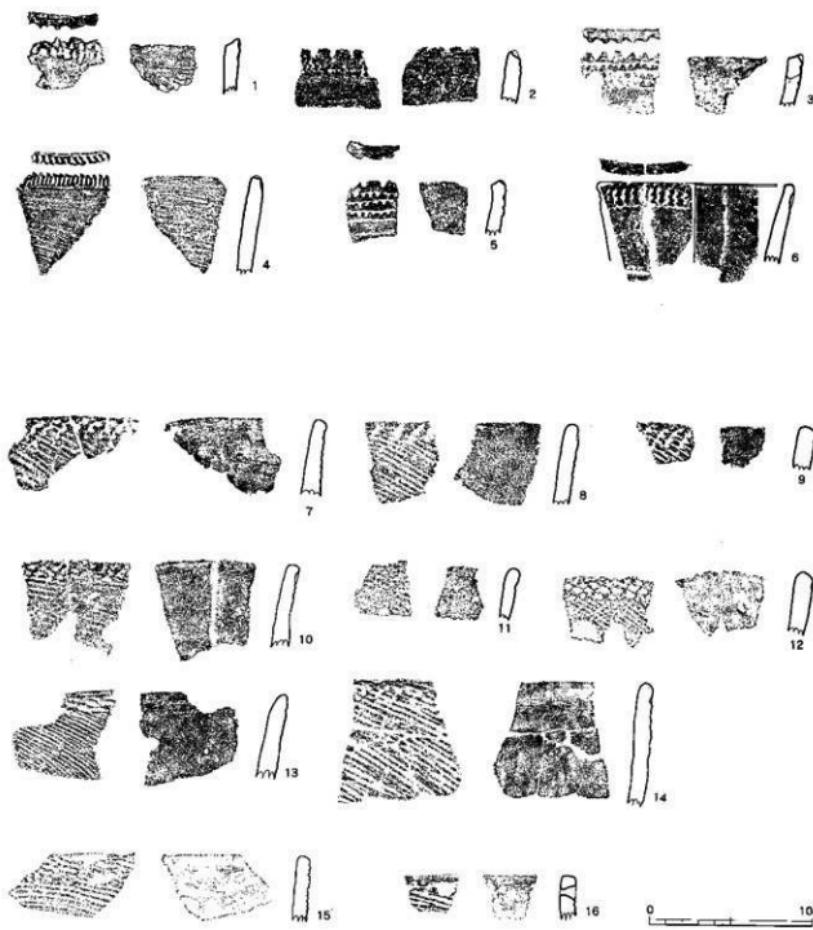
器形の特色からa：器形が円筒形で口縁部が直行するもの、b：口縁部が外反し、内面の施文部と無文部の境がナデ調整のもの、c：口縁部が外反し、内面の施文部と無文部の境がケズリによってなしているものの3類に分類した。

VIIa類（第31図-68～73）

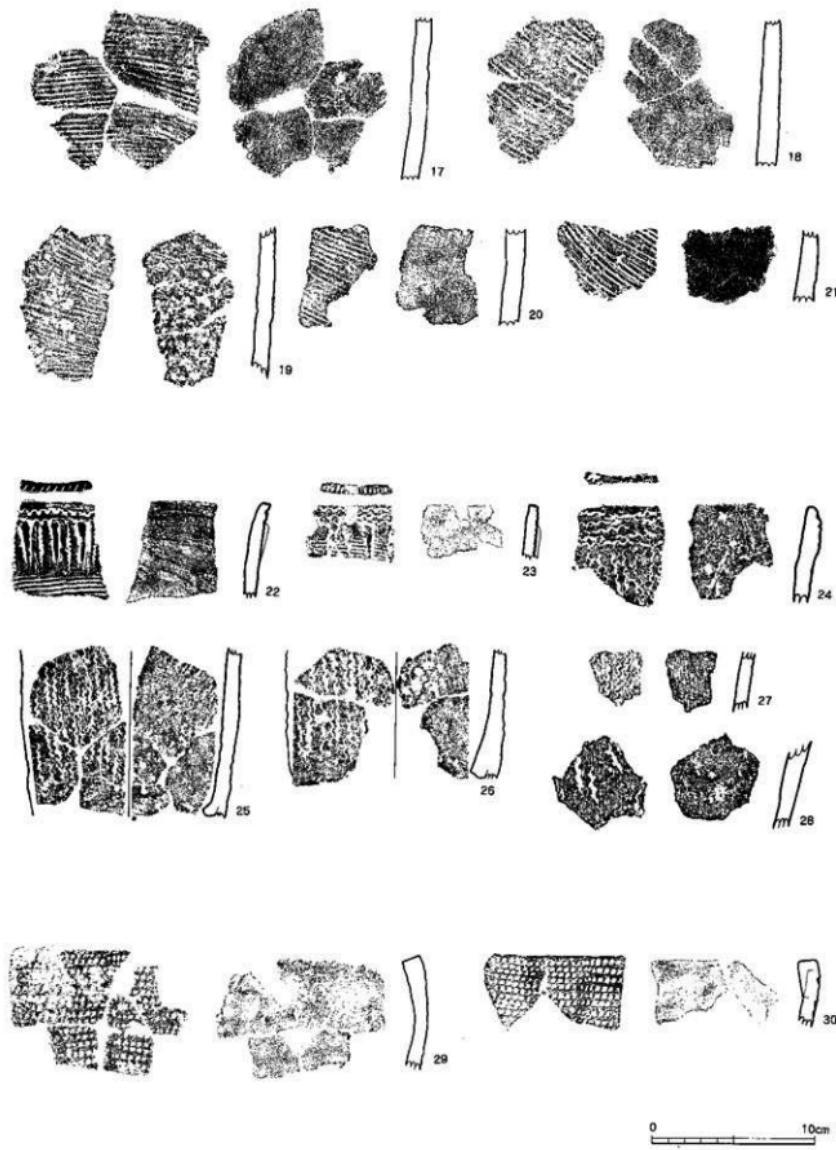
器形が円筒形であり、口縁部が直行するもの。68・69は梢円押型文土器の同一個体である。器壁も厚く、底部の外径は15.0cm、厚みは1.2cmである。文様は口縁外面端部に無文帶



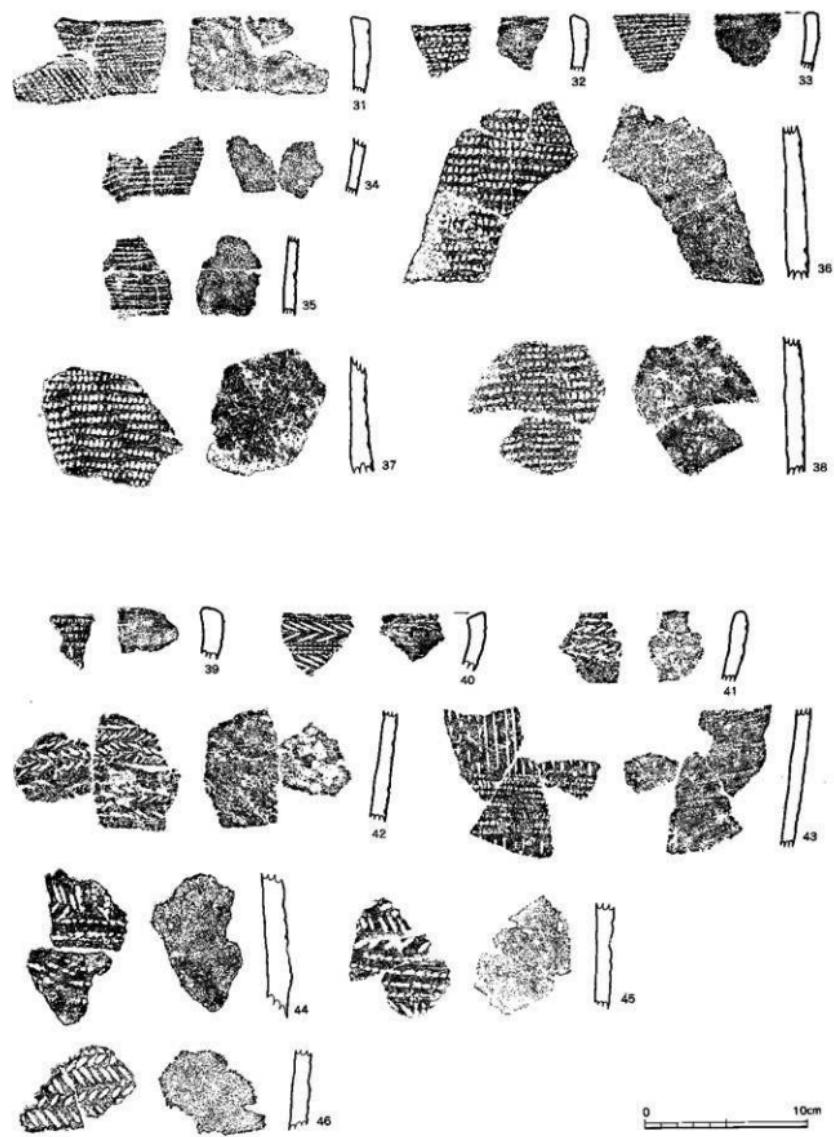
第25図 杉木原遺跡 繩文時代草創期土器実測図



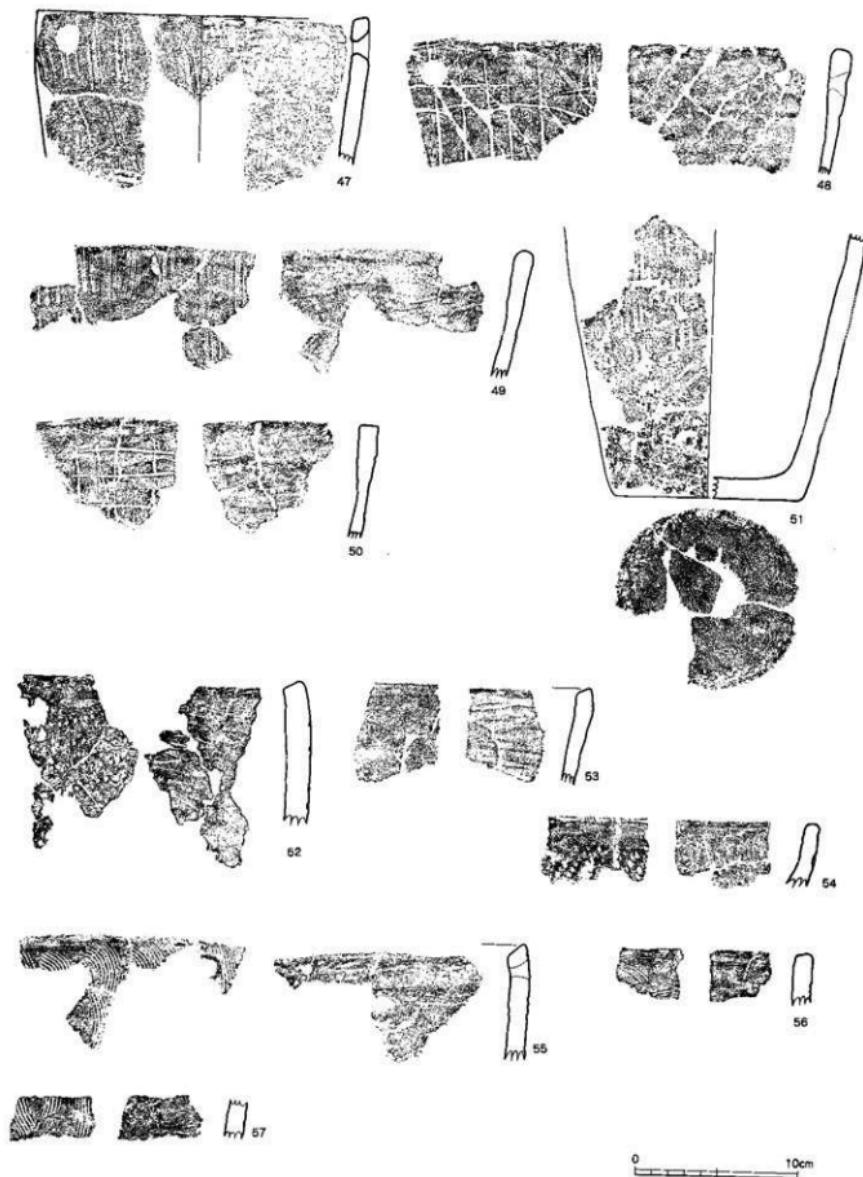
第26図 杉木原遺跡 土器実測図(1)



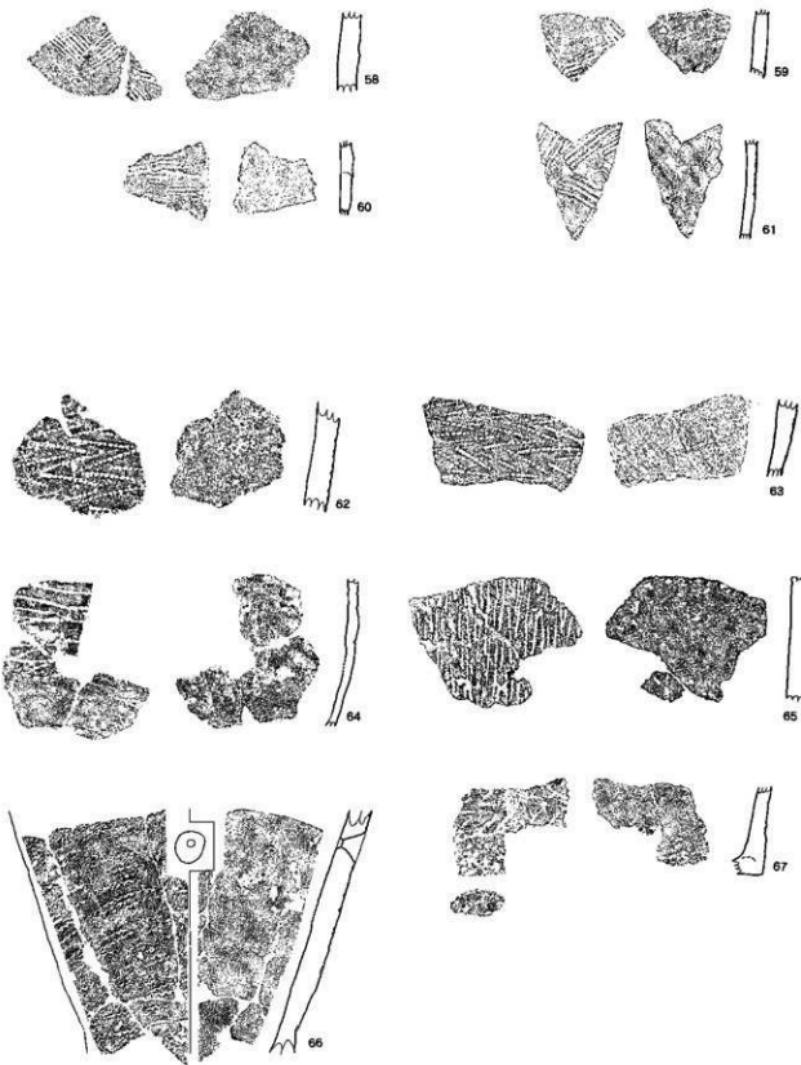
第27図 杉木原遺跡 土器実測図(2)



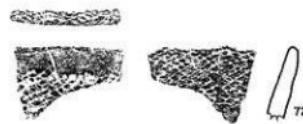
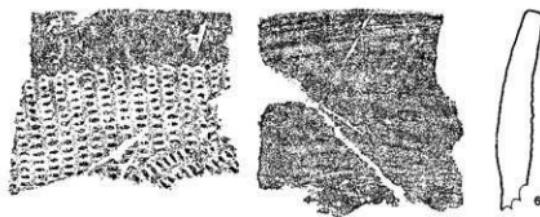
第28図 杉木原遺跡 土器実測図(3)



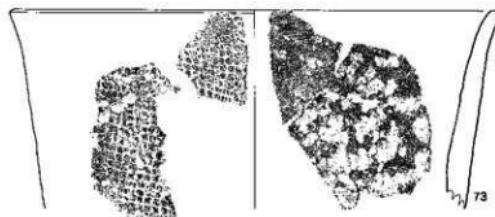
第29図 杉木原遺跡 土器実測図(4)



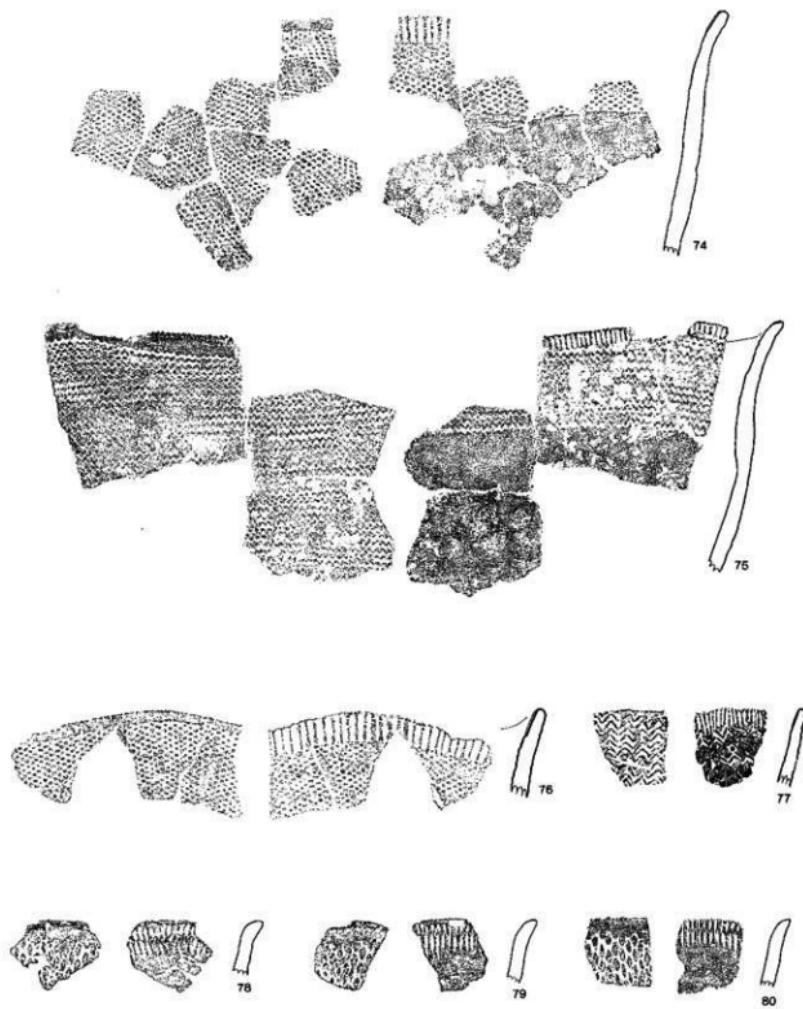
第30図 杉木原遺跡 土器実測図(5)



0 10cm

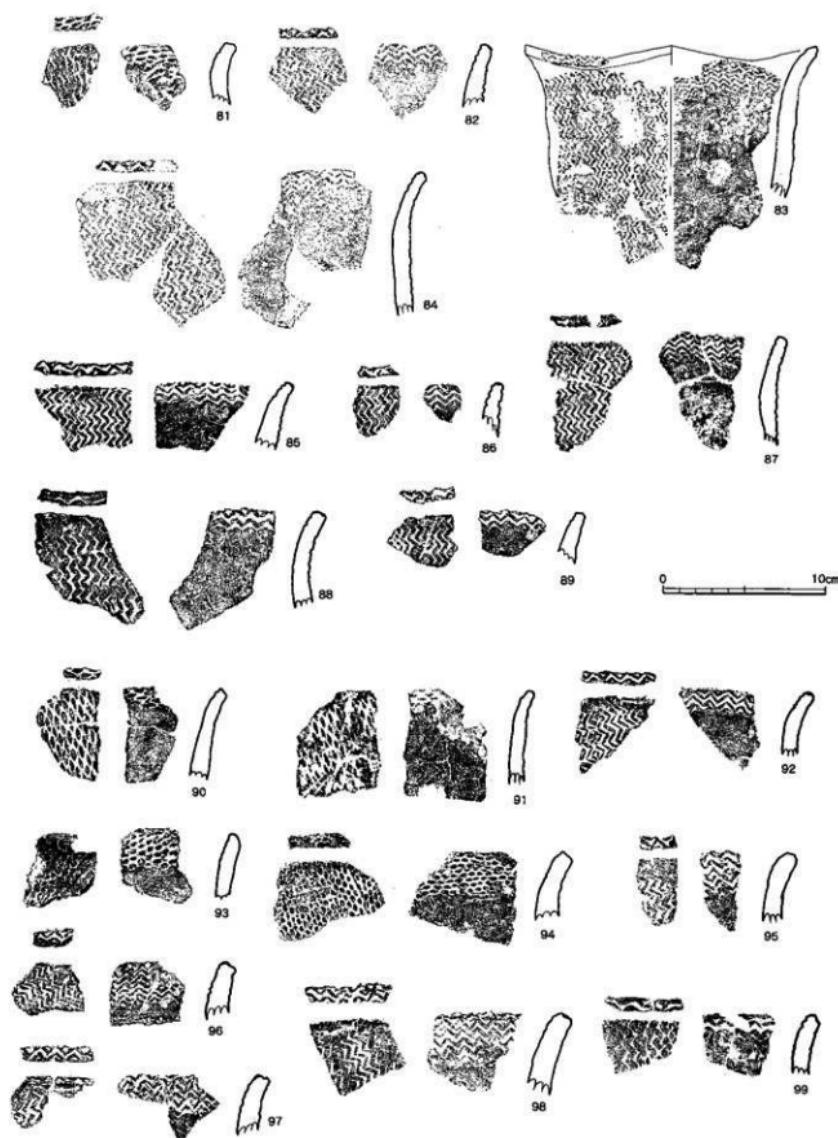


第31図 杉木原遺跡 土器実測図(6)

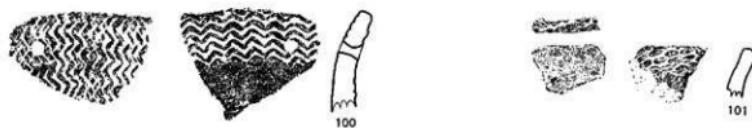


0 10cm

第32図 杉木原遺跡 土器実測図(7)



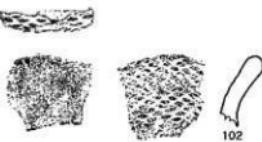
第33図 杉木原遺跡 土器実測図(8)



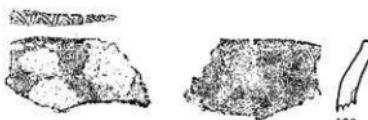
100



101



102



103



104



105



106



107



108



109



110

0 10cm

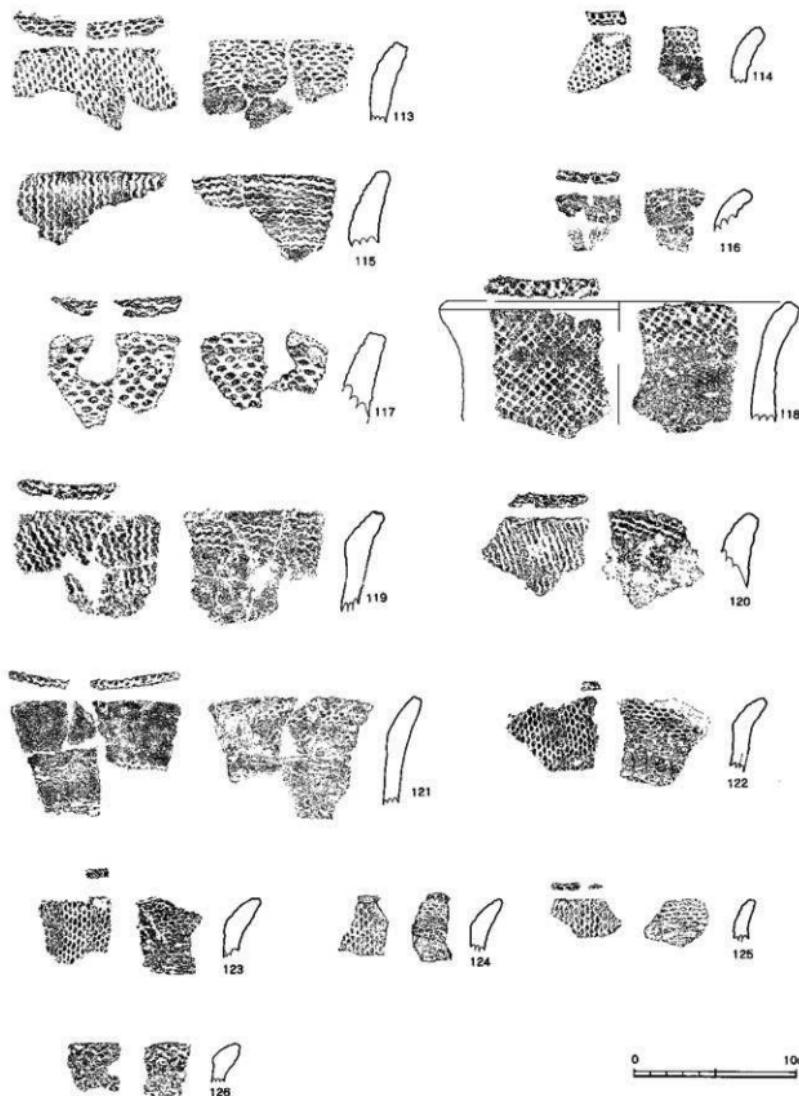


111

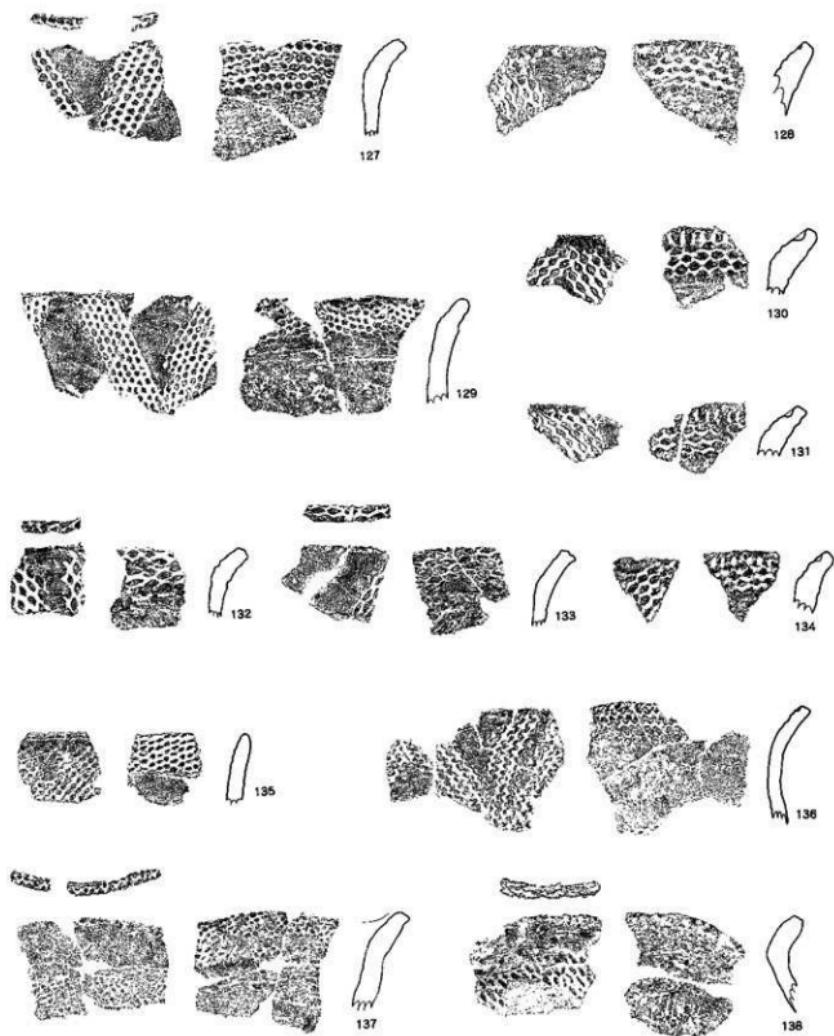


112

第34図 杉木原遺跡 土器実測図(9)

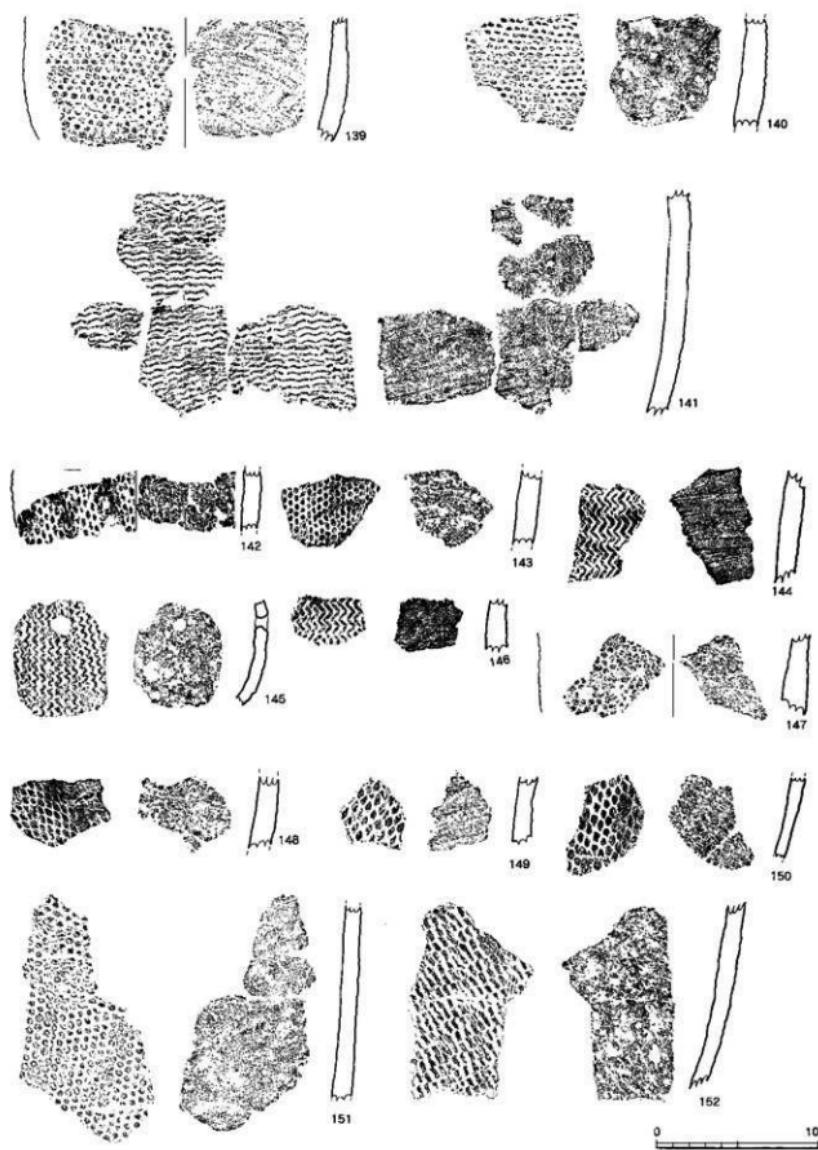


第35図 杉木原遺跡 土器実測図(10)

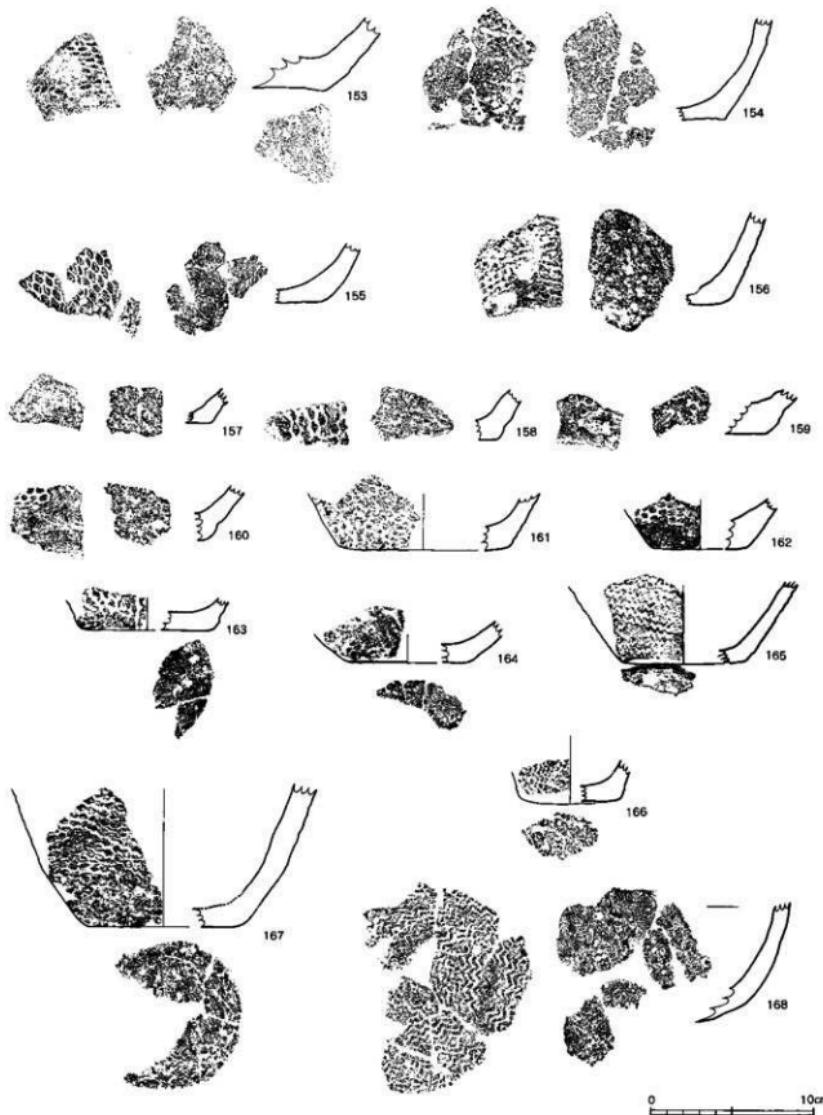


0 10cm

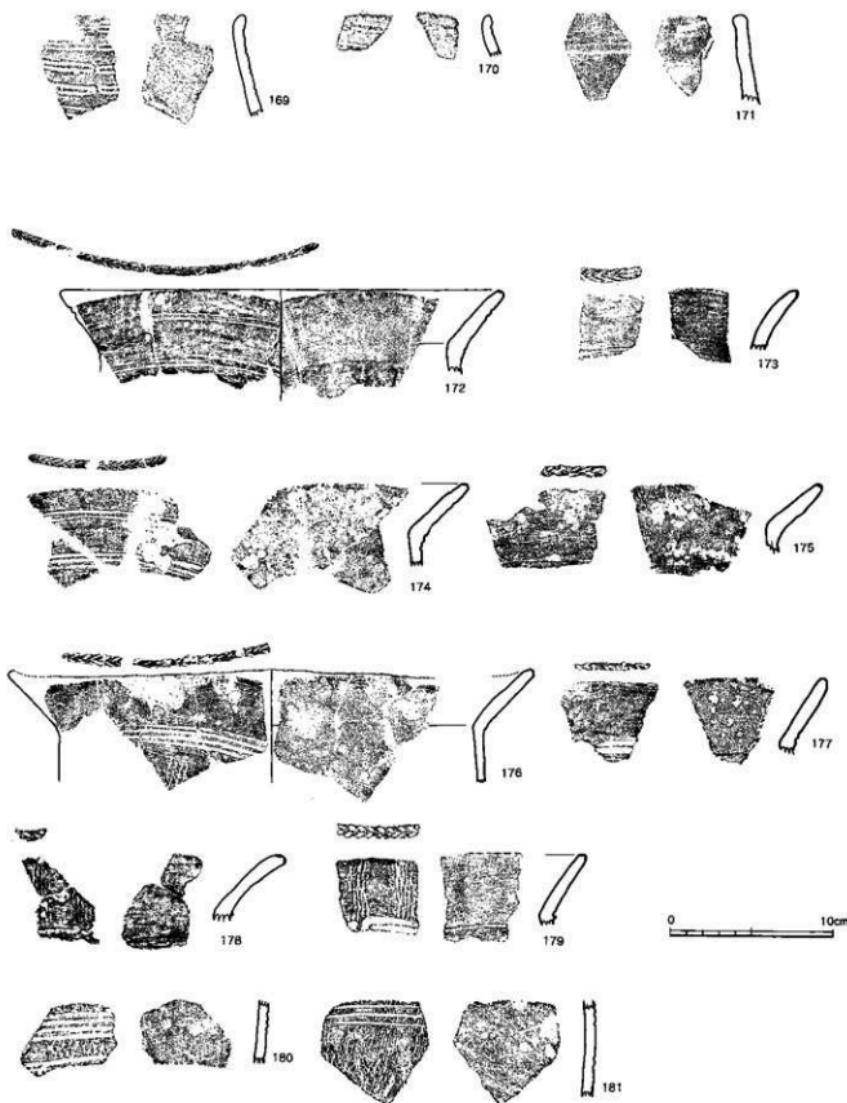
第36図 杉木原遺跡 土器実測図(11)



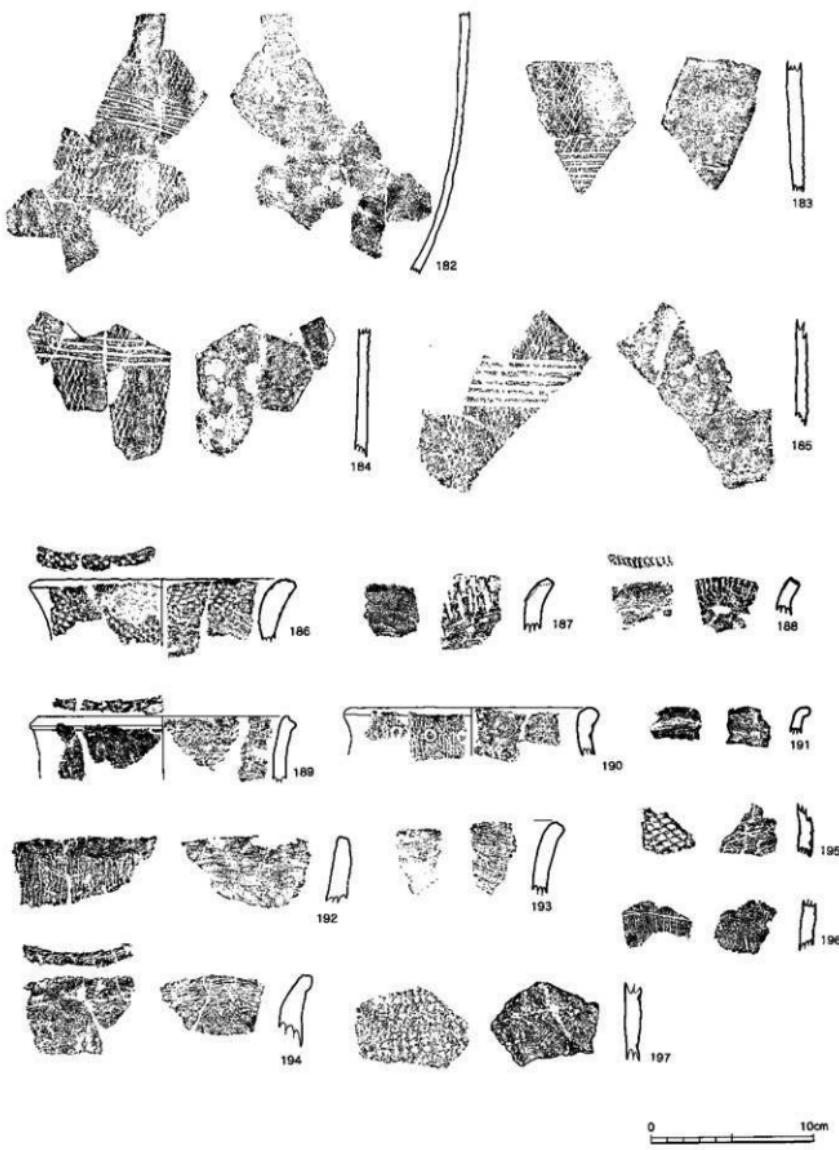
第37図 杉木原遺跡 土器実測図(12)



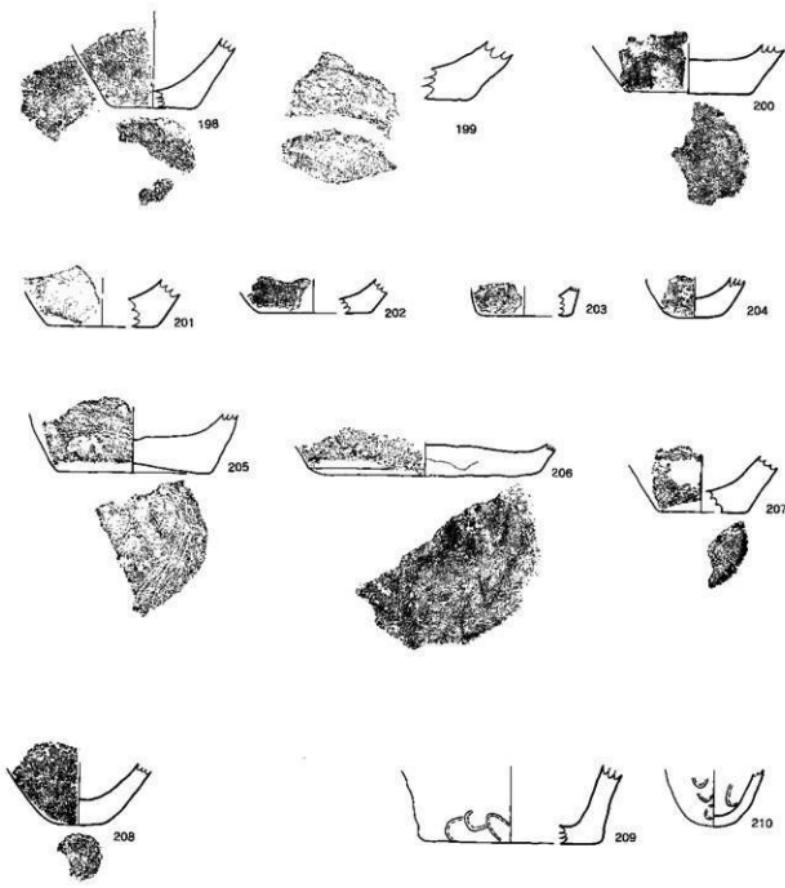
第38図 杉木原遺跡 土器実測図(13)



第39図 杉木原遺跡 土器実測図(14)



第40図 杉木原遺跡 土器実測図(15)



0 10cm

第41図 杉木原遺跡 土器実測図(16)

表3 杉木原遺跡縄文時代(草創期)の遺物観察表

図面番号	遺物番号	出土位置	種類	部位	文様及び圖案		色調		焼成	胎土	備考
					外 面	内 面	外 面	内 面			
25	1	K-7	深 紋陶 鍋	器身	縦帶文上に指揮押え	横方向ナデ	灰 灰 灰 灰	にぶい黄 にぶい黄 にぶい黄 にぶい黄	11.5以下灰白色の灰、13以下半透明に 見える。	草創期 縄文土器	
25	2	J-7	深 紋陶 鍋	器身	縦帶文上に指揮押え 横方向のナデ	横方向ナデ	灰 灰 灰 灰	にぶい黄 にぶい黄 にぶい黄 にぶい黄	11.5以下灰白色の灰、0.5以下灰い い。	草創期 縄文土器	
25	3	E-11	深 紋陶 鍋	器身	斜方向連續爪形文	ナデ	灰 灰 灰 灰	にぶい黄 にぶい黄 にぶい黄 にぶい黄	0.5-1.1時の灰白色の砂粒、焼締一 般の風灰色の砂粒。	草創期 縄文土器	

表4 杉木原遺跡縄文時代(早期)の遺物観察表(1)

図面番号	遺物番号	出土位置	種類	部位	文様及び圖案		色調		焼成	胎土	備考
					外 面	内 面	外 面	内 面			
26	1	H-8	深 紋口縫陶 鍋	器身	口唇部横丸印下位に斜方 向の丸印と斜方横縞文	ナデ 横ナデ	にぶい灰 にぶい灰 にぶい灰 にぶい灰	にぶい灰 にぶい灰 にぶい灰 にぶい灰	11.5以下の灰白色の灰、12.5以下の金 色に光る灰、11.5以下の風灰色の灰、4.5リ ンジのない。	Ⅰ層	
26	2	C-9	深 紋口縫陶 鍋	器身	口唇部横丸印下位に斜方横 縞文	ナデ	灰 灰 灰 灰	にぶい黄 にぶい黄 にぶい黄 にぶい黄	11.5以下の灰白色の灰、2.5以下灰黑色の 灰。	Ⅰ層	
26	3	G-5	深 紋口縫陶 鍋	器身	口唇部横ナデ下位に斜方 向の丸印と斜方横縞文	ナデ 横ナデ	灰 灰 灰 灰	にぶい灰 にぶい灰 にぶい灰 にぶい灰	0.8以下灰黄色、黒く光る砂粒。	Ⅰ層 サルカ	
26	4	K-8	深 紋口縫陶 鍋	器身	口唇部横丸印下位に斜方 向の丸印と斜方横縞文	横ナデ 横ナデ	にぶい灰 にぶい灰 にぶい灰 にぶい灰	にぶい黄 にぶい黄 にぶい黄 にぶい黄	2.5以下灰の灰白色の砂粒、13以下灰 色に光る灰、12以下灰透明で光る砂粒。	Ⅰ層	
26	5	D-8	深 紋口縫陶 鍋	器身	部分的に丸 印と斜方横縞文	横ナデ 横ナデ	にぶい灰 にぶい灰 にぶい灰 にぶい灰	にぶい黄 にぶい黄 にぶい黄 にぶい黄	11.5以下の灰-風灰色の灰、0.5以下 の金色透明で光る黒。	Ⅰ層	
26	6	B-1	深 紋口縫陶 鍋	器身	口唇部横丸印下位に斜方 向の丸印と斜方横縞文	ナデ	灰 灰 灰 灰	灰 灰 灰 灰	2.5以下灰の灰黑色の灰、2.5以下灰 色に光る灰。	Ⅰ層	
26	7	H-10	深 紋口縫陶 鍋	器身	口唇部横丸印下位に斜方 向の丸印と斜方横縞文	横方向重合 横ナデ	にぶい灰 にぶい灰 にぶい灰 にぶい灰	にぶい灰 にぶい灰 にぶい灰 にぶい灰	2.5-10以下灰の灰白色の灰、13以下灰 い。	Ⅱ層	
26	8	J-9	深 紋口縫陶 鍋	器身	口唇部横丸印下位に斜方 向の丸印と斜方横縞文	ナデ	灰 灰 灰 灰	にぶい黄 にぶい黄 にぶい黄 にぶい黄	2.5以下灰の白、光沢のある黒色の灰。	Ⅱ層	
26	9	J-9	深 紋口縫陶 鍋	器身	口唇部横ナデ下位に斜方横 縞文	ナデ	灰 灰 灰 灰	にぶい黄 にぶい黄 にぶい黄 にぶい黄	1.5以下灰の白、光沢のある黒色の灰。	Ⅱ層	
26	10	E-11	深 紋口縫陶 鍋	器身	口唇部横ナデ下位に斜方横 縞文	ナデ	灰 灰 灰 灰	にぶい黄 にぶい黄 にぶい黄 にぶい黄	2.5以下灰の白の灰、光沢のある黒色の灰。	Ⅱ層	
26	11	K-7	深 紋口縫陶 鍋	器身	口唇部横ナデ下位に斜方横 縞文	ナデ	灰 灰 灰 灰	にぶい黄 にぶい黄 にぶい黄 にぶい黄	0.25-0.8灰の灰白色の砂粒、焼締一 般のガラス質の灰。	Ⅱ層	
26	12	D-11	深 紋口縫陶 鍋	器身	口唇部横ナデ下位に斜方 向の丸印と斜方横縞文	ナデ	灰 灰 灰 灰	灰 灰 灰 灰	2.5以下灰の灰白色の灰、2.5以下ガラス質 の灰。	Ⅱ層	
26	13	L-10	深 紋口縫陶 鍋	器身	ヘア式工具による斜方の刺 痕の丸印灰	横ナデ 横ナデ	明 灰 灰 灰	灰 灰 灰 灰	2.5以下灰の乳白色の砂粒、長方形の光沢 の砂粒、光沢無色の砂粒。	Ⅱ層	
26	14	N-14	深 紋口縫陶 鍋	器身	タケの丸印と斜方の丸印 斜方横縞文	ナデ	浅 灰 灰 灰	灰 灰 灰 灰	0.5-1.8時の灰白色の砂粒。	Ⅱ層	
26	15	H-8	深 紋口縫陶 鍋	器身	口唇部横ナデ下位に斜方横 縞文	横ナデ	にぶい黄 にぶい黄 にぶい黄 にぶい黄	にぶい黄 にぶい黄 にぶい黄 にぶい黄	0.6以下灰の光沢灰、1.5以下灰の黒い 灰。	Ⅱ層	
26	16	K-7	深 紋口縫陶 鍋	器身	口唇部横ナデ上にガキ下位に 斜方横縞文	横ナデ	にぶい黄 灰 灰 灰	にぶい黄 灰 灰 灰	0.25-0.8灰の灰白色の砂粒、焼締一 般のガラス質の光る灰。	Ⅱ層 サルカ	
27	17		深 紋陶 鍋	器身	斜方横縞文	ナデ	にぶい黄 灰 灰 灰	にぶい黄 灰 灰 灰	0.5以下灰の白、光沢のある黒色の灰。	Ⅱ層	
27	18	H-6	深 紋陶 鍋	器身	斜方横縞文	ナデ	にぶい黄 灰 灰 灰	にぶい黄 灰 灰 灰	0.5以下灰の白、光沢のある黒色の灰。	Ⅱ層	
27	19	J-8	深 紋陶 鍋	器身	斜方横縞文	不明	灰 灰 灰 灰	灰 灰 灰 灰	0.5以下灰の乳白色の砂粒、3.5以下灰 色の砂粒、2.5以下ガラス質の灰。	Ⅱ層	
27	20	D-16	深 紋陶 鍋	器身	斜方横縞文	ヘラナデ	灰 灰 灰 灰	灰 灰 灰 灰	0.5以下灰の乳白色、白色、乳白色の砂粒。 灰、黑色の光る砂粒。	Ⅱ層	
27	21	C-9	深 紋陶 鍋	器身	斜方横縞文	横方向ヘラナデ	灰 灰 灰 灰	にぶい黄 灰 灰 灰	2.5以下灰の黒い光沢無色透明で光る砂粒、 2.5以下灰の乳白色の砂粒。	Ⅱ層 サルカ	
27	22	D-12	深 紋陶 鍋	器身	口唇部横方向の刺印・口縫 斜方横縞文	横方向の刺印+ガキ	灰 灰 灰 灰	にぶい黄 灰 灰 灰	1.5以下灰の黒い光沢無色透明で光る砂粒、 0.5以下灰の乳白色の砂粒。	Ⅱ層	

表 4 杉木原遺跡 繩文時代（早期）の遺物観察表（2）

団面 番号	遺物 番号	出土位置	器種	部位	文種 及び 聞		色	質	焼成	胎	土	備考
					外	内						
27	23	E-11	陶	鉢口縁部	口唇部に斜め、口縁部に斜め 直線状文、横波状文、網目状文、網 目状文刺繡文、波状文、貝殻文	丁寧な模子テテ	に赤い表面に赤い表面	赤	110以下の白色、褐色、薄くて見る砂粒、2C 以下以下の彩色透明で光る砂粒。	砂	黄	
27	24	G-6 G-7	陶	鉢口縁部	口唇部テテ下位にカーブテテ上 直線状文、貝殻状文、波状文、網 目状文刺繡文、波状文、貝殻文	底方向テテに模子テテ	に赤い表面に赤い表面	赤	0.2-1.2Lの赤白色の砂粒。	砂	黄	
27	25	H-6 J-7 K-7 L-7	陶	鉢底付近	テテ 底方向貝殻縫跡刺文	底方向に強いテテ	に赤い表面に赤い表面	赤	2D以下の褐色粒、2D以下の黑色粒。	砂	黄	
27	26	J-7 H-6 I-7	陶	鉢底付近	テテ 底方向貝殻縫跡刺文	底方向テテ	に赤い表面に赤い表面	赤	1.5D以下の白色粒、2D以下の黑色粒、3 以下以下の黄色粒、光る砂粒。	砂	黄	
27	27	F-10	陶	縦縫部	底方向貝殻縫跡刺文	底方向テテ	に赤い表面に赤い表面	赤	2D以下の白色粒、2D以下の黑色粒、3 以下以下の黄色粒、光る砂粒。	砂	黄	
27	28	L-9	陶	縦縫部	底方向テテ	底方向テテ	に赤い表面に赤い表面	赤	3D以下の白色粒、3D以下の灰白色の 粒、2D以下の黑色の粒。	砂	黄	
27	29	C-4 D-6 E-5	陶	鉢口縁部	口唇部テテ下位に貝殻縫 跡平打刺文	模子テテ	に赤い表面に赤い表面	赤	4D以下の白色粒、4D以下の灰白色 の粒、2D以下のガラス質の粒。	砂	黄	
27	30	P-5 G-6	陶	鉢口縁部	山唇部模子テテ下位に貝殻縫 跡平打刺文	模子テテ 底方向貝殻縫跡刺文	底 底方向のえき	赤	2D以下の白色粒。	砂	黄	
28	31	C-9 D-3 D-10	陶	鉢口縁部	口唇部テテ下位に底方向貝 殻縫跡刺文下位に斜方刺 文貝殻縫跡刺文	底方向テテ 工事・指標の成形痕あり	底 底	赤	1D以下の白色粒。	砂	黄	
28	32	K-9	陶	鉢口縁部	口唇部テテ	模子テテ	に赤い表面に赤い表面	赤	1D-0.5Sの金色の粒、1D以下の灰白色的 粒。	砂	黄	
28	33	G-7	陶	鉢口縁部	口唇部テテ下位に平行な 貝殻縫跡刺文	丁寧な模子テテ	に赤い表面に赤い表面	赤	2.5D以下の白色の砂粒。	砂	黄	
28	34	H-6 J-9	陶	鉢口縁部	底方向の貝殻縫跡刺文	模子テテ	に赤い表面に赤い表面	赤	2D以下の灰白色の粒、2D以下の灰白色的 粒。	砂	黄	
28	35	H-6	陶	鉢口縁部	底方向の貝殻縫跡刺文	模子テテ	に赤い表面に赤い表面	赤	3D以下の灰白色的粒、2D以下の金色の粒 を含む。	砂	黄	
28	36	P-5 P-6	陶	鉢口縁部	底方向貝殻縫跡刺文	模子テテ	底 底	赤	2D以下の白色、灰色の粒。	砂	黄	
28	37	J-8	陶	鉢口縁部	底方向の貝殻縫跡刺文	底方向のテテ	に赤い表面に赤い表面	赤	2D以下の白色の粒、黑色の粒。	砂	黄	
28	38	C-3 F-5	陶	鉢口縁部	底方向の貝殻縫跡刺文	模子テテ	に赤い表面に赤い表面	赤	2D以下の白色の粒、黑色の粒。	砂	黄	
28	39	I-6	陶	鉢口縁部	口唇部テテ・底方向にガラス 粒・底打・丸く丸く貝殻縫跡に 上部模子の刺文	模子・ガラス 粒	に赤い表面に赤い表面	赤	2.5D以下の灰色、白色の砂粒、0.5D以下 の金色の砂粒。	砂	黄	
28	40	C-3	陶	鉢口縁部	口唇部下位に模子テテ下位に 底打模子刺文下位に底打 模子刺文	模子の下テテ	に赤い表面に赤い表面	赤	1.5D以下の浅茶色、灰色、白色、褐色の砂 粒。	砂	黄	
28	41	P-9 G-7	陶	鉢口縁部	口唇部テテ下位に底打模子 刺文下位に底打模子刺文	模子	底 底	赤	1.5D以下の黄色の、赤茶色、灰色、白色、 光る無色、光る褐色の砂粒。	砂	黄	-般スズ村 一般施設
28	42	G-7	陶	鉢口縁部	底打模子刺文	模子	に赤い表面 に赤い表面	赤	2.5D以下の黄色の、赤茶色、灰色、白色、 光る無色、光る褐色の砂粒。	砂	黄	-般スズ村 一般施設
28	43	G-7 K-7	陶	鉢口縁部	底打模子刺文・底打模子刺文 底打模子刺文の横打向斜方刺 文	一つ成形底打模子テテナ	に赤い表面に赤い表面	赤	2.5D以下の白色、灰色、白色、白色、褐色の砂 粒。	砂	黄	
28	44	I-7	陶	鉢口縁部	貝殻縫跡刺文・模子 底打模子刺文の横打向斜方刺 文	模子テテ	に赤い表面に赤い表面	赤	2.5D以下の白色的。	砂	黄	
28	45	I-7 I-9	陶	鉢口縁部	貝殻縫跡刺文 底打模子刺文の貝殻縫跡刺文 底打模子刺文の貝殻縫跡刺文	模子	底 底	赤	2.5D以下の白色的。	砂	黄	
28	46	I-10	陶	鉢口縁部	貝殻縫跡刺文	模子テテ	に赤い表面に赤い表面	赤	2.5D以下の白色的。	砂	黄	
29	47	D-7 G-19 H-7 H-10	陶	鉢口縁部	口唇部テテ下位に巻状工具 の底打模子刺文下位に巻状 模子刺文・丸条文	模子テテ	に赤い表面 に赤い表面	赤	2.5D-3.5Dの褐色の砂粒を多く含む、1D以 下の黒・白、0.5D以下の中透明に光る粒。	砂	黄	
29	48	I-9	陶	鉢口縁部	口唇部テテ下位に巻状工具 の底打模子刺文	模子	に赤い表面 に赤い表面	赤	1.5D以下の乳白色の粒、2D以下のガラス質 の粒。	砂	黄	胎孔あり
29	49	SB G-19 H-6 I-6	陶	鉢口縁部	口唇部テテ下位に巻状工具 に上位のナ	模子	に赤い表面 に赤い表面	赤	1.5D-1.8Lの白色、灰色、褐色、褐色粒、1.5D 以下の透明光沢粒。	砂	黄	
29	50	G-7	陶	鉢口縁部	口唇部テテ下位に巻状工具 に赤い表面	模子	底 底	赤	2D以下の白色の粒、2.5D以下の金色の 粒、2.5D以下の乳白色的粒。	砂	黄	

表 4 杉木原遺跡 繩文時代（早期）の遺物観察表（3）

遺物 番号	出土位置	基標	部位	文様及び調査		色調	焼成	胎土	備考
				外 面	内 面				
29 51	G-15 G-11 H-6 H-1 H-11	深鉢	鉢	縦方向の縞文による縞文状文 ナダ	横方向ナダ（工具痕あり） ナダ	にい・黄 灰	風 灰	灰 灰	35以下の灰白色の砂粒を多量に含む。0.5mm より2倍のガラス質の少なむ。
29 52	I-7	深鉢	鉢	口唇部「掌」字の下部に御垂文 ナダ	横ナダ	にい・赤 灰	にい・赤 灰	良	VII類
29 53	H-11	深鉢	鉢	口唇部横ナダ下段横方向構 ナダ	横方向へナタ（工具痕あり） ナダ	にい・黄 灰	灰 灰	良	35以下の中金色の砂粒、25以下の中白色の 砂粒、20以下の中白色の砂。
29 54	I-10	深鉢	鉢	横ナダ 縞文（中間に縞縫あり）	横ナダ	黄	黄 にい・黄 良	好	1.5mm以下の茶褐色、乳白色の砂粒、見る孔 白色の砂。
29 55	GII-13 H-10 I-10 K-10	深鉢	鉢	口唇部横ナダ下段横方向構 ナダ	横方向ナダ	褐	灰 にい・黄 良	好	22.5以下の中金色の砂粒、15以下の中白色の 砂粒、10以下の中黑色の砂。
29 56	P-12	深鉢	鉢	横方向の縞文 手執作業の浅い平行縞文	ヘラ状工具による横ナダ	黄	場 にい・黄 良	好	4.5以下の中白色、灰色、茶褐色、金色の砂 粒。
29 57	H-11	深鉢	鉢	丁寧なナダ 貝殻模様底文	横ナダ	黄	黄 にい・黄 良	好	4.5以下の中白色、灰色に光る。
30 58	C-6	深鉢	鉢	ナダ 貝殻模様による縞文	横ナダ 底面によるナダ	にい・白 にい・黄 良	透明 にい・黄 良	好	1.5mm以下の中黄色の砂粒、1.5mm以下の中 無色透明で光る砂粒、1.5以下の中黑色の砂。
30 59	H-9	深鉢	鉢	横状工糸による縞文状文	横方向ナダ 工具痕あり	にい・黄 良	にい・黄 良	好	15以下の中白色の砂粒を多く含む。0.5以下 の金色に光る。
30 60	J-9	深鉢	鉢	縦方向の縞文底文の上を ナダ	丁寧なナダ	にい・白 にい・黄 良	にい・黄 良	好	2.5以下の中白色の砂粒を含む。
30 61	B-8 H-7	深鉢	鉢	横ナダ 縞状工糸による縞文状文	ヘラ状工具の斜方向のナダ	明 灰 黄	灰 灰	良	1.5以下の中白色の砂。
30 62	B-2	深鉢	鉢	横状工糸剥落の羽状文	横ナダ	灰	灰	好	4.5以下の中白色、褐色の砂粒、4.5以下の中 茶褐色の砂粒、2.5以下の中黄色、光る無色の 砂。
30 63	G-7	深鉢	鉢	横状工糸剥落の羽状文 △方向のタヌ（工具痕あり） △方向のナダ	△方向のタヌ（工具痕あり） △方向のナダ	灰 にい・黄 良	灰 にい・黄 良	好	1.5以下の中黄色、光る無色、白色、灰色の 砂。
30 64	H-5 I-7	深鉢	鉢	横ナダ △方向の貝殻模様底文 貝殻模様による縞文状文	横ナダ	灰	にい・黄 良	好	2.5以下の中灰色、白色の砂。
30 65	P-12	深鉢	鉢	縦方向の貝殻模様底文 やや粗い横ナダ	横ナダ	にい・黄 良	灰 良	好	2.5以下の中白色的砂、金色に光る。
30 66	H-12 I-10 H-9	深鉢	鉢	横ナダ △方向に貝殻模様押付文	丁寧な横ナダ	にい・黄 良	灰 灰 良	好	0.15~1.2mmの灰白色の砂粒、1.0~1.2mm の中黄色の砂粒、無機~1.2mmのガラス様 に光る。
30 67	K-6 L-6	深鉢	鉢	横方向の貝殻模様底文 丁寧なナダ	丁寧なナダ	にい・黄 良	にい・黄 良	好	3.5以下の中白色の砂粒、3.5以下の中黄色の 砂。
31 68	I-11	縦口縫合	縫合	横ナダ △方向に貝殻模様底文	横ナダ	にい・黄 良	にい・黄 良	好	3.5以下の中白色的砂粒、光る茶褐色の 砂、2.5以下の中茶褐色の砂。
31 69	J-7	深鉢	鉢	側面に級の条痕？	ナダ	灰	にい・黄 良	好	3.5以下の中白色の砂粒を多く含む。3.5 以下の中灰色。
31 70	G-6 H-6 M-7 H-8	深鉢	鉢	山唇部横方向に丁寧なナダ その下部に斜・横方向山唇形 底文	丁寧なナダ 横方向山唇形によるナダ	にい・黄 良	にい・黄 良	好	0.15~1.2mmの灰白色の砂粒、0.3~0.5mm の中黄色の砂粒。
31 71	B-3 D-4 E-7	深鉢	鉢	横ナダ △方向の横縫合型文	横ナダ △方向の横縫合型文	にい・黄 良	にい・黄 良	好	0.5以下の中白色の砂粒、3.5以下の中 褐色の砂。
31 72	D-5	深鉢	鉢	横ナダ 横縫合型文	横内縫合文 ナダ	にい・黄 良	灰 良	好	1.5以下の中褐色、乳白色的砂粒。
31 73	P-8 G-9	深鉢	鉢	横内縫合型文	横ナダ	馬 尾	灰 良	好	2~4.5mmの灰白色の砂粒及び1.5以下の中 灰黄色、茶褐色の砂粒、2.5以下の中黄色 砂。
32 74	B-4 E-6 P-7 I-7 L-7 L-10	深鉢	鉢	横ナダ 横内縫合型文	横内縫合文 ナダ	にい・黄 良	にい・黄 良	好	1.5以下の中白色の砂粒、2~3mm程度の 半透明、灰、黄白色の砂。
32 75	E-11 I-8 I-10	深鉢	鉢	ナダ 横方向山唇形文	横ナダ 横方向山唇形文 ナダ	にい・黄 良	にい・黄 良	好	3.5以下の中白色の砂粒、3.5以下の中黄色 砂粒、2~5mm以下の中黄色の砂粒、2.5以下 の中黄色に光る。
32 76	K-7 K-9 L-6	深鉢	鉢	ナダ 横内縫合型文	工具による横方向の縞文底文 横内縫合	にい・黄 良	にい・黄 良	好	1.5程度の乳白色的砂。
32 77	H-6	深鉢	鉢	口唇ナダ子位に横方向山 唇形押付文	横ナダ	明 灰 良	明 灰 良	好	1.5以下の中黄色、灰白色、黄色、白色 の砂。
32 78	I-11	深鉢	鉢	横ナダ 横内縫合型文	横内縫合文 ナダ	明 灰 良	明 灰 良	好	1.5以下の中黄色、灰白色、黄色、白色 の砂。

表 4 杉木原遺跡 橋文時代(早期)の遺物観察表(4)

団面 番号	遺物 番号	出土位置	器種	部位	文様及び表面		色調		地成	胎土	備考	
					外 面	内 面	外 面	内 面				
32	79	I-II	雨 細口縦部	横子テ 前方尖の横円陣型文	原生赤鉄 模ナデ	明 黄 暗赤 青	明 黄 暗赤 青	10以下の黒化、灰色、黑色、乳白色、金色 の砂粒。	W6a			
32	80	I-II	雨 細口縦部	横子テ 前方尖の横円陣型文	原生赤鉄 模ナデ	にぶい黄 模ナデ	にぶい黄 模ナデ	10以下の中白化、灰色、黑色の砂粒。	W6a			
33	81	C-7	雨 細口縦部	口唇部に前方尖の横円陣型文、下位に前方尖の横円陣型文	横子テ 模ナデ	灰 黄 暗	にぶい黄 模ナデ	模が25ミリの半透明、灰白色の砂粒、底が15 ミリ以下の灰白、半透明、金色の砂粒。	W6a			
33	82	E-6	雨 細口縦部	口唇部山形神型文下位に横 方向山形神型文	横子テ 模ナデ	灰 黑	にぶい黄 模ナデ	10以下の中白化の砂粒、15以下の中白化。	W6a			
33	83	D-5	雨 細口縦部	前方山形神型文 前方山形神型文	横子テ 模ナデ	横 方山形神型文 模ナデ	にぶい黄 模ナデ	0.8リ-2リの灰白色の砂粒。	W6a 一部に入 付着			
33	84	E-7 E-8	雨 細口縦部	口唇部横方山形神型文 前方山形神型文	横子テ 模ナデ	横 方山形神型文 模ナデ	にぶい黄 模ナデ	3リ以下の柱状黑色光沢粒、22リ以下の乳 白色粒、40リ以下の灰白色粒、50リ以下の 乳白色。	W6a			
33	85	O-8	雨 細口縦部	口唇部横方山形神型文 前方山形神型文	横子テ 模ナデ	にぶい黄 模ナデ	にぶい黄 模ナデ	10以下灰化的砂粒、15以下灰白色に光 沢感。	W6a 模様あり			
33	86	H-8	雨 細口縦部	口唇部山形神型文下位に横 方向山形神型文 一密ナゲ	横子テ 模ナデ	横 方山形神型文 模ナデ	浅 黄 色	10以下の中白化の砂粒、15以下の中白化。	W6a			
33	87	B-4	雨 細口縦部	口唇部山形神型文下位に横 方向山形神型文	横子テ 模ナデ	横 方山形神型文 模ナデ	浅 黄	にぶい黄 模ナデ	赤褐色の砂粒、0.8リ以下の中白化。	W6a		
33	88	D-4	雨 細口縦部	口唇部山形神型文	横子テ 模ナデ	横 方山形神型文 模ナデ	浅 黄 暗	10以下灰化的砂粒、15以下半透明の砂粒、 灰褐色。	W6a			
33	89	H-7	雨 細口縦部	口唇部山形神型文下位に横 方向山形神型文	横子テ 模ナデ	横 方山形神型文 模ナデ	にぶい黄 模ナデ	0.8リ以下の褐色光沢粒、10リ以下の灰白 化。	W6a			
33	90	D-5 E-6	雨 細口縦部	横方向の横円陣型文	横子テ 模ナデ	横 方向の横円陣型文 模ナデ	灰 黄	にぶい黄 模ナデ	0.8リ以下の灰白色。	W6a		
33	91	D-6	雨 細口縦部	斜方向の横円陣型文	横子テ 模ナデ	横 方向の横円陣型文 模ナデ	黑 暗	にぶい黄 模ナデ	0.1リ-1.0リの灰白色の砂粒、黒褐色- 1.5リの黑色の砂粒。	W6a		
33	92	B-2	雨 細口縦部	口唇部山形神型文下位に横 方向山形神型文	横子テ 模ナデ	横 方向の山形神型文 模ナデ	黄 暗	横 方向の山形神型文 模ナデ	22リ以下の光る黒色の長方形、乳白色等 の砂粒。	W6a		
33	93	I-7 J-7	井 口縫部	横子テ 前方ナガ 横円陣型文 横縫部 模様あります	横子テ 模ナデ	横 方向の横円陣型文 模ナデ	明 黄	横 方向の横円陣型文 模ナデ	23リ以下の赤褐色、灰白、褐褐色の砂粒。	W6a		
33	94	B-1	雨 細口縦部	前方方向の横円陣型文	横子テ 模ナデ	横 方向の横円陣型文 模ナデ	にぶい黄 模ナデ	1-1.8リ程度の透明、半透明。	W6a			
33	95	E-4	雨 細口縦部	口唇部横方山形神型文下位 に横方向山形神型文	横子テ 模ナデ	横 方向山形神型文 模ナデ	浅 黄	横 方向山形神型文 模ナデ	32リ以下の光る褐色の砂粒、灰白、浅い褐 色の砂粒。	W6a 一部黒 S1-2		
33	96	B-1	雨 細口縦部	口唇部山形神型文下位に横 方向山形神型文	横子テ 模ナデ	横 方向山形神型文 模ナデ	にぶい黄 模ナデ	42リ以下の白い砂粒、15リ以下の中白化。	W6a 模様あり			
33	97	C-7 D-6	雨 細口縦部	口唇部横方山形神型文 底に前方山形神型文	横子テ 模ナデ	横 方向山形神型文 模ナデ	にぶい黄 模ナデ	45リ以下の白色粒、41リ以下の黑色光沢 粒、45リ以下のガラス質粒、45リ以下の褐色 粒。	W6a			
33	98	G-2	雨 細口縦部	口唇部横方山形神型文下位 に前方山形神型文	横子テ 模ナデ	横 方向山形神型文 模ナデ	にぶい黄 模ナデ	50リ以下の乳白色、褐色、灰色、光る墨色の 砂粒。	W6a			
33	99	D-8	雨 細口縦部	口唇部山形神型文と底位 山形神型文	横子テ 模ナデ	横 方向山形神型文 模ナデ	にぶい黄 模ナデ	50リ以下の白色の砂粒、10リ以下の褐色的 の砂粒。	W6a 模様あり			
34	100	H-9	雨 細口縦部	口唇部ナゲ下位に前方山 形神型文	横子テ 模ナデ	横 方向山形神型文 模ナデ	にぶい橙にぶい黄 模ナデ	10リ以下の黒い砂粒、50リ以下の赤褐色。	W6a 孔あり			
34	101	B-4	雨 細口縦部	口唇部横円陣型文	横子テ 模ナデ	横 行陣型文	深 暗	横 方向山形神型文 模ナデ	模が2.8リ-3リの赤褐色の點と12リ以下の 褐色。	W6a		
34	102	K-7	井 口縫部	横子テ	横子テ	横 行陣型文	深 暗	横 方向山形神型文 模ナデ	32リ以下の乳白色、灰白、褐色、黑色に光 沢感。	W6a 模様あり		
34	103	E-8	雨 細口縦部	口唇部山形神型文ナゲ	横子テ 模ナデ	横 方向山形神型文 模ナデ	深 暗	横 方向山形神型文 模ナデ	32リ以下の乳白色粒、32リ以下の白色粒、2 5リ以下の金色に光る。	W6a		
34	104	K-2	林 口縫部	口唇部横方向の横円陣型文 下位に横子テ後に前方山 形神型文	横子テ 模ナデ	横 方向の横円陣型文 工具による模ナゲ	にぶい 橙にぶい黄 模ナデ	32リ以下の褐色、灰白の砂粒。	W6a			
34	105	H-11	雨 細口縫部	口唇部横ナゲ下位に前方山 形神型文	横子テ 模ナデ	横 方向山形神型文 模ナデ	にぶい赤暗にぶい黄 模ナデ	0.5-1.0リ程度の半透明、褐色、黃白色の 砂粒。	W6a 一部に入 付着			
34	106	G-9	雨 細口縫部	山形神型文	模ナデ	にぶい黄 模ナデ	にぶい黄 模ナデ	0.5リ以下の透明白、黃白、灰、黑色。	W6a			

表 4 杉木原遺跡 繩文時代(早期)の遺物観察表(5)

団面 番号	遺物 番号	出土位置	器種	部位	文様及び諸種		色調		焼成	胎土	備考
					外 面	内 面	外 面	内 面			
34	107	B-3	漆	鉢口縁部	口唇部裏方向の横溝型文下位に前方に向る横円溝型文ナダ	裏方角の横円溝型文ナダ	にぶい	黒灰	良	好	119程度の半透明。
34	108	B-9 I-9	漆	鉢口縁部	口唇部裏ナダに前方に向る横溝型文下位に前方に向る山形溝型文	裏方角の横円溝型文ナダ	にぶい	黒灰	良	好	0.11-3.50の乳白色、黒緑-2.80の金色に光る砂粒、0.65-2.10の系色の砂粒。
34	109	H-10	漆	鉢口縁部	口唇部裏ナダに前方に向る横溝型文下位に前方に向る山形溝型文	裏方角の横円溝型文ナダ	にぶい	黒灰	良	好	0.13-3.03の乳白色、黒緑-2.80の金色に光る砂粒、0.51-2.01の系色の砂粒。
34	110	G-6	漆	鉢口縁部	口唇部裏前方に向る横溝型文下位に前方に向る山形溝型文	裏方角の横円溝型文ナダ	にぶい	黒	良	好	119以下の純白、乳白色の砂粒、119以下に金色に光る砂粒、0.51-2.10の系色の砂粒。
34	111	C-7 D-5 I-5	漆	鉢口縁部	前方に向る横溝型文	裏方角の横円溝型文ナダ	にぶい	黒	良	好	119以下の透明白、黑色。
34	112	C-6	漆	鉢口縁部	前方に向る横溝型文	裏方角の横円溝型文	極	極	良	好	2-23程度の半透明の必須。
35	113	D-7 B-6 H-7	漆	鉢口縁部	前方に向る横溝型文	裏方角の横円溝型文	極	にぶい	黒	良	120程度の半透明、0.5-2.01程度の暗く黒色。
35	114	D-6	鉢	鉢口縁部	前方に向る横溝型文	裏方角の横円溝型文	にぶい	黒	良	好	0.1-0.5の乳白色の砂粒、0.51-2.01の系色の砂粒。
35	115	H-10 I-7	漆	鉢口縁部	山形溝型文	山形溝型文	良	黒	良	好	119以下の白、黄の砂。
35	116	B-9	漆	鉢口縁部	前方に向る横溝型文	裏方角の横円溝型文の下位に前方に向る山形溝型文	にぶい	黒	良	好	0.2-2.30の褐色の砂を含む、桂や119以下の白色、金色、赤色。
35	117	D-7 D-4 B-6	漆	鉢口縁部	ナダ	前方に向る横円溝型文	ナダ	にぶい	黒	良	4.5大の黄色の砂、1.51以下以下の乳白色、金色、金色、灰白色。
35	118	E-2	漆	鉢口縁部	前方に向る横溝型文	前方に向る横円溝型文	極	極	良	好	桂や1.51以下の乳白色、黑、黑色透明白。
35	119	B-5	漆	鉢口縁部	口唇部裏に山形溝型文下位に前方に向る山形溝型文	前方角の山形溝型文	にぶい	黒	良	好	0.1以下が乳白色、0.1以下が乳白色の砂粒、2.1以下が金色の砂。
35	120	C-12	漆	鉢口縁部	横円溝型文	横円溝型文	良	黒	良	好	1-21程度の白、黄色、半透明。
35	121	B-5 I-8	漆	鉢口縁部	ナダ	前方に向る横円溝型文	ナダ	極	黒	良	3-41程度の半透明、乳白色。
35	122	H-6	漆	鉢口縁部	口唇部裏方向の横円溝型文下位に前方に向る横円溝型文	前方角に横円溝型文 前方角の横ナダ	にぶい	黒	にぶい	黒	黒緑-2.80の金色に光る砂粒、0.51-3.03の系色の砂粒、0.51-2.10の系色の砂粒。
35	123	H-10	漆	鉢口縁部	前方に向る横溝型文	裏方角の横円溝型文	にぶい	黒	良	好	3.01大の系色の砂、2.1以下が金色乳白色、系色、系色の砂。
35	124	D-11	漆	鉢口縁部	前方に向る横溝型文	裏方角の横円溝型文	極	極	良	好	0.2-3.0の半透明の砂粒と1.51以下の半透明、灰白色の砂。
35	125	B-5	漆	鉢口縁部	前方に向る横溝型文	前方角の横円溝型文	にぶい	黒	良	好	桂が2.1以下が系色、灰色、黑色の砂。
35	126	C-2	漆	リロ縁部	山形溝型文	前方角の山形溝型文	にぶい	黒	にぶい	良	3.01以下の灰白色の砂、2.1以下が金色に光る砂粒、2.1以下が乳白色的砂。
36	127	C-6	漆	鉢口縁部	横円溝型文	横円溝型文 ナダ	極	極	良	好	一概化物付青
36	128	C-4	漆	鉢口縁部	横ナダ	横円溝型文	極	極	良	0.3大の黄色白、黑色の砂、2.1以下が系色の砂。	
36	129	C-2 I-7	漆	鉢口縁部	横ナダ	横円溝型文 部分的にナダ通し	極	にぶい	黒	良	1.52以下が乳白色、系色の砂。
36	130	D-8	漆	鉢口縁部	横ナダ	横円溝型文	極	極	良	4.5大の黄色白、1.51以下が系色の砂。	
36	131	C-7	漆	鉢口縁部	横ナダ	ヘラ状工具による連續刻文	良	黒	良	1.03以下が乳白色の砂。	
36	132	C-8	漆	鉢口縁部	横ナダ	横円溝型文	にぶい	黒	良	2.20以下の灰白、金色、系色の砂。	
36	133	D-7 D-9	漆	鉢口縁部	ナダ	横円溝型文	明	黒	良	119以下の金色、灰白色、乳白色、系色の砂。	
36	134		漆	鉢口縁部	横ナダ	ヘラ状工具による連續刻文	明	良	0.51大の黄色白、2.1以下が乳白色。		

表 4 杉木原遺跡 繩文時代(早期)の遺物観察表(6)

図面番号	遺物番号	出土位置	器種	部位	文様及び調査		色調	焼成度	胎土	備考
					外 面	内 面				
36	135	H-5	井	口縁部	横十字 横円陣型文 上・工具か?	横内陣型文 横ナデ	にぶい赤褐色 赤褐色	3.0J以下の大波紋、波羅の紋、2.0J以下の 赤褐色、褐色の砂粒。	赤褐色	
36	136	L-2 L-6	井	井口縁部	口唇部横ナデ 横斜状山形押型文	横内陣型文 横方向山形押型文 横ナデ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	1.0J以下の大波紋、乳白色、灰色の紋。	赤褐色	
36	137	B-5	井	井口縁部	横ナデ 横方向の横円陣型文 ナデ	横内陣型文 横内陣型文 横ナデ	灰 赤 赤	3.0J以下の大波紋、乳白色、白色、黄色透明、灰 色の砂粒。	赤褐色 全体に火入 有	
36	138	D-6	深	井口縁部	口唇部横方向の横円陣型文 ナデの下部に新方向横円陣型文	横ナデ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	1-2J程度の薄く黄色、白色、半透明	赤褐色	
37	139	C-11 D-10 D-11	高	縫隙部	横内陣型文	斜-横方向ナズリ	暗 赤 黄褐色	2.0J以下の大波紋、褐色、金色の砂粒。	褐色	
37	140	B-1	深	縫隙部	横内陣型文	ナデ	暗 明 赤	0.5J以下の大乳白色、半透明色、黄色桂。	褐色	
37	141	G-6 H-7 H-6	高	縫隙部	横方向山形押型文	横ナデ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	1.0J以下の大波紋、黑褐色の砂粒、2.0J以下 の金色に光る砂粒、1.0J以下の大波紋が赤 色の砂粒。	赤褐色 深く黒茶	
37	142	G-7 H-9	深	縫隙部	横内陣型文	横ナデ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	1.0J程度の透明、0.5J以下の大黒色の砂 粒。	褐色	
37	143	B-3	高	縫隙部	横内陣型文	ナデ	灰 黄	2-4J程度の白色、1.0J程度の透明、半透 明白。	褐色	
37	144	G-8	深	縫隙部	横方向山形押型文	横ナデ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	3.0J以下の大波紋、褐色砂粒、2.0J以下 の黒褐色に光る砂粒、1.0J以下の大波紋以 下の黒に光る砂粒、1.0J以下の大乳色の砂粒。	赤褐色 一部炭化物 有	
37	145	K-8	林	縫隙部	横方向の山形押型文	ナデ	明 黄 暗	4.0J以上の白・灰色・米沢のらんの砂粒。	褐色 多孔穴	
37	146	G-6	高	縫隙部	横方向山形押型文	横ナデ 斜-斜方向に粗縞によるナデ	灰 黄	0.5J-4.0Jの黒褐色の砂粒、2.0J以下 の大波紋、黒で光る砂粒、1.0J以下の大波紋以 下の透明。	褐色	
37	147	D-8 E-7 E-9	深	縫隙部	横方向横円陣型文	ナズリ	明 暗	2.0J以下の大乳白色、褐色の砂粒。	褐色 黒褐色	
37	148	G-9	深	縫隙部	横方向横円陣型文	ナズリ	明 黄 暗 黄	2.0J以下の大乳白色、褐色の砂粒、2.0J以 下の金色砂粒。	褐色 一部火入 有	
37	149	C-3	林	縫隙部	横方向の横押型文	ナデ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	2.0J以上の大乳白色、半透明、赤褐色の砂 粒。	褐色	
37	150	F-5	林	縫隙部	横方向の横円陣型文	細ナデ	灰 黄	2.0J以下の大乳白色、乳白色の砂粒、1.0J以下 の大波紋。	褐色	
37	151	E-2 E-3	深	縫隙部	横内陣型文	斜方向ナズリ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	4.0J以上の乳白色、4.0J以下の大乳白色、黑 色の砂粒。	褐色	
37	152	H-9	高	縫隙部	横方向の横円陣型文	細ナデ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	1.0J以上の大乳白色、半透明、1-2J程度の黑 色、0.5J以下の大乳白色の砂粒。	褐色 深く黒茶	
38	153	F-6	林	縫隙部	横内陣型文	ナデ	暗	2.0J以上の乳白色、黑色の砂粒、2.0J以下 の大波紋。	褐色	
38	154	G-6	深	縫隙部	横内陣型文	細ナデ	灰 暗	2.0J以下の大乳白色、褐色の砂粒、2.0J以下 の透明。	褐色	
38	155	B-5 C-7	林	縫隙部	横方向の横円陣型文	ナズリ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	3.0J以上の黒褐色、灰白色の砂粒。	褐色 深黒	
38	156	E-10	林	縫隙部	横内陣型文	ナズリ	暗 にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	3.0J以下の大乳白色の砂粒、1.0J以下的大乳 白色の砂粒。	褐色 點十一つな 所あり	
38	157	B-9	深	縫隙部	横内陣型文	不明	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	0.5J以下の大乳白色の砂粒、2.0J以下の大乳 白色の砂粒。	褐色	
38	158	C-6	林	縫隙部	横内陣型文	ナズリ	暗 にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	3.0J以下の大乳白色の砂粒、3.0J以下の大乳 白色の砂粒。	褐色	
38	159	D-6	高	縫隙部	横内陣型文	ナズリ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	3.2J以下の大乳白色、褐色、深褐色の砂粒、 1.0J以下の大乳白色の砂粒。	褐色	
38	160	F-6	深	縫隙部	横内陣型文	不明	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	3.0J以下の大乳白色の砂粒、2.0J以下の大乳 白色に光る砂粒。	褐色	
38	161	C-6 D-7	林	縫隙部	横内陣型文	細ナデ	暗 灰 暗	2.0J以下の大乳白色的砂粒、半透明、褐色、金 色の光沢。	褐色	
38	162	E-6	高	縫隙部	横内陣型文	ナズリ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	2.0J以下の大乳白色的砂粒。	褐色	

表 4 杉木原遺跡 繩文時代(早期)の遺物断縫表(7)

図面番号	遺物番号	出土位置	器種	部位	文様及び調整		色調		焼成	胎土	備考
					外 面	内 面	外 面	内 面			
38	E-6 163	井 P-6	鉢	直 筒	横円筒型文 丁寧なナデ	ナデ	にぬい黄褐色	灰 青 黄 褐 青	120以下の中透明、黄褐色の砂粒、黒、金色の雜 色。		
38	E-3 164	井 P-7	鉢	筒底 削	横円筒型弦文	ナデ	にぬい黄褐色	黑 青 黄 褐 青	120以下の乳白色、黑色の無縫接。		
38	E-11 165	井 P-11	鉢	筒底 削	横円筒型山形弦文	横ナデ	にぬい黄褐色	黑 青 黄 褐 青	120以下の乳白色、150以下軟質黄色 砂粒、220以下黒く光沢の砂粒、0.52φ-2.5 2.5以上色砂粒、650以下白色砂粒。		
38	D-6 166	井 P-12	鉢	筒底 削	横円筒型の沈文	ナデ	にぬい黄褐色	良 好	120以下の乳白色の砂、210以下の黑色の 砂。		
38	E-9 167	井 P-9	鉢	筒底 削	横円筒型文	ナデ	にぬい黄褐色	青 黄 青 黄 青	1-2.5mm程度の青白、黃金色、2-3.5mm程度 の灰、半透明白。		
38	D-5 168	井 P-13	鉢	筒底 削	山形弦文	ナデ	にぬい黄褐色	青 黄 青 黄 青	120以下の灰白、黑色。		
39	G-5 K-9 169	井 P-14	口縁鉢	口縁鉢	口唇部ナデ下に沈文	横ナデ	にぬい黄褐色	青 黄 青 黄 青	220以下の光る黑色。	灰帶	
39	I-9 170	井 P-15	口縁鉢	口縁鉢	口唇部丁寧なナデ下に沈文	丁寧なナデ	被 被	良 好	120以下の光る黑色。	灰帶	
39	E-8 171	井 P-16	口縁鉢	口縁鉢	口唇部ナデ下に沈文	横ナデ	被 被	良 好	黑色、灰色、褐色、乳白色0.5mm以下砂粒 付の黒色、黄褐色、ガラス質の透明火炎粒 及0.5mm-2mmの赤褐色。	灰帶	
39	B-4 C-4 C-5 K-7 172	井 P-17	口縁鉢	口縁鉢	口唇部から底に亘る沈文 其の下は下位の横方向の沈文	所位 所位ナデ	にぬい黄褐色	青 黄 青 黄 青	黒色-1.8mmのガラス質の砂粒、0.22φ- 2.3mmの砂粒。	灰帶	
39	D-9 173	井 P-18	口縁鉢	口縁鉢	口唇部-2周で片による崩 状の跡と下位の横ナデその下 に沈文	横ナデ	にぬい黄褐色	青 黄 青 黄 青	220以下のガラス質の砂、220以下の柱状 灰色火炎粒。	灰帶	
39	C-4 C-5 174	井 P-19	口縁鉢	口縁鉢	口唇部-2周工具による崩 状の跡と下位の横ナデ上に横 方向の小沈文	横ナデ	にぬい黄褐色	青 黄 青 黄 青	黒色-1.0mmのガラス質の光る砂粒、0.22φ- 2.0mmの灰白色火炎粒。	灰帶	
39		井 P-20	ヘラ工具	ヘラ工具	ヘラ工具上に崩状の跡と 其の下に横ナデ	丁寧なナデ	にぬい黄褐色	青 黄 青 黄 青	0.2mm以上の黒色の火炎粒、1.8mm以下の灰 白、淡黄色、黒く光る砂粒。	灰帶	砂目
39	A-1 D-6 D-1 H-7 176	井 P-21	口縁鉢	口縁鉢	口唇部横折の跡と口縫折 方向の小沈文その下位に一 列崩状の跡と火炎粒付沈文	横ナデ	にぬい黄褐色	青 黄 青 黄 青	1.5mm以下の柱状の透明火炎粒、1.5mm以 下の黒く光る、無色透明で光る砂粒。	灰帶	
39	A-1 177	井 P-22	口縁鉢	口縁鉢	口唇部横折の跡と火炎粒 その下位に横方向沈文	丁寧なナデ	にぬい黄褐色	青 黄 青 黄 青	1.5mm以下の柱状の透明火炎粒、1.5mm以 下の黒く光る、無色透明で光る砂粒。	灰帶	
39	A-3 B-3 178	井 P-23	口縁鉢	口縁鉢	口唇部横折の跡と火炎粒 その下位に横方向沈文	ナデ	被 被	良 好	SSU以下の灰褐色の砂、220以下の柱状 灰色火炎粒。	灰帶	
39	D-7 179	井 P-24	口縁鉢	口縁鉢	口唇部横折の跡と火炎粒 横方向に施す火炎粒下に横 工具による崩状の跡と火炎 粒	横ナデ	被 被	良 好	320以下の灰白色の砂、220以下の黑色的 火炎粒、200以下の柱状黑色火炎粒。	灰帶	中央に火炎 粒付者
39	D-8 180	井 P-25	口縁鉢	口縁鉢	横ナデ	横ナデ	にぬい黄褐色	青 黄 青 黄 青	220以下の柱状黑色火炎粒、220以下のガ ラス質の砂。	灰帶	
39	D-4 181	井 P-26	口縁鉢	口縁鉢	横ナデ	横ナデ	にぬい黄褐色	青 黄 青 黄 青	0.12φ-1.2mmの柱状の砂粒。	灰帶-ねじ みの内 部スリッ バク者	
40	D-4 D-5 H-6 182	井 P-27	鉢	横	横方向の沈文 横方向の横折火炎粒文	横ナデ	にぬい黄褐色	青 黄 青 黄 青	120以下の白、黒の砂粒。	灰帶	
40	H-10 183	井 P-28	鉢	横	横方向の花瓶-横ナデ 横方向の管状の横折火炎 粒文	横ナデ	にぬい黄褐色	青 黄 青 黄 青	0.12φ-1.2mmの灰白色の砂粒、無色-1.2mm のガラス質の砂粒。	灰帶-一部スリッ バク者	
40	C-4 184	井 P-29	鉢	横	横方向の横折火炎粒文 横方向の沈文	ナデ	被 被	良 好	220以下の柱状黑色火炎粒、220以下のガ ラス質の砂。	灰帶	
40	B-1 B-4 185	井 P-30	鉢	横	横方向の通縫通底文 横方向の沈文	ナデ	にぬい黄褐色	青 黄 青 黄 青	0.12φ-1.2mmの灰白色の砂粒、0.32φ-0.8 mmのガラス質の砂。	灰帶	
40	A-1 I-4 186	井 P-31	鉢	横	横方向の通縫通底文 横方向の沈文	横ナデ	にぬい黄褐色	青 黄 青 黄 青	1.2mm以下の通縫通底文の砂粒、2.5mm以下 の無色透明の砂粒、0.32φ-0.8mmのガラ ス質の砂。	X	
40	C-6 G-7 187	井 P-32	鉢	横	横方向の通縫通底文 横方向の沈文	角み ナデ	被 被	良 好	220以下のガラス質の砂粒、1.5mm以下の黑色 火炎粒。	X	
40	P-6 188	井 P-33	鉢	横	横方向横向開口又は位子 位子	横方向横向開口又 文	にぬい黄褐色	青 黄 青 黄 青	120以下の乳白色の砂。	X	
40	B-1 C-2 189	井 P-34	鉢	横	口縁部に具による通縫通底文 火炎ナデ	火炎ナデ	にぬい黄褐色	青 黄 青 黄 青	220以下の乳白色の砂粒、1.8mm以下の通 縫通底文。	X	
40	B-6 K-7 190	井 P-35	鉢	横	口縫通底文 火炎ナデ	火炎ナデ	青 黄 青 黄 青	120以下の乳白色の砂粒、1.5mm以下の通 縫通底文。	X		

表 4 杉木原遺跡 繩文時代(早期)の遺物觀察表(8)

国宝 番号	遺物 番号	出土位置	器種	部位	文様及び圖案		色調		焼成	胎土	備考
					外面	内面	外面	内面			
40	191	床 井戸縁部	テグ	ナダ	テグ上部に水平に押したよ シナダ		青 黄	青 黄	良 好	10以下の中状黒色灰の胎。	X
40	192	床 井戸縁部	テグ	ナダ	口縁部ナダ下に板方向 の波文	板方向の長いヘラシガキ 板方向の長いヘラシガキ	切 にぶい	黄褐色 黄	良 好	10以下の中状黒色灰の胎、10以下の中状 灰で光る。	X
40	193	床 井戸縁部	テグ	ナダ	口縁部ナダ下に板方向の 波文	板方向のカタリ状ナダ	にぶい	黄褐色 黄	良 好	10以下の中状灰、白色灰、灰色灰、1.5cm 以下の金色、光沢灰と透ガラス胎の組。	X 一部火付 有
40	194	床 井戸縁部	テグ	ナダ	横状工具による板方向の 波文ナダ	横状工具による板方向の金 銀文ナダ	良	黄褐色 黄	良 好	20以下のがラス質の。	X
40	195	床 井戸縁部	テグ	ナダ	横状工具によるナダ 板方向の波文和文字	横ナダ	にぶい	黄褐色 黄	良 好	0.5cm-1.1cmの灰白色の砂粒、表面-0.8cm の黒灰色の砂粒。	X
40	196	井 井戸縁部	テグ	ナダ	横状工具による板方向波文 和文字	横ナダ	にぶい	板 にぶい	黄褐色 黄	20以下の中状灰。	X
40	197	床 井戸縁部	テグ	ナダ	ナダ	にぶい黄褐色にぶい黄褐色	良	良	良	無鉛-2.5cmの白色の砂粒、無鉛-0.5cm の黒色に光る。	X
41	198	床 井戸縁部	テグ	ナダ	ナダ(裏腹あり)		明 黄	青 黄	良 好	20以下の中状灰の胎、20以下の中状 灰、20以下のがラス質の。	一部火付 有 裏腹あり
41	199	床 井戸縁部	テグ	ナダ	ナダ	ナダ	にぶい	板 にぶい	黄褐色 黄	20以下の中状灰。	
41	200	床 井戸縁部	テグ	ナダ	板方向の丁寧なナダかき	長いナダ	にぶい 黄褐色 板	青 黄褐色 板	良 好	10以下の中状灰、3.5cm-12cmガラス質、 3.5cm以下の中状灰、3.5cm以下の中状灰、 1.5cm以下に板方向の光る。	
41	201	床 井戸縁部	テグ	ナダ	丁寧なナダ	ナダ	にぶい	板 板	良 好	10以下の中状灰白色の砂粒、10以下の中状 灰白色の砂粒、10以下の中状灰白色の砂粒、 10以下の中状灰白色の砂粒。	
41	202	床 井戸縁部	テグ	ナダ	丁寧なナダ	板 板	青 板	青 板	良 好	10以下のがラス質の砂粒、10以下の中状 灰白色、黒。	
41	203	床 井戸縁部	テグ	ナダ	ナダ	にぶい	板 板	青 板	良 好	2.5cm以下の中状灰。	
41	204	床 井戸縁部	テグ	ナダ	ナダ	にぶい黄褐色にぶい黄褐色	良	良	良	20以下の中状灰、白色、黑色、赤紫色、光る黒色、 20以下の中状灰。	一部火付 有
41	205	床 井戸縁部	テグ	不規	不規	板 板	板 板	板 板	板 板	2.5cm以下の中状灰、生成色の砂粒、1.5cm以 下の中状灰、光る黒色の砂粒。	
41	206	床 井戸縁部	テグ	ナダ	横状工具によるナダカリ	不明	板 板	板 板	板 板	2.5cm以下の中状灰白色に板白色、白色に光る 砂粒、2.5cm以下の中状灰黄色の砂粒。	無鉛火付 有 上部 火付 有
41	207	床 井戸縁部	テグ	ナダ	ナダ	ナダ	板 板	板 板	板 板	10以下の中状灰。	一部火付 有
41	208	床 井戸縁部	テグ	ナダ	板方向の垂直あり	ナダ	板 板	板 板	板 板	20以下の中状灰白色の砂粒、1.5cmの無鉛色の 砂粒。	
41	209	床 井戸縁部	テグ	ナダ	ナダ・指押さえ無あり	ナダ	にぶい	板 板	良 好	20以下の中状灰、白色、黑色の砂粒。	
41	210	床 井戸縁部	テグ	ナダ	ナダ・指押さえ無あり	ナダ・指押さえ無あり	にぶい	板 板	良 好	20以下の中状灰。	

註 土器の色調については、標準土色帳によるが色相明度/彩度については省略した。

があり、その下位に縦方向に楕円押型文が施文されている。内面は無文である。70は外面に横方向の山形押型文を施文し、内面は無文で一部斜方向の指頭によるナデが見られる。71は外面は縦方向、内面端部に横方向の粗大で密な楕円押型文が施文されている。72は外面・内面とも楕円押型文で、外面上部に無文帯がある。口唇部にも横方向の楕円押型文がある。73は内面が無文の楕円押型文土器で風化が激しい。

VII b類

口縁部が外反し内面の施文帯の下部はナデ調整の土器。口縁部内面上部の文様の特色よりⅡ b 1・Ⅱ b 2の2類に分けた。

VII b 1類 (第32図-74~80)

口縁内面端部に原体条痕（平行沈線文）があるものをいう。口縁外面端部に幅の狭い無文帯があるもの（74・75・76・78・79・80）が多い。また、押型文土器では珍しい波状口縁の土器がある（75・76）。おそらく器形の特色から（74）も同じといえる。口唇部は舌状のものが多く（75・78・79・80）、器壁もうすい。内面の原体条痕は、口縁内面端部に縦に同じ太さの原体で1列施文しているもの（74・75・76）、口唇部内面端部から口縁内面端部にかけて2列原体を施文しているもの（78・79・80）、太さの違う原体で口縁内面端部に平行押型文を施文しているもの（77）がある。また、（78・79・80）は原体条痕の下部は無文であり、それ以外は横方向の押型文が施文されている。

VII b 2類 (第33図-81~99) (第34図-100~106)

口縁内面端部に原体条痕（平行沈線文）がないものをいう。外面が縦方向の押型文で、内面は口縁端部に幅の狭い横方向の押型文が施文されているタイプ（81~89）、外面が斜方向の押型文で、内面は口縁端部に幅の狭い横方向の押型文が施文されているタイプ（90~92）、外面が斜方向の押型文で、内面は口縁端部に幅の広い横方向の押型文が施文されているタイプ（93~99）、口唇部がナデで穿孔のあるタイプ（100）、外面が無文のタイプ（101~103）、外面・内面とも横方向の押型文のタイプ（104~105）、外面が横方向の押型文、内面が無文のタイプ（106）がある。口唇部は100・106がナデの他は横方向の押型文が施文されている。また、83は口径18cmの深鉢で波状口縁である。

VII c類

この遺跡の押型文土器のなかで注目すべき土器群である。口縁部が外反し、口縁内面端部の施文帯と無文帯の境がケズリによって稜をなすものをいう。施文の特徴からVII c 1・VII c 2・VII c 3の3つに分類した。

VII c 1類 (第34図-107~110)

口唇部に刻みや押圧文のあるタイプ。外面は縦方向の楕円押型文、内面は横方向の楕円押型文で口唇部に縦方向の原体条痕（平行沈線文）があるタイプ（107）、外面は縦方向の山形押型文、内面は横方向の山形押型文、口唇部に斜方向の押圧文があるタイプ（108~110）がある。

VII c 2類 (第34図-111~112) (第35図-113~126)

外面・内面に押型文が施文され、口唇部は平縁で外傾し厚みのあるタイプ（111~120）、

口唇部が舌状になっているタイプ（121～126）がある。

VIIIc 3類（第36図-127～138）

外面の押型文の施文が帯状に鋸歯状・斜方向・横方向に施文されており（127～136）、口縁内面端部にヘラ状工具による刺突文（128・130・131・134）があるタイプのものがある。また、137は、波状口縁で外面の風化が激しく文様が明確でないが、特殊なタイプということでこの類に入れた。138も同様でくの字形口縁の特徴でこの類に入れた。

VIII類胸部（第37図-139～152）

VIII類底部（第38図-153～168）

（168）は潰れたような歪な形の丸底であり、それ以外はすべて平底である。

IX類（第39図-169～181）（第40図-182～185）

器形は円筒形の胸部のうえに「く」の字状に口縁部が外反する。口唇部にはヘラ状工具による斜方向や羽状の刻みがある。口縁部・胸部に横方向の浅い沈線文が巡らされ、縦方向の網目状撚糸文や撚糸文が施文されている（172～185）。また、壺形土器もあり（169～171）口縁部に横方向沈線や横方向沈線と半円つなぎ文が巡らされている。

X類（第40図-186～197）

これまでに分類したもの以外に時期や類別の判別が困難なものをこの類に集めた。186は口縁部が外反し肥厚化している。外面・内面端部・口唇部に縦・横規則的に並んだ突起物を有する工具で斜方向に回転施文したものである。187は口縁部が外反し口唇部は外傾し、やや深い押圧刻みがあり口縁内面上端にヘラ状工具による不揃いの横方向の刺突文がある。外面は、横ナデの無文である。188は口縁部が外反し口唇部は外傾し横方向の刻みがあり、口縁内面上端に原体条痕（平行沈線文）が二列巡らされている。外面は無文でナデ調整である。189は円筒形の無文土器であるが、口唇部は外傾し工具による連続刺突文がある。調整が粗雑で口唇外面端部がところどころせりだしている。190は器形が円筒形で口縁上部は肥厚化している。外面には条痕文が施文され口縁上部に竹管状工具による連続刺突文がある。内面は横ナデである。191は無文土器である。口唇外面端部の下位に爪で押圧した跡がある。192は円筒形の撚糸文系土器である。口縁外面端部に幅の狭い無文帯がある。193は無文土器である。外面は横方向のヘラ磨きである。194は円筒形の土器で波状口縁である。口縁部上端が肥厚している。口唇部から口縁部内面上端にかけて櫛歯状工具による横方向の条痕文がある。外面は無文である。195は外面に櫛歯状工具による斜方向の連続刺突文がある。196は外面に櫛歯状工具による縦方向の条痕文の後に横方向の沈線文を施文している。197は外面に貝殻腹縁でロッキングしながら刺突文を施文している。

底部（第41図-198～210）

（205）は上げ底である。それ以外は平底である。（209・210）には指頭痕がある。（210）はミニチュア土器である。

石器

杉木原遺跡での早期の石器の総数は630点を数える。内訳は石鎌が120点・スクレイバーが32点・磨石79点・タタキ石43点・凹石2点・石皿8点・縦長剥片13点・剥片等（チップも

含む。) が 333 点ほど出土している。出土層位は、IV 層から V 層上部である。また、この層と同じ層から集石遺構 42 基を検出しており、本遺跡の主要包含層でもある。この集石遺構の時期差については、集石遺構内の遺物が乏しく層的に同じ層で検出されたので、特定できなかった。

石鏃 (第 44~46 図)

杉木原遺跡から出土した石鏃の総数は 120 点である。石器組成に占める割合は 19 % である。ここでは形態等を考慮し、4 類に分類した。

I-a 類 (1~5)

二等辺三角形を呈する平基のものである。資料数は、12 点でそのうち 5 点を実測している。形状では、2~5 のように左右対称をなすものと、1 のように左右対称をなさずやや右上がりに作りだされたものがある。

I-b 類 (6~12)

全体形が二等辺三角形を呈する浅い抉りの凹基のものである。資料数は 19 点でそのうち 7 点を実測している。形状では、最大幅が石器の基部にあるもの (6~11) とやや基部の上にあるものがある。(12)

I-c 類 (13~21)

全体形が二等辺三角形を呈する U 字状の抉りの凹基である。資料数は 18 点でそのうち 9 点を実測している。形状では基部末端が平坦のもの (14~15·16·17) 基部末端がやや尖るもの (18) 基部末端が丸みを持つもの (13·19~21) などがある。

I-d 類 (22~23)

全体形が二等辺三角形を呈する V 字状の抉りをもつ凹基である。資料数は 2 点である。形状は、22 は全体的に小さく V 字状に抉りを施して基部を作り出している。23 は 22 よりも抉りがやや深い。

II-a 類 (24~27)

全体形が正三角形を呈する平基のものである。資料数は 14 点でそのうち 4 点を実測している。形状は両側縁とも直線的に作り出されているが急速にすぼまる形でつくりだされている。また、25·26 は、先端部が欠損している。

II-b 類 (28)

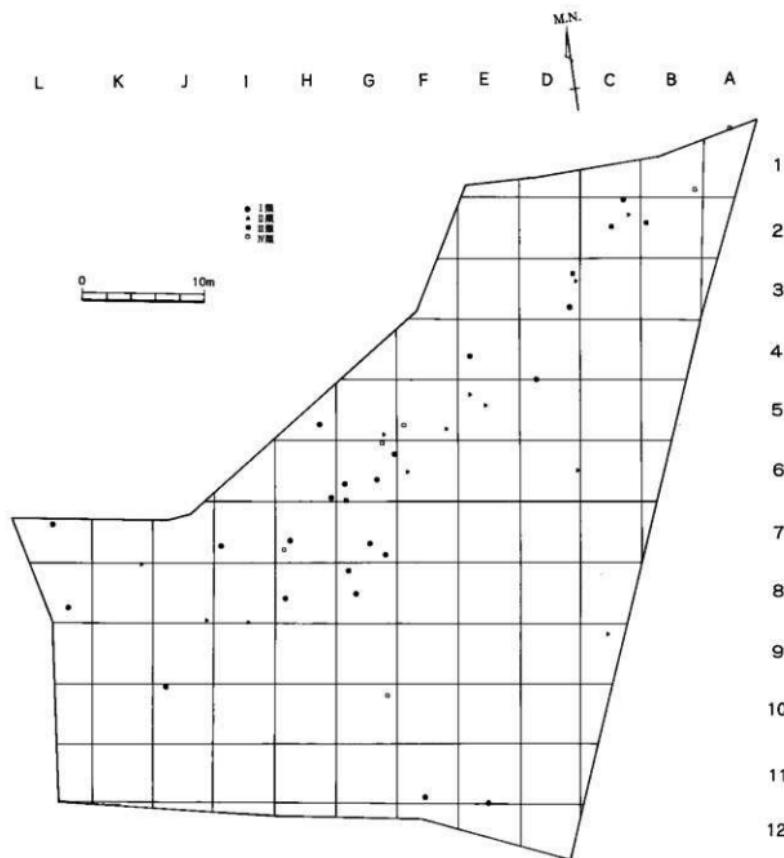
全体形が正三角形を呈する浅い抉りの凹基である。資料数は、5 点でそのうち 1 点を実測した。形状は基部の先端が丸みを持っている。

II-c 類 (29~35)

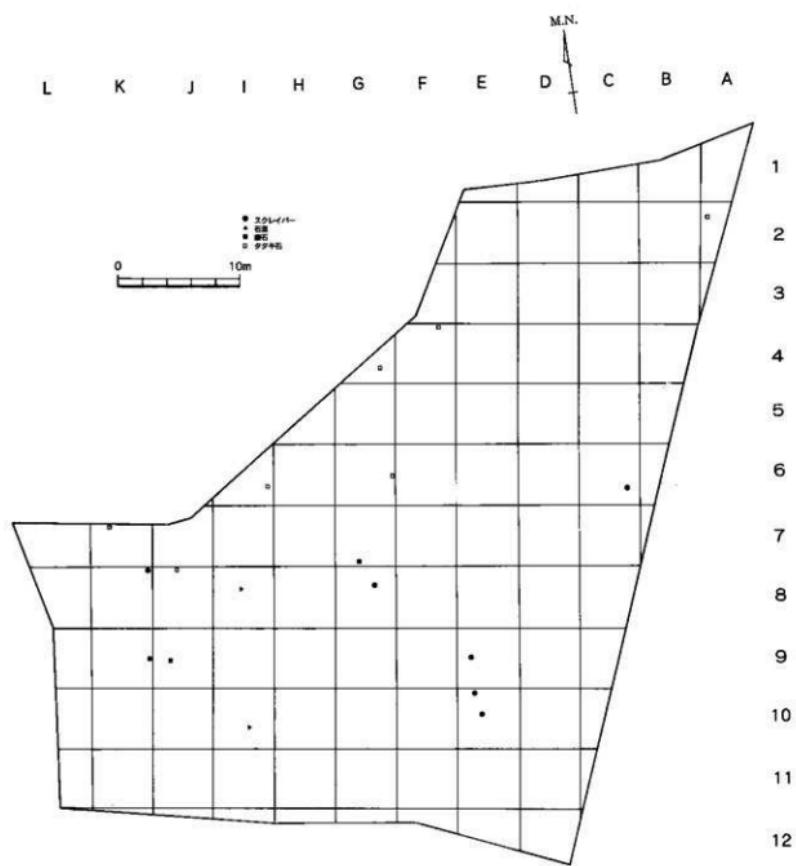
全体形が正三角形を呈する U 字状に抉りをもつ凹基である。資料数は、12 点でそのうち 7 点を実測している。形状は、基部末端が平坦なもの (29·30)・基部末端が丸みをもつもの (31~35) などがある。

II-d 類 (36~37)

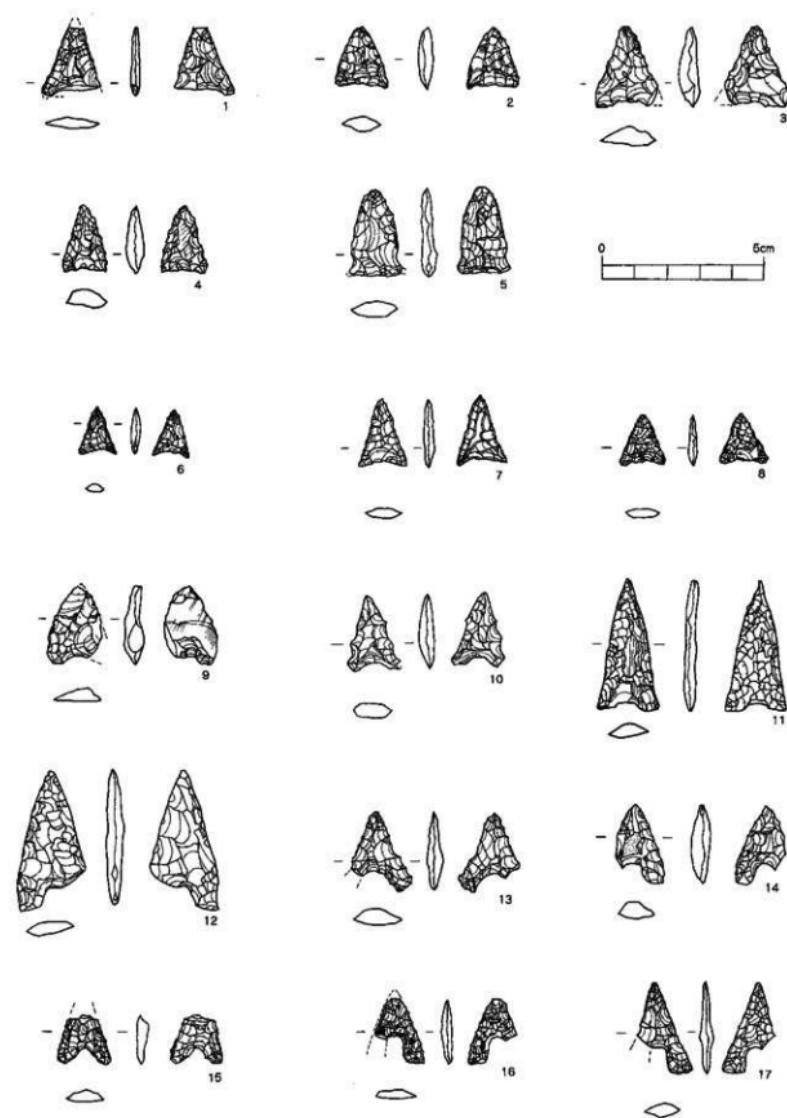
全体形が正三角形を呈する V 字状に抉りを持つ凹基である。資料数は、2 点である。形状は 36·37 の基部末端が平坦である。



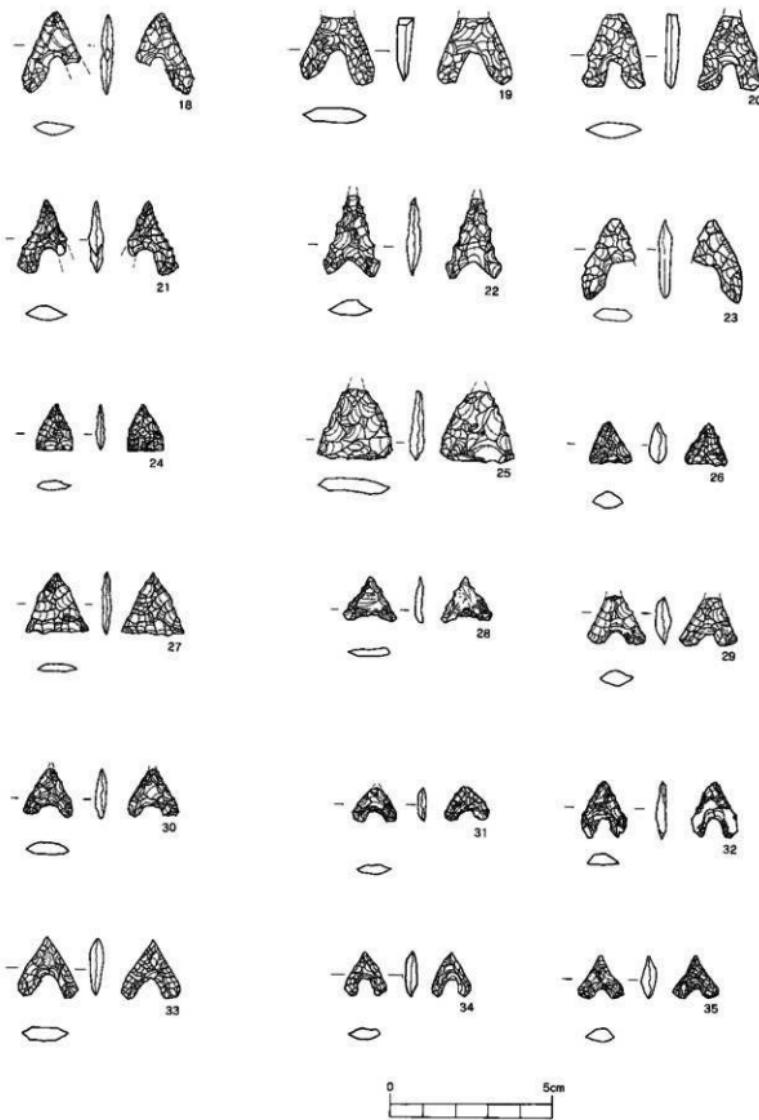
第42図 杉木原遺跡 純文石器分布図 (1/400)



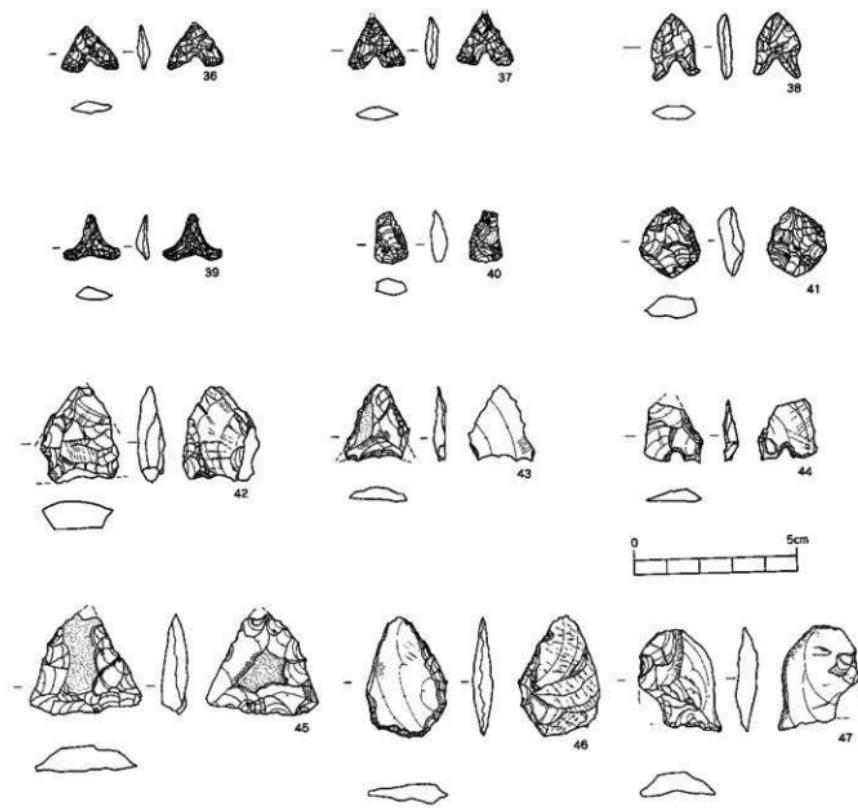
第43図 杉木原遺跡 繩文石器分布図 (1/400)



第44図 杉木原遺跡 織文石器実測図(1) (2/3)



第45図 杉木原遺跡 繩文石器実測図(2) (2/3)



第46図 杉木原遺跡 繩文石器実測図(3)(2/3)

III類一異形錐に属するもの。(38~39)

全体形が1・2類に分類した二等辺三角形や正三角形を呈さない、異形のものである。38は、最大幅が中央にあるもので基部末端が尖っている。39は、基部先端が外半しているのが特徴である。資料数は2点である。

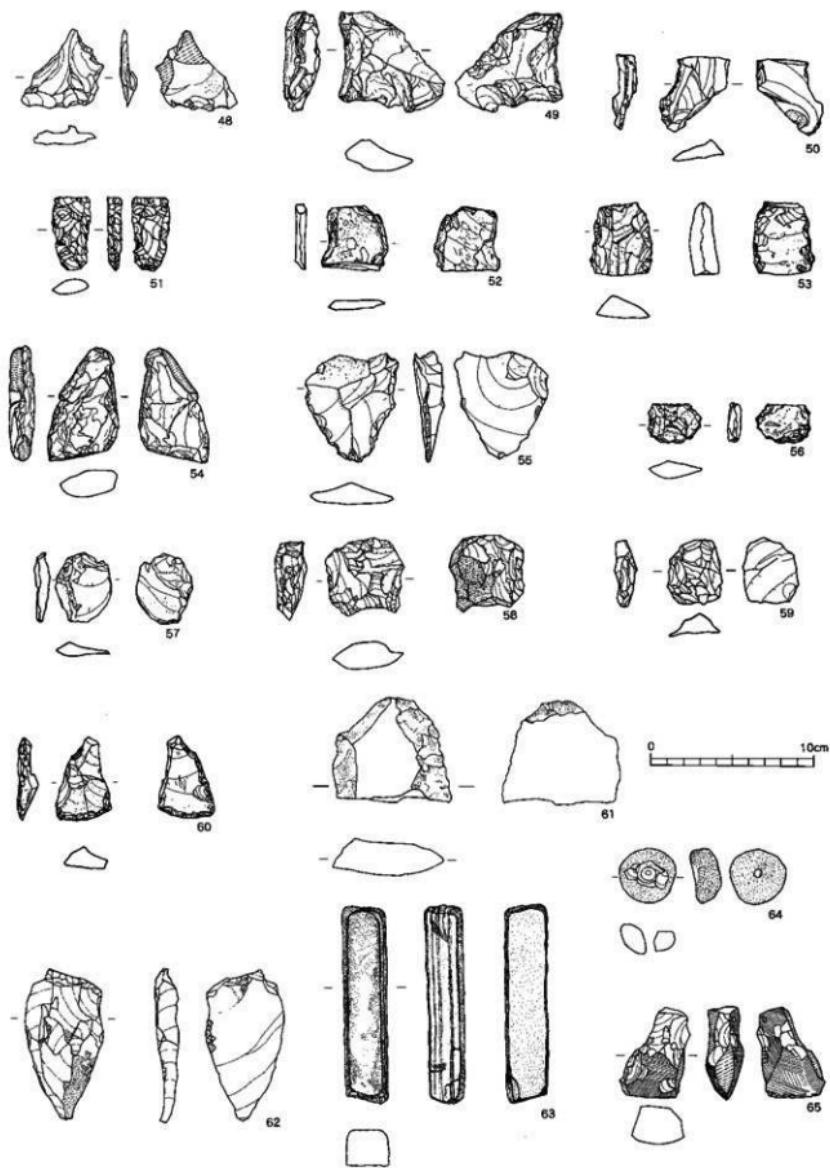
IV類一未製品に属するもの(40~47)

未製品を一括してIV類とした。資料数は、34点である。そのうち8点を実測した。

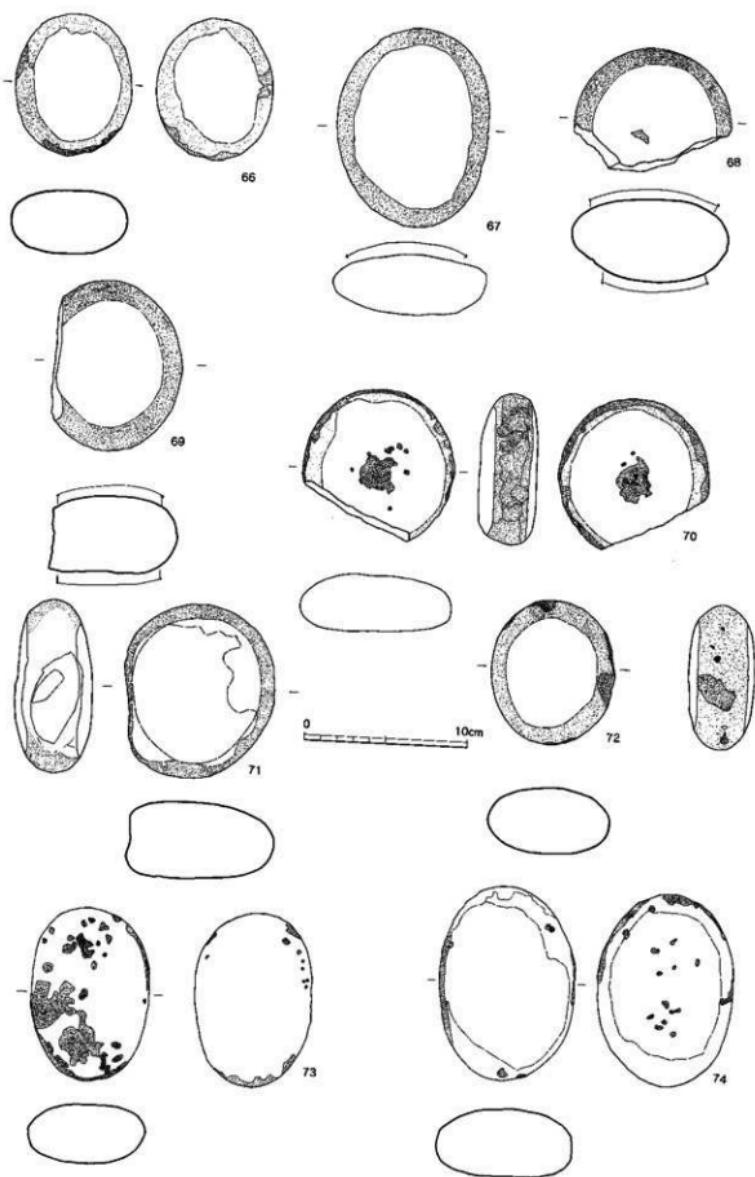
スクレイパー(第47図48~61)

早期のスクレイパーは、全部で32点検出している。そのうち14点ほど実測した。その石器組成に占める割合は5%であった。ここでは、形態等を考慮し三類に分類した。

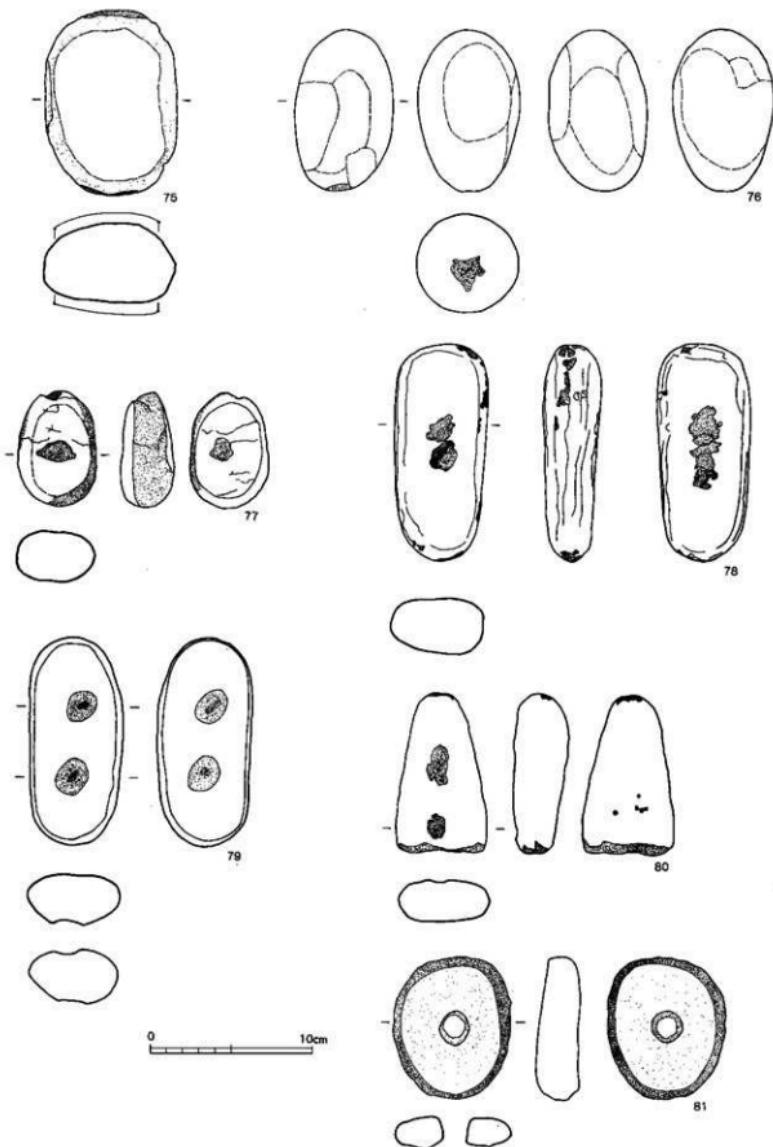
I類一剥片の側縁に、縁辺が長さの二分の一以上に連続的な調整によって刃部を作り出したもの。(48~55) 総数19



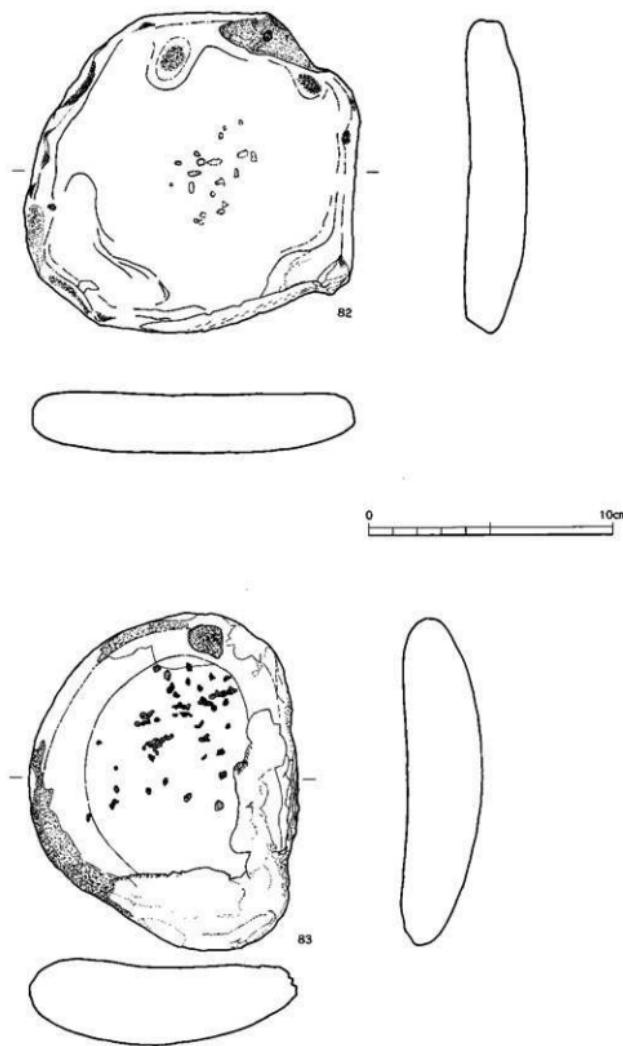
第47図 杉木原遺跡 漢文石器実測図(4)



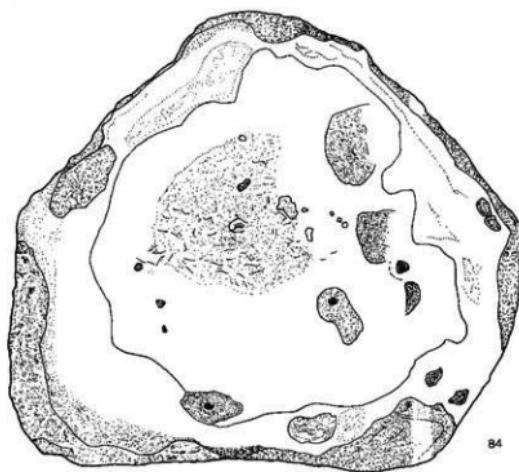
第48図 杉木原遺跡 繩文石器実測図(5)



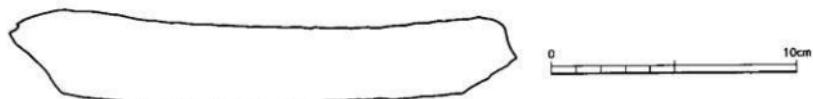
第49図 杉木原遺跡 繩文石器実測図(6)



第50図 杉木原遺跡 繩文石器実測図(7)(1/3)

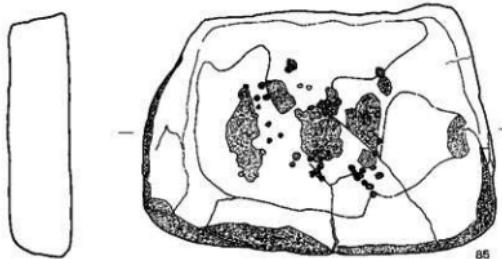


84



0

10cm



85



第51図 杉木原遺跡 繪文石器実測図(8)(2/3)

表 5 杉木原遺跡 織文石器計測表(1)

回面番号	遺物番号	出土位置	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	備考
44	1	G-6	石鏃	2.605	1.796	0.286	0.8	頁岩	I-a
44	2	D-3	石鏃	1.904	1.599	0.454	0.9	黒曜石	I-a
44	3	H-6	石鏃	24.300	19.550	5.900	1.9	頁岩	I-a
44	4	G-6	石鏃	2.056	1.386	5.300	1.3	頁岩	I-a
44	5	C-2	石鏃	2.682	1.508	0.462	1.9	チャート	I-a
44	6	H-7	石鏃	1.424	1.136	0.275	0.3	黒曜石	I-b
44	7	L-8	石鏃	2.101	1.525	5.300	1.3	頁岩	I-b
44	8	G-7	石鏃	1.150	1.474	0.282	0.4	黒曜石	I-b
44	9	K-8	石鏃	2.393	1.800	0.624	2.1	チャート	I-b
44	10	C-2	石鏃	2.424	1.658	0.442	1.1	頁岩	I-b
44	11	G-7	局部磨製石鏃	4.020	1.940	0.470	2.8	頁岩	I-b
44	12	F-9	石鏃	4.294	1.828	0.452	2.5	頁岩	I-b
44	13	G-8	石鏃	2.415	1.853	0.469	1.1	黒曜石	I-c
44	14	D-4	石鏃	2.404	1.322	0.573	1.4	頁岩	I-c
44	15	E-3	石鏃	1.508	1.623	0.348	0.5	黒曜石	I-c
44	16	H-5	石鏃	1.950	1.250	0.350	0.7	チャート	I-c
44	17	G-7	石鏃	2.793	1.178	0.409	0.9	チャート	I-c
44	18	H-8	石鏃	2.478	1.746	0.331	0.8	黒曜石	I-c
45	19	G-6	石鏃	2.176	2.246	0.455	1.7	チャート	I-c
45	20	E-11	石鏃	2.209	1.234	0.406	1.4	チャート	I-c
45	21	J-10	石鏃	2.208	1.385	0.431	0.8	チャート	I-c
45	22	G-8	石鏃	2.435	1.658	0.442	1.1	頁岩	I-d
45	23	I-7	石鏃	2.637	1.315	0.343	0.8	黒曜石	I-d
45	24	一括	石鏃	1.391	1.120	0.228	0.2	黒曜石	II-a
45	25	C-2	石鏃	1.893	1.869	0.264	0.6	黒曜石	II-a
45	26	D-3	石鏃	1.281	1.290	0.501	0.5	頁岩	II-a
45	27	G-5	石鏃	1.424	1.789	0.485	0.8	頁岩	II-a
45	28	J-8	石鏃	2.181	2.274	0.442	2.2	頁岩	II-b
45	29	B-2	石鏃	1.400	1.600	0.200	0.4	黒曜石	II-c
45	30	D-6	石鏃	1.502	1.519	0.318	0.5	頁岩	II-c
45	31	E-5	石鏃	1.010	1.332	0.224	0.2	頁岩	II-c
45	32	F-11	石鏃	1.712	1.352	0.303	0.4	黒曜石	II-c
45	33	L-7	石鏃	1.856	1.773	0.354	0.6	黒曜石	II-c
45	34	I-9	石鏃	1.422	1.234	0.424	0.4	黒曜石	II-c
45	35	F-6	石鏃	1.320	1.405	0.424	0.4	黒曜石	II-c
46	36	E-5	石鏃	1.608	1.734	0.341	0.6	黒曜石	II-d
46	37	C-9	石鏃	1.388	1.755	0.351	0.5	黒曜石	II-d
46	38	G-6	石鏃	1.980	1.528	0.365	0.9	チャート	III
46	39	D-3	石鏃	1.377	1.765	0.362	0.4	黒曜石	III
46	40	G-6	石鏃	1.544	1.011	0.455	0.6	黒曜石	IV
46	41	F-10	石鏃	2.082	1.834	0.620	2.1	黒曜石	IV
46	42	H-7	石鏃	2.889	2.288	0.818	5.5	頁岩	IV
46	43	F-8	石鏃	2.323	1.825	0.361	1.5	頁岩	IV
46	44	B-1	石鏃	1.875	1.748	0.374	1.0	チャート	IV
46	45	F-5	石鏃	2.840	3.400	0.744	7.4	頁岩	IV
46	46	A-1	石鏃	3.685	2.449	0.600	4.6	頁岩	IV
46	47	F-5	石鏃	3.128	2.312	0.577	4.0	頁岩	IV
47	48	A-2	スクレイバー	4.698	5.405	1.052	14.8	頁岩	I
47	49	F-9	スクレイバー	5.500	6.300	2.000	67.8	頁岩	I

表 5 杉木原遺跡 説文石器測定表(2)

図面番号	遺物番号	出土位置	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	備考
47	50	E-10	スクレイバー	4.500	3.200	1.100	18.2	頁岩	I
47	51	B-2	スクレイバー	4.446	2.438	0.821	10.4	珪質岩	I
47	52	K-8	スクレイバー	2.400	3.200	1.100	8.1	流紋岩	I
47	53	E-10	スクレイバー	6.400	5.300	1.400	46.3	頁岩	I
47	54	H-7	スクレイバー	3.306	3.555	1.295	20.7	頁岩	I
47	55	J-7	スクレイバー	4.300	3.500	0.800	9.9	頁岩	I
47	56	J-8	スクレイバー	6.500	4.200	1.500	54.0	頁岩	II
47	57	C-6	スクレイバー	4.160	3.933	1.174	14.0	頁岩	II
47	58	G-7	スクレイバー	5.200	1.200	3.400	15.2	頁岩	II
47	59	E-9	スクレイバー	4.400	3.800	1.300	30.2	頁岩	II
47	60	G-7	スクレイバー	4.000	3.800	0.600	15.4	頁岩	II
47	61	J-7	スクレイバー	6.400	7.000	2.000	128.6	砂岩	III
47	62	G-7	縦長洞片	9.175	4.820	0.941	47.9	凝灰岩	
47	63	I-6	砥石	12.193	2.662	2.333	162.9	砂岩	
47	64	一括	有孔石器	3.446	1.862	1.862	23.5	砂岩	
47	65	C-10	局部磨削石斧	6.002	3.723	2.192	46.3	砂岩	
48	66	J-9	磨石	8.780	7.180	3.920	357.0	砂岩	
48	67	G-7	磨石	12.300	9.400	3.700	584.3	砂岩	
48	68	G-4	磨石	7.650	9.700	5.100	515.4	砂岩	
48	69	一括	磨石	10.520	7.790	4.700	574.4	砂岩	
48	70	A-2	磨石	9.300	9.300	3.550	409.3	砂岩	
48	71	F-5	磨石	10.720	9.200	4.750	664.7	砂岩	
48	72	K-9	磨石	8.900	7.500	6.050	402.7	砂岩	
48	73	C-4	磨石	10.700	7.200	3.600	388.8	砂岩	
48	74	F-7	磨石	11.950	9.350	4.200	610.3	砂岩	
49	75	G-7	磨石	9.950	6.320	6.040	521.5	砂岩	
49	76	G-4	敲石	11.500	8.200	4.900	675.3	砂岩	
49	77	G-6	敲石	7.130	4.820	3.350	136.4	砂岩	
49	78	F-4	敲石	9.900	5.500	3.350	136.4	砂岩	
49	79	G-7	敲石	13.400	5.700	3.500	388.5	砂岩	
49	80	J-8	瘤み石	12.900	5.700	3.300	336.5	砂岩	
49	81	I-8	鞋石製品	8.699	7.180	2.155	107.3	砂岩	
50	82	I-8	石皿	25.600	26.350	4.800	5,500.0	砂岩	
50	83	I-10	石皿	27.750	21.500	6.650	5,000.0	砂岩	
51	84	K-7	石皿	32.600	37.200	64.000	5,600.0	砂岩	
51	85	H-11	石皿	28.850	20.300	5.300	5,500.0	砂岩	
		F-6	石鏃	2.050	1.700	0.300	0.7	頁岩	I-a
		E-5	石鏃	1.000	1.350	0.450	0.5	黒曜石	I-a
		K-8	石鏃	1.850	1.250	0.300	0.6	黒曜石	I-a
		G-5	石鏃	0.650	0.600	0.100	0.1	黒曜石	I-a
		D-10	石鏃	1.450	0.900	0.300	0.3	黒曜石	I-a
		F-9	石鏃	1.150	0.900	0.200	0.2	黒曜石	I-a
		G-7	石鏃	1.400	0.950	0.200	0.3	頁岩	I-a
		一括	石鏃	0.800	0.850	0.250	0.2	黒曜石	I-b
		D-6	石鏃	1.400	1.200	0.400	0.5	チャート	I-b
		F-8	石鏃	2.100	1.600	0.500	1.2	チャート	I-b
		F-6	石鏃	1.800	1.700	0.400	1.3	黒曜石	I-b
		I-10	石鏃	2.050	1.400	0.400	0.8	黒曜石	I-b
		D-11	石鏃	1.700	1.050	0.450	0.7	黒曜石	I-b

表 5 杉木原遺跡 織文石器計測表(3)

前面番号	遺物番号	出土位置	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	備考
	C-2	石鏃		2.200	1.200	0.450	1.1	黒曜石	I-b
	L-10	石鏃		2.000	1.400	0.300	0.5	チャート	I-b
	B-5	石鏃		1.100	1.450	0.550	0.8	黒曜石	I-b
	一括	石鏃		1.000	0.800	0.150	0.1	黒曜石	I-b
	一括	石鏃		0.900	1.550	0.200	0.1	黒曜石	I-b
	一括	石鏃		0.900	1.550	0.200	0.1	黒曜石	I-b
	一括	石鏃		1.250	0.950	0.200	0.1	黒曜石	I-c
	K-8	石鏃		2.200	1.800	0.350	0.9	黒曜石	I-c
	B-6	石鏃		2.350	1.600	0.350	1.0	黒曜石	I-c
	B-4	石鏃		2.350	1.600	0.350	1.0	黒曜石	I-c
	K-9	石鏃		2.550	1.750	0.400	0.9	チャート	I-c
	K-9	石鏃		1.700	1.150	0.400	0.4	黒曜石	I-c
	I-10	石鏃		2.550	2.100	0.400	1.6	チャート	I-c
	F-12	石鏃		2.300	1.900	0.400	1.1	チャート	I-c
	K-7	石鏃		2.200	1.700	0.400	0.8	チャート	I-c
	G-11	石鏃		3.000	1.950	0.500	1.9	チャート	II-a
	D-3	石鏃		1.700	1.850	0.350	1.0	黒曜石	II-a
	I-7	石鏃		2.130	1.550	0.550	1.5	頁岩	II-a
	J-9	石鏃		2.100	1.000	0.600	1.8	チャート	II-a
	G-6	石鏃		0.950	1.150	0.250	0.3	黒曜石	II-a
	F-10	石鏃		1.200	1.200	0.500	0.6	黒曜石	II-a
	G-5	石鏃		1.800	1.400	0.400	0.8	頁岩	II-a
	C-2	石鏃		1.450	1.300	0.200	0.4	黒曜石	II-a
	I-10	石鏃		1.650	1.450	0.300	0.6	頁岩	II-a
	J-8	石鏃		1.850	2.300	0.300	1.4	頁岩	II-a
	C-4	石鏃		2.950	2.450	0.900	5.7	頁岩	II-b
	G-7	石鏃		1.000	1.050	0.250	0.3	黒曜石	II-b
	G-9	石鏃		0.750	0.650	0.200	0.1	チャート	II-b
	G-7	石鏃		1.150	0.750	0.250	0.1	黒曜石	II-b
	H-9	石鏃		1.950	1.300	0.500	0.8	黒曜石	II-c
	F-11	石鏃		1.150	1.300	0.400	0.4	黒曜石	II-c
	I-8	石鏃		1.300	1.450	0.200	0.4	黒曜石	II-c
	I-7	石鏃		1.550	1.350	0.200	0.4	頁岩	II-c
	一括	石鏃		0.900	1.000	0.300	0.2	黒曜石	II-c
	C-5	石鏃		1.100	0.850	0.300	0.2	黒曜石	IV
	G-11	石鏃		1.000	1.300	0.400	0.4	黒曜石	IV
	I-11	石鏃		1.000	1.200	0.200	0.1	頁岩	IV
	D-9	石鏃		1.200	1.550	0.200	0.3	黒曜石	IV
	J-8	石鏃		1.050	1.250	0.200	0.2	黒曜石	IV
	D-7	石鏃		1.300	1.100	0.500	0.5	黒曜石	IV
	H-6	石鏃		3.200	2.200	1.200	6.2	チャート	IV
	H-7	石鏃		1.850	1.050	0.300	0.5	黒曜石(姫島)	IV
	K-9	石鏃		1.550	1.100	0.400	0.7	黒曜石	IV
	F-6	石鏃		2.400	1.900	0.400	1.7	黒曜石	IV
	H-5	石鏃		3.950	3.000	1.200	12.9	チャート	IV
	H-6	石鏃		1.700	0.900	0.350	0.7	黒曜石	IV
	H-7	石鏃		2.200	1.050	0.250	0.6	黒曜石	IV
	D-6	石鏃		2.650	2.135	0.900	4.9	チャート	IV
	B-3	石鏃		3.300	1.650	1.100	5.1	チャート	IV

表 5 杉木原遺跡 繩文石器計測表(4)

図面番号	遺物番号	出土位置	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	備考
	H-7	石錐		3.100	2.300	0.800	5.8	チャート	N
	K-9	石錐		1.400	0.800	0.200	0.3	チャート	N
	I-9	石錐		2.350	1.150	0.300	0.7	頁岩	N
	H-8	石錐		3.700	2.450	1.000	7.9	頁岩	N
	J-8	石錐		1.200	1.750	0.400	0.7	黒曜石	N
	I-8	石錐		1.500	1.100	0.200	0.4	チャート	N
	H-10	石錐		1.550	0.950	0.300	0.5	黒曜石	N
	一括	石錐		0.750	0.500	0.150	0.1	黒曜石	N
	一括	石錐		0.850	1.200	0.300	0.4	黒曜石	N
	一括	石錐		1.050	0.950	0.200	0.3	黒曜石	N
	一括	石錐		1.550	1.150	0.500	0.8	黒曜石	N
	B-1	スクレイパー		3.000	4.000	0.750	8.3	頁岩	I
	J-9	スクレイパー		3.400	4.650	1.000	24.9	頁岩	I
	F-6	スクレイパー		2.300	3.600	0.600	4.0	頁岩	I
	F-9	スクレイパー		2.900	1.700	0.550	2.6	チャート	I
	G-7	スクレイパー		3.000	1.900	0.400	2.1	チャート	I
	D-3	スクレイパー		2.050	1.450	0.300	1.0	チャート	I
	F-3	スクレイパー		2.400	1.750	0.450	2.3	頁岩	I
	K-7	スクレイパー		3.750	3.050	0.900	10.5	頁岩	I
	K-8	スクレイパー		3.900	2.950	0.850	9.6	頁岩	I
	D-4	スクレイパー		4.200	3.100	0.500	6.4	頁岩	I
	B-5	スクレイパー		4.600	4.600	1.500	36.3	頁岩	I
	G-7	スクレイパー		4.950	6.000	1.600	41.2	頁岩	II
	D-2	スクレイパー		3.450	2.550	0.800	6.9	頁岩	II
	G-8	スクレイパー		4.350	7.600	1.800	41.1	頁岩	II
	J-7	スクレイパー		6.200	6.100	1.600	49.3	砂岩	III
	G-8	スクレイパー		6.450	5.500	1.100	35.7	頁岩	III
	I-7	スクレイパー		5.100	4.300	0.950	21.2	流紋岩	III
	I-7	スクレイパー		3.400	4.000	0.800	9.9	頁岩	III
	B-4	磨石		9.800	8.700	4.600	538.3	砂岩	
	D-4	磨石		7.400	6.800	3.800	262.8	砂岩	
	B-3	磨石		6.400	7.250	5.300	319.1	砂岩	
	B-3	磨石		7.700	6.100	4.250	247.5	砂岩	
	B-4	磨石		3.150	2.950	2.300	30.3	砂岩	
	C-4	磨石		6.300	5.200	4.000	208.5	砂岩	
	D-5	磨石		7.200	4.400	4.200	175.9	砂岩	
	D-5	磨石		7.100	4.100	2.600	115.7	砂岩	
	C-7	磨石		12.700	7.100	7.100	845.5	砂岩	
	E-6	磨石		8.300	5.700	2.400	170.7	砂岩	
	F-8	磨石		6.950	5.800	4.600	253.8	砂岩	
	H-8	磨石		4.550	3.900	3.300	83.7	砂岩	
	E-7	磨石		9.700	9.900	2.300	274.8	砂岩	
	E-6	磨石		8.300	6.900	4.600	373.9	砂岩	
	G-8	磨石		8.700	6.700	4.900	427.7	砂岩	
	E-7	磨石		8.750	5.150	5.100	268.4	砂岩	
	C-6	磨石		6.850	5.650	4.050	197.5	砂岩	
	G-10	磨石		5.000	6.350	5.600	344.2	砂岩	
	G-9	磨石		6.400	6.000	2.700	128.8	砂岩	
	C-10	磨石		8.800	6.600	4.800	319.8	砂岩	

表 5 杉木原遺跡 標文石器計測表 (5)

面番号	遺物番号	出土位置	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	備考
	C-10	磨石		8.400	5.500	5.300	358.6	砂岩	
	D-5	磨石		6.400	4.150	3.500	129.9	砂岩	
	D-6	磨石		6.500	5.750	4.700	227.2	砂岩	
	E-6	磨石		10.300	4.400	3.200	223.6	砂岩	
	D-5	磨石		7.900	6.400	4.900	353.8	砂岩	
	D-5	磨石		8.800	7.550	5.500	503.6	砂岩	
	F-7	磨石		8.400	6.950	5.350	418.3	砂岩	
	C-4	磨石		12.000	10.500	5.000	876.0	砂岩	
	B-4	磨石		8.700	7.700	4.950	476.3	砂岩	
	B-3	磨石		12.800	9.300	5.500	926.3	砂岩	
	B-3	磨石		12.700	9.500	4.400	698.7	砂岩	
	I-7	磨石		9.600	6.000	5.550	377.5	砂岩	
	C-2	磨石		5.800	5.200	4.550	187.0	砂岩	
	C-10	磨石		8.900	6.500	5.150	381.2	砂岩	
	C-4	磨石		8.700	6.200	4.800	367.5	砂岩	
	G-7	磨石		10.100	9.000	5.200	606.0	砂岩	
	H-7	磨石		8.050	6.900	4.600	358.2	砂岩	
	H-7	磨石		9.150	6.100	4.250	342.8	砂岩	
	H-11	磨石		6.400	6.100	5.100	279.3	砂岩	
	I-9	磨石		4.900	4.100	3.400	93.4	砂岩	
	I-9	磨石		3.500	2.300	2.200	25.6	砂岩	
	J-7	磨石		6.800	6.100	5.200	290.3	砂岩	
	J-7	磨石		10.100	10.100	4.900	655.3	砂岩	
	I-10	磨石		5.100	4.100	3.300	79.7	砂岩	
	J-7	磨石		7.900	5.500	3.400	180.1	砂岩	
	L-7	磨石		6.800	4.800	4.300	187.7	砂岩	
	G-11	磨石		4.200	3.800	2.300	70.3	砂岩	
	K-7	磨石		14.300	8.300	5.900	1,009.5	砂岩	
	K-9	磨石		8.700	8.000	4.300	371.1	砂岩	
	J-7	磨石		13.700	9.900	5.800	882.6	砂岩	
	I-8	磨石		8.100	6.900	3.300	252.2	砂岩	
	L-8	磨石		8.200	4.400	3.900	195.7	砂岩	
	J-7	磨石		6.600	6.500	3.000	124.1	頁岩	
	K-9	磨石		8.100	5.800	4.400	285.4	砂岩	
	I-9	磨石		8.600	7.400	5.100	460.4	砂岩	
	J-7	磨石		9.100	8.500	4.150	406.2	砂岩	
	J-7	磨石		5.700	5.600	4.000	170.3	砂岩	
	I-7	磨石		8.800	6.400	5.400	367.0	砂岩	
	F-12	磨石		6.900	4.900	4.600	208.8	砂岩	
	J-6	磨石		11.800	6.000	3.800	390.4	砂岩	
	E-2	磨石		9.800	6.100	4.100	3,582.0	砂岩	
	D-2	磨石		7.200	6.400	4.400	290.7	砂岩	
	D-5	磨石		6.600	6.000	2.900	144.6	砂岩	
	A-2	磨石		9.400	8.500	4.900	545.3	砂岩	
	I-8	磨石		9.300	6.400	6.200	499.6	砂岩	
	D-9	磨石		11.100	8.200	4.800	599.1	砂岩	
	E-6	磨石		10.300	9.500	5.500	700.4	砂岩	
	一括	磨石		9.100	6.700	5.500	476.0	砂岩	
	一括	磨石		5.400	4.500	3.900	145.1	砂岩	

表 5 杉木原遺跡 級文石器計測表(6)

団面番号	遺物番号	出土位置	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	備考
	B-5		敲石	9.400	8.600	5.850	576.3	砂岩	
	B-6		敲石	4.200	7.200	2.700	105.4	砂岩	
	D-5		敲石	7.300	6.300	4.800	294.5	砂岩	
	D-5		敲石	10.100	8.400	4.600	573.2	砂岩	
	G-6		敲石	9.600	5.600	3.700	288.1	砂岩	
	F-5		敲石	7.400	6.900	3.900	263.5	砂岩	
	E-6		敲石	9.400	6.900	5.100	485.7	砂岩	
	I-8		敲石	7.200	6.400	4.700	288.0	砂岩	
	K-8		敲石	9.800	7.100	4.800	373.0	砂岩	
	K-7		敲石	6.400	5.700	4.800	237.8	砂岩	
	G-9		敲石	8.200	5.700	5.100	290.4	砂岩	
	D-5		敲石	11.900	6.000	5.400	561.4	砂岩	
	D-5		敲石	10.700	10.100	3.300	504.8	砂岩	
	B-4		敲石	10.200	8.000	4.800	526.4	砂岩	
	A-2		敲石	6.500	4.500	3.800	134.5	砂岩	
	B-1		敲石	9.100	7.200	3.900	336.4	砂岩	
	C-3		敲石	9.600	6.100	4.900	382.0	砂岩	
	C-2		敲石	10.300	8.200	7.100	810.5	砂岩	
	F-4		敲石	7.000	8.100	3.800	302.5	砂岩	
	F-4		敲石	7.000	11.000	4.200	392.3	砂岩	
	F-4		敲石	10.400	8.900	7.000	915.4	砂岩	
	H-6		敲石	9.200	5.900	3.600	259.3	砂岩	
	G-6		敲石	13.700	6.500	5.900	696.1	砂岩	
	H-9		敲石	8.700	6.000	5.200	372.5	砂岩	
	K-7		敲石	11.600	5.100	2.700	246.7	砂岩	
	K-7		敲石	8.400	7.400	4.600	391.0	砂岩	
	J-7		敲石	10.600	7.500	5.800	627.7	砂岩	
	J-7		敲石	6.700	7.200	5.100	334.4	砂岩	
	L-9		敲石	9.200	8.200	3.200	383.0	砂岩	
	J-10		敲石	7.200	6.500	2.200	160.6	砂岩	
	K-7		敲石	6.400	4.500	3.500	139.5	砂岩	
	I-8		敲石	9.800	4.500	4.800	328.3	砂岩	
	G-7		敲石	13.600	4.900	213.000	243.6	砂岩	
	J-6		敲石	11.800	4.900	4.200	311.8	砂岩	
	D-5		敲石	14.800	7.000	3.900	599.6	砂岩	
	D-5		敲石	9.300	5.600	3.500	289.1	砂岩	
	E-7		敲石	6.700	5.700	2.600	138.3	砂岩	
	F-9		敲石	13.800	5.900	3.600	432.1	砂岩	
	H-7		敲石	12.200	8.000	5.800	701.3	砂岩	
	J-7		敲石	14.600	5.000	2.500	365.8	砂岩	
	一括		石皿	321.200	23.600	4.900	3,000.0	砂岩	
	H-7		石皿	33.100	19.600	4.800	4,500.0	砂岩	
	J-7		石皿	29.200	20.900	6.900	4,500.0	砂岩	
	I-10		石皿	21.700	16.500	4.900	2,000.0	砂岩	

II類—長軸上の端部に急斜度調整で刃部を設けたもの。(56~60) 総数8

III類—未製品のものを一括した。(61) 総数5

石材は頁岩が最も多く他に流紋岩や珪質岩などが使用されている。48は、刃部が右側辺に表面から細かな調整加工により作り出されているものである。石材は頁岩を使用している。A-2より出土している。49は、左右側縁に表裏両面から細かな調整加工により作り出されているもので石材は頁岩を使用している。F-9より出土している。50は、左側縁に表裏両面からの細かな調整加工により刃部が作り出されているものである。E-10より出土し、石材は頁岩である。51は、両側縁に表裏両面から細かい調整加工が施されたものである。B-2より出土して石材は珪質岩を使用している。52は、左側縁に表裏両面からの細かな調整加工により刃部が構成されたものでK-8より出土していくて石材は、流紋岩が使用されている。53は、左右側縁表裏両面からの細かな調整加工により刃部が形成されたものである。E-10より出土している。石材は頁岩製である。54は、左側刃表裏両面からの調整加工により刃部を形成しているものである。H-7より出土しており、石材は頁岩製である。55は、両側辺に表面からの調整加工により刃部が形成されたものである。J-7より出土し、石材は頁岩製である。以上は剥片の側縁に連続的な調整を施して刃部を作成していることからサイドスクレイパーでI類として分類した。

56は、端部に調整加工を施したものでJ-8から出土し、石材は頁岩製である。57も、長軸上の端部に調整加工を施したものでC-6から出土している。58も端部に調整加工で刃部を設けている。G-7から出土している。石材は頁岩である。59は、E-9から出土したもので端部に調整加工がみられる。60は、端部に明瞭に調整加工による刃部が確認できるものでG-7から出土し、石材は頁岩である。以上は長軸上の端部に急斜度調整で刃部を設けたものであることからエンドスクレイパーでII類に分類した。61は、スクレイパーの未製品でIII類とした。J-7から出土していくて、石材は砂岩製である。

縦長剥片(第47図62)

62は、凝灰岩製の使用痕のある縦長剥片でG-7で検出されている。

砥石(第47図63)

63は、I-6で出土した砥石である。石材は砂岩製である。

有孔石器(第47図64)

64は、一括遺物であるが、有孔石器で用途については不明である。

局部磨製石斧(第47図65)

65は、頁岩製の局部磨製石斧で表裏両面の一部に磨きがみられる。

磨石(第48~49図66~75)

磨石は全部で79点出土している。川原石をあまり変形しないものが多く、石材の多くは尾鈴酸性岩と思われる砂岩が使われている。磨面は表裏とも使いほぼ楕円形状に磨り面がみられる。

敲石(第49図76~78)・凹石(第49図79~80)

敲石は、全部で43点ほど出土している。石材は磨石と同じ砂岩で76は、敲打痕が端部にあるものである。77・78は、表裏両面に敲打痕を持つものである。また、凹石としても転用された

と考えられる。

凹石は、全部で2点ほど出土している。石材は砂岩で79は、表裏両面に窪み部分を持つものである。また、80は片面だけに窪み部分を持つものである。

軽石製品（第49図81）

軽石製の有孔石器で、用途については不明である。

石皿（第50～51図82～85）

石皿の総数は8点検出されている。82は、I-8で検出され扁平な川原石を使用し磨り面があり明瞭なものではない。83は、I-10で検出されたもので、磨り面は82と同様で明瞭なものではない。84は、杉木原遺跡の石皿の中で最大の大きさを誇るものでK-7から出土している。しかしこの石皿も磨り面はあまり明瞭なものではない。85は、H-11で検出されている。これも同様に磨り面は明瞭ではない。

第5節 まとめ

杉木原遺跡は、平成7年度東九州自動車道建設に伴い発掘調査された遺跡で、旧石器時代の石器、縄文時代草創期の土器、縄文時代早期の遺構（集石遺構・土壙）、遺物（土器・石器）が出土した複合遺跡であることが確認された。以下、調査の成果について簡略ではあるが整理して述べてみたい。

旧石器時代

旧石器時代の遺構は確認できなかったが、旧石器の遺物は前述のとおり98点ほど出土している。包含層は薄く、良好な状態では検出できなかった。その内訳は、ナイフ形石器（4点）・サイドスクレイパー・エンドスクレイパー（6点）・縦長剥片（7点）・石核（26点）・細石刃（19点）・剥片（15点）・チップ（21点）である。製品の石器全体に対する割合は、10%を占めている。出土層はV層でほとんど検出されている。しかし、遺跡全体では一部縄文時代早期の包含層と混在し、また、遺物の量としても98点と少ないため、検出した石器組成が当時の本来の状況であるかは不明である。遺物のブロックであるが、ナイフ形石器は、石核と近い場所でレベルもV層下部で検出している。また、細石刃が縄文草創期との関連で隆帶文や爪形文などの土器群と共に共存する事例が増えている。九州地方では、縄文草創期まで細石器文化が残ることが実証される発見例が増えている。本遺跡は隆帶文や爪形文などが僅か3点しか検出されておらず細石刃を伴うことが明確でないため、細石刃を旧石器時代の遺物として報告することにした。

縄文時代草創期の土器

IV層下部のJ-7・K-7から隆帶文土器がそれぞれ1点、E-11から爪形文土器が1点出土した。類似の土器が宮崎市南部の堂地西遺跡B区、宮崎市南西部の椎屋形第1遺跡のA区等で出土している。しかし、遺物量が3点と少なく単独層としての出土が明確でないし、当遺跡から出土している石器との層位的関係も明確でない。

縄文時代早期の遺構と遺物

本遺跡の早期の遺物は、早期前葉から早期後葉までのものがみられる。南九州の縄文時代早期の土器は、早期前葉から中葉に貝殻円筒形土器が早期後葉に塞ノ神式土器が位置付けられている。こ

こでは時期ごとにみていきたい。

早期前葉の土器

早期前葉の土器には前平式土器の岩本タイプ・前平式土器・吉田式土器などがみられる。このタイプは、貝殻円筒形のものである。遺物の出土状況であるが特異性はみられない。遺物数からして本遺跡の主体的時期ではないが、早期前葉にはこの地域に生活の跡がみられ始める。

早期中葉の土器

早期中葉の土器には、下剥峰式土器・桑ノ丸式土器・押型文土器などがみられた。遺物の出土状況は、押型文土器が本遺跡の中でも一番の出土量を誇っている。遺物もまんべんなく出土している。県南部に特徴的な土器としては、円筒形土器に類似し、外面に粗大な押型文を施すもの（本遺跡ではⅦa類に相当する。）外反する器形の外面に大きく山形文や梢円文を鋸歯状に施文するもの（本遺跡ではⅧc 3類に相当する。）などがある。

早期後葉の土器

早期後葉の土器には塞ノ神式土器が出土している。土器の特徴は円筒形の胴部の上に「く」の字状に口縁部が外反し、口唇部にへラ状工具による斜め方向や羽状の刻みをもつていて。

土器はX類に分類した。I類は前平式土器岩本タイプ・II類は前平式土器、III類は吉田式土器、IV類・V類・VI類は下剥峰式土器で、その内V類は清武町辻遺跡出土のものと類似しており辻タイプに相当する。VII類は桑ノ丸式土器、VIII類は押型文土器、IX類は高橋信武の言う塞ノ神I式土器、X類はその他の土器である。本遺跡出土の早期土器は全部で3, 665点出土したが、その内訳は前述のように押型文土器が1, 651点（梢円；1, 244点・山形；407点）と全体の45%を占め、塞ノ神式土器220点・貝殻文円筒形土器325点・無文土器102点・形式不明土器1, 367点となっている。押型文土器の編年は大分編年があるが、それに当てはめると本遺跡の押型文土器は、下背生B式土器→田村式土器→ヤトコロ式土器あたりに位置付けられる。本遺跡では同一層（IV層）から押型文土器と貝殻文円筒形土器・塞ノ神式土器が出土している。そこで、移入土器である押型文土器と在地系土器である貝殻文円筒形土器・塞ノ神式土器の関係について一考したい。VIIa類土器に見られるように口縁部が直行し器形が円筒形平底を呈する押型文土器は、その器形は在地系の貝殻文円筒形土器（下剥峰式土器・桑ノ丸式土器）に似ている。これは押型文土器がその分布範囲を拡大する過程の中で、貝殻文円筒形土器との接触・影響によって生じたものと思われる。ただ、その接触の始まりをどこに位置付けるかである。第23図から下剥峰・桑ノ丸式土器はG・H・Iの6~10グリッドに集中しており、第25図の塞ノ神式土器はA・B・C・Dの1~6グリッドに集中している。同一層内でのレベル差は確認できなかったが、分布の状況から時期差はあったものと思われる。それに対して第24図の押型文土器の分布図を見ると調査区一帯から満遍なく出土している。また、出土量も貝殻文系円筒土器や塞ノ神式土器に比べて圧倒的に多い。このことから、本遺跡の押型文土器文化は、繩文時代早期中葉の下剥峰・桑ノ丸式土器以前に移入し塞ノ神式土器が登場する早期後葉まで営まれていたのではないかと思われる。その間、下剥峰式土器・桑ノ丸式土器等の在地系土器と頻繁な接触を繰り返したと思われる。また、そのことが、器形や施文方向の関係において一概に大分編年にあてはまらない押型文土器文化を育み、また、宮崎

県の中でも大分県の影響を強く受ける県北と貝殻文系土器の影響を強く受ける県南とに違いを感じさせたものと思われる。本遺跡は両文化の中間に位置しており、両文化の影響を受けつつも、その中から両文化に見られない独自の押型文土器文化が育ったことが考えられる。そこで、本遺跡の押型文土器を分類するときに施文方向にはとらわれず、器形や調整から分類することにした。結果、注目すべき事実を見出した。**Vc**類土器のように、口縁部が外反し、口縁内面端部の施文帯と無文帯の境がケズリによって稜をなすものが多く出土している。このタイプの押型文土器が何に影響を受けているか、それとも独自の調整なのかは、筆者の研究不足で筆舌出来ないのが残念である。本遺跡出土土器の中でも特筆すべきものである。今後の類例を待ちたい。

次に本遺跡の石器について見てみると、石錐などの漁労具は出土していない。のことから本遺跡の主な成業は、狩猟や採集であったことが想像される。また、石錐は丘陵の縁辺部に沿うように帶状に出土していることと先端部等が欠損しているものも多いことからこの遺跡の部分が狩猟の場となっていたのではないかと考えられる。製品の石器の総数に対する比率は45%である。この中で磨石・敲石は、石器組成の中心を成し、石器全体の19.06%を占める。石錐等の出土層はIV層である。南九州の場合、石器組成における磨石・敲石の占める割合が高いのが特徴のひとつであるが、本遺跡も例外ではない。縄文石器の製品総数の44%を占めている。また、石錐の製品に占める割合も高く42%を占めている。石錐の平面的な広がりは台地の縁辺部に見られるような傾向にある。しかし、I類からIV類までの類的特徴を見出すことはできなかった。石錐の石材としてチャート・黒曜石・頁岩等が使用されている。石材の使用頻度は、ほぼ平均化していて偏りはみられない。

早期の遺構

本遺跡の集石遺構は、全体的に小規模のものが多い。それぞれの類の内訳は、1類が3基・2類が19基・3類が1基・4類が16基・5類が3基である。一番量が多いのは2類で、全体の45%をしめている。掘り込みをもつ集石遺構の埋土はIV層を基本とした暗褐色土であり共通している。また、埋土の中から桑ノ丸式土器や押型文土器が検出された集石遺構が存在し、縄文早期中ごろの遺構の可能性もある。なお20号集石遺構は、古環境研究所に委託して放射性炭素年代測定を行っている。それによると 8570 ± 50 (C年代)と暦年代BC7535(BC7550~BC7510)という結果がでている。30号集石遺構は同じく古環境研究所に委託している。それによるとこの集石遺構の年代が 8220 ± 60 である。暦年代としてBC7060(BC7225~BC7035)という結果がでている。また、土壤の中に、「陥し穴」に類似する遺構が1基存在した。このような陥し穴遺構は、関東や東北地方で多数検出されている遺構で、ここ最近は西日本でも検出例が増えてきた遺構である。この陥し穴遺構は埋土が自然堆積であり、埋土中に遺物を含まない。土壤の床面に逆茂木痕を持つという特徴を持っている。しかし、前述したように埋土中から遺物が検出されないため時期等については不明であるが、埋土が自然堆積で暗褐色層を基本とすることから早期の遺構として捉えている。

縄文時代早期の本遺跡周辺は、自然科学分析の結果から、森林で覆われたような状況ではなく比較的開かれた環境であったものと推定される。調査区の一部にブナやクリの照葉樹があり堅果類を

食したり集石を使って石蒸し料理等をしていたものと思われる。今回の調査では、確認できていないが住居跡があった可能性は、否定できないと思われる。

以上、事実報告だけの内容のないものになってしまったが、ここで紹介した資料が今後の研究に生かされれば幸いである。

なお、調査時から報告書の作成に至るまで御協力、御助言、御指導に預かった方々に謝意を表し本報告を終わりたい。

<参考文献>

- (1) 下皆生B遺跡 「下皆生台地と周辺の遺跡」 竹田市教育委員会 1986
- (2) 手崎遺跡「日田市高瀬遺跡群の調査2」 大分市教育委員会 1998
- (3) 柏原遺跡群「福岡市埋蔵文化財報告書第190集」 福岡市教育委員会 1988
- (4) ヘゴノ原遺跡「加世田市埋蔵文化財報告書(14)」 加世田市教育委員会 1997
- (5) 横崎B遺跡「鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(4)」 鹿児島県立埋蔵文化財センター 1993
- (6) 下利峯遺跡「西之表市埋蔵文化財発掘調査報告集」 鹿児島県西之表市教育委員会 1978
- (7) 小山遺跡「鹿児島県立埋蔵文化財発掘調査報告書20」 鹿児島県教育委員会 1982
- (8) 妙見遺跡「九州縦貫自動車(人吉~えびの間)建設工事に伴う埋蔵文化財調査報告書第2集」 宮崎県教育委員会 1994
- (9) 前畠遺跡「鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(52)」 鹿児島県教育委員会 1990
- (10) 椎屋形第1遺跡・椎屋形第2遺跡・上の原遺跡 「県営農地保全整備事業時屋地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」 宮崎市教育委員会 1996
- (11) 桑ノ丸遺跡「鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(7)」 鹿児島県教育委員会 1977
- (12) 岩本遺跡「南薩垣かん事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査実報」 指宿市教育委員会 1978
- (13) 宮崎県内の平格式土器・窓ノ神式土器「宮崎縄文研究会資料集2」 宮崎縄文研究会 1998
- (14) 九州の押型文土器「縄文集成シリーズ3」 九州縄文研究会 1998
- (15) 神殿遺跡A地区「宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第7集」 宮崎県埋蔵文化財センター 1997
- (16) 打削遺跡・早日渡遺跡・矢野原遺跡・藏田遺跡「一般国道218号椎畠バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」 宮崎県教育委員会 1995
- (17) 芳ヶ迫・札ノ元遺跡「田野町文化財調査報告書第3集」 田野町教育委員会 1986
- (18) 九州縄文土器編年論「九州縄文研究会鹿児島資料集」 九州縄文研究会 1998
- (19) 内野々遺跡「林業試験場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」 宮崎県教育委員会 1992
- (20) 「縄文通信No.2・No.4・No.7・No.8・No.10・No.11・No.12」 南九州縄文研究会
- (21) 縄文土器大観1 小学館

第6節 杉木原遺跡の自然科学分析

株式会社 古環境研究所

I. 杉木原遺跡の土層とテフラ

1.はじめに

宮崎平野とその周辺にはすでに噴出年代が明らかにされている示標テフラが多く確認されている。そこで杉木原遺跡において地質調査を行い、土層の層序を記載するとともに、示標テフラの層位を把握して土層の形成年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象とした地点は、第1～5地点の5地点である。

2. 土層の層序

(1) 第1地点

この地点では、下位より黄色軽石混じ黄褐色砂質土（層厚25cm以上）、暗褐色土（層厚31cm）、黄色軽石を多く含む暗灰色土（層厚18cm、軽石の最大径8mm）、黄色軽石を少量含む暗褐色土（層厚18cm）、暗褐色土（層厚19cm）、暗褐色土（層厚12cm）、細粒の黄色軽石を多く含む黒褐色土（層厚11cm、軽石の最大径2mm）、細粒の黄色軽石混じり黒灰色土（層厚9cm、軽石の最大径2mm）、成層したテフラ層（層厚27cm）、暗褐色作土（層厚38cm）の連続が認められる（図1）。

これらの土層のうち下位より3層目の暗灰色土中に多く含まれる黄色軽石は、その層位と岩相から約1,400万年前に霧島火山から噴出した霧島小林軽石（K r-K b, 町田・新井, 1992, 早田, 1996）に由来すると考えられる。また上位より4層目の黒褐色土に多く含まれる黄色軽石は、縄文時代に桜島火山から噴出した嫁坂軽石（Y m, 仮称）と考えられる。この軽石については約6,500年前に桜島火山から噴出したと推定されている桜島末吉軽石（S z-S y, 森脇, 1994）に対比される可能性が考えられる。

さらにその上位の成層したテフラ層は、褐色火山豆石を含む下部の黄色軽石層（層厚2cm、軽石の最大径5mm、火山豆石の最大径3mm）と、上部の黄橙色細粒火山灰層（層厚25cm）から構成されている。このテフラ層は、層相から約6,300年前に鬼界カルデラから噴出した鬼界アカホヤ火山灰（K-A h, 町田・新井, 1978）に同定される。

(2) 第2地点

ここでは、下位より黄色軽石を含む黄灰色火碎流堆積物（層厚5cm以上、軽石の最大径82mm、石質岩片の最大径27mm）、黄色軽石混じり黄灰色砂質土（層厚22cm、軽石の最大径13mm）、暗褐色土（層厚31cm）、黄色軽石を多く含む暗灰褐色土（層厚24cm、軽石の最大径8mm）、黄色軽石を少量含む暗褐色土（層厚23cm）、暗褐色土（層厚18cm）、細粒の黄色軽石を多く含む暗褐色土（層厚10cm、軽石の最大径2mm）、細粒の黄色軽石を多く含む暗褐色土（層厚9cm、軽石の最大径2mm）、黒灰色土（層厚9cm）、成層したテフラ層の連続が

認められる(図2)。

これらの土層のうち最下位の火碎流堆積物は、層位や層相から約2.2-2.5万年前に始良カルデラから噴出した始良入戸火碎流堆積物(A-Ito, 荒牧, 1969, 町田・新井, 1976, 1992)に同定される。また下位より4層目の暗灰褐色土中に多く含まれる黄色軽石は、その層位と岩相からK-r-Kbに由来すると考えられる。また上位より3層目の暗灰色土に多く含まれる黄色軽石については、Ymに由来する可能性が考えられる。最上位の成層したテフラ層はK-Ahに同定される。

(3) 第3地点

この地点では、下位より黄色軽石混じり黄灰色砂質土(層厚28cm, 軽石の最大径22mm)、褐色土(層厚10cm)、暗褐色土(層厚25cm)、黄色軽石を多く含む暗灰色土(層厚27cm, 軽石の最大径8mm)、暗褐色土のブロック混じり褐色土(層厚30cm)、褐色土(層厚15cm)、細粒の黄色軽石を少量含む褐色土(層厚7cm, 軽石の最大径2mm)、細粒の黄色軽石を多く含む暗灰色土(層厚13cm, 軽石の最大径2mm)、黒灰色土(層厚8cm)、成層したテフラ層(層厚30cm)、暗褐色土(層厚5cm)、黒褐色表土(層厚28cm)の連続が認められる(図2)。

これらの土層のうち、下位より4層目の暗灰色土中に多く含まれる黄色軽石は、その層位と岩相からK-r-Kbに由来すると考えられる。また上位より5層目の暗灰色土に多く含まれる黄色軽石については、Ymに由来する可能性が考えられる。成層したテフラ層は、褐色火山豆石を含む黄色軽石層(層厚2cm, 軽石の最大径5mm, 火山豆石の最大径3mm)と、上部の黄橙色細粒火山灰層(層厚28cm)から構成されている。このテフラ層は、層相からK-Ahに同定される。

(4) 第4地点

ここでは、下位より褐色土(層厚10cm以上)、黄色軽石を多く含む黒灰色土(層厚19cm, 軽石の最大径7mm)、黄褐色土(層厚23cm)、褐色土(層厚20cm)、細粒の黄色軽石を多く含む暗褐色土(層厚8cm, 軽石の最大径2mm)、黒灰色土(層厚8cm)、成層したテフラ層の連続が認められる(図4)。

これらの土層のうち、下位より2層目の黒灰色土中に多く含まれる黄色軽石は、その層位と岩相からK-r-Kbに由来すると考えられる。また上位より5層目の暗灰褐色土に多く含まれる黄色軽石については、Ymに由来する可能性が考えられる。成層したテフラ層は、層相からK-Ahに同定される。

(5) 第5地点

この地点では、下位より黄灰色砂質土(層厚26cm)、暗褐色土(層厚23cm)、黄色軽石を多く含む黒灰色土(層厚31cm, 軽石の最大径4mm)、暗褐色土(層厚13cm)、細粒の黄色軽石を少量含む暗褐色土(層厚8cm, 軽石の最大径2mm)、細粒の黄色軽石を多く含む暗灰褐色土(層厚11cm, 軽石の最大径2mm)、黒灰色土(層厚8cm)、成層したテフラ層(層厚21cm)の連続が認められる(図5)。

これらの土層のうち、下位より3層目の暗灰色土中に多く含まれる黄色軽石は、その層位と岩相

から K r-K b に由来すると考えられる。また上位より 6 層目の暗灰褐色土に多く含まれる黄色軽石については、Y m に由来する可能性が考えられる。成層したテフラ層は、褐色火山豆石を含む下部の黄色軽石層（層厚 3 cm, 軽石の最大径 4 mm, 火山豆石の最大径 3 mm）と、上部の黄橙色細粒火山灰層（層厚 18 cm）から構成されている。このテフラ層は層相から K-A h に同定される。

3. 小結

杉木原遺跡において地質調査を行った。その結果、始良入戸火碎流堆積物（A-I t o）の上位の火山灰土中に、下位より霧島小林軽石（K r-K b）と桜島末吉軽石に同定される可能性のある嫁坂軽石（Y m）、鬼界アカホヤ火山灰（K-A h）の 3 層の示標テフラの堆積が認められた。

文献

荒牧重雄（1969）鹿児島県国分地域の地質と火碎流堆積物。地質学雑誌, 75, p. 425-442.

町田 洋・新井房夫（1976）広域に分布する火山灰—始良 T n 火山灰の発見とその意義。科学, 46, p. 339-347.

町田 洋・新井房夫（1992）火山灰アトラス。東京大学出版会, 276 p.

森脇 広（1994）桜島テフラ層序・分布と細粒火山灰層の層位一。「鹿児島湾周辺における第四紀後期の細粒火山灰にかんする古環境学的研究」。平成 4・5 年度文部省科学研究費研究成果報告書, p. 1-20.

II. 杉木原遺跡における放射性炭素年代測定結果

1. 試料と方法

試料名	地点・層準	種類	前処理・調整	測定法
No 1	SI-20	炭化材 (コナラ節)	酸-7M HCl-酸洗浄 ベンゼン合成	β 線法 (長時間測定)
No 2	SI-30	炭化材 (クリ)	酸-7M HCl-酸洗浄 ベンゼン合成	β 線法

2. 測定結果

試料名	^{14}C 年代 (年 BP)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	補正 ^{14}C 年代 (年 BP)	暦年代 交点 (1 σ)	測定No (Beta-)
No 1	8570±50	-27.7	8530±50	BC7535 (BC7550~7510)	92805
No 2	8220±60	-28.2	8160±60	BC7060 (BC7255~7035)	92806

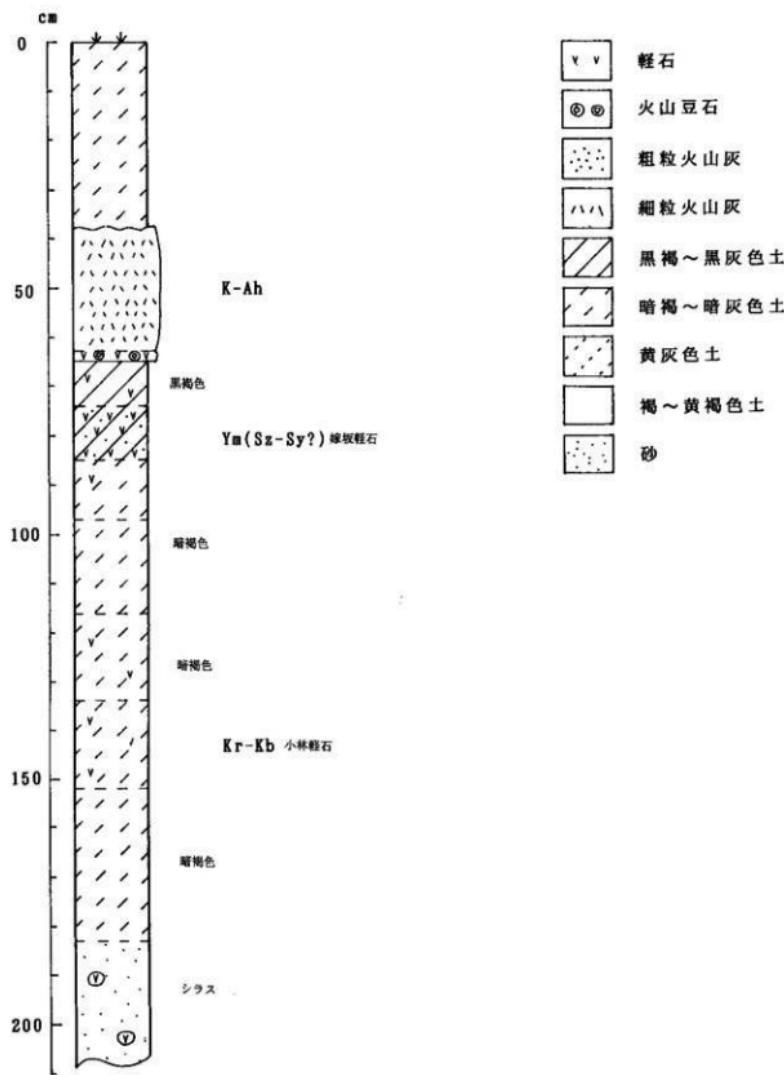


図 1 第 1 地点の土層柱状図

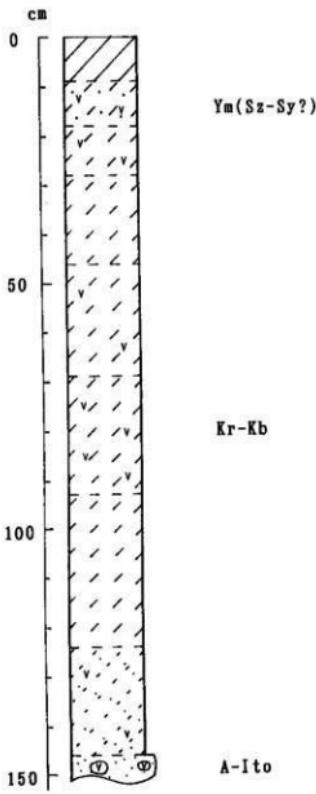


図2 第2地点の土層柱状図

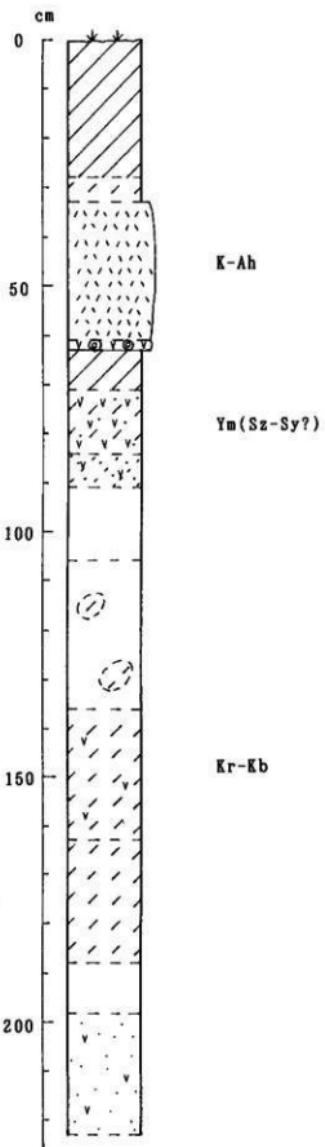


図3 第3地点の土層柱状図

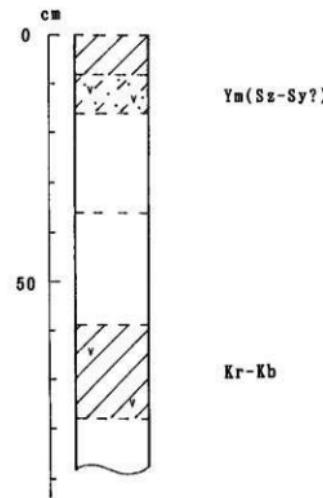


図4 第4地点の土層柱状図

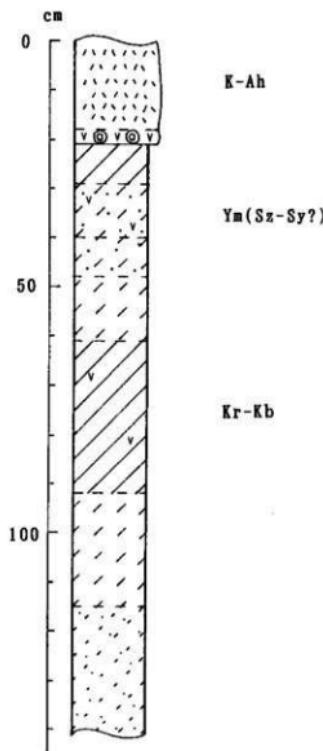


図5 第5地点の土層柱状図

1) ^{14}C 年代測定値

試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から、単純に現在（1950年AD）から何年前（BP）かを計算した値。
 ^{14}C の半減期は5, 568年を用いた。

2) $\delta^{13}\text{C}$ 測定値

試料の測定 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を補正するための炭素安定同位体比（ $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ ）。この値は標準物質（PDB）の同位体比からの千分偏差（‰）で表す。

3) 補正 ^{14}C 年代値

$\delta^{13}\text{C}$ 測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ の測定値に補正値を加えた上で算出した年代。

4) 曆年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中 ^{14}C 濃度の変動を補正することにより算出した年代（西暦）。補正には年代既知の樹木年輪の ^{14}C の詳細な測定値を使用した。この補正是10,000年BPより古い試料には適用できない。曆年代の交点とは、補正 ^{14}C 年代値と曆年代補正曲線との交点の曆年代値を意味する。 1σ は補正 ^{14}C 年代値の偏差の幅を補正曲線に投影した曆年代の幅を示す。したがって、複数の交点が表記される場合や、複数の 1σ 値が表記される場合もある。

III. 杉木原遺跡から出土した炭化材の樹種同定

1. 試料

試料は、SI-20およびSI-30から採取された2点の炭化材である。これらは、放射性炭素年代測定に用いられたものと同一試料である。

2. 方法

試料を割折して新鮮な基本的三断面（木材の横断面、放射断面、接線断面）を作製し、落射顕微鏡によって75～750倍で観察した。樹種同定はこれらの試料標本をその解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

3. 結果

結果を表1に示し、図版に各断面の顕微鏡写真を示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

表1 炭化材の樹種同定結果

試料	樹種（和名／学名）
SI-20	コナラ属コナラ節 Quercus sect. Prinus
SI-30	クリ Castanea crenata Sieb. et Zucc.

a. クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科

図版1

横断面：年輪のはじめに大型の道管が、数列配列する環孔材である。晩材部では、小道管が火炎状に配列する。早材から晩材にかけて、道管の直径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔である。放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型である。

以上の形質よりクリに同定される。クリは北海道の西南部、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、通常高さ20m、径40cmぐらいであるが、大きいものは高さ30m、径2mに達する。耐朽性強く、水湿によく耐え、保存性の極めて高い材で、現在では建築、家具、器具、土木、船舶、彫刻、薪炭、椎茸ほだ木など広く用いられる。

b. コナラ属コナラ節 *Quercus sect. Prinus* ブナ科

図版2

横断面：年輪のはじめに大型の道管が、1～数列配列する環孔材である。晩材部では薄壁で角張った小道管が、火炎状に配列する。早材から晩材にかけて道管の直径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

以上の形質よりコナラ属コナラ節に同定される。コナラ節にはカシワ、コナラ、ナラガシワ、ミズナラがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、高さ15m、径60cmぐらいに達する。材は強韌で弾力に富み、建築材などに用いられる。

参考文献

佐伯浩・原田浩（1985）広葉樹材の細胞、木材の構造、文永堂出版、P. 49-100.